

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第9号



全日本大学ソフトボール連盟

ダブルウォールのパワー全開。

最適なたわみと強度を両立した、新・二重管構造で撃ち砕け。
内管にガラス繊維強化プラスチックを搭載することで、壁面のたわみを損なうことなく強度をアップ。しかも、テーパーからグリップ部にかけての滑らかなラインが、飛距離を伸ばすための理想的なしなりを生み出した。飛びの進化が大舞台で真価を発揮する新二重管構造バット、それがDWスプリング。



トリプル破壊力がさらに増大。

最適なしなりが備わった、新・三層構造で飛びを磨け。
打球部をたわませて高反発力を得るために、内管素材に高強度のガラス繊維強化プラスチックを採用。さらに、本体カーボン繊維の巻き角度を緻密に計算・改良することで、飛距離アップに求められる最適なしなり量を確認した。飛びのメカニズムがさらに磨かれた新・三層構造バット、それがテックファイア。

DW-SPRING

〈ミズノプロ〉DWスプリング ¥31,500 (本体¥30,000)

2TO-71440 (84cm・平均710g) ●ホワイ (01) ●ボトル型 ●ミドルバランス

2TO-71450 (85cm・平均750g)

●3号、革・ゴムボール用 ●φ57mm ●ホワイ (01) ●ボトル型 ●ミドルバランス

DW-SPRING

〈ミズノプロ〉DWスプリング ¥31,500 (本体¥30,000)

2TO-71240 (84cm・平均730g) ●ホワイ (01) ●ボトル型 ●ミドルバランス

2TO-71250 (85cm・平均770g) ●ホワイ (01) ●ボトル型 ●トップバランス

2TO-71340 (84cm・平均730g) ●ブラック (09) ●スタンダード型 ●ミドルバランス

●3号、革・ゴムボール用 ●φ57mm

〈ミズノプロ〉DWスプリング ¥29,400 (本体¥28,000)

2TO-71040 (84cm・平均650g) ●ホワイ (01)

●3号、ゴムボール用 ●φ57mm ●ボトル型 ●ミドルバランス

TECHFIRE

〈ミズノプロ〉テックファイア ¥26,250 (本体¥25,000)

2TP-50650 (85cm・平均780g)

2TP-50660 (86cm・平均800g)

●3号、革・ゴムボール用 ●φ57mm ●ブラック (09) ●スタンダード型 ●トップバランス

〈ミズノプロ〉テックファイア ¥26,250 (本体¥25,000)

2TP-50740 (84cm・平均740g) ●ホワイ (01)

●3号、革・ゴムボール用 ●φ57mm ●ボトル型 ●ミドルバランス

〈ミズノプロ〉テックファイア ¥24,150 (本体¥23,000)

2TP-51040 (84cm・平均690g) ●ホワイ (01)

●3号、ゴムボール用 ●φ57mm ●ボトル型 ●ミドルバランス

記載価格は、消費税込みのメーカー希望小売価格です。()内は消費税抜き本体価格です。



全日本大学ソフトボール連盟

創立40周年を迎えて



全日本大学ソフトボール連盟
会長 大内 敬 哉

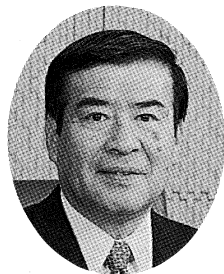
全日本大学ソフトボール連盟が本年創立40周年を迎えましたことは、この上もない慶びであり、衷心よりお祝い申し上げる次第であります。

学連創立時(1966年)の加盟大学は、男子10校、女子5校の僅か15大学であったと聴き及んでおります。それが創立40周年を迎えた本年においては、加盟大学総計229大学、登録選手数4,300名を超える組織として発展してまいりました。これも一重に草創期より連盟の組織化・活性化に情熱と闘志を燃やして今日の連盟の飛躍的發展に努力されました歴代役員の方々にたいし心より敬意と謝意を申し上げます。

今日我が国を取り巻くスポーツの環境は大変厳しいものがあります。ソフトボール競技の国際化にともない、学連が果たすべき役割は山積しております。そのひとつに、大学ソフトボールの普及への努力はもとより、確固とした学連組織の基盤づくりがあると思います。これには各地区学連との連携を図り、北海道地区の自立・充実を早急に実現しなければならないと存じます。さらにここ数年学連は、日本ソフトボール協会のご指導もあり、国際大会に参加できるチャンスが多くなりました。この対策についても技術・マナーはもとより、遠征時の経費等を含め充分に検討し、国際大会に対する準備に万全を期したく考えております。また本連盟は、学生委員の活躍が他の学連ではあまり見られないほど貴重なることであります。さらにこの学生委員が一段と充実され、大会の企画運営にも参加できる特長ある学連にして行きたく存じます。

最後になりましたが、学連創立40周年に際し、今日まで多大なご指導・ご支援を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表し、本連盟のさらなる発展を祈念し、ご挨拶といたします。

創立40周年によせて



全日本大学ソフトボール連盟
副会長 一谷 宣宏

全日本大学ソフトボール連盟が創立40周年を迎えました。心からお慶び申し上げます。連盟創立から今日に至る間、ご苦勞を頂いた各加盟大学の理事および学生役員、日本ソフトボール協会そして各地区のソフトボール協会等の関係各位の多大なご尽力と献身的なご協力、そして温かいご理解を深く感謝申し上げます。

さて、戦後60年を迎えた中での大学連盟創立40周年は誠に意義深いものがあります。特に、その発足から携わってこられた先輩諸兄の思いは計り知れないものがあると推察いたします。この間、ソフトボールは我が国のレクリエーションスポーツの主流として国民生活に溶け込んで参りました。しかし近年、ソフトボールは、「競技スポーツ」としても大きく飛躍して参りました。1996年開催のアトランタ・オリンピックにおいて、女子ソフトボールが初めて正式種目として採用され、高度なスポーツの地位を築き上げてきました。今、ここに、ソフトボールが競技スポーツとしての大きな発展を見ることが出来るのも、一重に学生諸兄・諸姉が、ソフトボールに対する強い思い入れと、向上心を持ち続け、そして、大学連盟の一員であることを自らが感じ取り、さまざまなことを、後輩に確実に引き継いでこられたことが大きな力であると確信しております。又、大学連盟の最近の10年間を振り返ると国際化時代を迎えた中での「大学ソフトボール」が強く感じられます。すなわち、国際親善を通じて技術力の向上と精神力の強化に尽くしてきた10年といえるでしょう。グローバル化を迎えた今、大学ソフトボールも正に一国にとどまらず、その活躍の場所と学習の範囲を世界に広めていくべきだとの思いからであります。そしてその事が、全日本大学選手権試合を更に格調の高い大会に押し進め、引いては真の世界大学選手権試合の展開へと繋がることを期待するものであります。男女同時開催の世界大学選手権試合は、大学連盟の大きな夢であります。何としても実現に向けて英知を結集して頑張りたいものです。

終わりに、全日本大学ソフトボール連盟がこの40年の実績を土台として、50周年を目ざし更なる発展を期する為の「大きな挑戦」に臨まれることを関係各位にお願い申し上げ、40周年への思いの一端とさせていただきます。有り難うございました。

学連40周年余話



全日本大学ソフトボール連盟 副会長 中野紀明

全日本大学ソフトボール連盟が呱呱の声をあげてから、本年は40年の星霜を迎えた記念すべき年に当たる。健やかに祝い合うと共に、波瀾万丈でもあった来し方を万感こもごも去来する憶いをもって回顧し、行く末を胸中に多くの展望をもって計り見る想いに駆られるときでもある。そして現代にあって、連盟を挙げてのグローバル化への努力が着々と実を結んでいることに、胸を張って感慨を深くするのである。

ソフトボールの起こり

大正10年、東京高等師範学校（筑波大学の前身）の大谷武一によってプレイグラウンドボールが紹介された。大正15年に学校体操教授要目の教材となったが、第2次世界大戦で中断された。昭和20年、東京の日比谷公園広場を皮切りに、国内各地に球場が設けられ駐留米軍がソフトボールを楽しんだ。米国では各州毎に異なる名称で行われていたのを戦時中に名称がソフトボールに統一された。終戦直後は、物資の入手に大変困難を窮めたが、やがて在来スポーツ競技が次々と復活し国民に明るさがもどってきた。昭和21年、スポーツ振興と国民の志気昂揚のために国体が開催されることになる。昭和24年の第4回国体からソフトボールがオープン競技として行われることになる。これを機に日本軟式野球連盟からソフトボール部が分離独立し、日本ソフトボール協会を設立した。昭和41年、日本体育大学の下奥信也等の尽力を経て第1回全日本大学選手権大会開催の運びとなる。

国際化の始まりと貢献

昭和30年10月、日本体育大学長の栗本義彦（文部省体育課長、ASF第一副会長、本連盟会長を歴任）により、駐留米軍の慰問に来日した米国女子チームとの親善試合が学習院大学で举行された。倉紡安城を主体にした「全日本チーム」と長瀬ゴムを軸に日本体育大学等から補強した「全東京チーム」を編成し戦った。全日本は2対0で敗退、全東京は1対1で引き分けた。全東京のコーチを下奥信也が務めた。その後、徐々にグローバル化が進み、昭和43年の国士舘大学（第1回アジア男子選手権大会）を皮切りに、本連盟管下チームの国際大会参加が増えていった。

架空だった予備日

雨天時の試合決行か中断かの判断は難しい。とりわけ競技委員長は、その決断に悩み苦しむ。バルセロナ五輪のあった年のインカレのこと。競技委員長から尤もらしい理由を以て強行する旨を告げられ、連盟は不快感を抱きながらも協力した。ところが、主管側役員の後日談によれば“準備段階で役員間に不和が生じた。和合できないまま大会を迎えるに至った。予備日の会場も審判も確保できていない状況で臨んだ”とか。大過なく終了して安堵したことを回想している。

皇族とソフトボール

昭和30年頃、学習院女子中等科チームの津軽華子選手は大変な好投手で東京では有名だった。後の常陸宮華子妃殿下である。ご成婚時のマスコミ紹介にソフトボールの文字はなかった。《東京都協会30周年記念誌より》昭和50年代に入ると、ソフトボール人気は急上昇。この頃、東京の田園調布雙葉学園中学という強豪チームが現れた。そこに小和田雅子選手がいた。今の皇太子妃殿下である。今度は、妃殿下のソフトボール歴が大々的に報じられた。

創立40周年を迎え記念誌の発刊を祝して

全日本大学ソフトボール連盟

副会長 武 藤 幸 正

この度、全日本大学ソフトボール連盟が創立40周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

大学連盟の40年という長い歳月に思いを巡らすと、大学連盟の発展のためにご尽力いただきました諸先生方、卒業生、選手、学連委員の各位に対し、心より感謝申し上げます。

この10年の間には、ソフトボールがオリンピックの正式種目となり、アトランタ・シドニー・アテネと3回開催されました。現役の学生、卒業生がその一員として選出され、世界の檜舞台で活躍された姿が思い浮かびます。

近年、少子化の問題や学習指導等により、クラブ活動を行う児童生徒の人数が減少しております。その中で、地域総合型スポーツクラブの育成とその指導者養成が急務となっております。このことは、大学連盟としても今後考えていかなければいけない大きな課題であると思います。

これからのスポーツ界は、企業スポーツから大学を中心とした地域スポーツへと移行されていく時代がくると思われます。まさに、大学の、そして大学連盟の真価が問われる時代です。

全日本大学ソフトボール連盟が長年にわたって築いてこられて輝かしい実績を礎として、今後ともますます発展されますことを祈念して、発刊の祝辞といたします。

大海に新たな船出を！



全日本大学ソフトボール連盟 理事長 末井 健作

全日本大学ソフトボール連盟（以下、大学連と称す）は、昭和41年に創立され40年の時が経ちました。10年前には、30周年記念誌の発刊と記念パーティーが学習院大学で開催され、創立にご尽力くださった大学連の先輩の皆様や（財）日本ソフトボール協会東京都ソフトボール協会役員および多数の関係者のご出席により、盛大に挙行されました。そして、大学連のさらなる発展を誓いました。あれから10年経ちました。

現在、大学におけるスポーツ活動は大学の変革が急速に進められている中、大学ソフトボール界にもその及ぼす影響は大きいものがあり、顕著な二極化現象がみられるようになりました。大学連への加盟大学数は、残念ながら部員数の減少でチームを維持することができなくなった大学もありますが、新たに加盟した大学もあり減少することなく現状を維持できています。今後、加盟大学数の変化が予測され、加盟大学を増やすための努力が求められますが、その原動力となるのは学生委員の活躍であると期待しているところです。また、大学連の運営面においても、学生委員の参加および活動をする機会がさらに増してくるものと思います。私は大学生の皆さんが、プレイを「する」こと、また、組織を「ささえる」意識と喜びを感じてそれぞれの能力と役割を発揮し、大学連の発展と活性化に貢献してくれることを願っています。

さらに、大学連としては学生が卒業後に選手、指導者、審判員や記録員としてソフトボールの普及・発展に貢献してくれることを期待しています。

この10年間ににおける大学連の事業を振り返ると、創立30周年を記念して全日本大女子短期大学大会は第7回大会で、また、学生の交流と技術の向上を図るために開催された東西対抗も、第27回をもって惜しまれつつそれぞれ終止符を打ちました。

現在では、学連組織の確立とレベルアップを目指してブロック主催の地区大会、春・秋のリーグ戦やオープン大会（研修大会）が開催されつつあります。この様に学生主体の運営が芽生え、新しい小さなつぼみですが、地道な歩みはいつかきっと飛躍への地固めになると信じています。

また、国際交流事業は1992年の第1回ブラジル遠征（女子）から始まりましたが、その後オーストラリア遠征（2000年）と続き、男子は2回のニュージーランド遠征（1998、2002年）と国際親善と技術の向上を目的に進められています。女子においては、（財）日本ソフトボール協会のご支援により、第1回世界女子大学選手権大会に出場することができ、銅メダルを獲得する素晴らしい成績を収めました。第3回アジア女子ジュニア選手権大会では優勝をしました。また、本年度大学女子選抜チームはオーストラリア代表およびU23チームとのリーグ戦に出場し、大学選手の実力を高めつつあります。今後、世界女子大学選手権大会やユニバーシアード大会に出場できる道が開けたことは、女子チームにとって飛躍への絶好の機会であり、今後活かしていかなければならないと思います。

男子においてもU23チームの主力選手として、今後の国際大会での活躍が大いに期待されています。

大学連は40周年を迎えて、国内外における活躍を目指して新たな船出をしますが、創立から大学連の運営にご尽力くださいました役員の皆様をはじめ、加盟大学やソフトボール関係者の皆様のさらなるご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

40周年記念誌の発刊に寄せて



財団法人日本ソフトボール協会
会 長 山 崎 拓

全日本大学ソフトボール連盟が創立40周年を迎えるとともに、40周年記念誌を刊行されますことを、心よりお祝い申し上げます。

40年前、連盟を発足した当初の役員の皆さまのご苦労はさぞ大変であったことと拝察します。全日本大学ソフトボール連盟が今日の隆盛をみた陰の力は、設立当初から今日に至るまで、歴代の役員の皆さまをはじめとする関係者の並々ならぬご努力の賜物だと受け止めております。

残念ながら、先のI O C総会で女子ソフトボールは競技存続に必要な過半数の賛成票を獲得することができず、2012年ロンドンオリンピックの競技種目から除外されてしまいました。しかし、大学に限れば、女子のみではありますが、ユニバーシアードの正式種目入りが実現し、昨年10月にアメリカフロリダ州・プラントシティで開催された第1回世界大学選手権大会では、日本は第3位という成績を残しましたが、今後この大会を目標とし、国際的な大舞台を経験し、世界の競技レベルを肌で感じることで、さらに日本のソフトボールの競技レベルを押し上げてくれることを確信しております。

また、競技者としてだけでなく、指導者としても、こういった貴重な経験を経た者たちが、日本のみならず世界中でソフトボールの指導にあたり「界のより広い地域へソフトボールを普及させる」ための“礎”となってくれることを期待してやみません。

終わりに、この記念誌の発行を契機として、全日本大学ソフトボール連盟の今後益々の飛躍・発展をご祈念申し上げ、発刊によせるお祝いの言葉いたします。

40周年を祝して



財団法人日本ソフトボール協会
強化本部長 三宅 豊

大学ソフトボール連盟が40周年を迎えた事、心よりお祝い申し上げます。

男子が12～13校、女子が5校あたりで開催していた私が大学選手権を戦っていた頃を思うと、ここまでの関係者の皆様のご努力とご苦勞に改めて敬意を表するしだいがあります。思い起こせば、高校時代にソフトボール競技と出会い、全国優勝したのをきっかけに大学に進んでソフトボール競技を続けましたが、この大学時代に取り組んだ練習がその後の自分を形成したといっても過言ではありません。ソフトボール部で借りていた一軒の合宿所での生活。先輩達との同部屋で、3食の炊事、洗濯、掃除、夜はボール磨き、素振り。昼間は、授業が終わると、近くの駒沢公園のグラウンドを借りての練習、借りられないときは、多摩川の河川敷まで走って行って練習。雨が降れば、校舎の廊下で練習と、厳しかったが楽しくて充実していた毎日。休みの時でも、キャッチャーの先輩に頼んで1日、300球の投げ込みをしていた時代。大学での基礎があったからこそ、その後、現役として40歳までピッチャーズサークルに立てたと思っています。

そんな貴重な体験をさせていただいた大学時代ですが、その時、感心させられたのは大学連の中に学生委員会があることでした。大学の先生達だけではなく、学生が委員となって運営にかかわる。今年の第40回全日本男女大学選手権を見ても、学連の代表者が開会式の挨拶に立っていたし、いたるところで学生達を運営にかかわらせている事に末井理事長の「ソフトボールと共に学生を育てる」の姿勢が強くうかがわれ、その流れが続いている事を強く感じました。競技する事と運営する事とを両輪として活動する大学連のスタイルは、今後のスポーツ活動のあり方を示唆する方法ではないかと思います。

そこでは、自主的に学生達がグラウンド整備を行なったり、グラウンドの水抜きを行なったり、各チームの指導者も一緒になって教育の一貫として選手を育てているという姿も見ました。大学のソフトボールが正しい方向で進んでいる事に本当に嬉しく思うと共に感謝する次第です。

そんな大学連盟が、更に発展し50周年を迎えるまでの期待と希望を込めて少し選手たちに記しておこうと思います。

一つは、大学生であるから、ソフトボールをプレーするだけでなくソフトボールを学んで欲しいということです。そして、ソフトボールを哲学として欲しいということです。

ソフトボールそのものを学ぶと共に、ソフトボールを通して学ぶものがあります。

そして、もう一つ、それは語学力、特に英語力を身につけて欲しいということです。これは、単にソフトボールにおいて世界的に活躍して欲しいというだけではなく、これからの社会において、それは、必ず自分を豊かにしてくれると思うからです。これは、語学力のない私が痛切に感じるアドバイスです。言葉が通じれば、スポーツはもっともっと楽しくなります。視野がどんどん開けます。是非、取り組んでみて下さい。

最後にもう一度、大学連の皆様のご努力に敬意を表しつつ、大学界から世界的視野に立ち、きちっとした理念を持った人材が多く生まれ出ることを期待しお祝いの言葉とさせていただきます。

ウインドミル

第9号

— 創立40周年記念号 —

目 次

ごあいさつ ●創立40周年を迎えて

全日本大学ソフトボール連盟会長 大内敬哉 1

●創立40周年によせて

全日本大学ソフトボール連盟副会長 一谷宣宏 2

●学連40周年余話

全日本大学ソフトボール連盟副会長 中野紀明 3

●創立40周年を迎え記念誌の発刊を祝して

全日本大学ソフトボール連盟副会長 武藤幸正 4

●大海に新たな船出を！

全日本大学ソフトボール連盟理事長 末井健作 5

●40周年記念誌の発刊に寄せて

(財)日本ソフトボール協会会長 山崎 拓 6

●40周年を祝して

(財)日本ソフトボール協会強化本部長 三宅 豊 7

40年の軌跡 ●年表 11

●全日本大学ソフトボール選手権大会の結果 14

●全日本大学ソフトボール選手権大会出場校 54

●全日本大学男子・女子ソフトボール東西対抗の記録 57

●全日本女子短期大学ソフトボール大会の記録 58

●学連と国際交流

全日本大学ソフトボール連盟理事 吉末和也 59

●各地区の歩み

北海道・東北地区 61

関東地区	62
北信越地区	63
東京地区	64
東海地区	65
近畿地区(男子)	66
近畿地区(女子)	67
中国地区	68
四国地区	69
九州地区	70
先輩から ●ソフトボールへの思い ～大学のプレーヤー達に～	
(財)日本ソフトボール協会技術委員長 三宅 豊	71
●世界選手権準優勝に輝いて	
沖縄県立中部工業高校 宮平 永義	72
●仲間とともに、いつでも、いつまでも夢を!!	
全日本女子代表チーム主将 伊藤 幸子	74
●学生時代に学んでほしいこと ―NZ遠征での経験から―	
(株)豊田自動織機女子部コーチ 木場 武文	75
対 談 ●大学連盟のこれから ～学連役員OG、大いに語る～	
市川麻紀子・渡邊真智子・森田啓之	76
事業報告 ●平成17年度の事業報告と今後の活動方針	
全日本大学ソフトボール連盟理事長 末井健作	80
報 告 ●大学女子日本代表チーム	
常任理事 久保田 豊 司	81
●U23を経験して	
東北福祉大学 藤崎 由起子	82
●全日本代表として	
早稲田大学 中島 幸紀	84
中京学院大学 鈴木 健司	84
国際大会の記録 ●第7回世界男子ジュニア選手権大会	85

全国大会の記録	●文部科学大臣杯第40回全日本大学男子選手権大会	90
	●文部科学大臣杯第40回全日本大学女子選手権大会	96
	●第51回全日本総合男子選手権大会	101
	●第57回全日本総合女子選手権大会	102
共催大会の結果	●第20回東日本大学選手権大会	103
	●第37回西日本大学選手権大会	105
後援大会の結果	●第4回豊田・デンソー・豊田織機・東海理化杯	107
	●第7回千葉オープンフェスティバル	109
	●第2回北信越大学オープン大会	110
	●第6回「峠のまち」Matsuida Cup	111
	●第4回大学女子学生ソフトボール大会in八幡浜	112
各地区の大会結果	●北海道・東北地区	113
	●関東地区	116
	第36回関東大学選手権大会	121
	●北信越地区	123
	●東京地区	124
	●東海地区	130
	第2回東海地域大学選手権大会	135
	●近畿地区	140
	●中国地区	154
	●四国地区	156
	●九州地区	158
調査研究委員会	●原稿等の募集・投稿規定	160
広報記録委員会	●訃報・表彰・お知らせ	161
資料	●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	162
	●全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿	163
	●平成17年度加盟大学一覧	164
	●全日本大学ソフトボール連盟規約	166
編集後記		171

全日本大学ソフトボール連盟年表

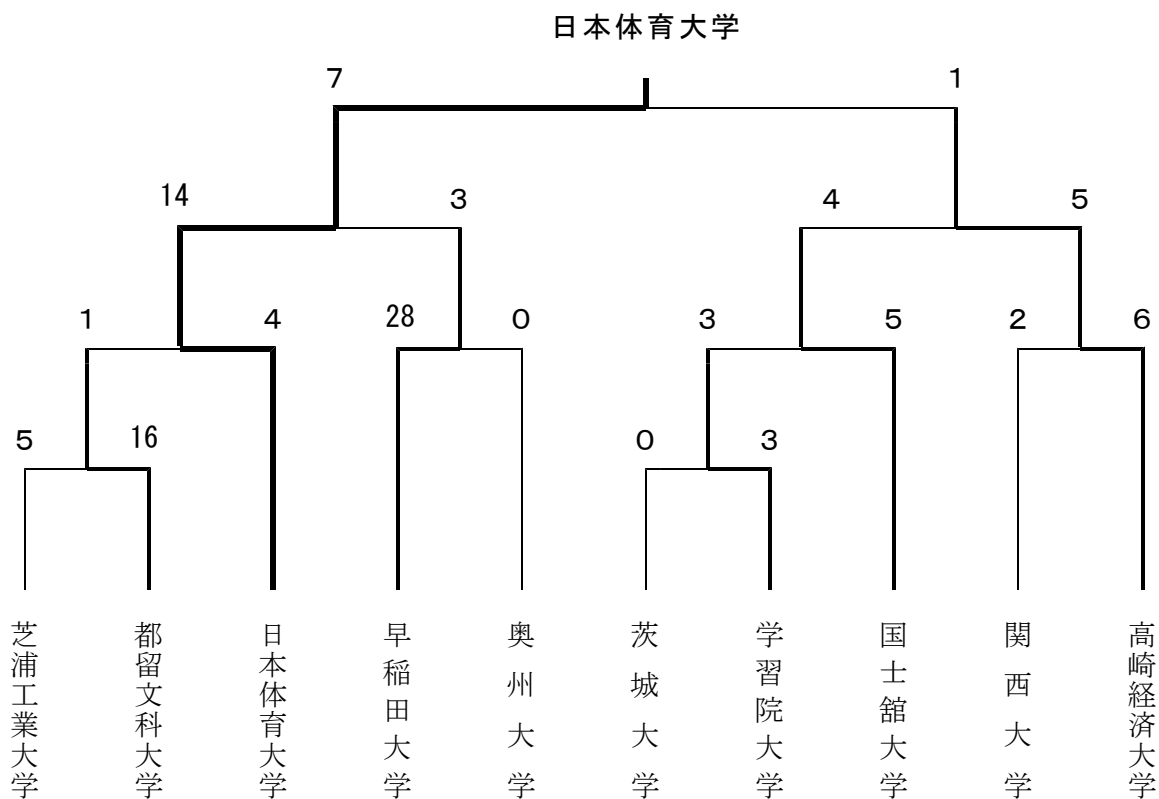
年度		代表役員	記 事	登録大学数	
				男子	女子
0	'65 S40		・下奥日本体育大学部長兼監督が大学連盟の必要性を力説し、再三日体大生を伴い日本ソフトボール協会との話し合い ・12月24日、会長を日本体育大学長栗本善彦(日本ソフトボール協会副会長)、理事長下奥信也として全日本大学ソフトボール連盟が設立	—	—
1	'66 S41	会 長：栗本義彦 理事長：下奥信也	・日本ソフトボール協会との話し合いは難航したが、1月22日の理事会にて承認 ・学生数2000名以上の大学に対して、チームの有無と大学選手権参加希望の調査を実施し、男女約20校から参加希望の回答 ・11月、第1回全日本大学選手権大会を駒沢オリンピック記念軟式野球場で開催し、男子10校・女子5校が参加、男女とも日本体育大学が優勝 ・チーム登録費2,000円、選手登録費200円で、以後10年近く役員はまったく無報酬のボランティアで連盟を運営	10	5
2	'67 S42	〃		10	6
3	'68 S43	〃		9	5
4	'69 S44	〃	・岩野副会長の尽力で、この年から西日本大学選手権大会を開催	12	4
5	'70 S45	〃		14	6
6	'71 S46	〃		13	5
7	'72 S47	会 長：松前重義 理事長：下奥信也		12	5
8	'73 S48	〃		12	5
9	'74 S49	〃	・第1回東西対抗戦を愛知県刈谷市で開催	15	7
10	'75 S50	〃		17	8
11	'76 S51	〃	・チーム登録費5,000円、選手登録費400円に改定	21	7
12	'77 S52	〃		24	10
13	'78 S53	〃		31	11
14	'79 S54	会 長：松前重義 理事長：角田真一郎		34	13
15	'80 S55	会 長：岡田俊彦 理事長：角田真一郎	・男子、地区割りを設定しインカレ予選を実施、本大会出場校は28チーム（女子はオープン参加のまま）	57	20
16	'81 S56	〃		84	25

年度		代表役員	記 事	登録大学数	
				男子	女子
17	'82 S57	会 長：岡田俊彦 理事長：角田真一郎	・チーム登録10,000円、選手登録費500円に改定 ・役員の出張に若干の交通費の支払いを開始	84	25
18	'83 S58	〃		96	33
19	'84 S59	〃		97	45
20	'85 S60	〃	・創立20周年記念式典を坂出市で開催	100	54
21	'86 S61	会 長：岡田俊彦 理事長：水野信義	・女子、男子と同じ地区割りでインカレ予選を実施し、 本大会出場校は18チーム ・この年から、東日本大学選手権大会が開催され後援	102	63
22	'87 S62	〃	・日本ソフトボール協会からインカレ優勝旗の寄贈 ・チーム登録20,000円、選手登録費1,000円に改定	107	68
23	'88 S63	会 長：一谷定之丞 理事長：水野信義	・女子、インカレ出場チーム数を20校に増加 ・旅費規程を改定、交通費、日当、宿泊費を支給 ・一谷会長、病にて急逝(平成元年2月)	111	70
24	'89 H1	〃		112	71
25	'90 H2	会 長：松田岩男 理事長：水野信義	・連盟規約を大幅改定 ・学生委員会が発足し、全国のインカレ予選戦評集を 作成 ・25周年記念記録要覧を発行 ・関東北信越地区を関東地区と北信越地区に分離	119	75
26	'91 H3	〃	・インカレ出場チーム数、男子32、女子24に改定 ・松田会長、ボストンにて凶弾に倒れる。(4年2月)	124	78
27	'92 H4	会 長：坂井正郎 理事長：水野信義	・故松田会長の尽力により、文部大臣杯の授与が実現 ・女子選抜チーム、ブラジルへ初の海外遠征 ・岡田顧問逝去	126	81
28	'93 H5	〃		135	83
29	'94 H6	〃	・岩野顧問逝去 ・ブラジル代表との親善試合を主催(各地で11試合) ・チーム登録30,000円、選手登録費1,000円に改定		
30	'95 H7	〃	・創設30周年を記念し、第1回全日本女子短期大学大 会を東京で開催し、淑徳短大が優勝 ・30周年記念誌を発行 ・30周年記念式典を学習院大学で開催	143	88
31	'96 H8	会 長：大内敬哉 理事長：末井健作	・学連所属の吉野みね子(総監督)、武藤幸政(トレー ナー)、高山樹里(日本体育大学)、持田京子(日本体 育大学)、藤本佳子(東京女子体育大学)、アトラシ ンタオリンピック出場(4位) ・10月、前副会長下奥信也氏逝去	147	91

年度		代表役員	記 事	登録大学数	
				男子	女子
32	'97 H9	会 長：大内敬哉 理事長：末井健作	・連盟機関誌「ウインドミル」を創刊 ・H10年2月、男子選抜チームニュージーランド遠征	149	90
33	'98 H10	〃		148	91
34	'99 H11	〃	・登録規定を改定し、専攻科生と大学院生の選手登録を承認 ・東京女子体育大学、アジア女子選手権大会準優勝 ・H12年2月、女子選抜チームオーストラリア遠征	144	86
35	'00 H12	〃	・原口常任理事、病にて急逝(4月) ・増淵まり子(東京女子体育大学)、アテネオリンピックで銀メダル獲得 ・全日本大学東西対抗は第27回をもって終了 ・連盟公式ホームページを開設 ・この年から阪神学生女子オープンを後援 ・この年から「峠のまち」Matsuida Cupを後援	141	85
36	'01 H13	〃	・全日本女子短期大学大会は第7回をもって終了 ・関東、中国、九州各地区で秋季大会が開催され、全9地区で秋季リーグ戦もしくは秋季大会を開催 ・H14年2月、男子選抜チームニュージーランド遠征	141	85
37	'02 H14	〃	・この年から東海オープンを後援 ・この年から大学女子学生大会in八幡浜を後援	142	87
38	'03 H15	〃	・第8回アジア女子選手権に向けて選手選考会を実施し、選手団を決定するも、SARS等により大会中止	144	85
39	'04 H16	〃	・学連所属ジュニア世代の選抜チーム、第3回アジア女子ジュニア選手権大会優勝 ・大学日本代表チーム、第1回世界女子大学選手権大会第3位 ・この年から国公立大学オープンを後援	143	88
40	'05 H17	〃	・学連所属のジュニア世代を主体とする全日本チーム、第7回世界男子ジュニア選手権大会準優勝 ・ウインドミルNo.9ー創立40周年記念号ー発行	142	87

第1回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1966年11月3日～5日 東京都世田谷区



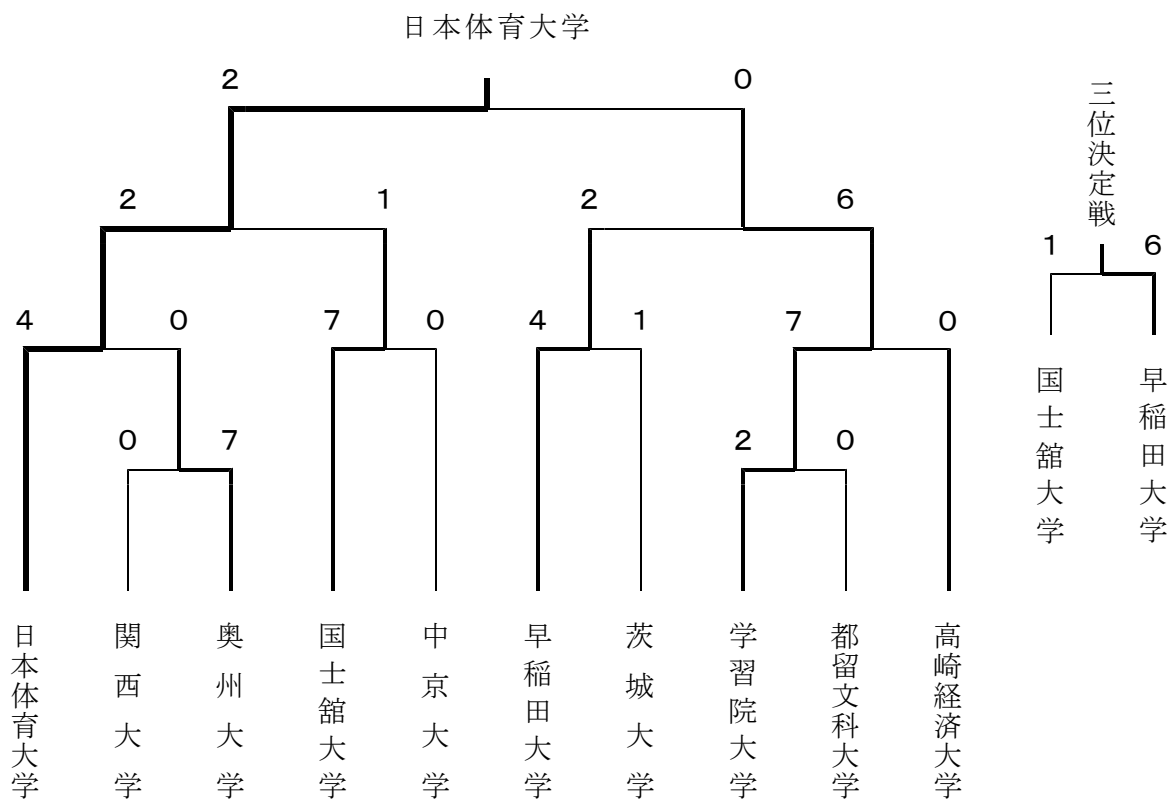
<女子> 1966年11月3日～5日 東京都世田谷区

チー ム	日 体	日女体	東女体	武庫川	富 山	勝	分	敗	順位
日 本 体 育 大 学	※	○ 2 - 0	○ 3 - 2	○ 1 - 0	○ 29 - 0	4	0	0	優勝
日本女子体育大学	● 0 - 2	※	△ 3 - 3	○ 3 - 2	○ 18 - 1	2	1	1	2 位
東京女子体育大学	● 2 - 3	△ 3 - 3	※	○ 1 - 0	○ 15 - 0	2	1	1	3 位
武庫川女子大学	● 0 - 1	● 2 - 3	● 0 - 1	※	○ 13 - 0	1	0	3	4 位
富 山 大 学	● 0 - 29	● 1 - 18	● 0 - 15	● 0 - 13	※	0	0	4	5 位

※ 2 位 3 位は得失点差による。

第2回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1967年7月26日～28日 東京都世田谷区

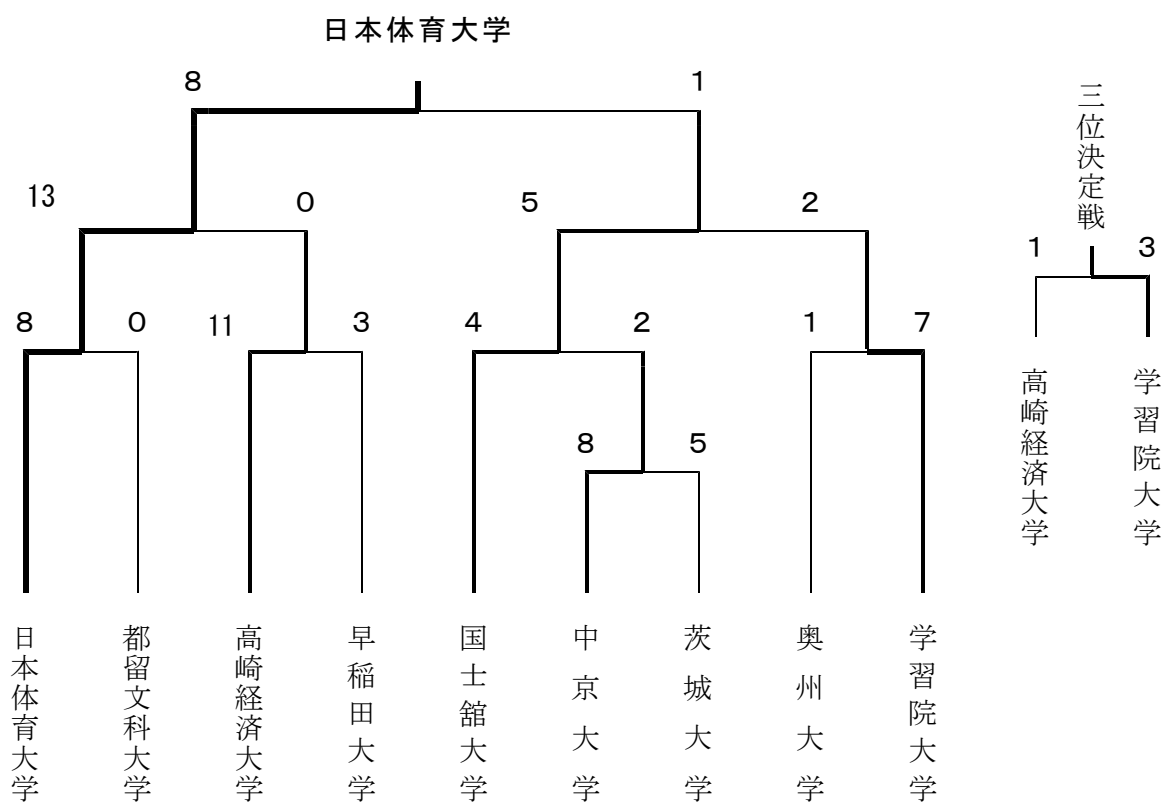


<女子> 1967年7月26日～28日 東京都世田谷区

チー ム	日 体	東女体	日女体	武庫川	成 蹊	四 学	勝	敗	順
日 本 体 育 大 学	※	○ 2 - 1		○ 16 - 0		○ 15 - 0	3	0	優 勝
東京女子体育大学	● 1 - 2	※	○ 6 - 1		○ 13 - 0		2	1	2 位
日本女子体育大学		● 1 - 6	※	○ 2 - 0	○ 6 - 1		2	1	3 位
武庫川女子大学	● 0 - 16		● 0 - 2	※		○ 14 - 0	1	3	4 位
大阪成蹊女子短大		● 0 - 13	● 1 - 6		※				
四 国 学 院 大 学	● 0 - 15			● 0 - 14		※			

第3回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1968年8月16日～18日 群馬県高崎市



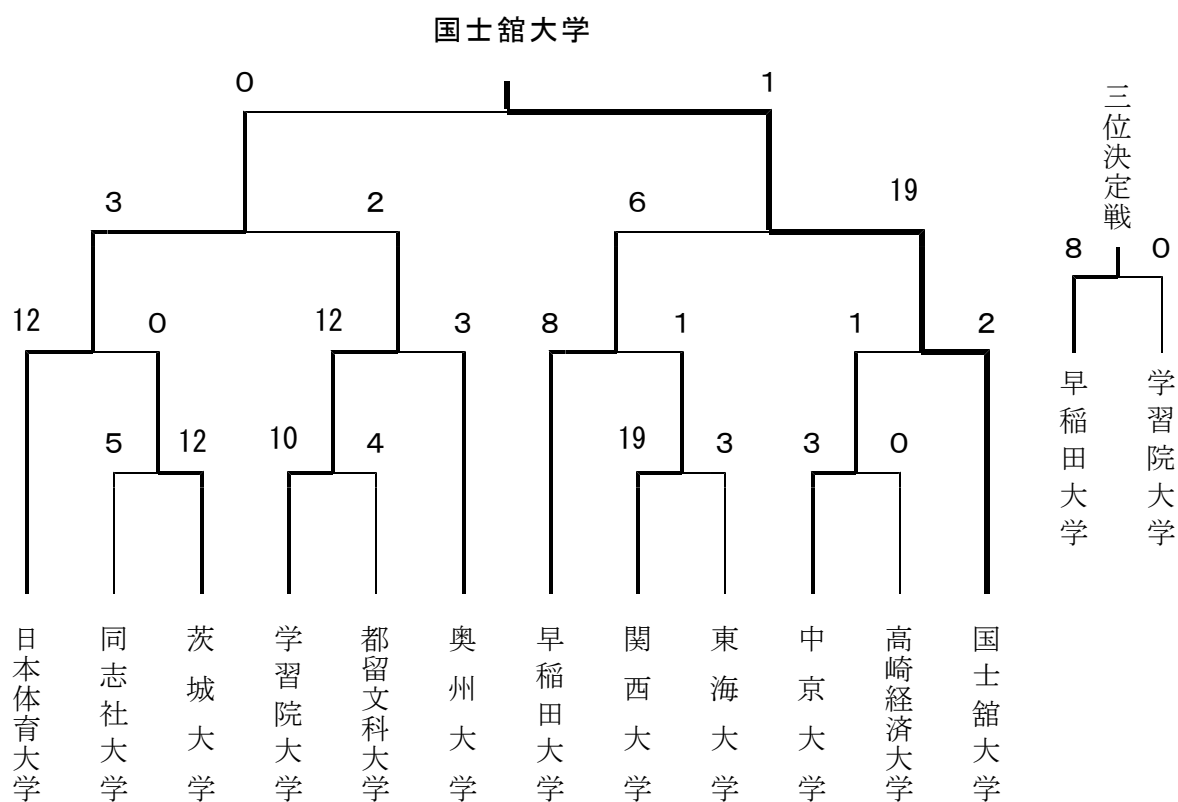
<女子> 1968年8月16日～18日 群馬県高崎市

チー ム	東女体	日 体	成 蹊	武庫川	日女体	勝	敗	点差	順位
東京女子体育大学	※	● 1 - 4	○ 5 - 0	○ 3 - 2	○ 13 - 3	3	1	+13	優勝
日本体育大学	○ 4 - 1	※	● 2 - 3	○ 3 - 0	○ 7 - 0	3	1	+12	2位
大阪成蹊女子短大	● 0 - 5	○ 3 - 2	※	○ 5 - 1	○ 9 - 5	3	1	+4	3位
武庫川女子大学	● 2 - 3	● 0 - 3	● 1 - 5	※	○ 9 - 3	1	3	-2	4位
日本女子体育大学	● 3 - 13	● 0 - 7	● 5 - 9	● 3 - 9	※	0	4	-27	5位

※優勝～3位は得失点差による。

第4回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1969年7月26日～28日 東京都世田谷区

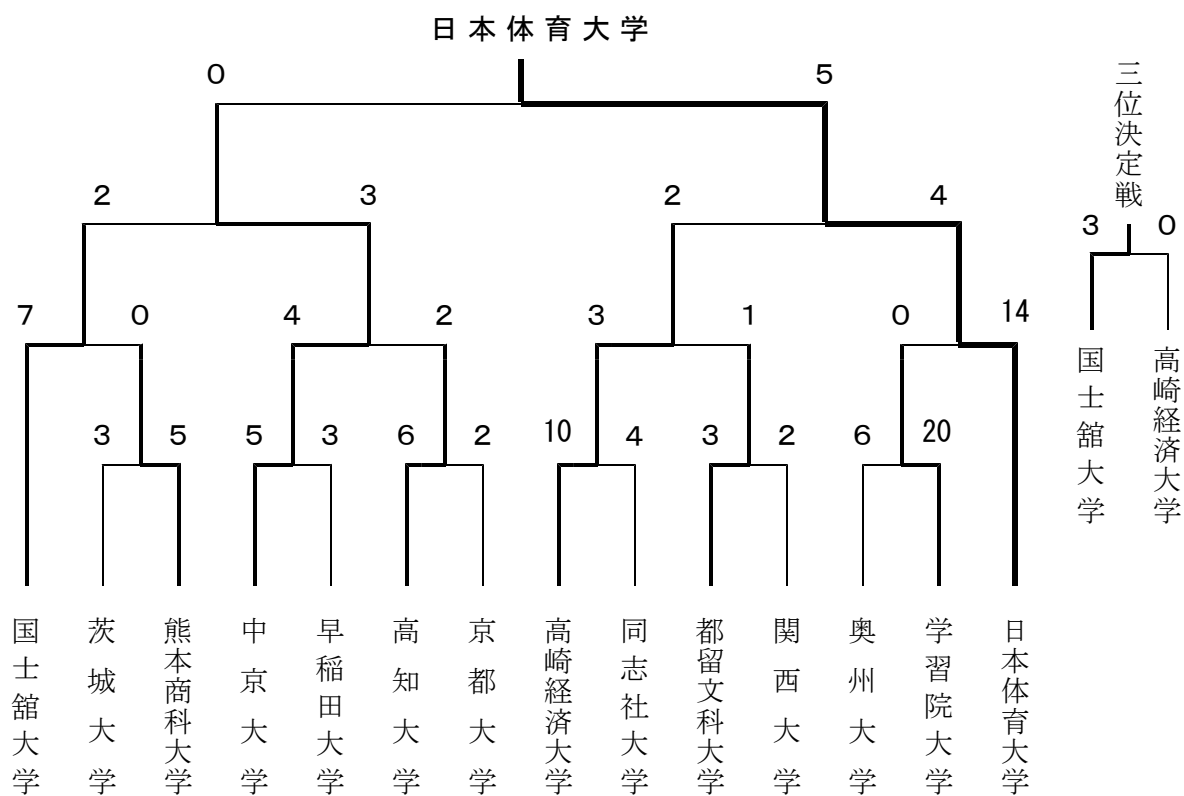


<女子> 1969年7月26日～28日 東京都世田谷区

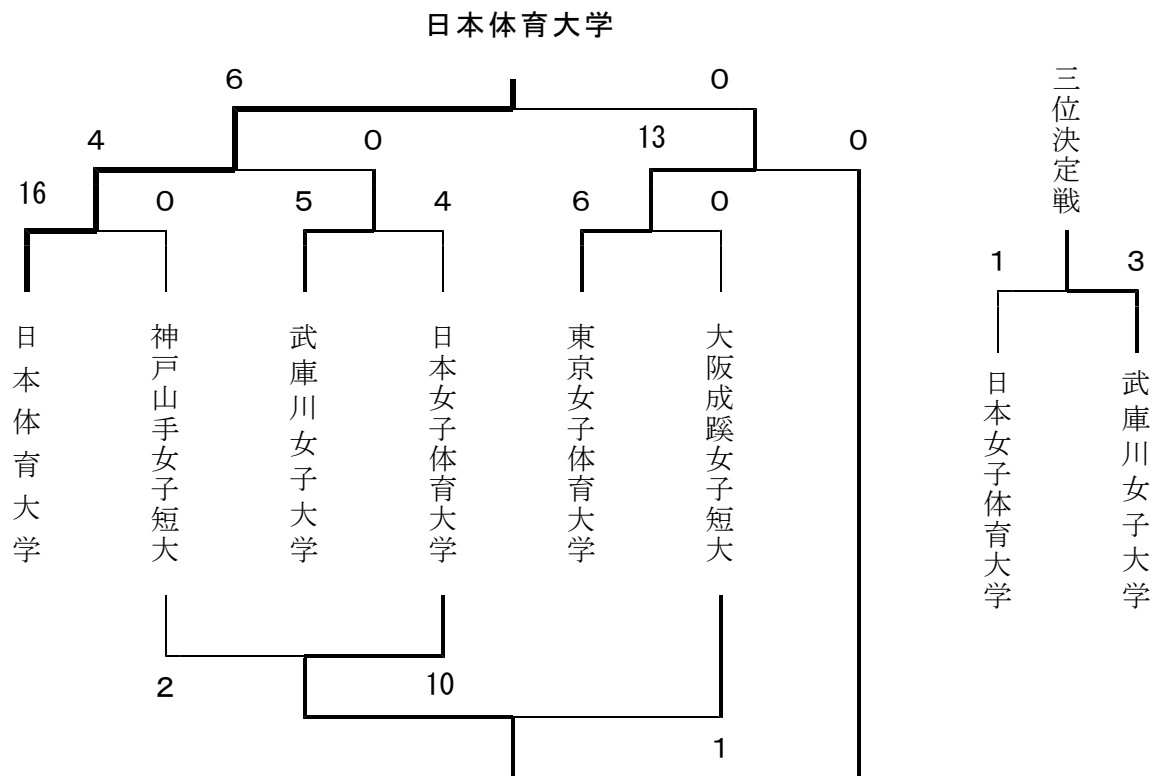
チー ム	日 体	東女体	武庫川	日女体	勝	敗	順位
日 本 体 育 大 学	※	○ 4 - 1	○ 9 - 0	○ 6 - 2	3	1	優勝
東京女子体育大学	● 1 - 4	※	○ 17 - 0	○ 14 - 2	3	1	2 位
武庫川女子大学	● 0 - 9	● 0 - 17	※	○ 3 - 2	1	3	3 位
日本女子体育大学	● 2 - 6	● 2 - 14	● 2 - 3	※	0	4	4 位

第5回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1970年11月13日～15日 大阪府

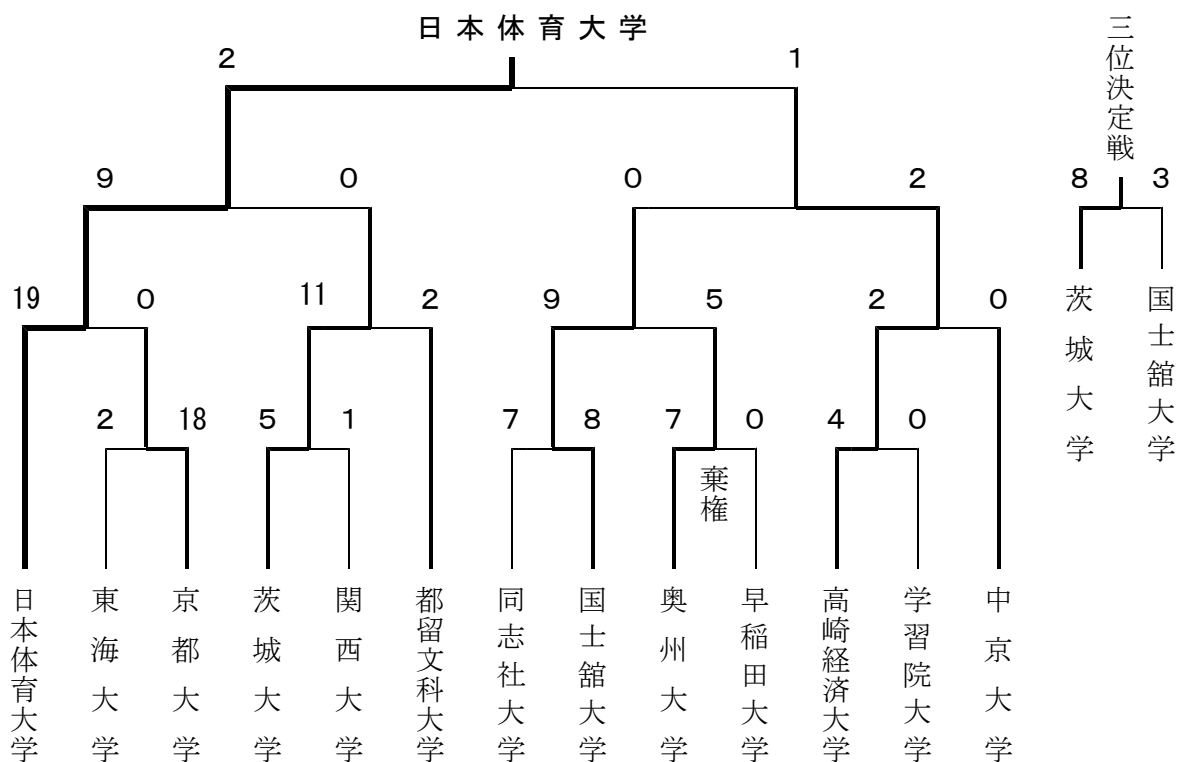


<女子> 1970年11月13日～15日 大阪府



第 6 回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1971年 8 月 27 日～29 日 東京都世田谷区



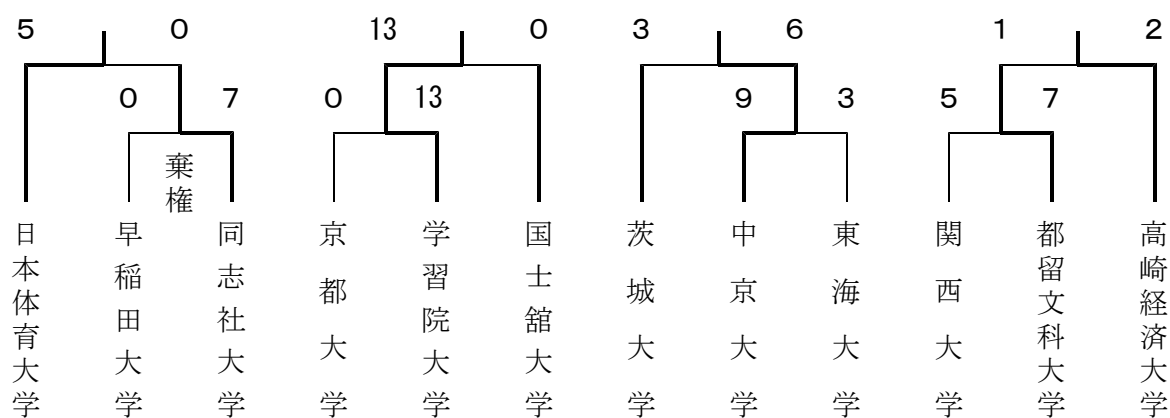
<女子> 1971年 8 月 27 日～29 日 東京都世田谷区

チー ム	東女体	日 体	武庫川	日女体	成 蹊	勝	分	敗	順位
東京女子体育大学	※	○ 1 - 0	○ 5 - 1	○ 2 - 0	○ 5 - 0	4	0	0	優勝
日本体育大学	● 0 - 1	※	○ 3 - 0	○ 6 - 2	○ 3 - 2	3	0	1	2 位
武庫川女子大学	● 1 - 5	● 0 - 3	※	△ 3 - 3	○ 6 - 2	1	1	2	3 位
日本女子体育大学	● 0 - 2	● 2 - 6	△ 3 - 3	※	△ 0 - 0	0	2	2	4 位
大阪成蹊女子短大	● 0 - 5	● 2 - 3	● 2 - 6	△ 0 - 0	※	0	1	3	5 位

第7回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1972年8月17日～19日 愛知県豊橋市

予選トーナメント戦



決勝リーグ戦

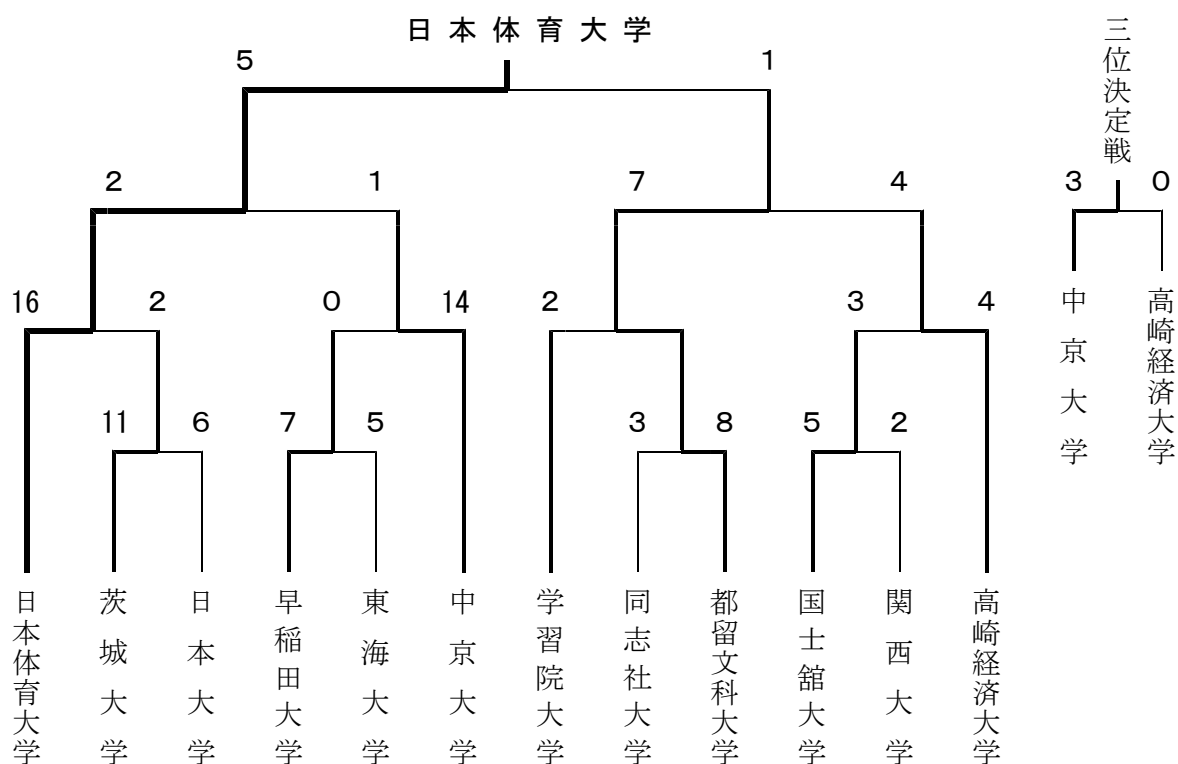
チー ム	日 体	学習院	中 京	高 崎	勝	分	敗	順位
日 本 体 育 大 学	※	○ 1 - 0	○ 3 - 1	○ 5 - 2	3	0	0	優勝
学 習 院 大 学	● 0 - 1	※	● 3 - 4	● 0 - 4	0	0	3	4 位
中 京 大 学	● 3 - 1	○ 4 - 3	※	● 0 - 1	1	0	2	3 位
高 崎 経 済 大 学	● 2 - 5	○ 4 - 0	○ 1 - 0	※	2	0	1	2 位

<女子> 1972年8月17日～19日 愛知県豊橋市

チー ム	日 体	成 蹊	東女体	武庫川	日女体	勝	敗	点差	順位
日 本 体 育 大 学	※	○ 7 - 0	○ 6 - 2	○ 3 - 0	○ 4 - 2	4	0	+16	優勝
大阪成蹊女子短大	● 0 - 7	※	○ 1 - 0	○ 4 - 2	○ 4 - 2	3	1	-2	2 位
東京女子体育大学	● 2 - 6	● 0 - 1	※	○ 9 - 0	● 0 - 3	1	3	+1	3 位
武庫川女子大学	● 0 - 3	● 2 - 4	● 0 - 9	※	○ 2 - 1	1	3	-13	4 位
日本女子体育大学	● 2 - 4	● 2 - 4	○ 3 - 0	● 1 - 2	※	1	3	-2	5 位

第 8 回 全日本大学ソフトボール選手権大会

＜男子＞ 1973年 8 月 28日～30日 群馬県草津町

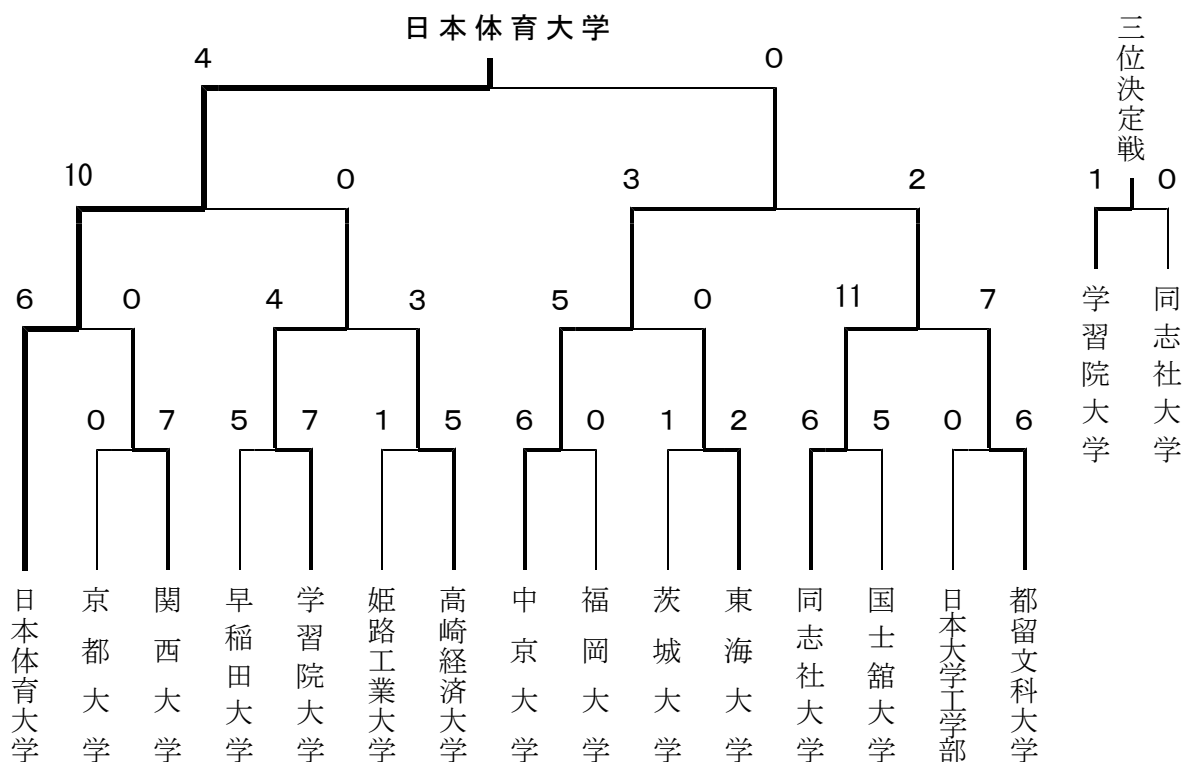


＜女子＞ 1973年 8 月 28日～30日 群馬県草津町

チー ム	東女体	成 蹊	日女体	日 体	武庫川	勝	分	敗	順位
東京女子体育大学	※	○ 4 - 1	○ 5 - 3	○ 1 - 0	○ 4 - 0	4	0	0	優勝
大阪成蹊女子短大	● 1 - 4	※	○ 3 - 2	○ 1 - 0	○ 8 - 0	3	0	1	2 位
日本女子体育大学	● 3 - 5	● 2 - 3	※	△ 0 - 0	○ 5 - 2	1	1	2	3 位
日 本 体 育 大 学	● 0 - 1	● 0 - 1	△ 0 - 0	※	○ 16 - 0	1	1	2	3 位
武庫川女子大学	● 0 - 4	● 0 - 8	● 2 - 5	● 0 - 16	※	0	0	4	5 位

第9回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1974年8月24日～26日 東京都世田谷区

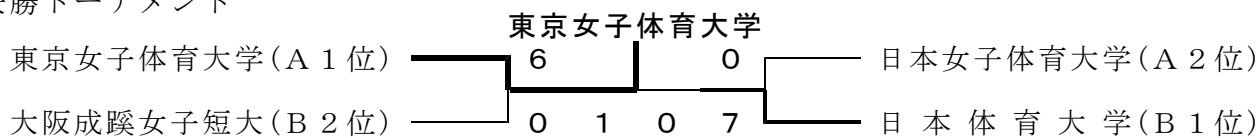


<女子> 1974年8月24日～26日 東京都世田谷区

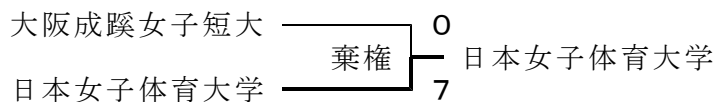
予選リーグ戦

Aグループ	東女体	日女体	四学	Bグループ	日体	成蹊	武庫川	岐阜
東京女子体育大学	※	○ 4-0	○ 19-0	日本体育大学	※	○ 8-0	○ 4-0	○ 2-0
日本女子体育大学	● 0-4	※	○ 17-0	大阪成蹊女子短大	● 0-8	※	○ 3-0	○ 6-1
四国学院大学	● 0-19	● 0-17	※	武庫川女子大学	● 0-4	● 0-3	※	○ 2-0
				岐阜短期大学	● 0-2	● 1-6	● 0-2	※

決勝トーナメント

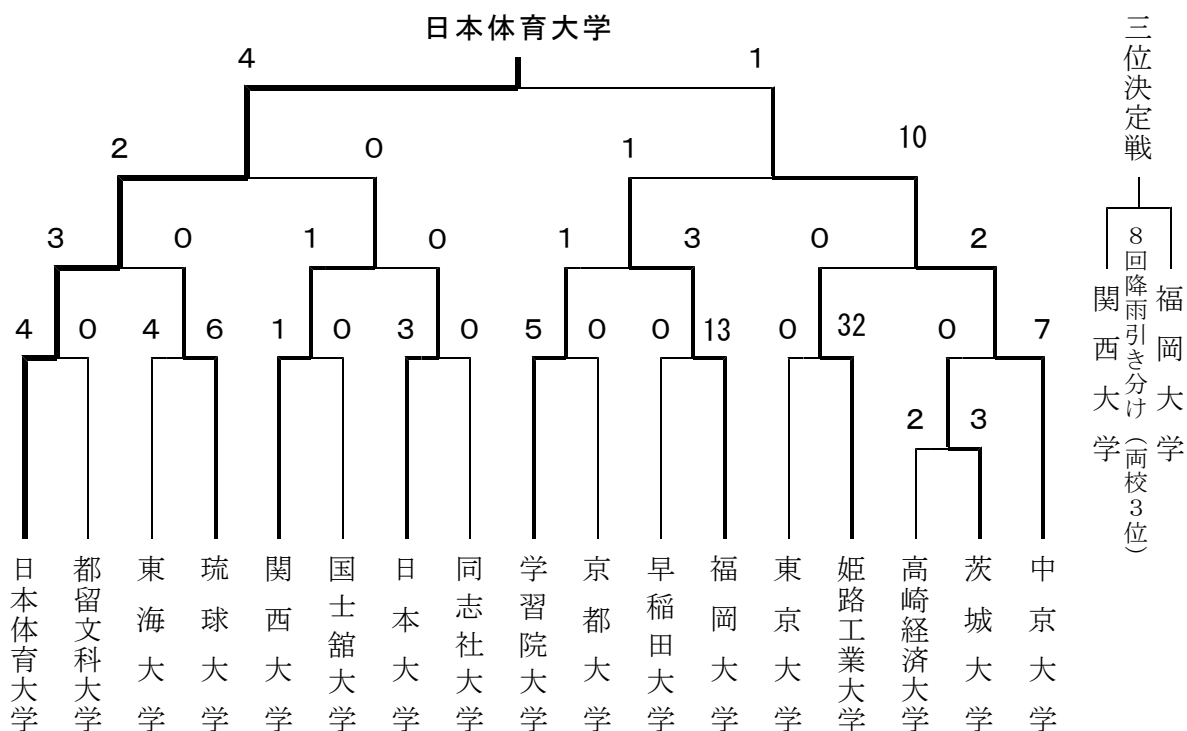


3位決定戦

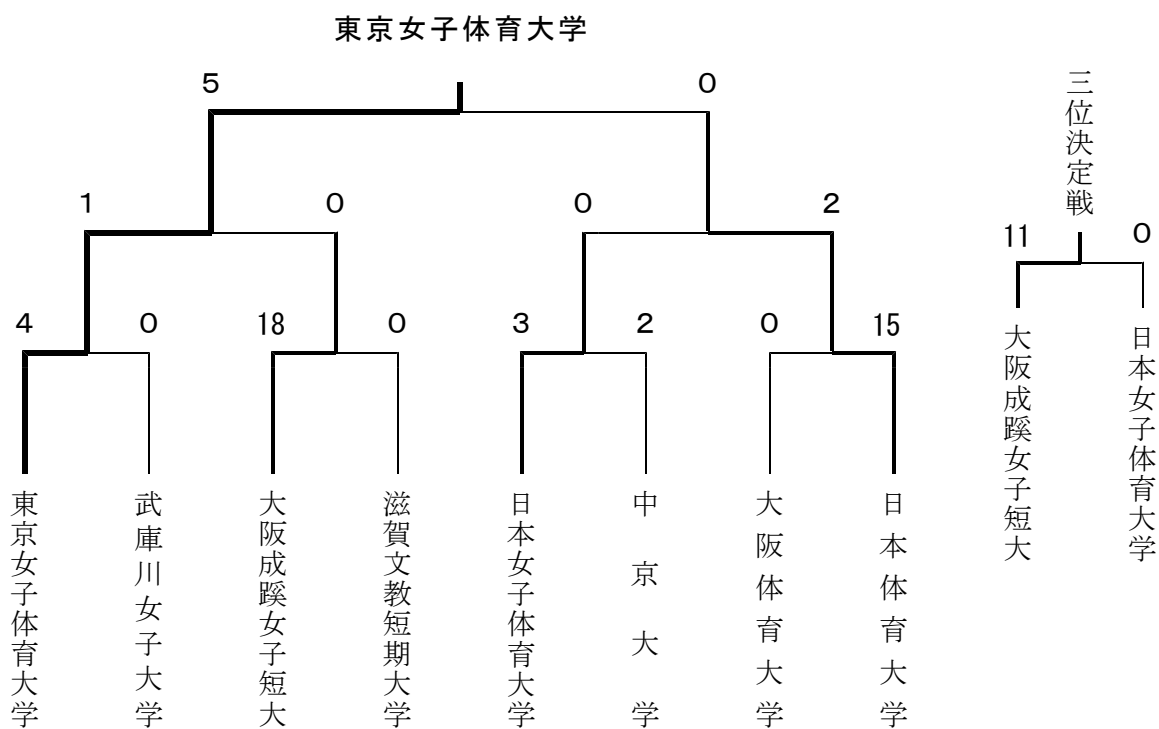


第10回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1975年 8月20日～22日 兵庫県姫路市

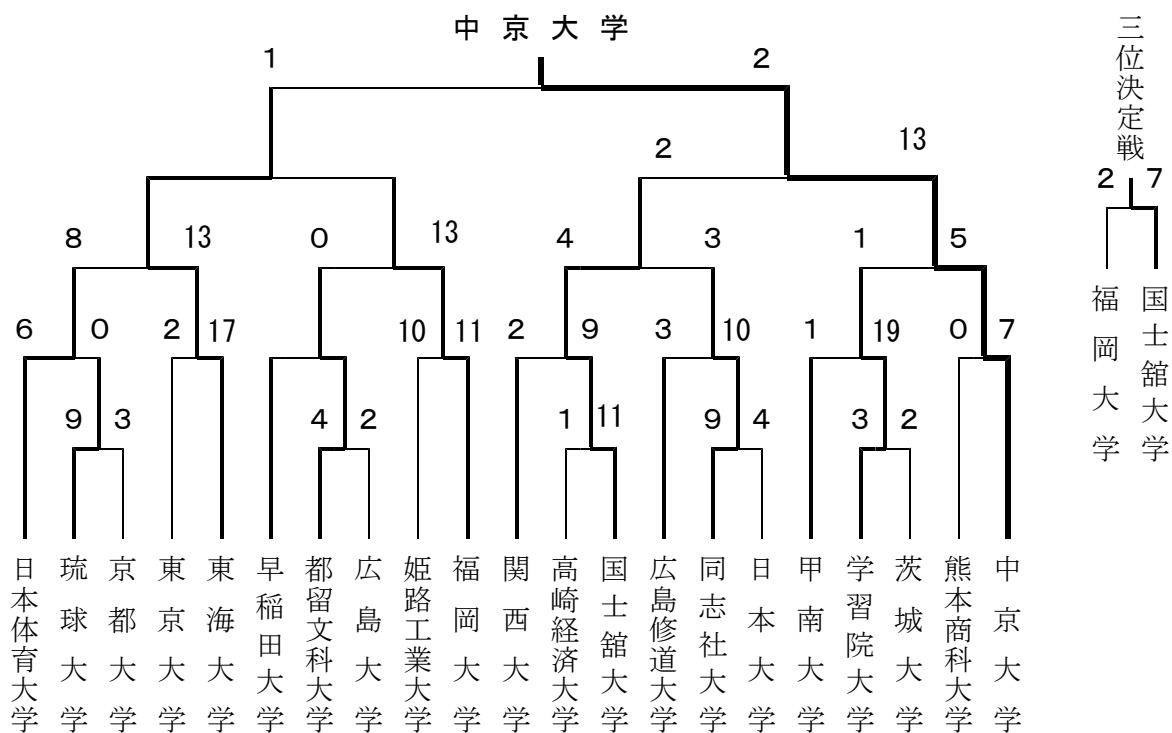


<女子> 1975年 8月20日～22日 兵庫県姫路市

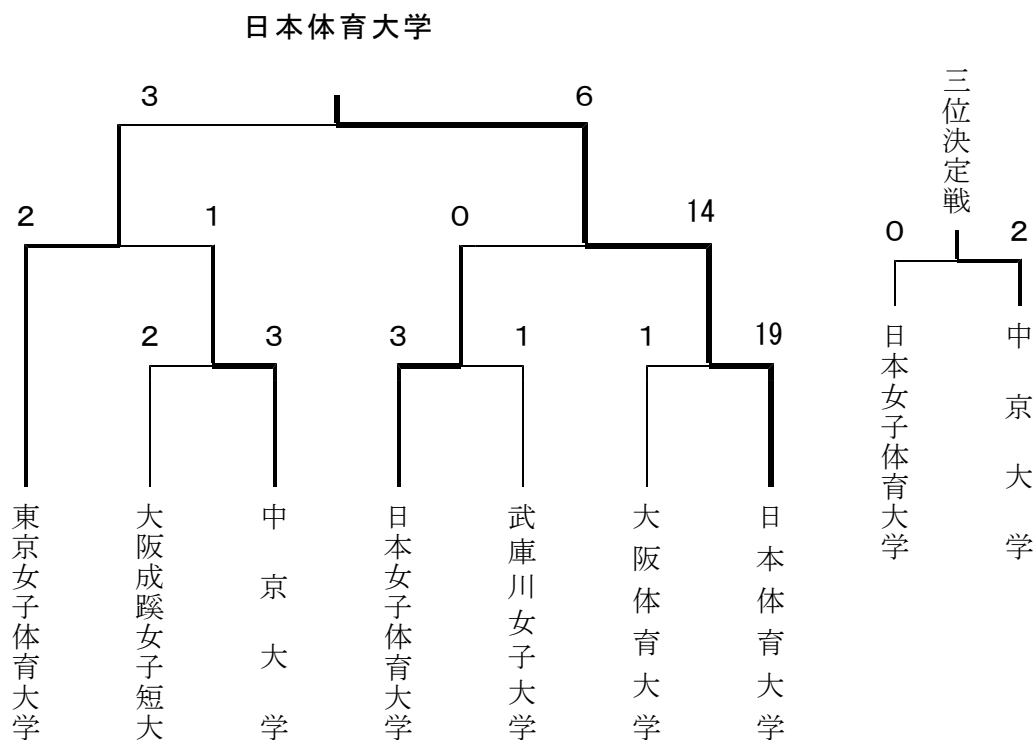


第11回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1976年 8月22日～25日 広島県呉市

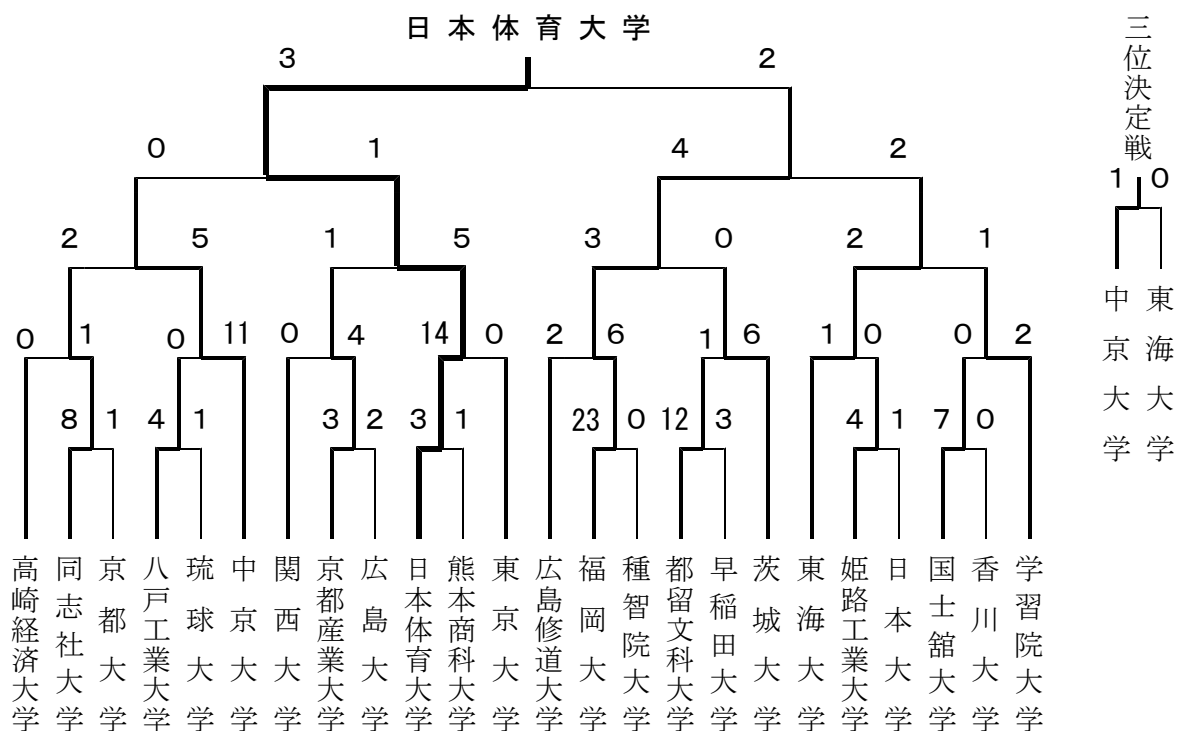


<女子> 1976年 8月22日～25日 広島県呉市

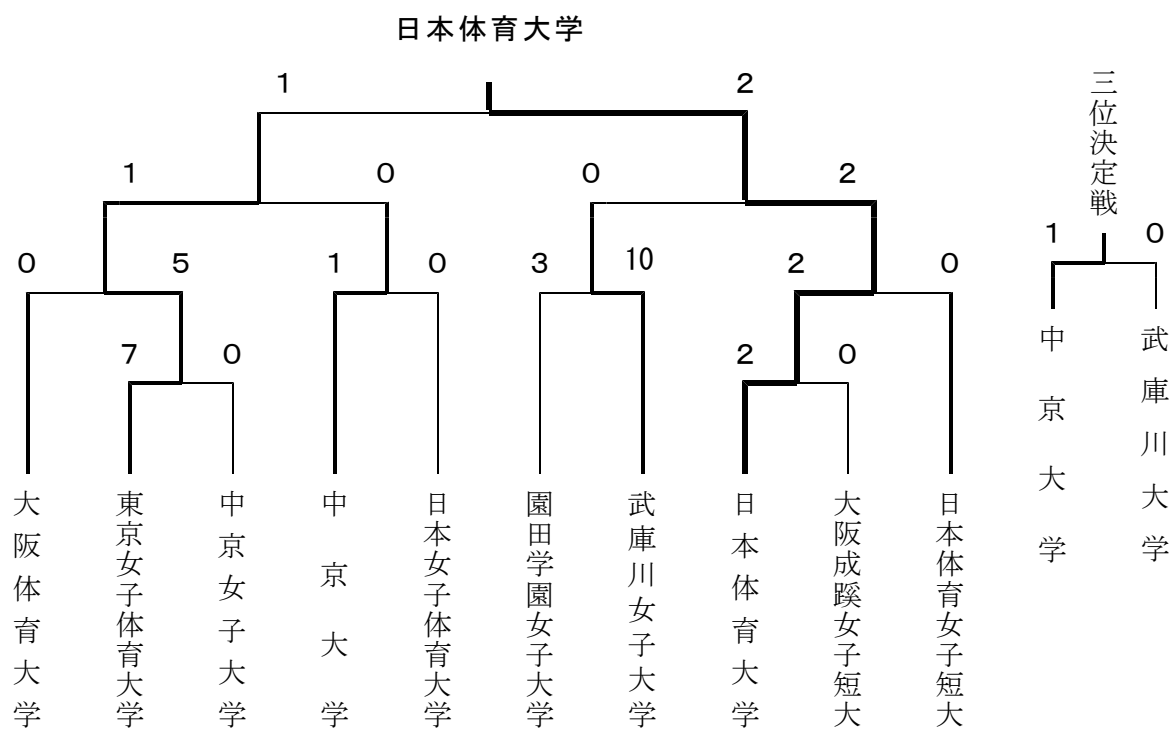


第12回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1977年 7月26日～28日 三重県熊野市

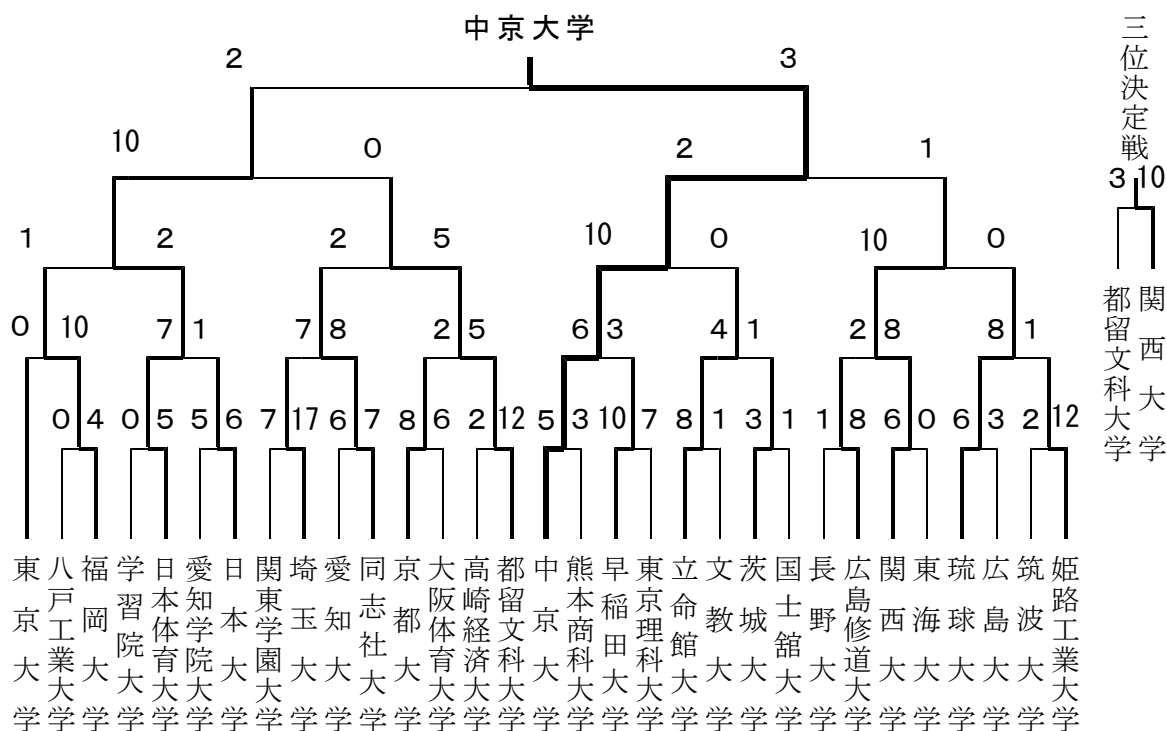


<女子> 1977年 7月26日～28日 三重県熊野市

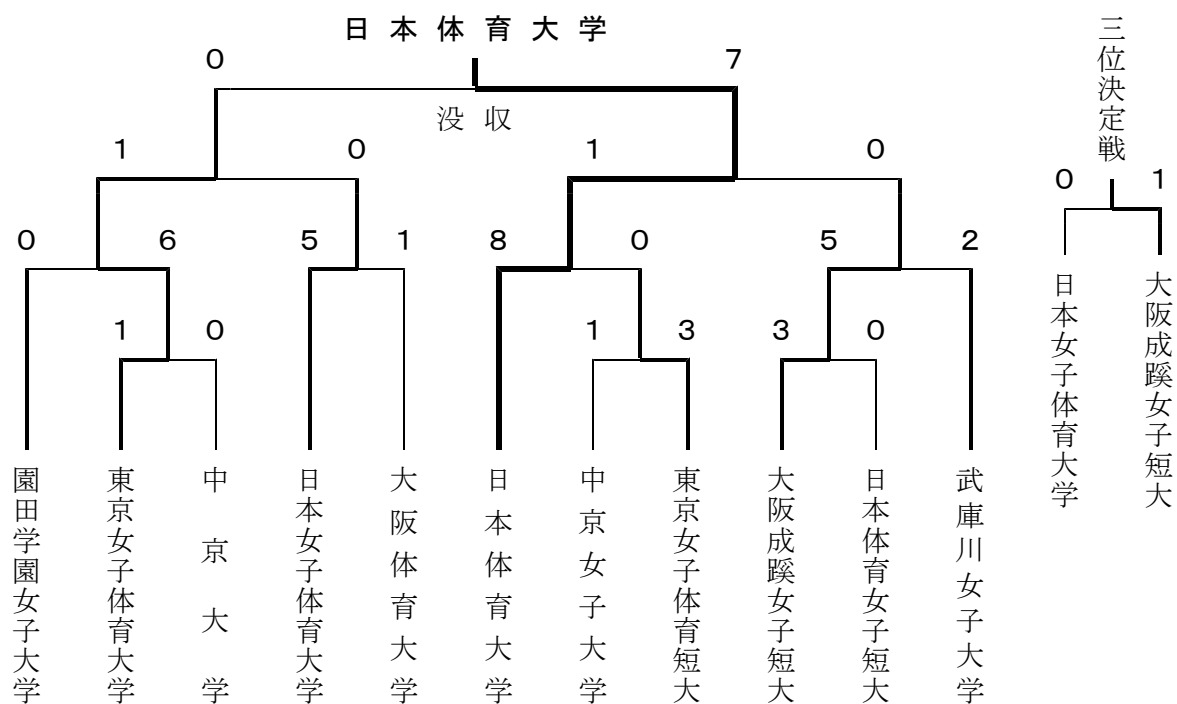


第13回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1978年 8月15日～17日 山梨県甲府市

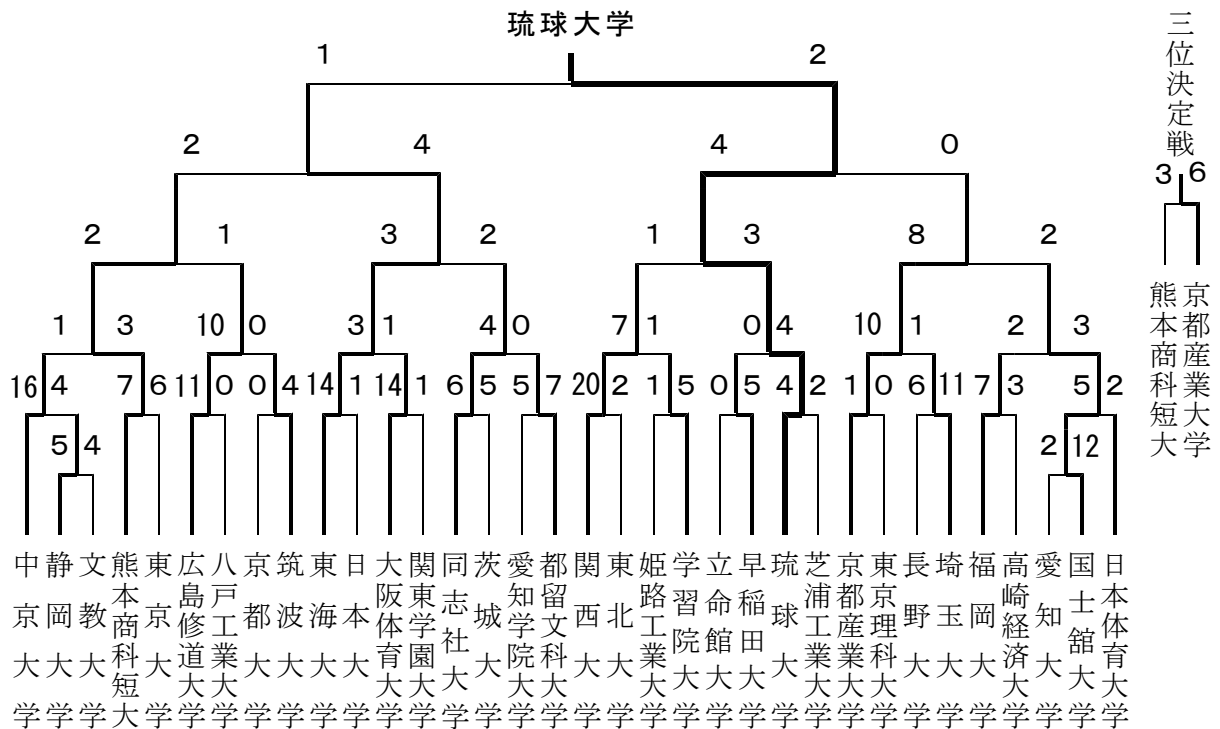


<女子> 1978年 8月15日～17日 山梨県甲府市

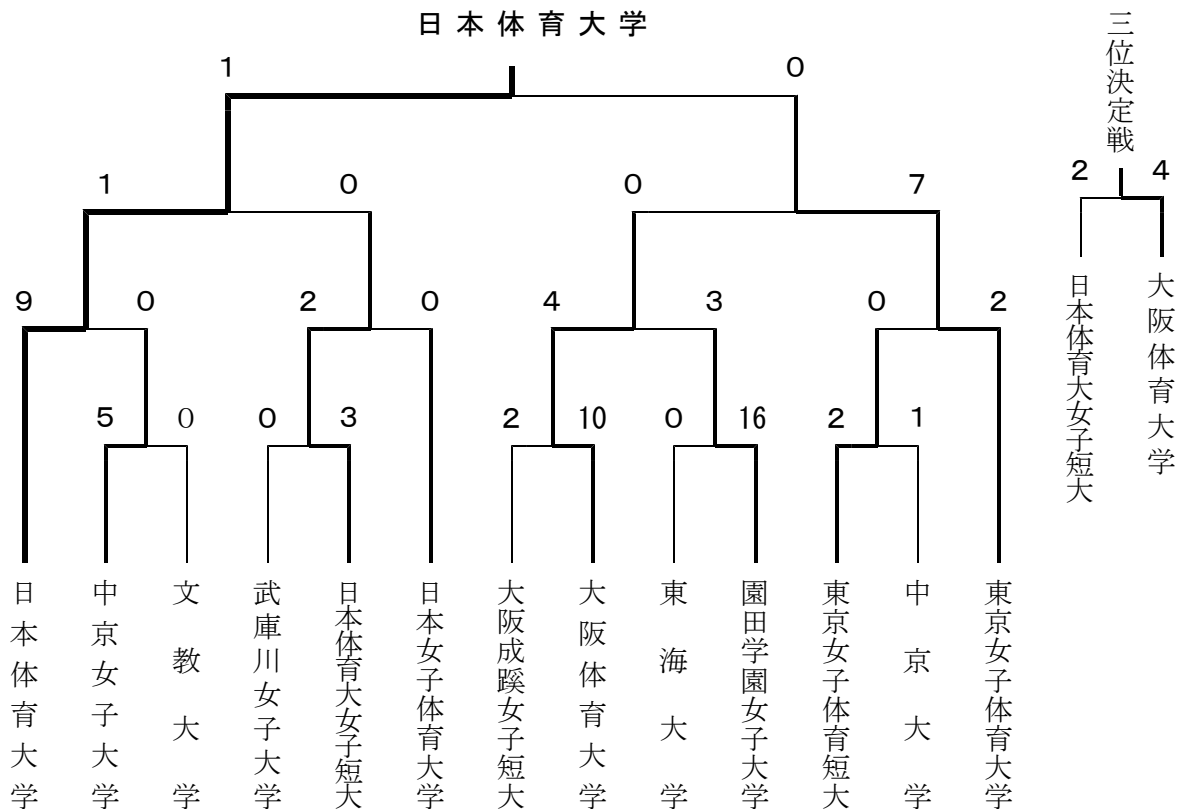


第14回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1979年 8月20日～23日 群馬県安中市

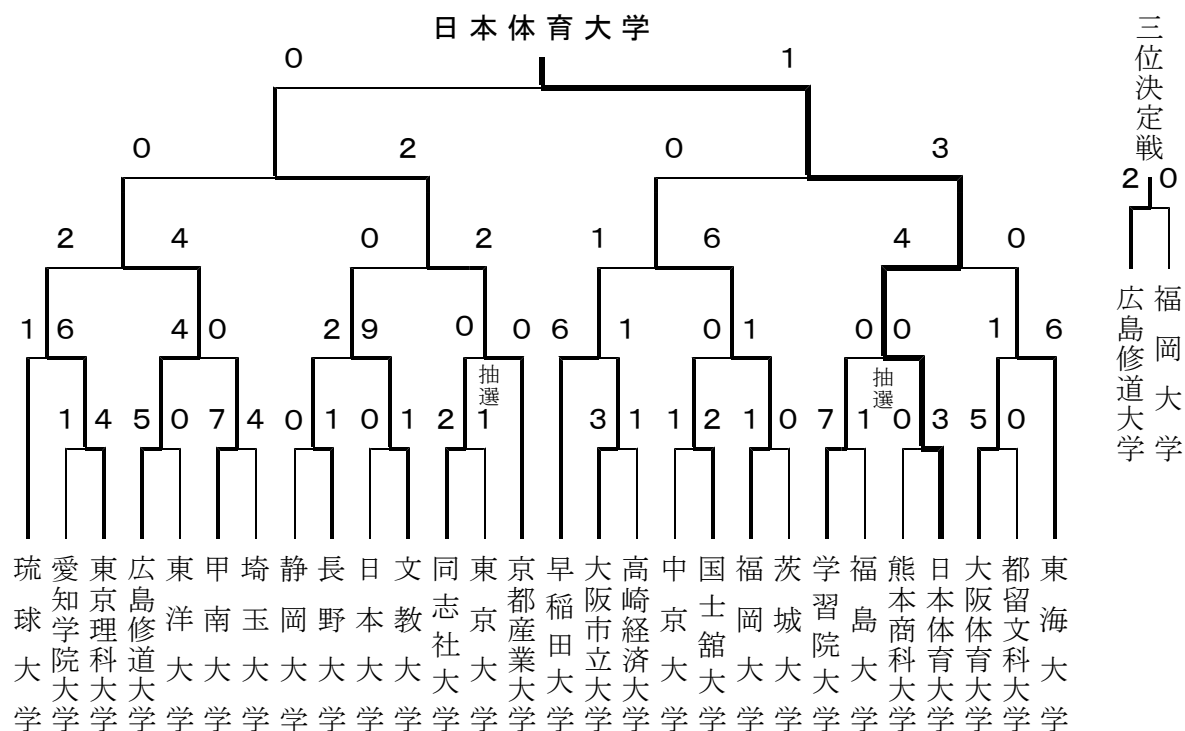


<女子> 1979年 8月20日～23日 群馬県安中市

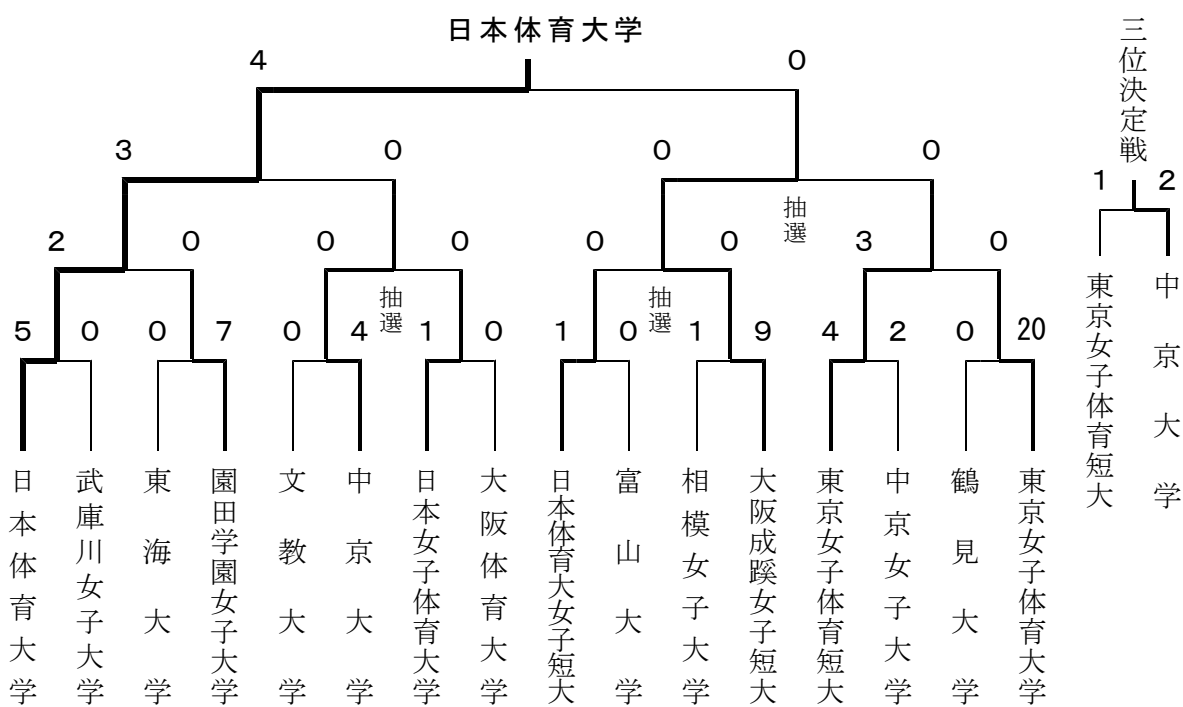


第15回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1980年 8月23日～25日 石川県金沢市

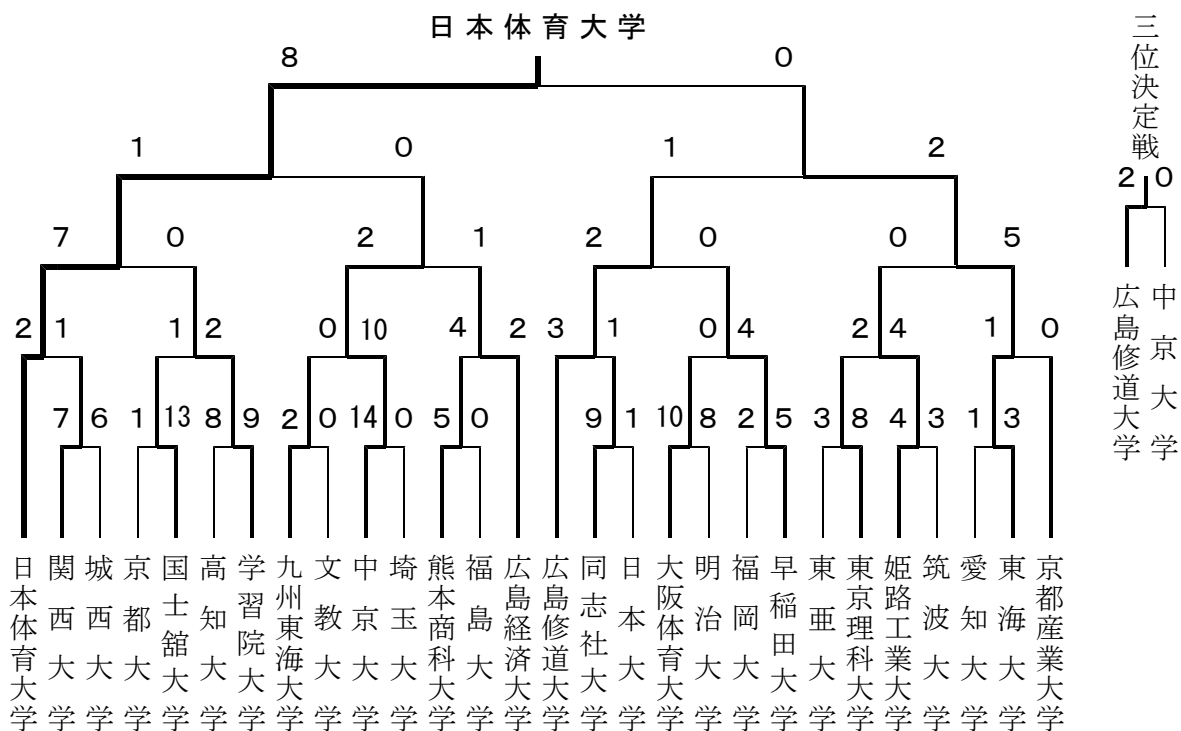


<女子> 1980年 8月23日～25日 石川県金沢市

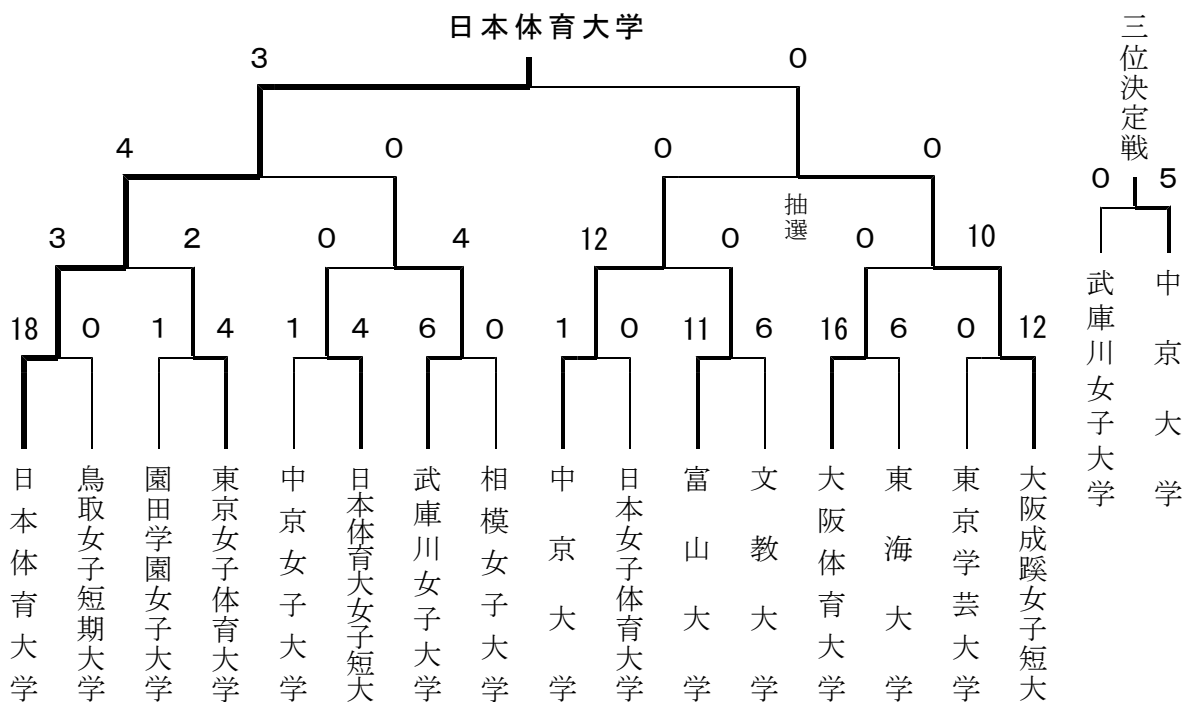


第16回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1981年 8月21日～24日 山口県宇部市

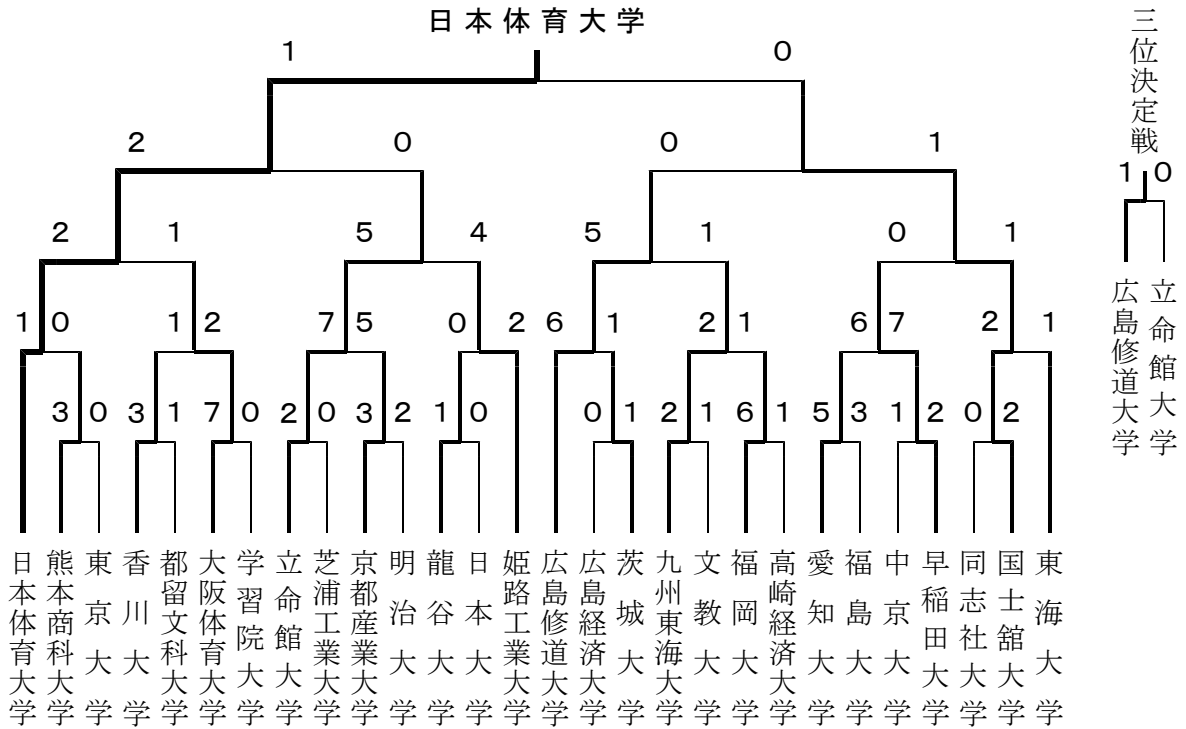


<女子> 1981年 8月21日～24日 山口県宇部市

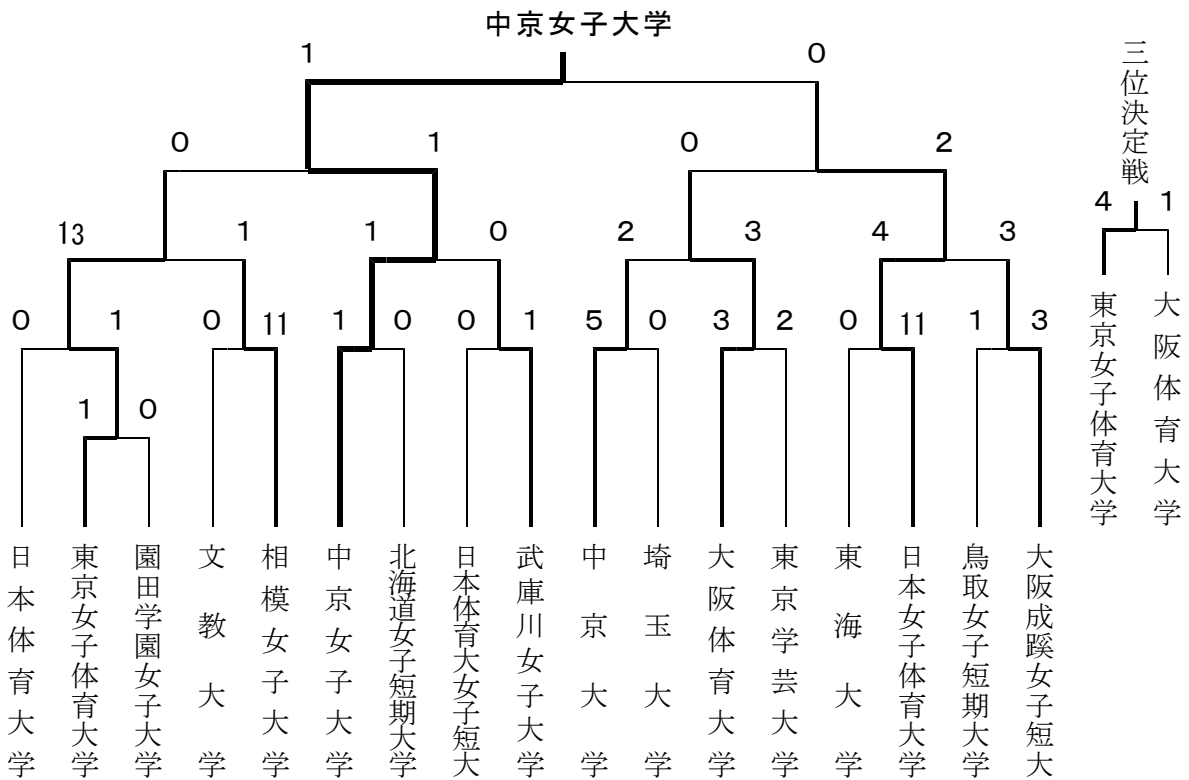


第17回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1982年8月6日～9日 福岡県大牟田市

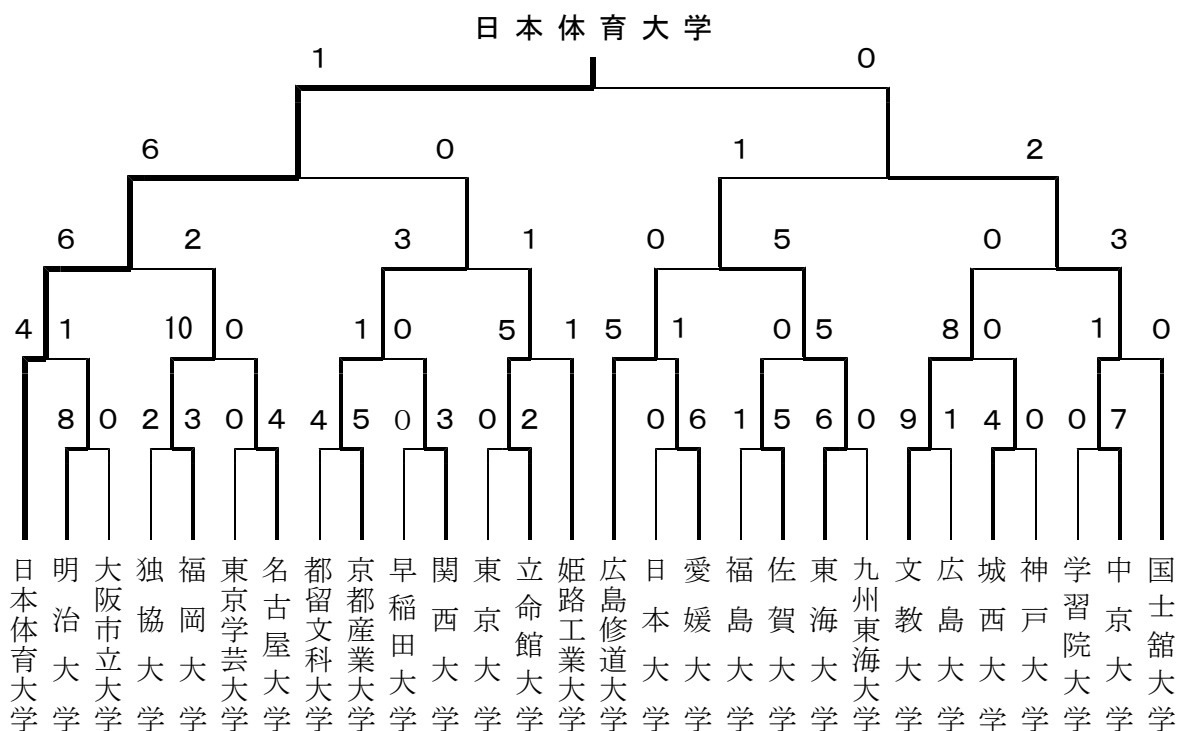


<女子> 1982年8月6日～9日 福岡県大牟田市

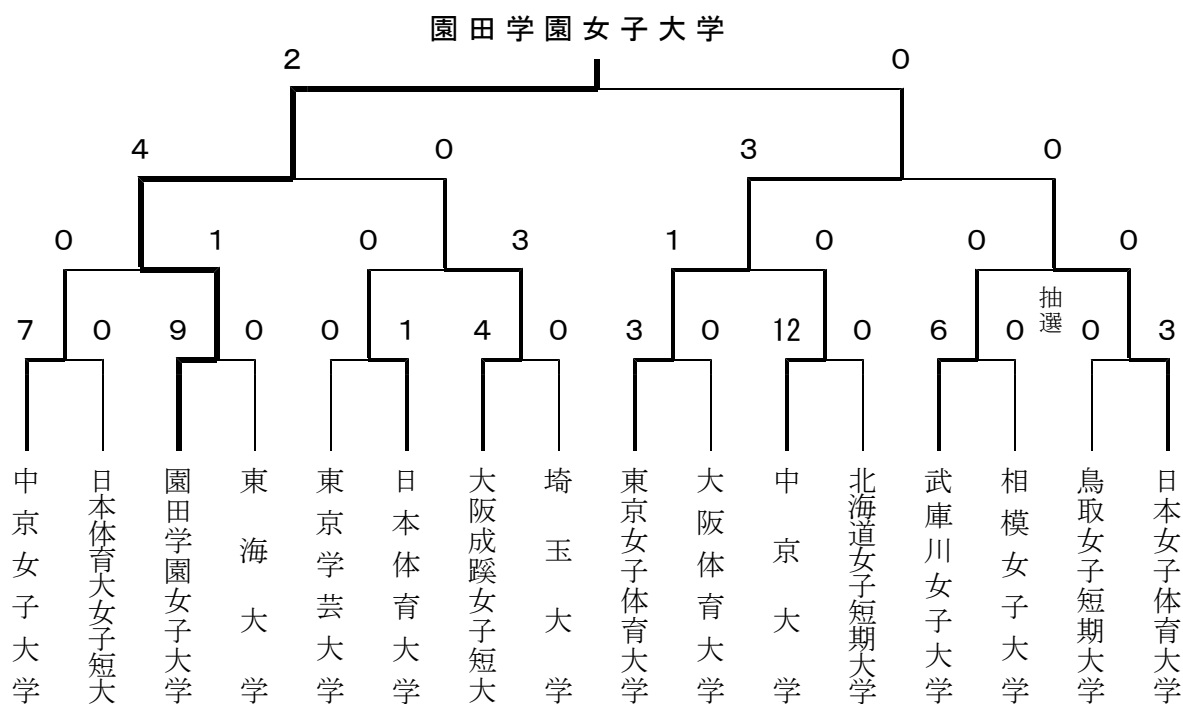


第18回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1983年 8月 9日～12日 東京都昭島市

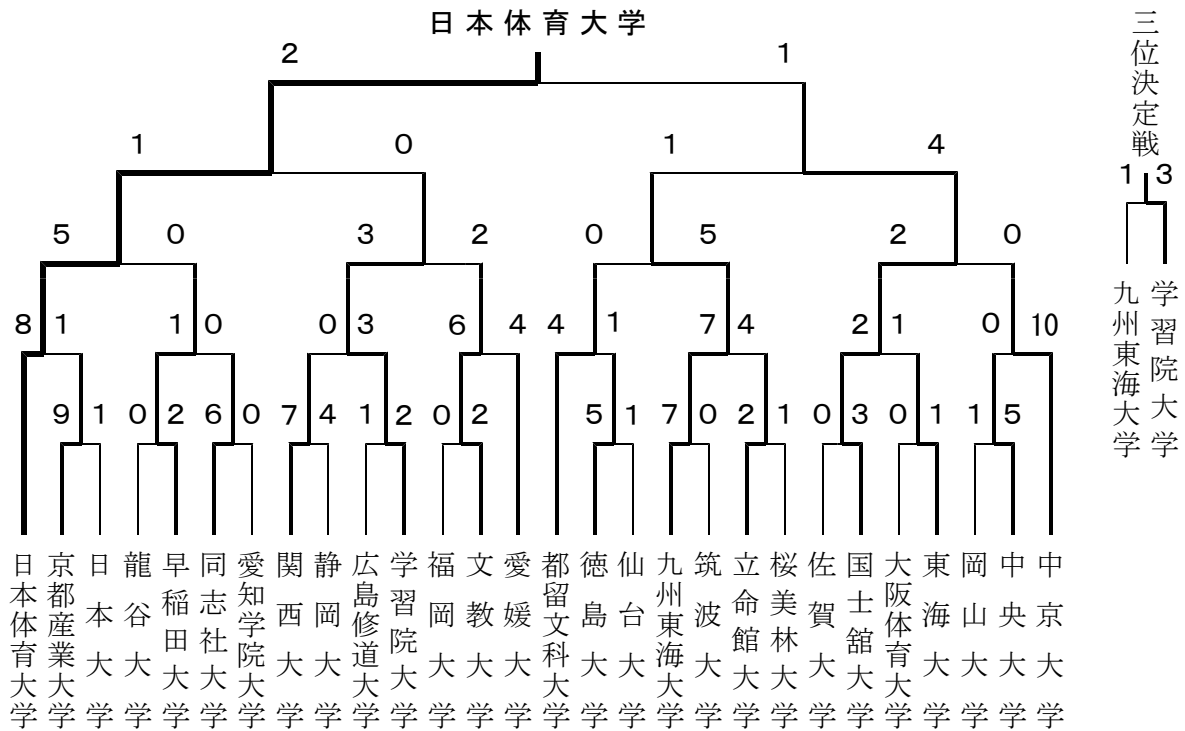


<女子> 1983年 8月 9日～12日 東京都昭島市

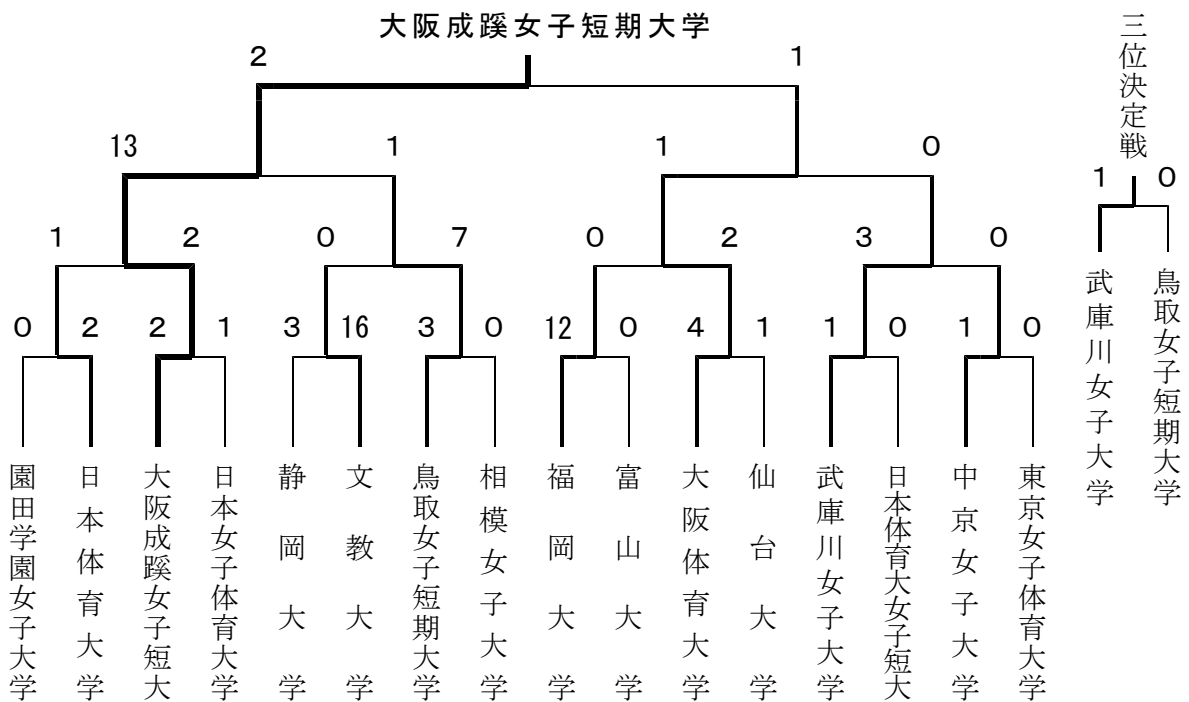


第19回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1984年 8月10日～13日 静岡県浜松市

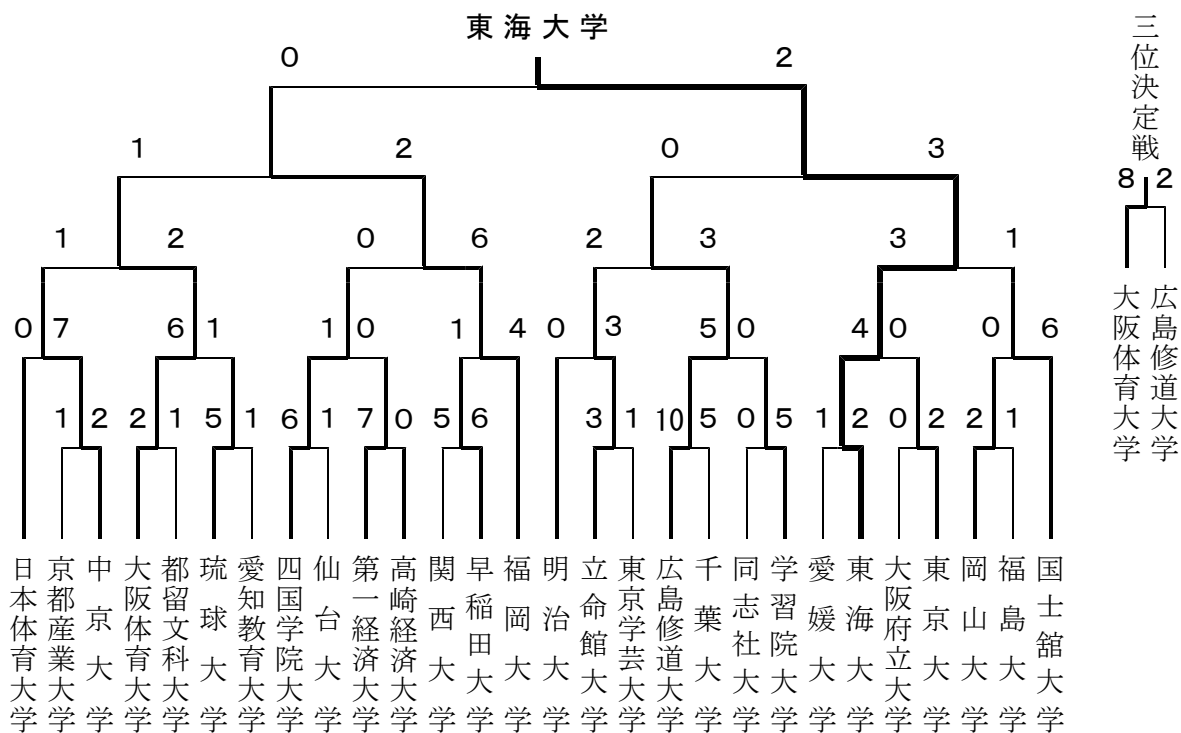


<女子> 1984年 8月10日～13日 静岡県浜松市

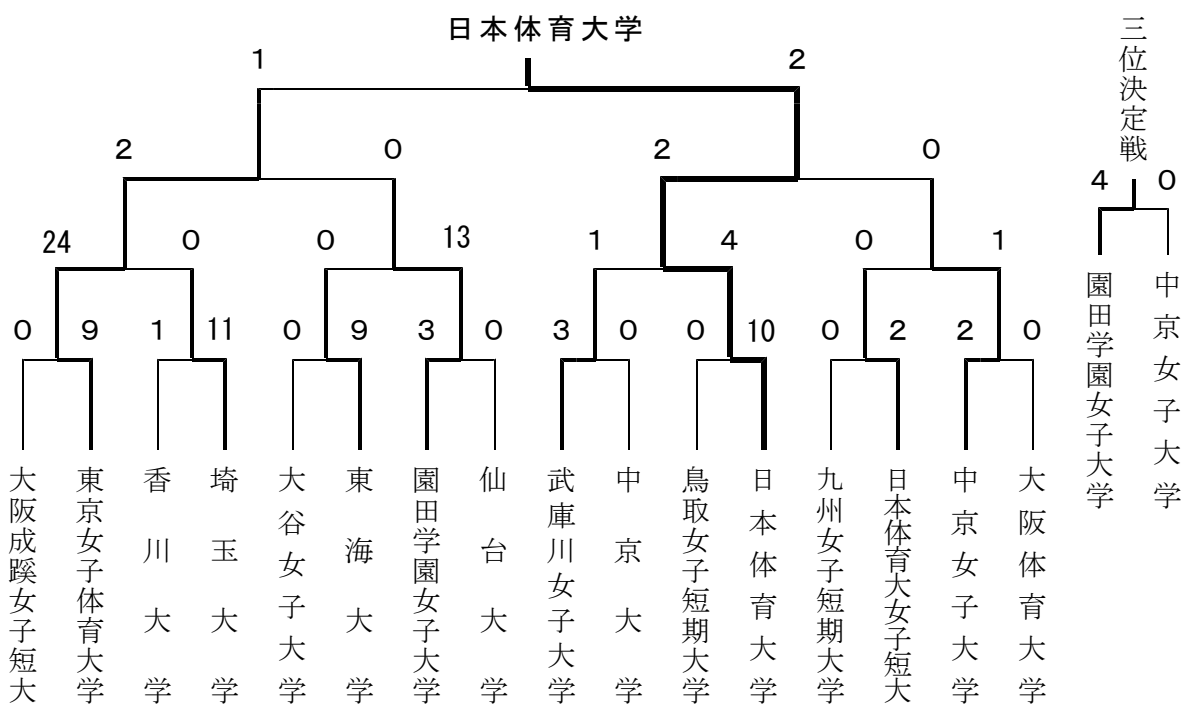


第20回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1985年 8月24日～27日 香川県坂出市

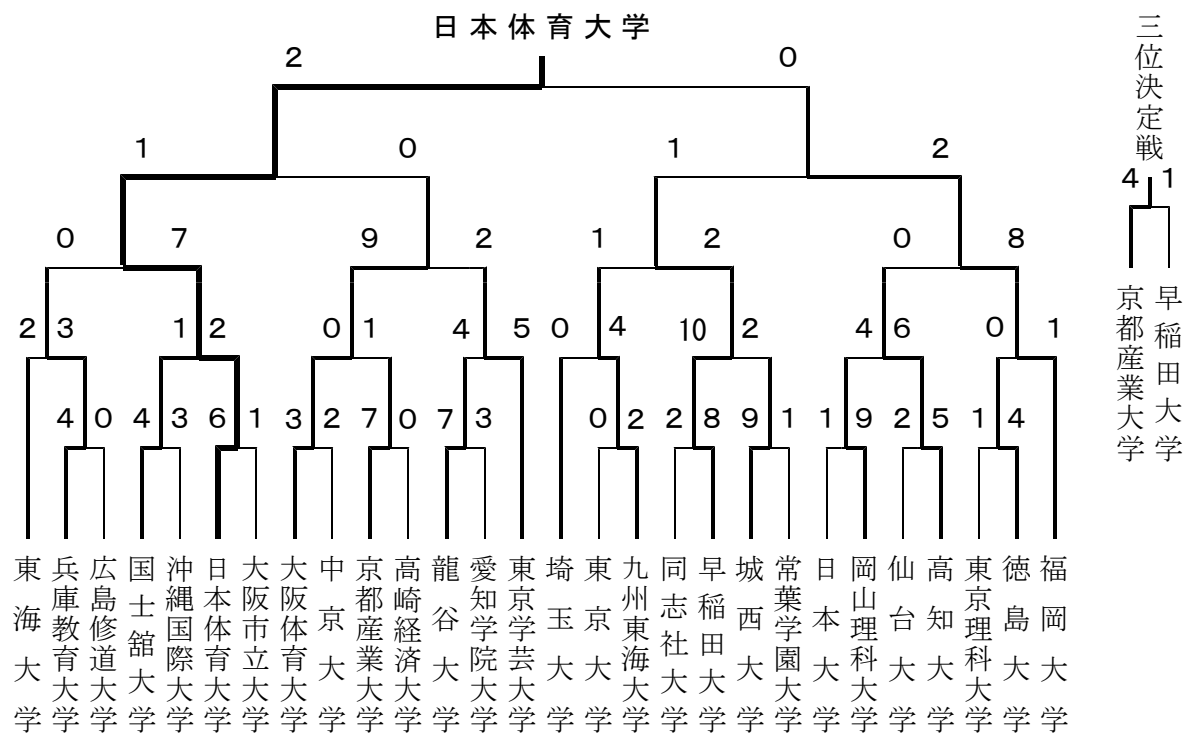


<女子> 1985年 8月24日～27日 香川県坂出市

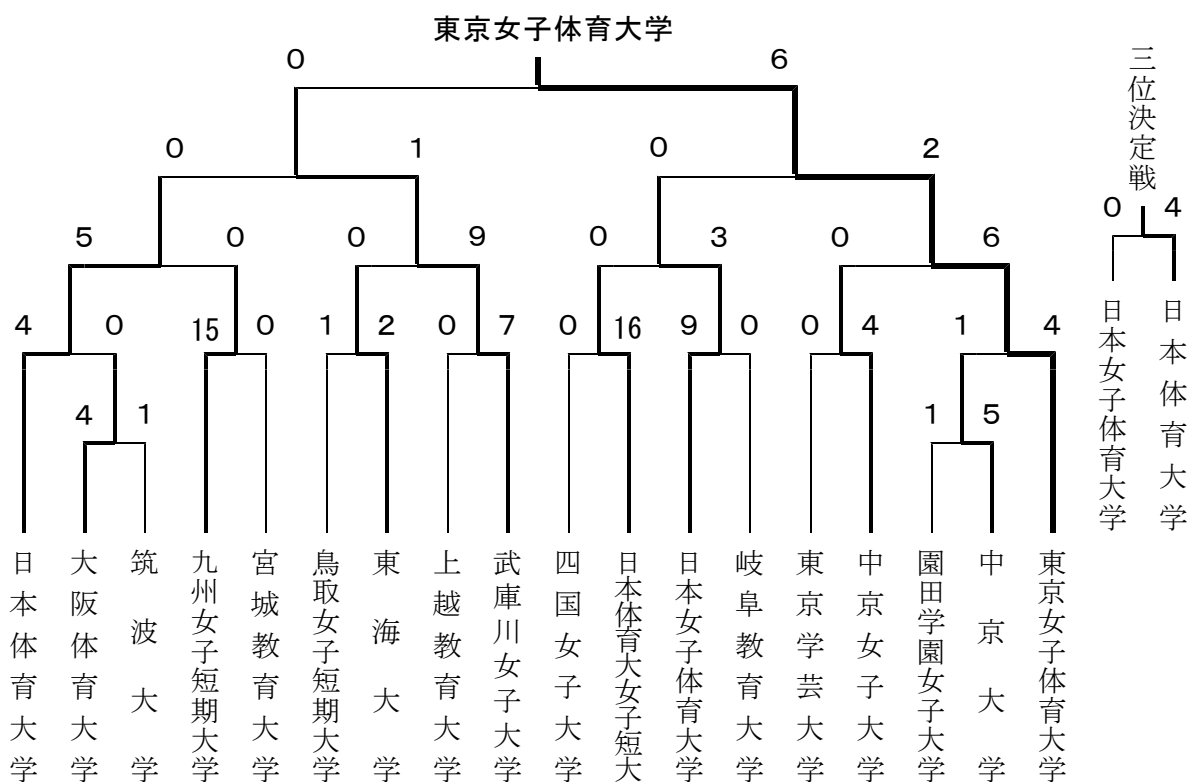


第21回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1986年8月8日～11日 岐阜県下呂町・金山町・萩原町

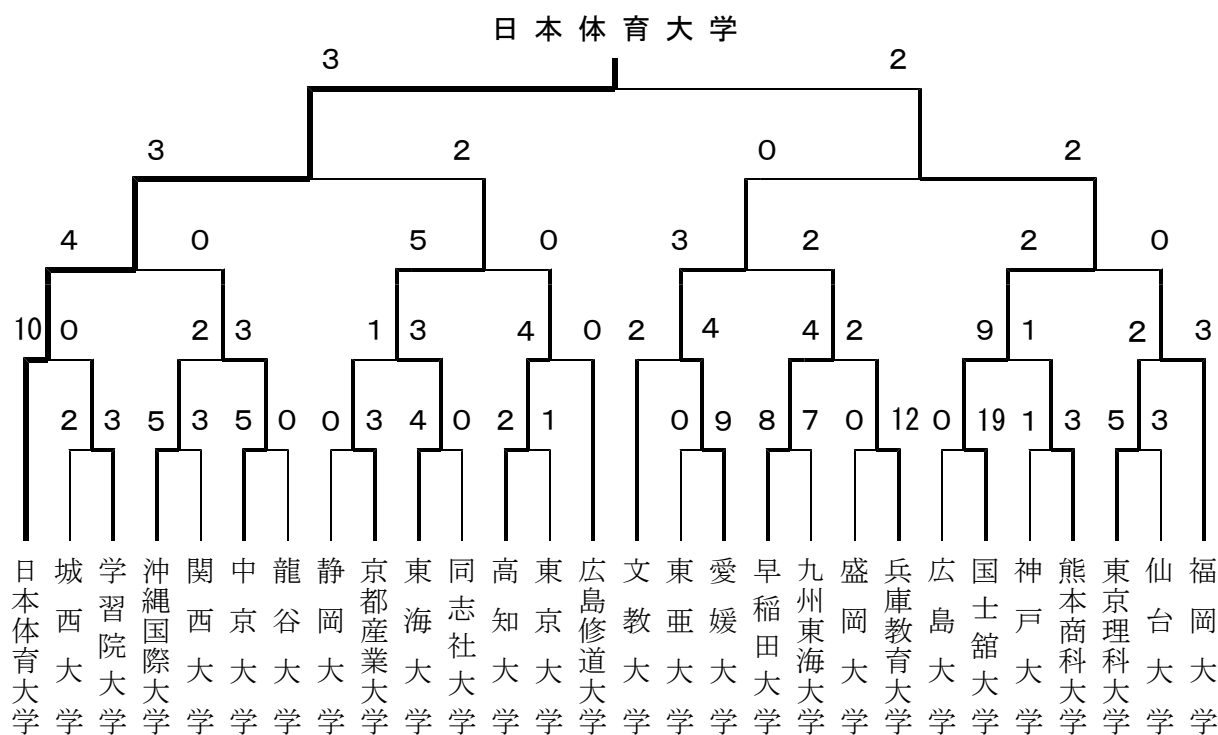


<女子> 1986年8月8日～11日 岐阜県下呂町・小坂町

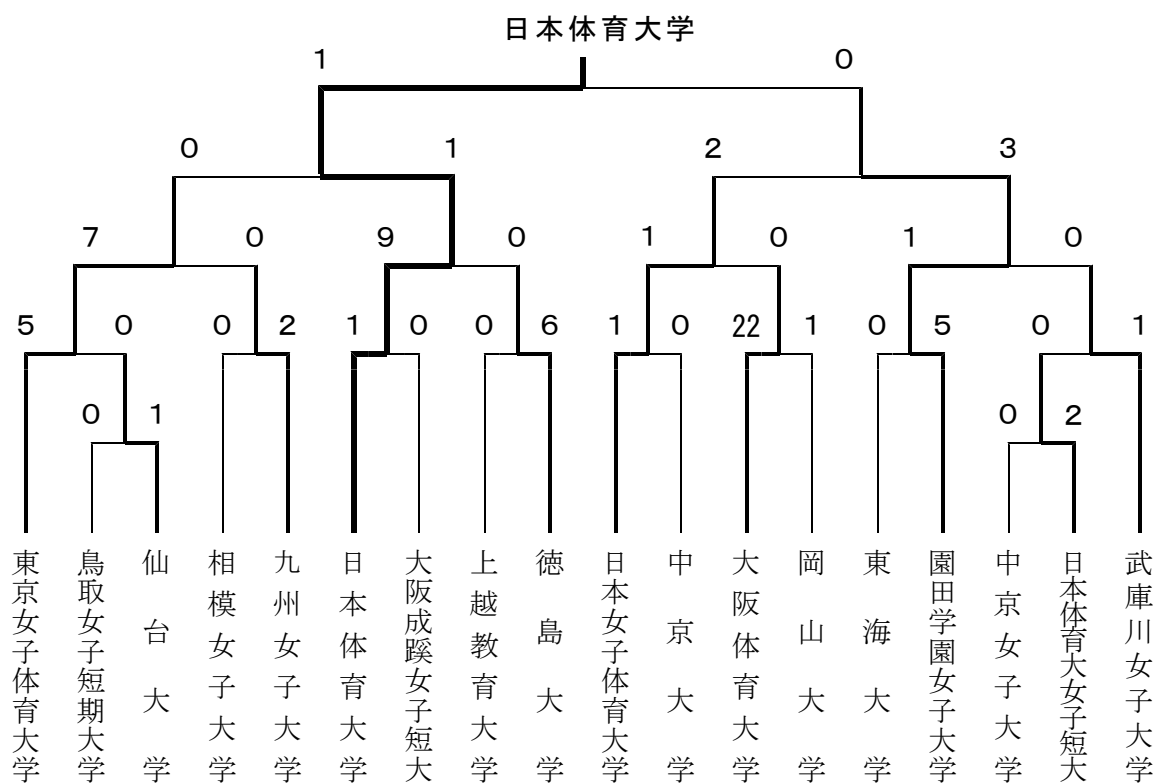


第22回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1987年 8月15日～17日 山口県宇部市

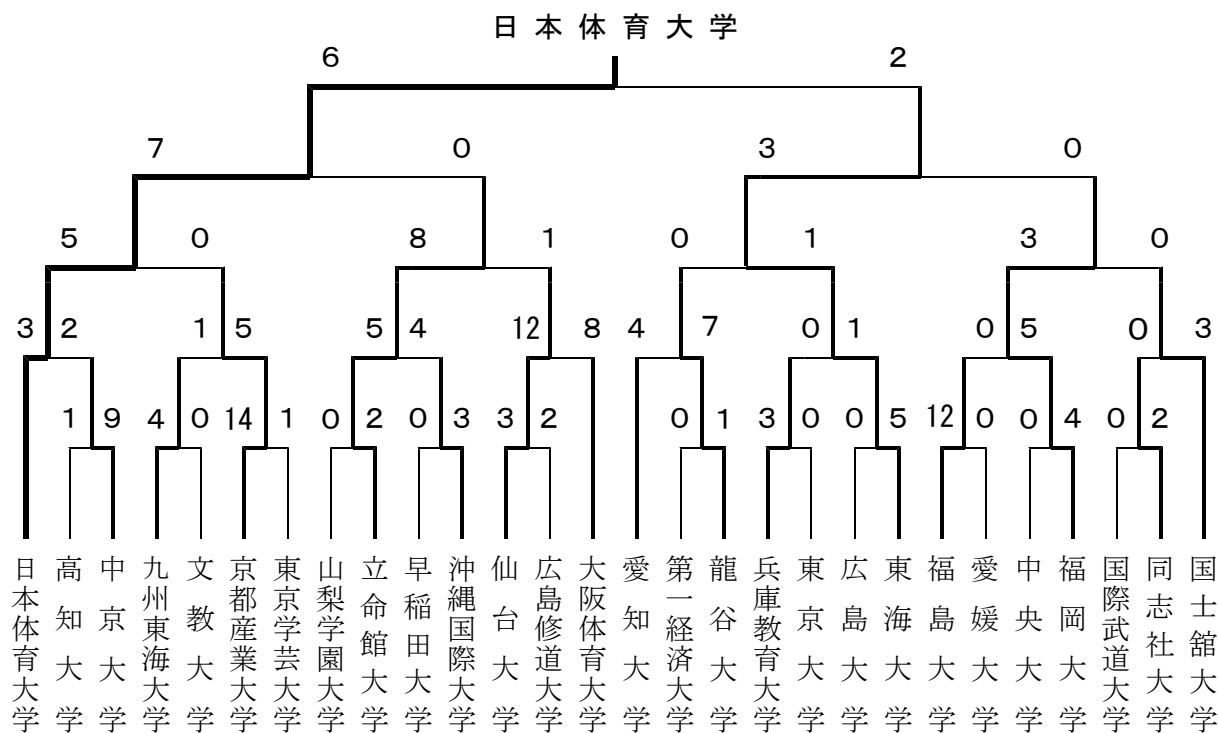


<女子> 1987年 8月15日～17日 山口県宇部市

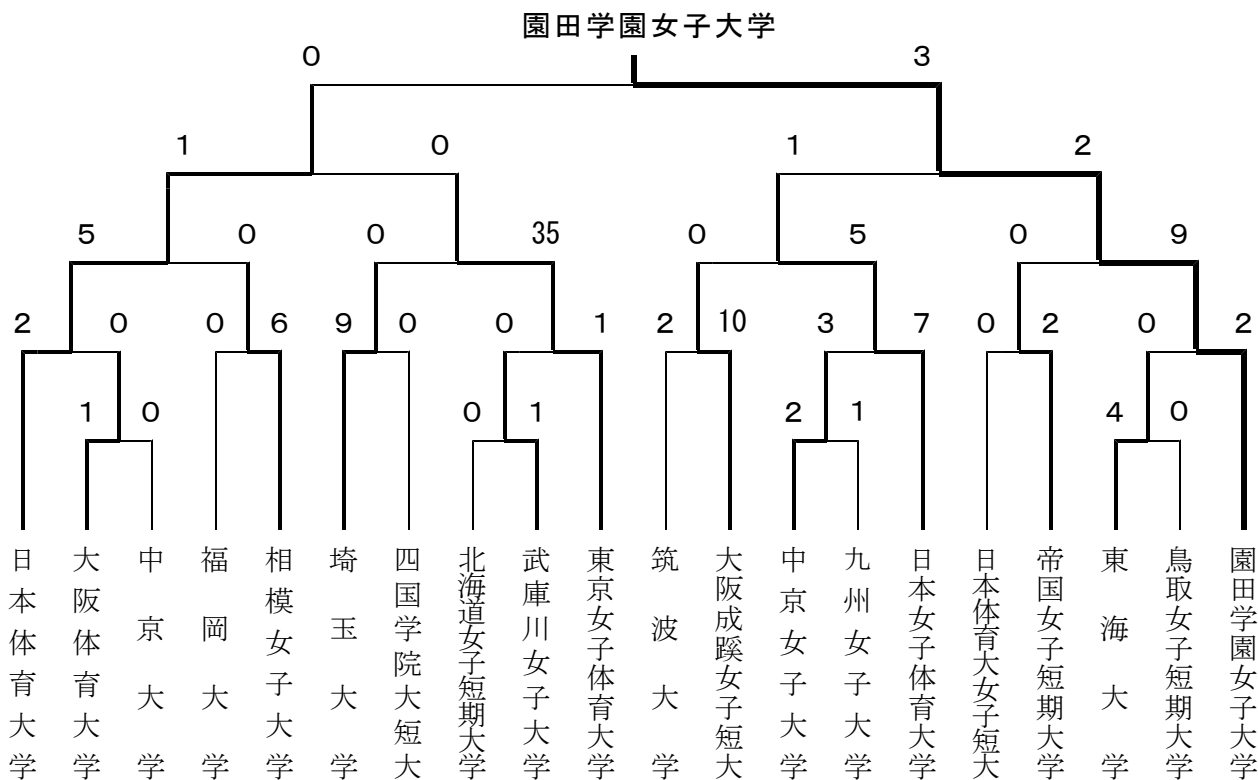


第23回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1988年8月19日～22日 福岡県大川市

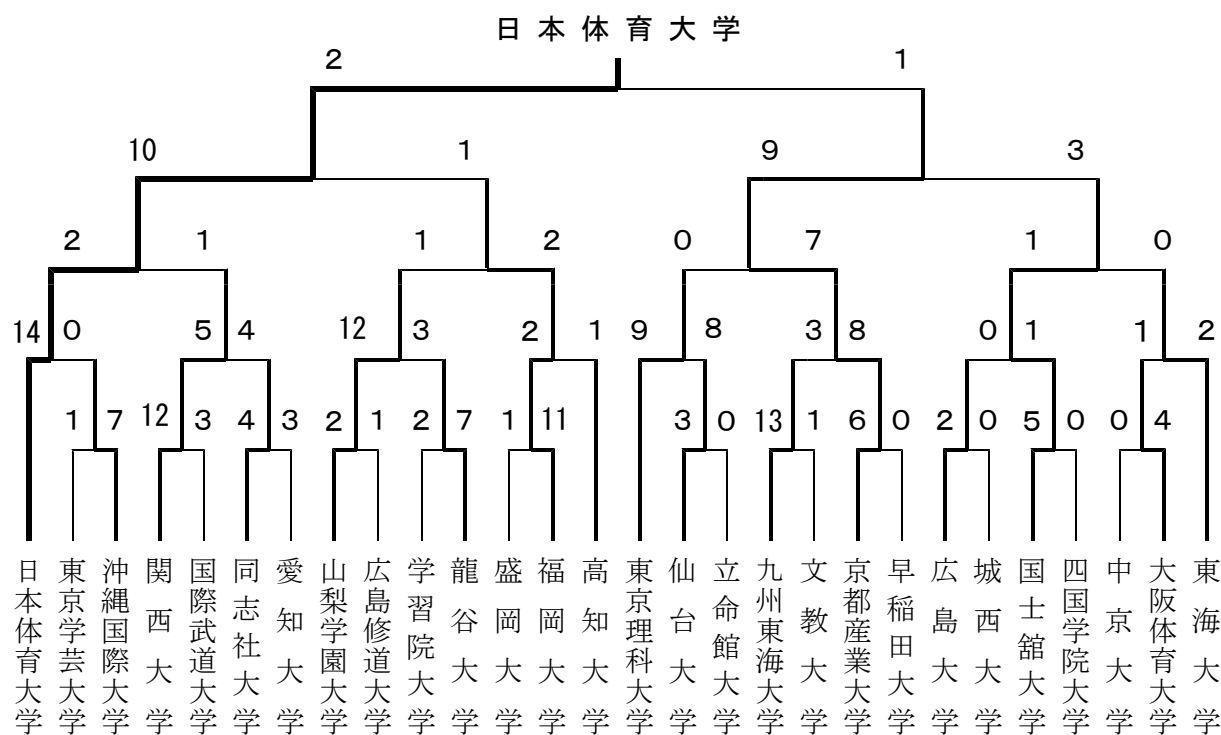


<女子> 1988年8月19日～22日 福岡県大川市

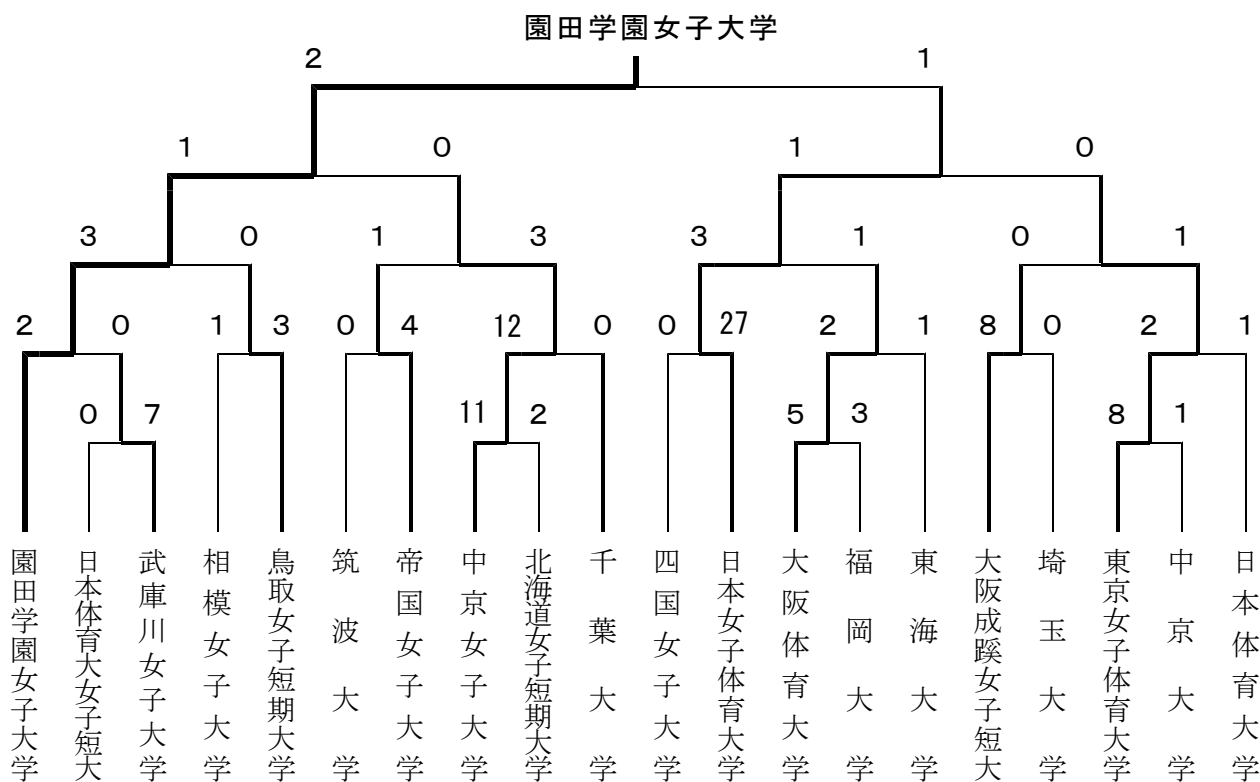


第24回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1989年 8月26日～28日 千葉県千葉市

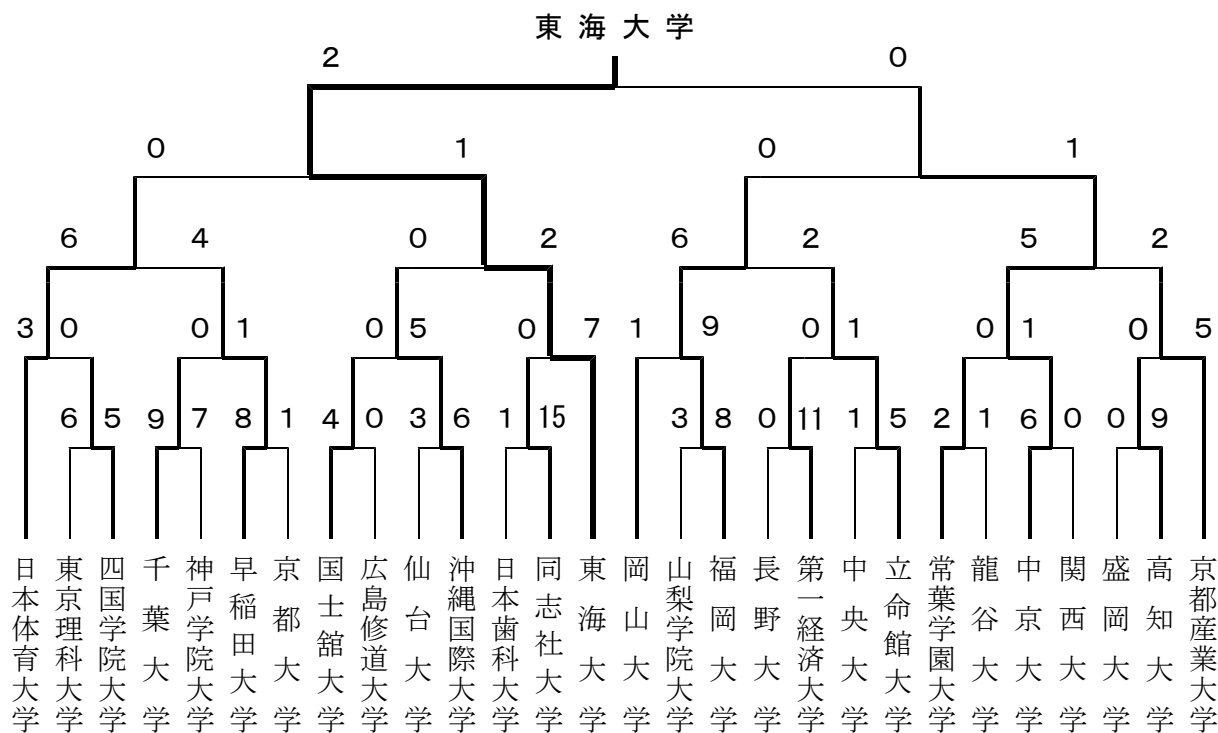


<女子> 1989年 8月26日～29日 千葉県千葉市

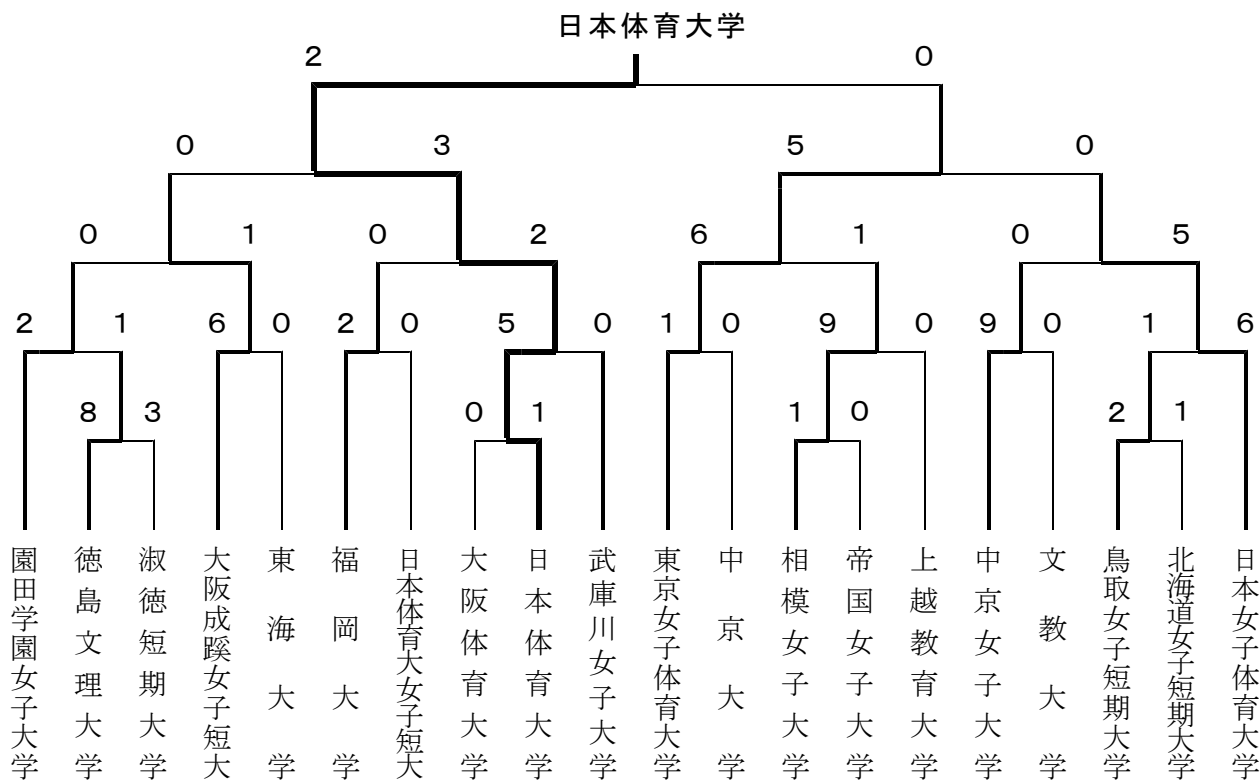


第25回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1990年8月17日～20日 石川県野々市町

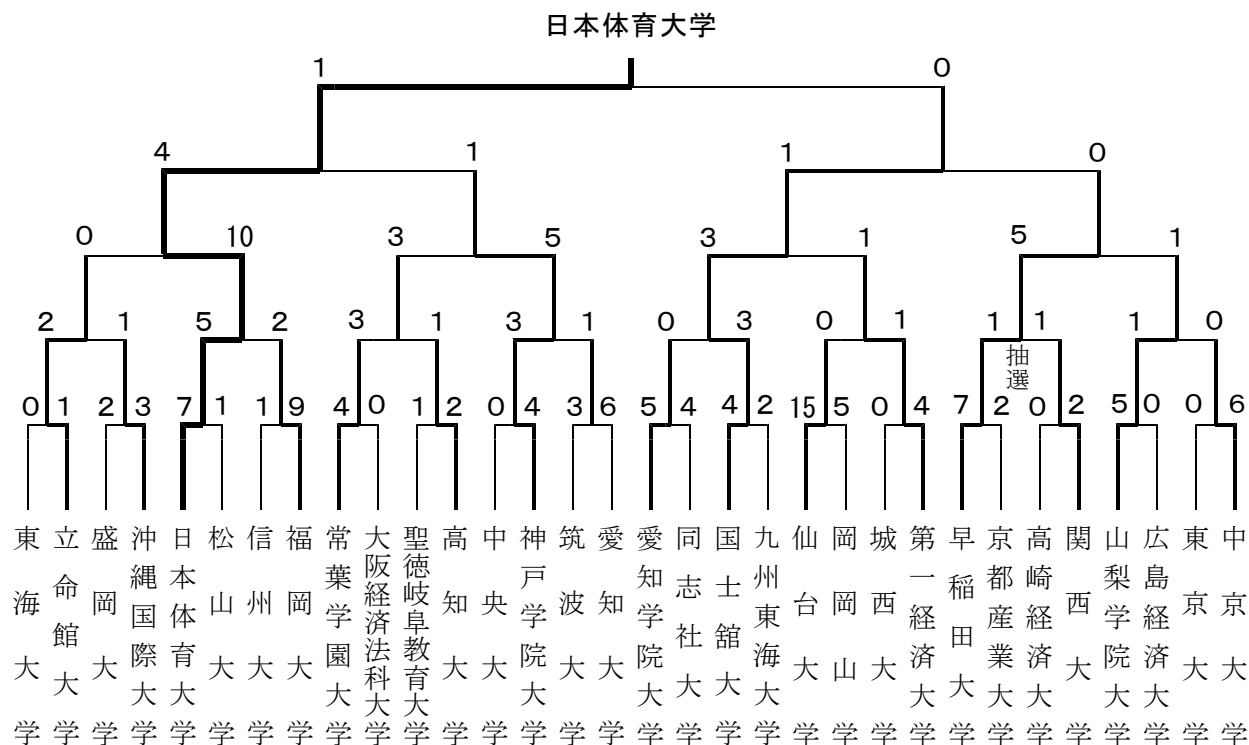


<女子> 1990年8月17日～20日 石川県金沢市

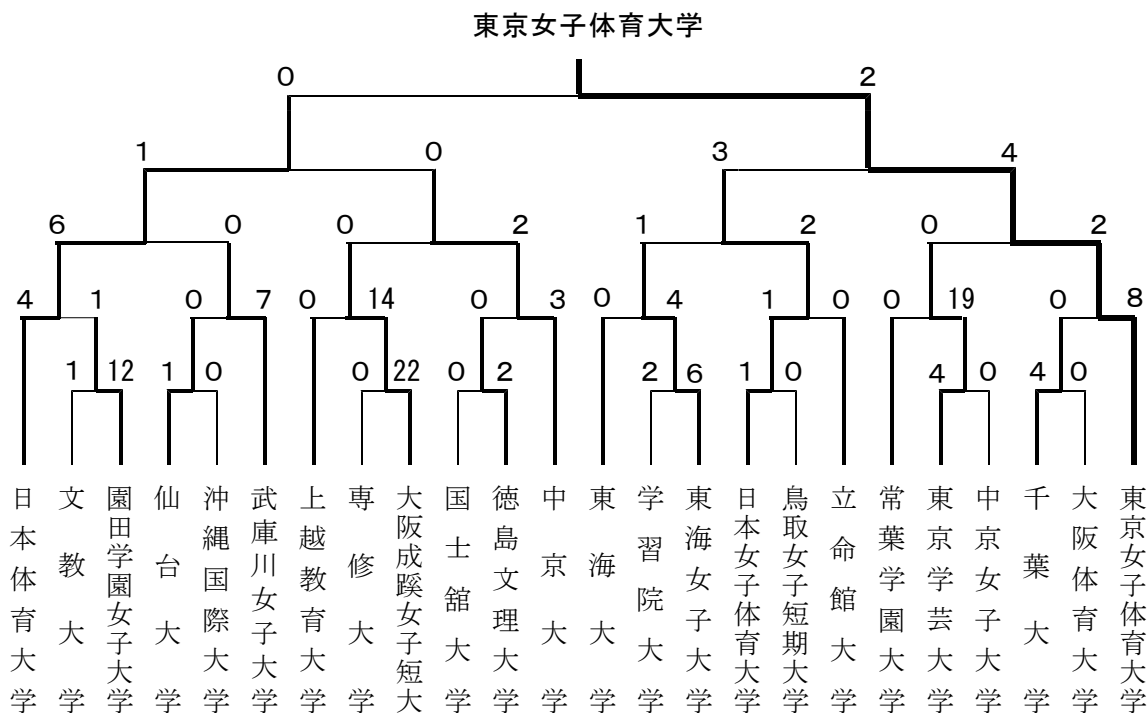


第26回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1991年8月9日～12日 愛知県豊田市

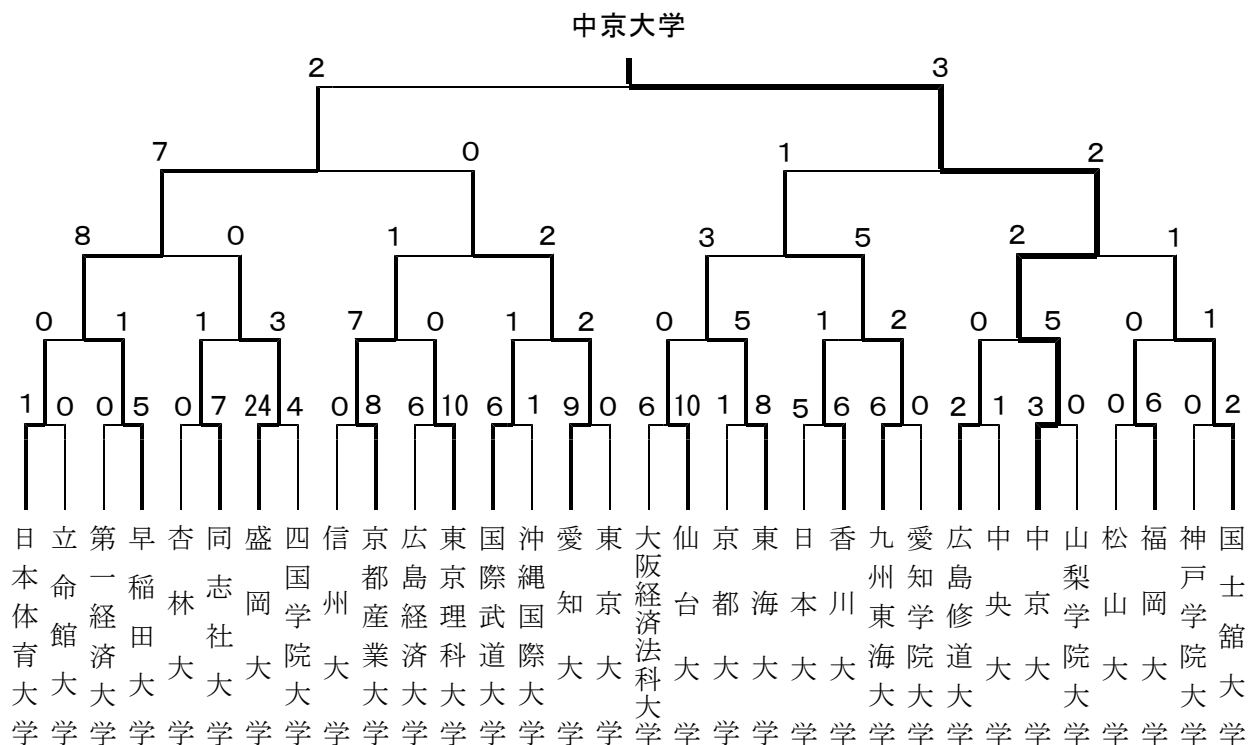


<女子> 1991年8月9日～12日 愛知県豊田市

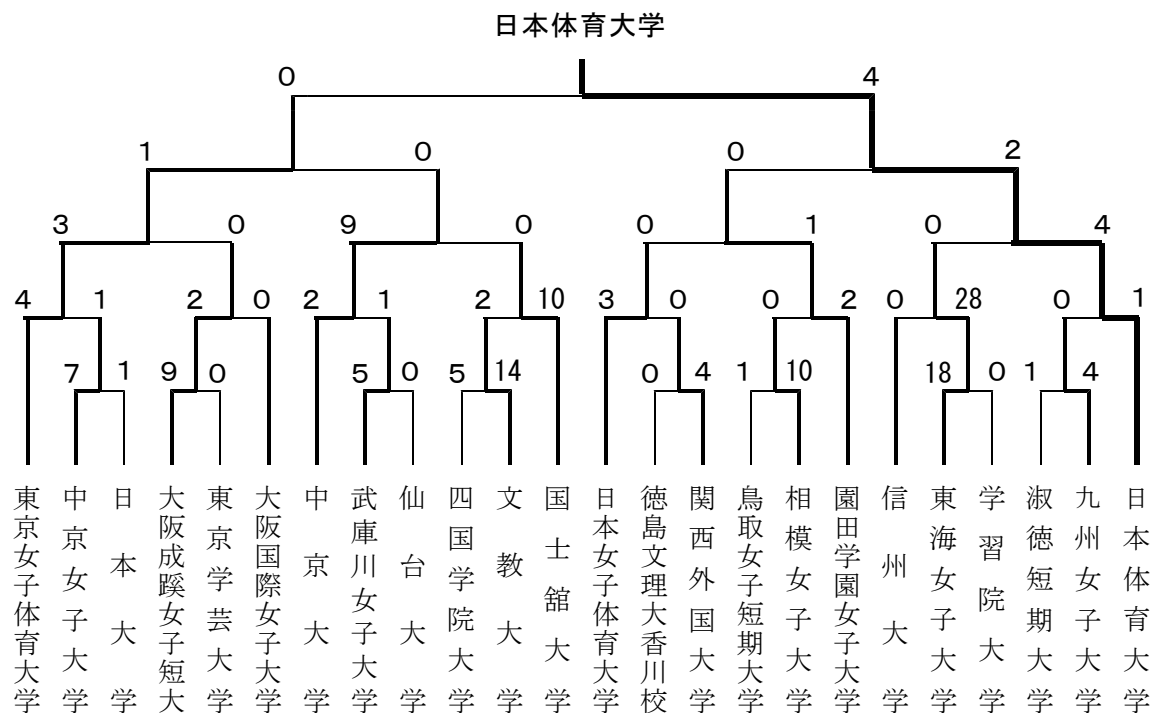


第27回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1992年8月7日～10日 香川県観音寺市・大野原町・豊浜町

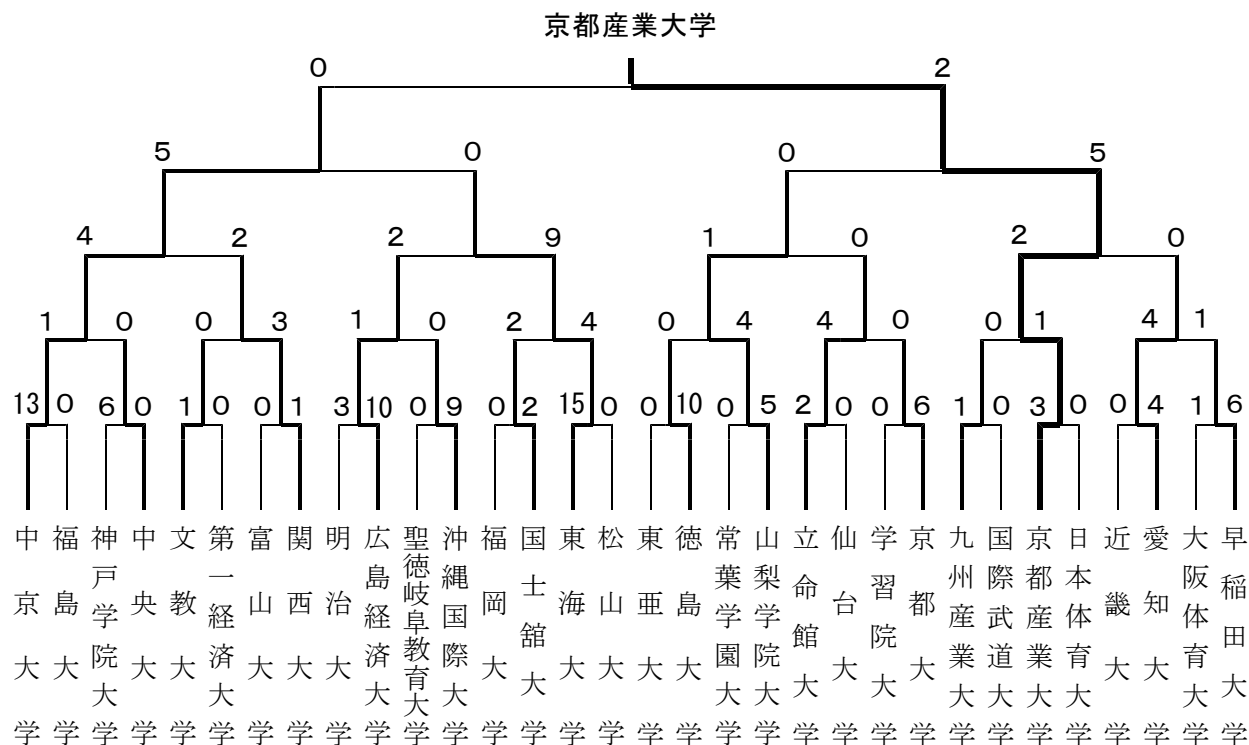


<女子> 1992年8月7日～10日 香川県坂出市・国分寺町

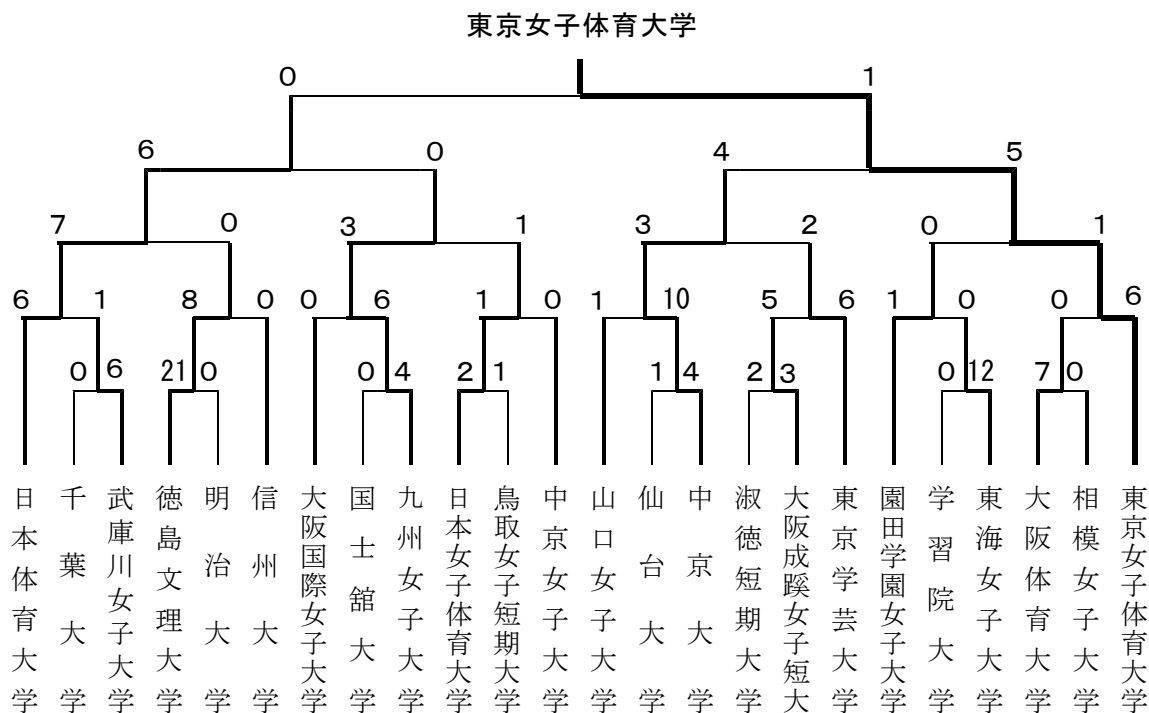


第28回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1993年8月7日～8月9日 山口県宇部市

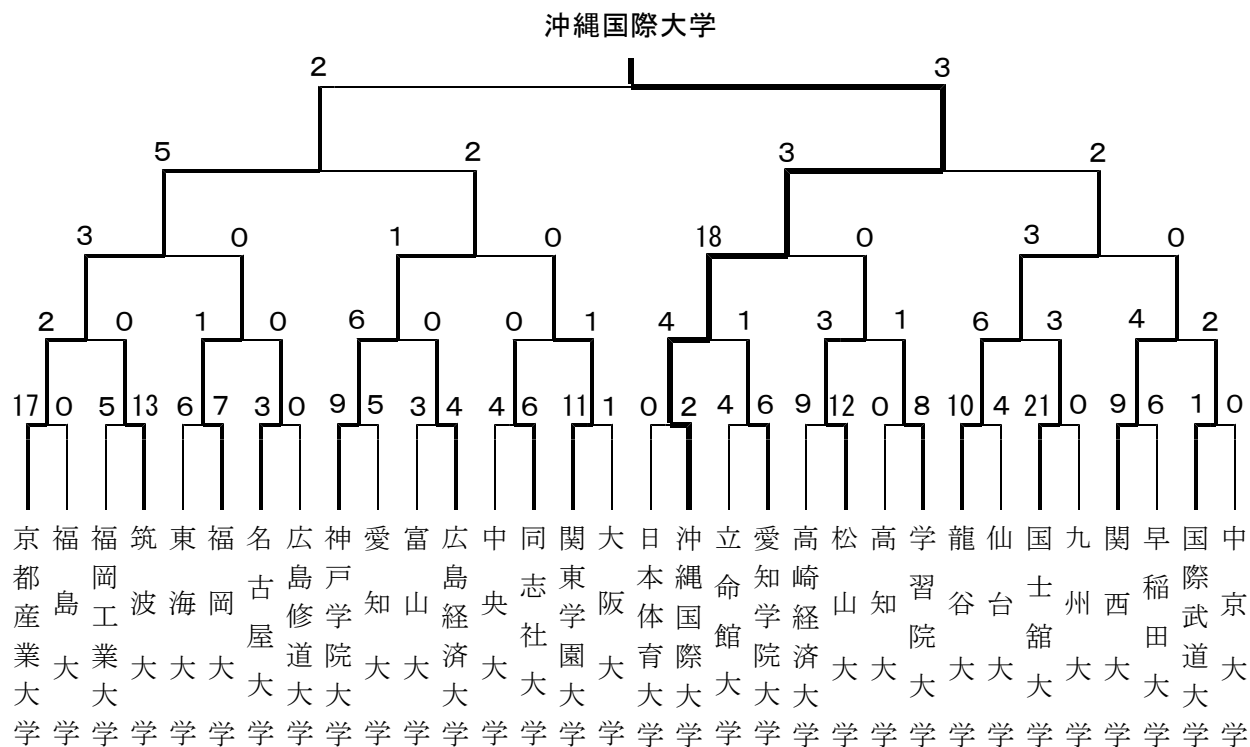


<女子> 1993年8月7日～8月9日 山口県宇部市

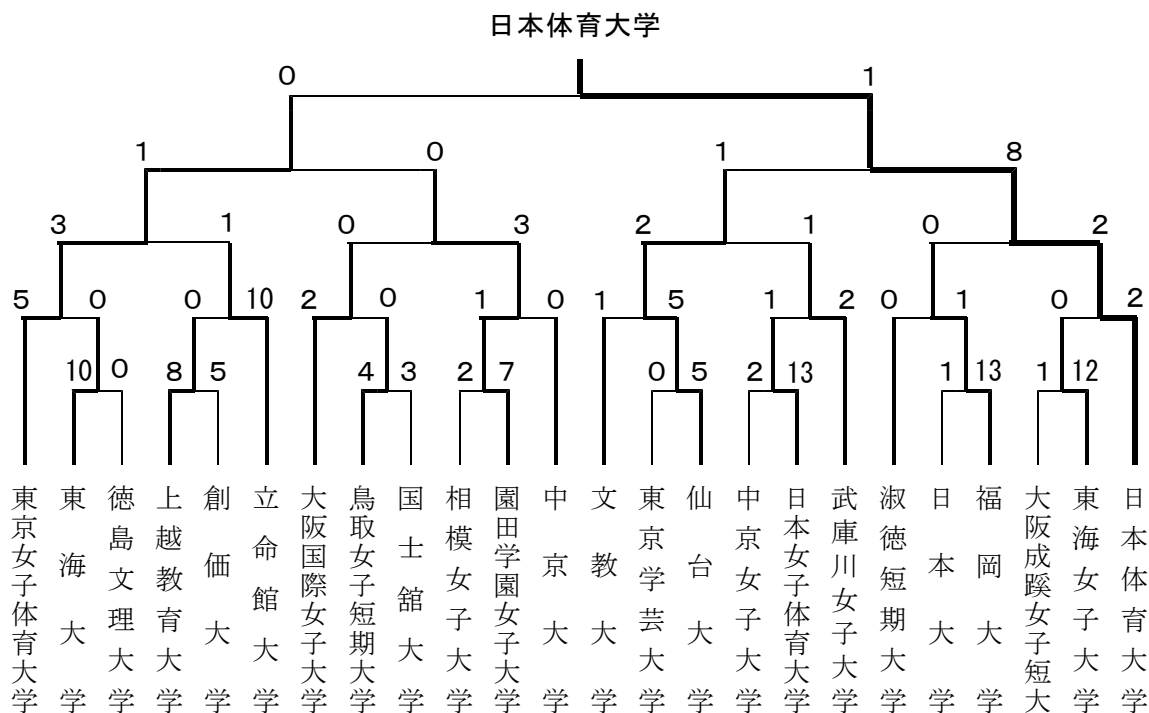


第29回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1994年8月19日～8月21日 群馬県前橋市

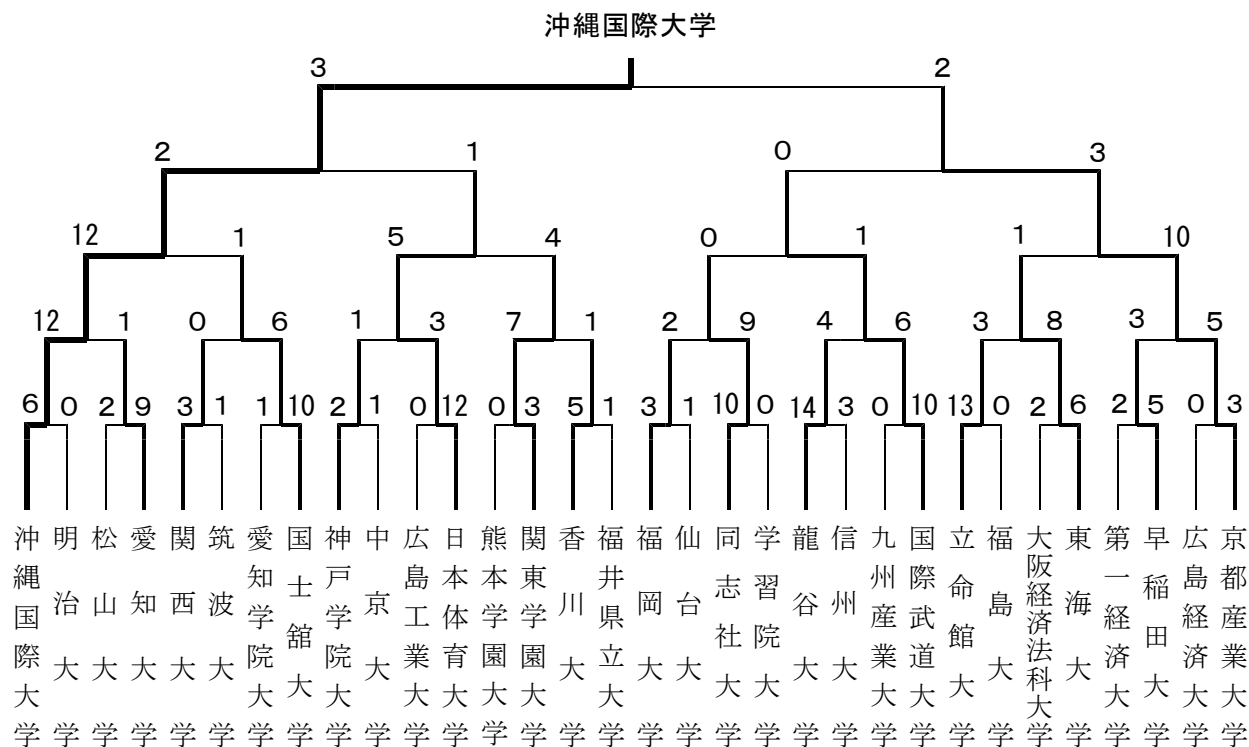


<女子> 1994年8月19日～8月21日 神奈川県相模原市

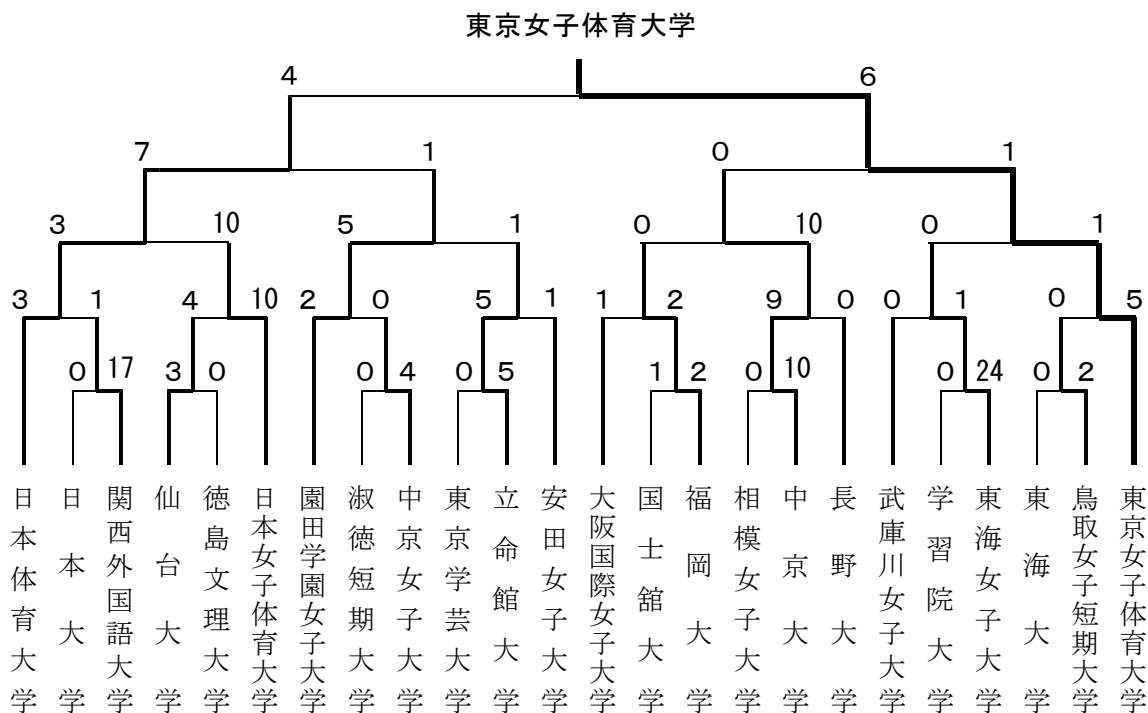


第30回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1995年8月11日～8月13日 福井県福井市

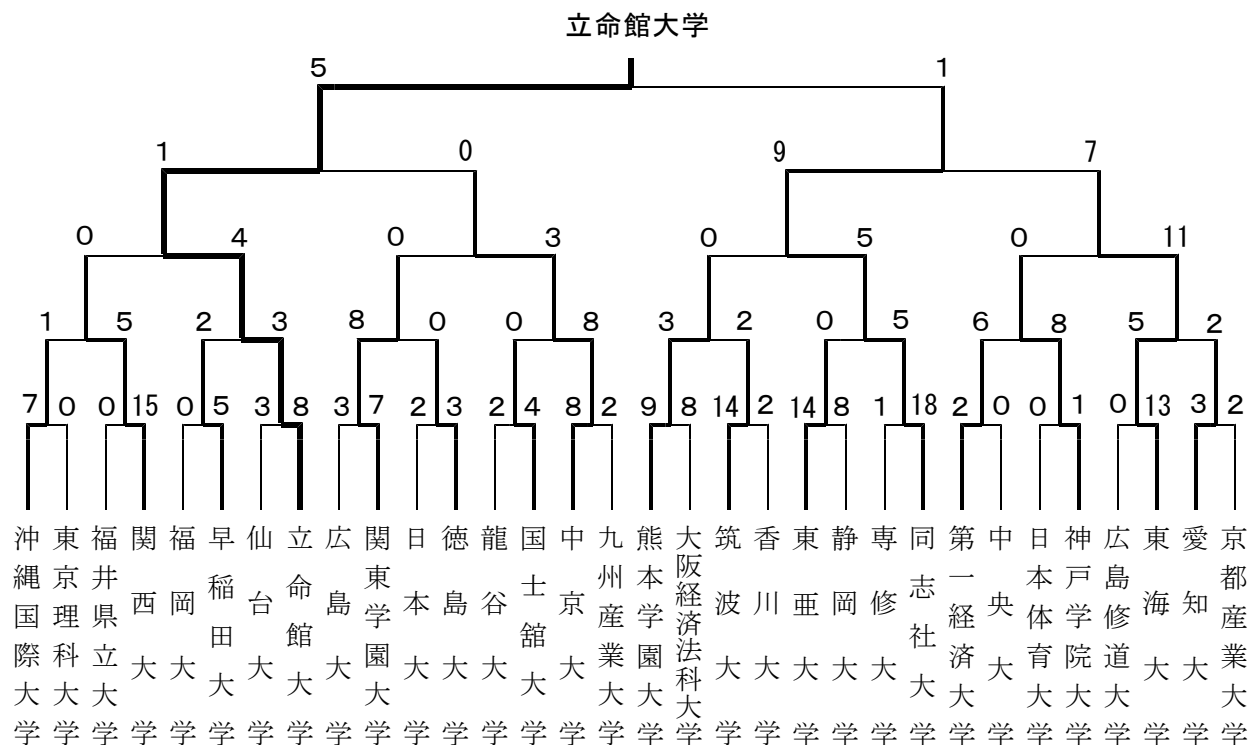


<女子> 1995年8月11日～8月13日 広島県御調町

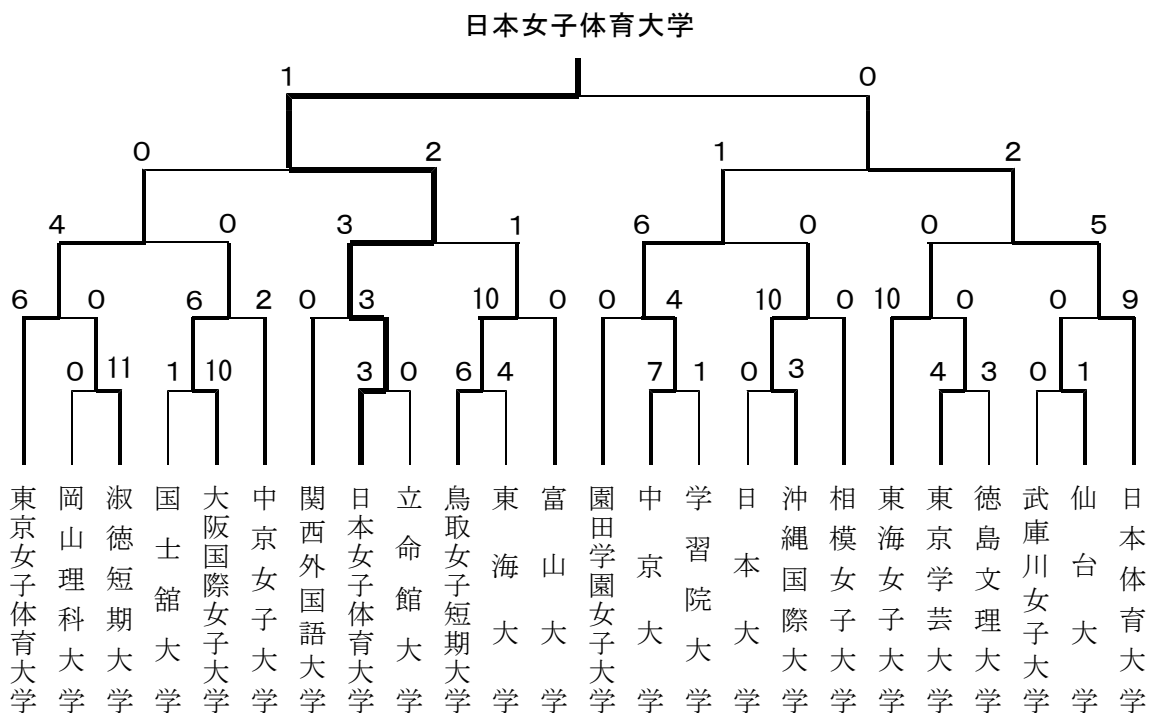


文部大臣杯 第31回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1996年8月8日～8月11日 山口県宇部市

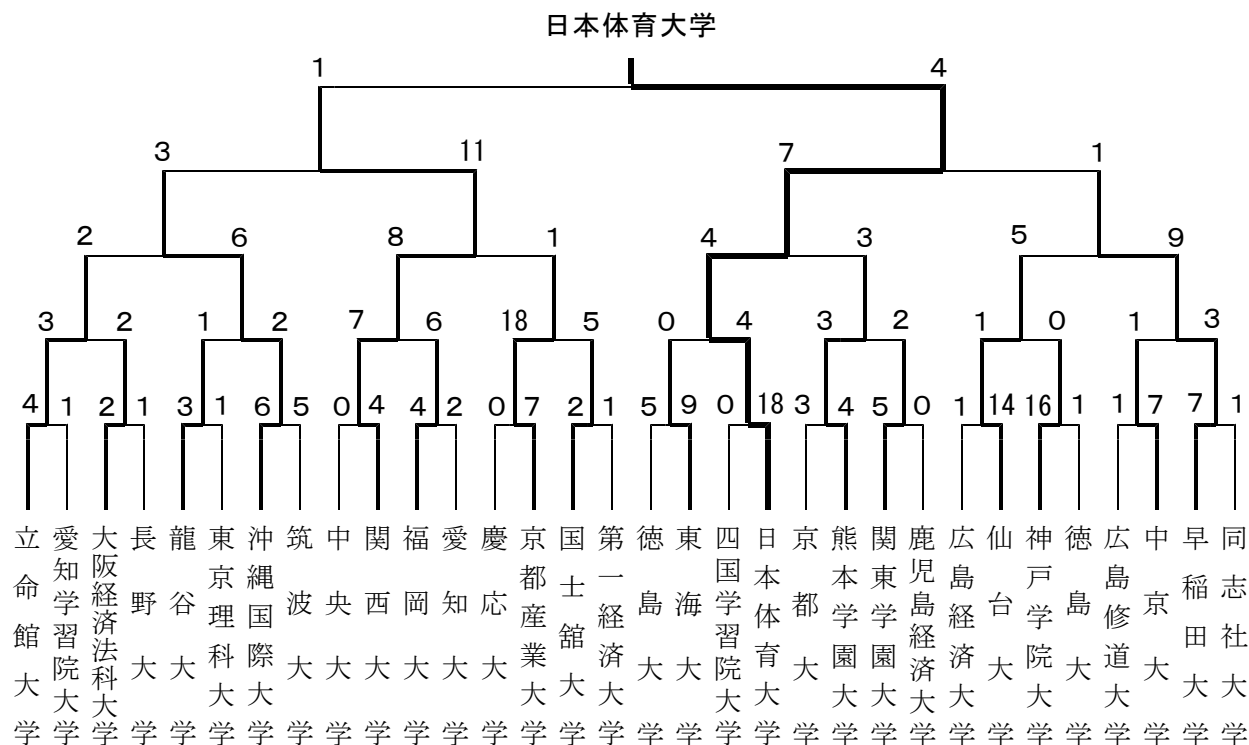


<女子> 1996年8月8日～8月11日 山口県宇部市

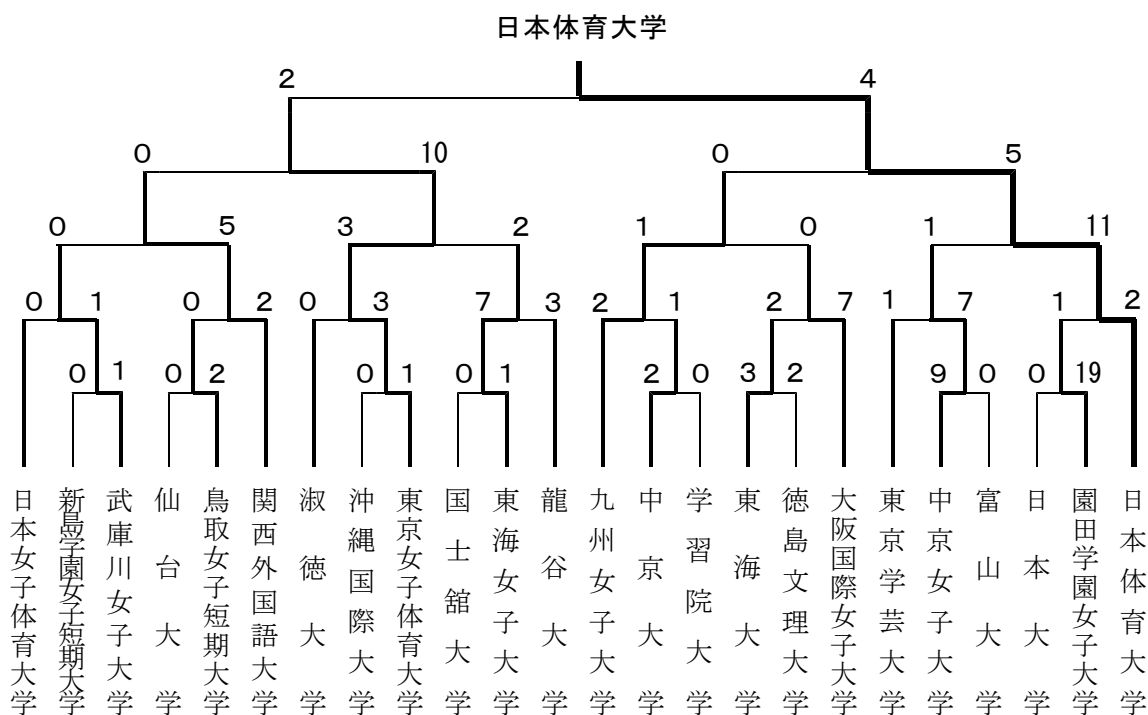


文部大臣杯 第32回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1997年8月8日～8月10日 鹿児島県桜島町

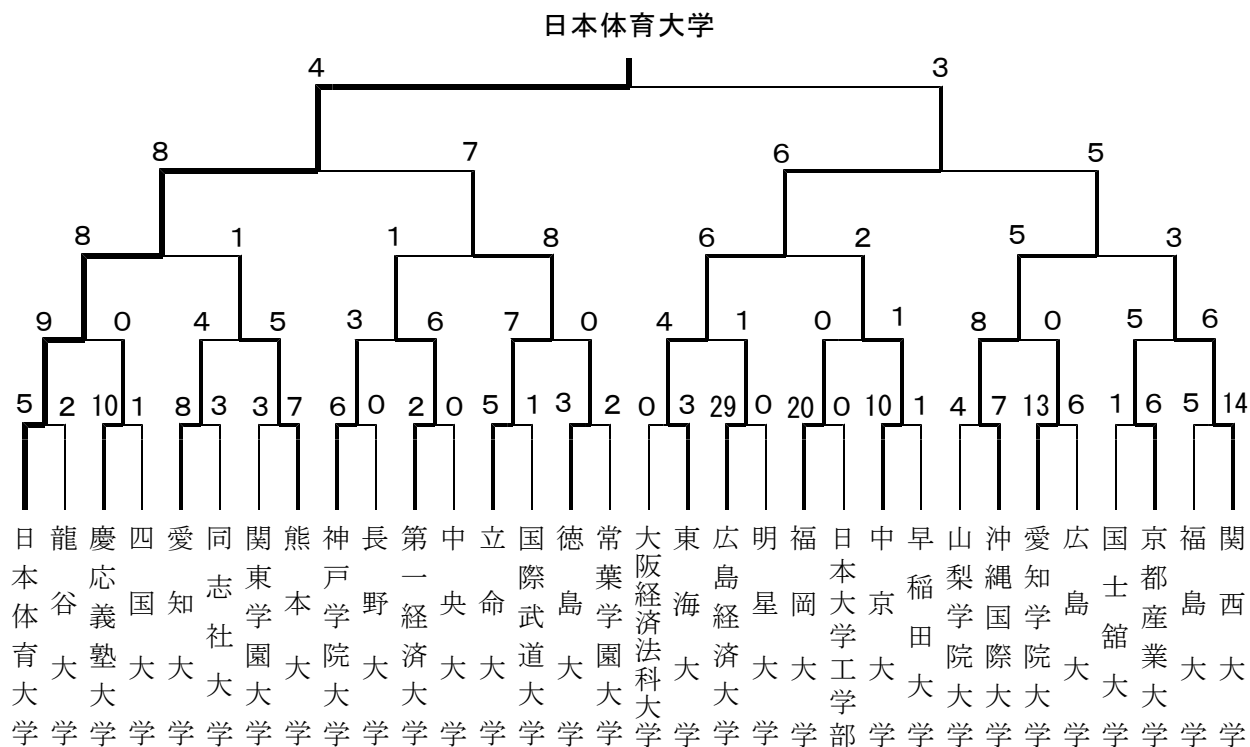


<女子> 1997年8月8日～8月10日 鹿児島県桜島町

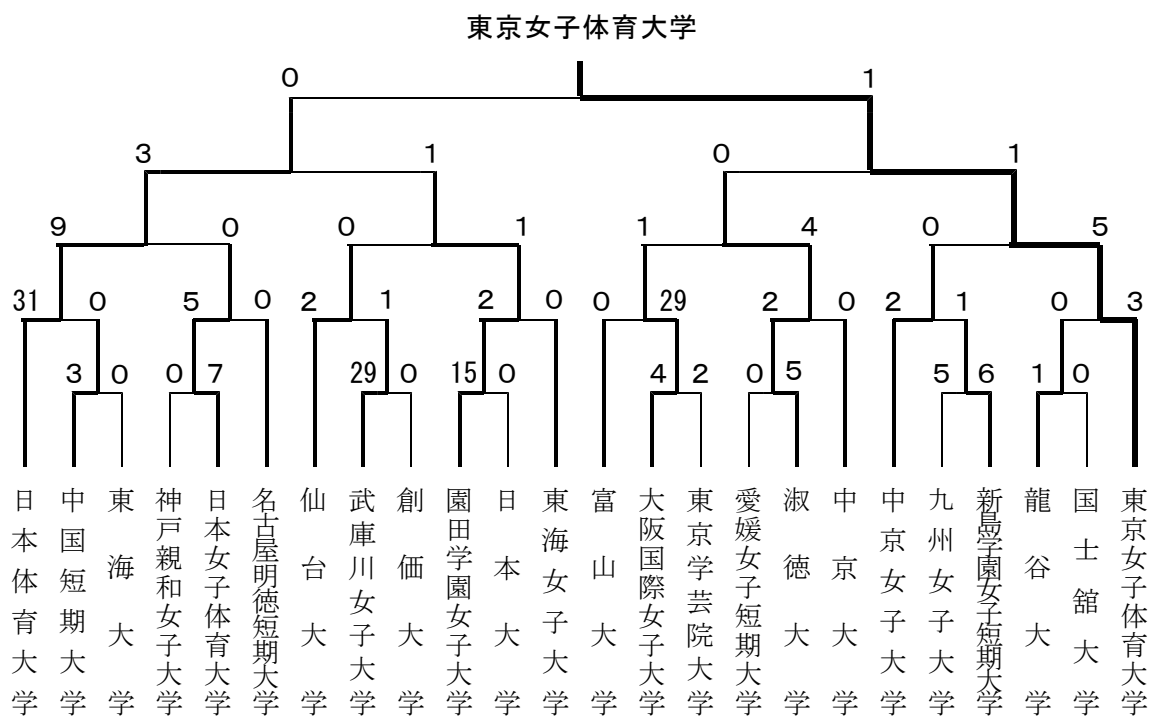


文部大臣杯 第33回 全日本大学ソフトボール選手権大会

＜男子＞ 1998年8月7日～8月9日 三重県伊勢市・二見町

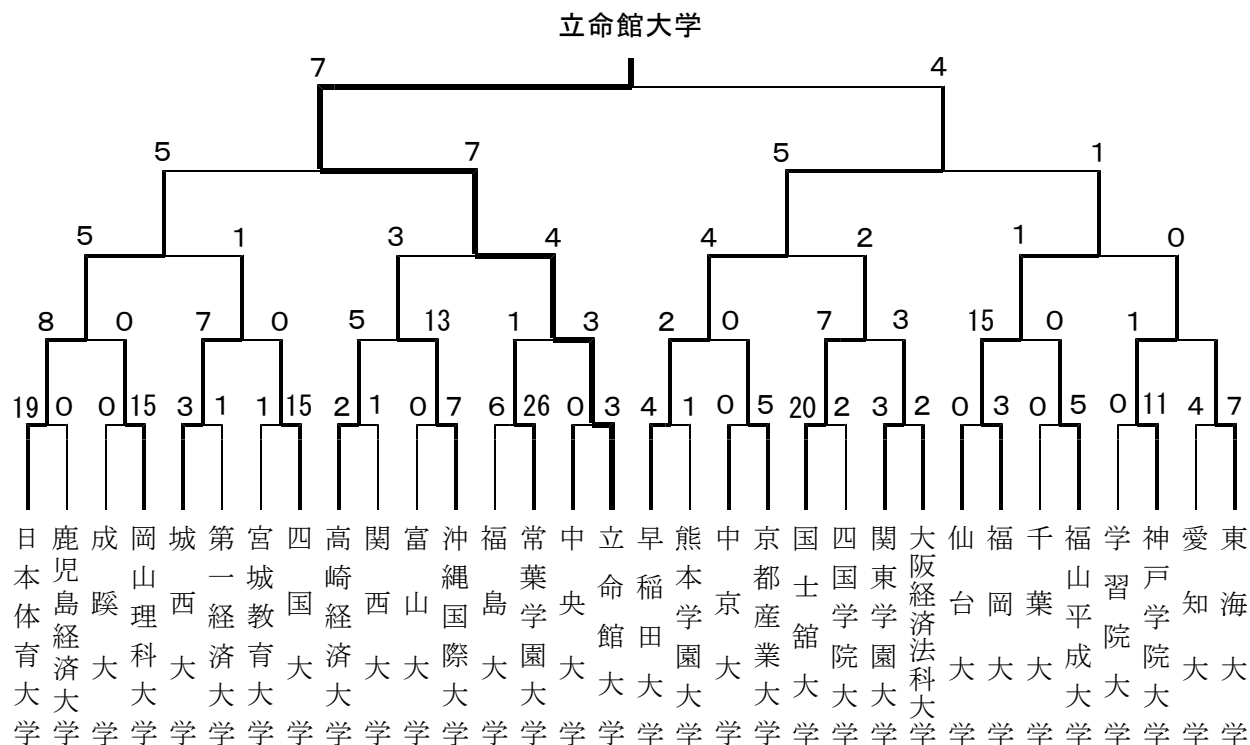


＜女子＞ 1998年8月7日～8月9日 三重県磯部町

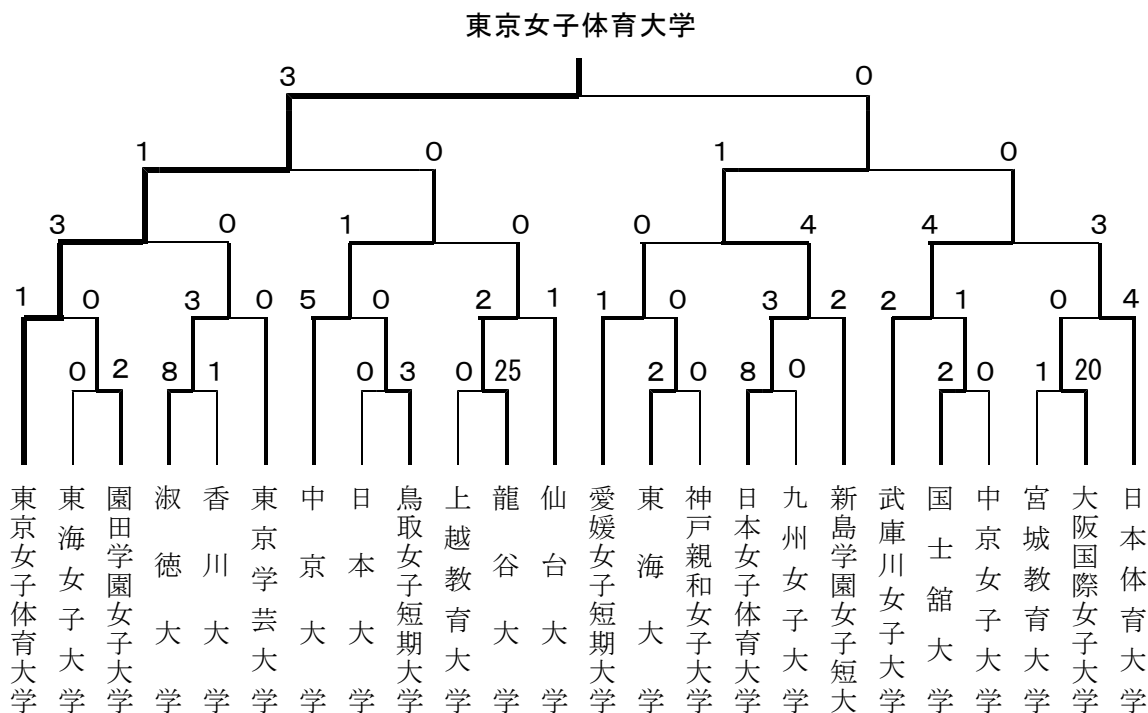


文部大臣杯 第34回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 1999年8月8日～8月10日 宮城県矢本町

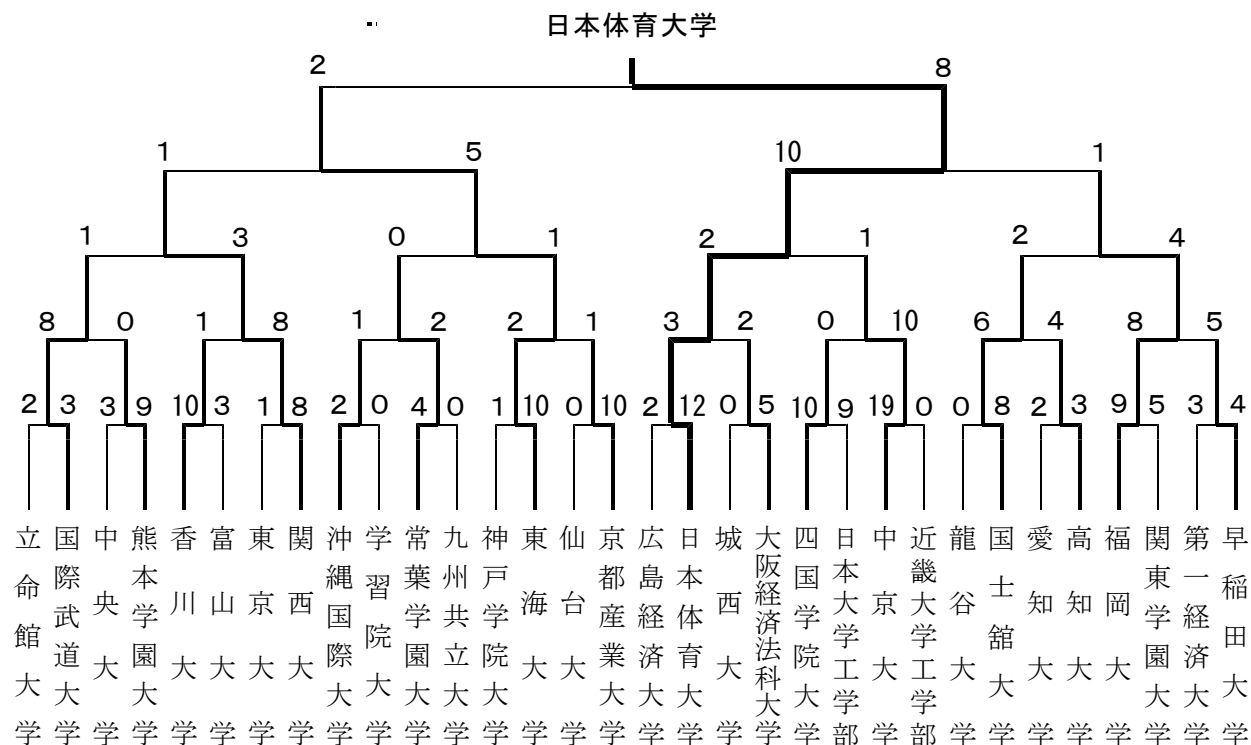


<女子> 1999年8月8日～8月10日 宮城県女川町

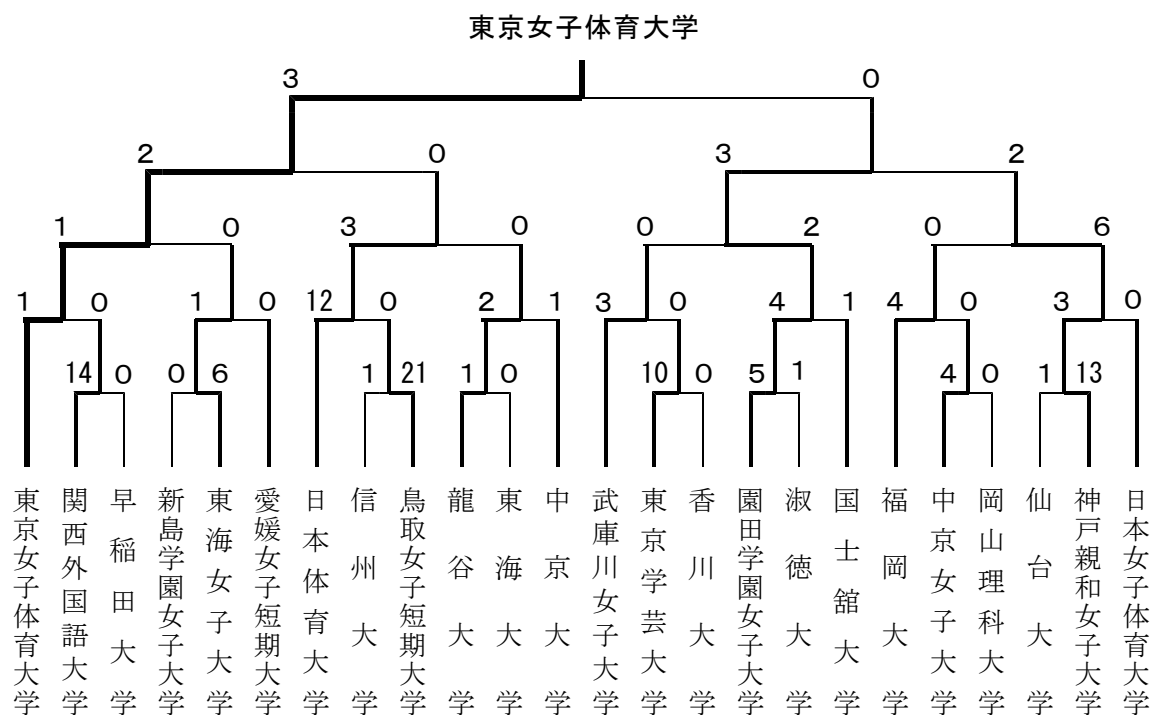


文部大臣杯 第35回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 2000年8月5日～8月7日 香川県丸亀市

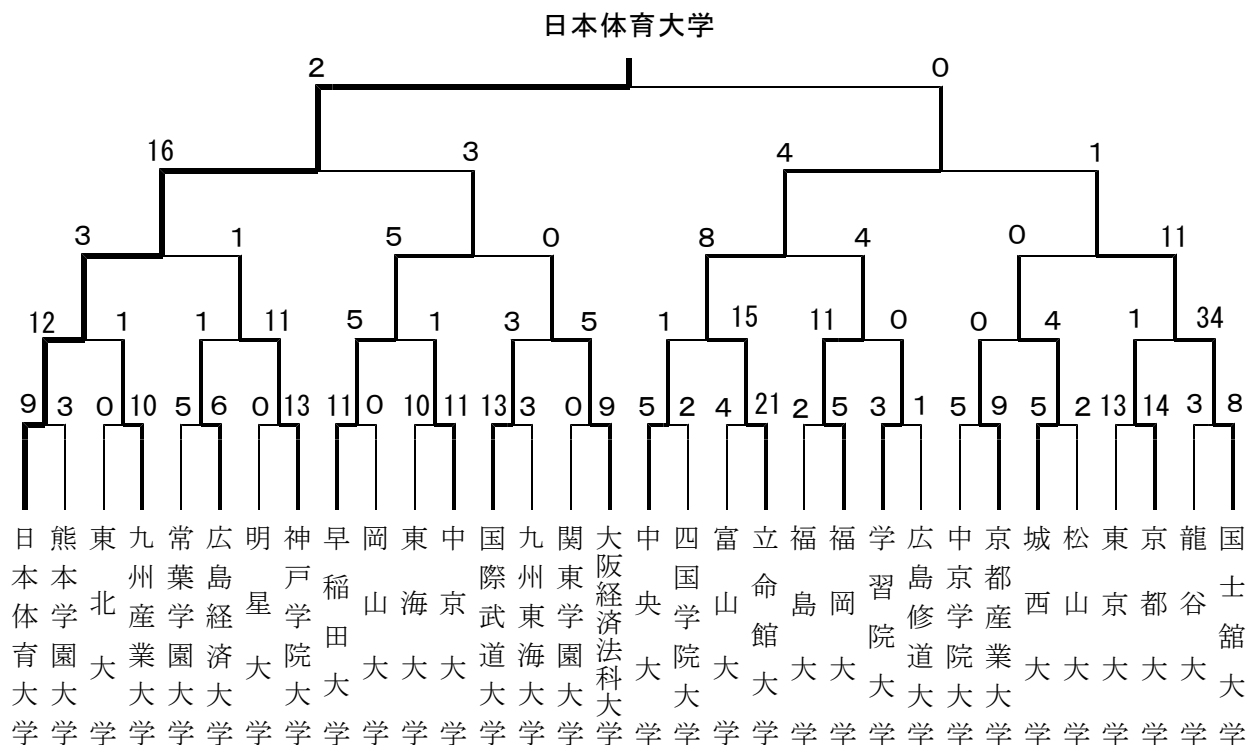


<女子> 2000年8月5日～8月7日 香川県丸亀市

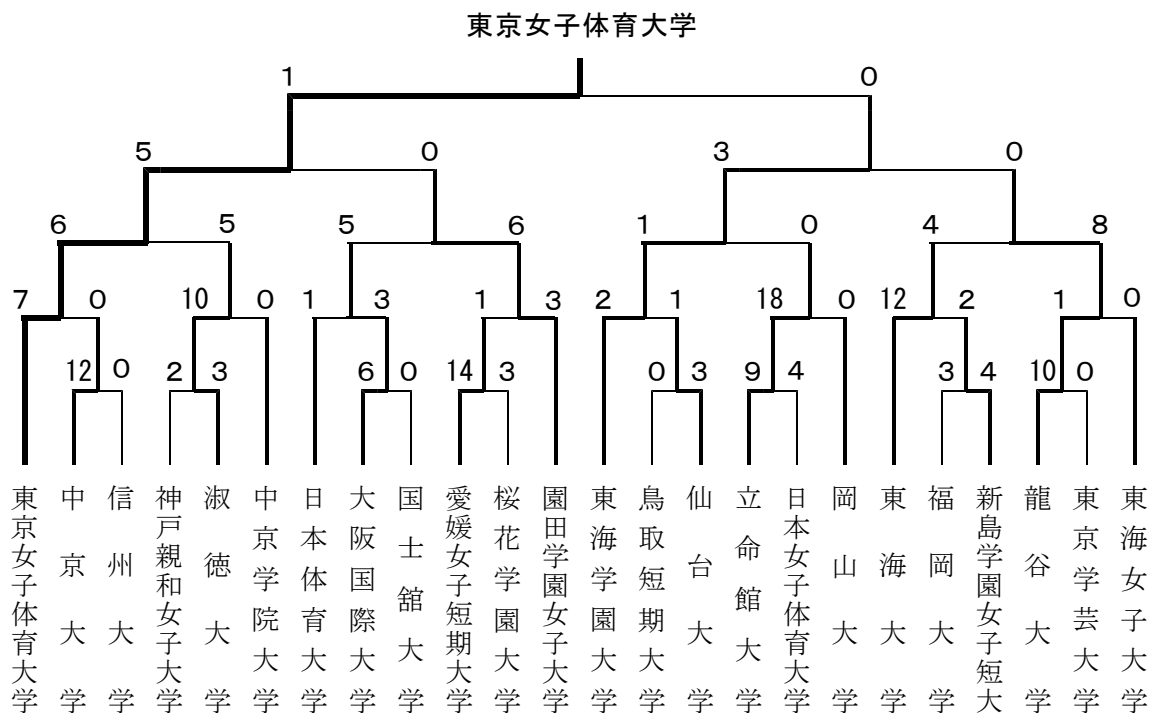


文部科学大臣杯 第37回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 2002年8月10日～8月12日 京都府宇治市

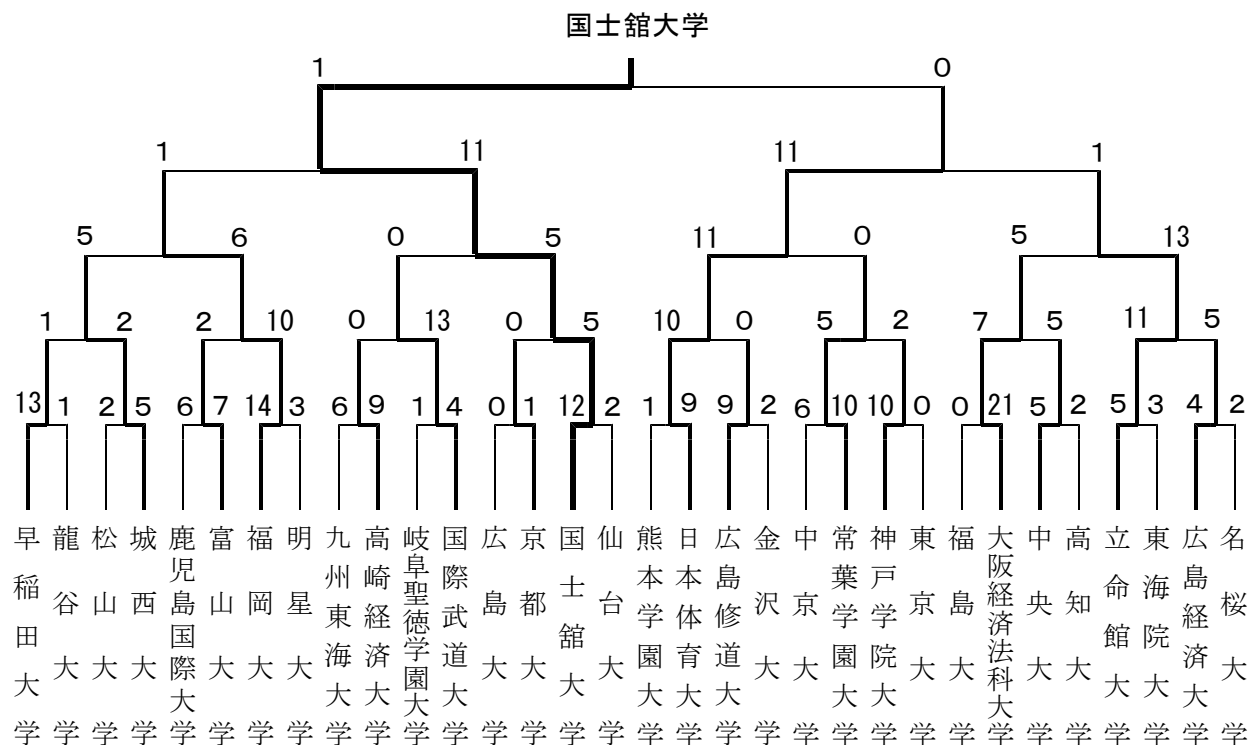


<女子> 2002年8月10日～8月12日 京都府宇治市

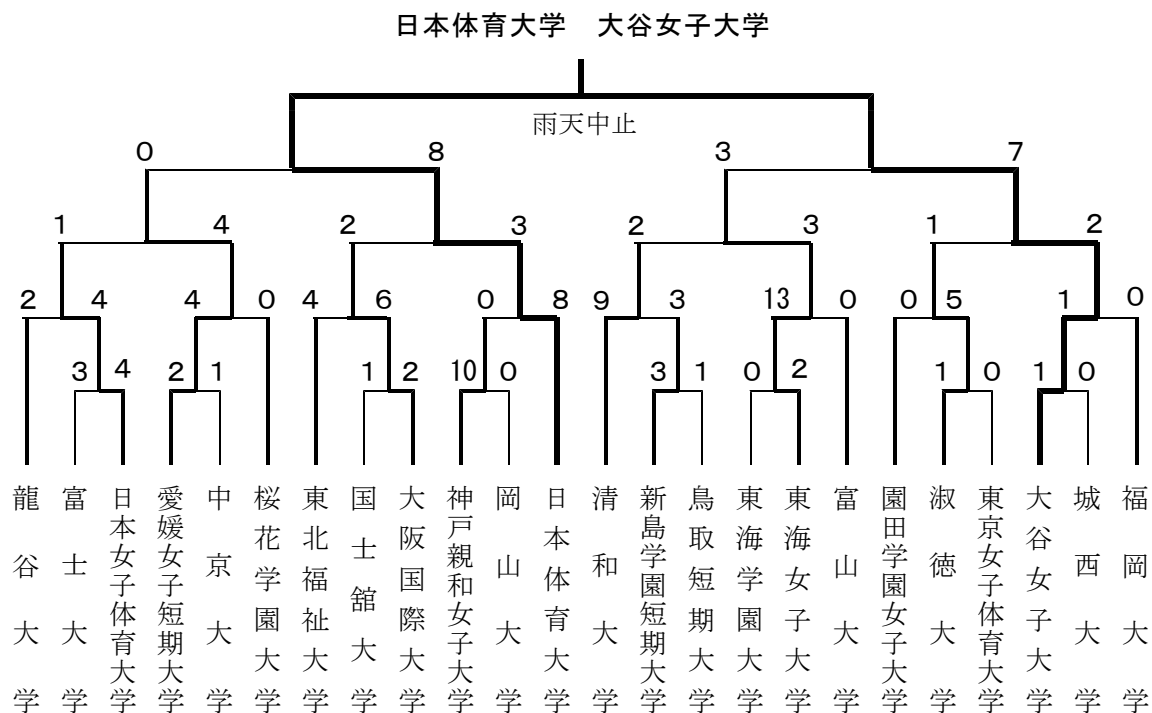


文部科学大臣杯 第39回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 2004年8月25日～8月28日 静岡県富士宮市

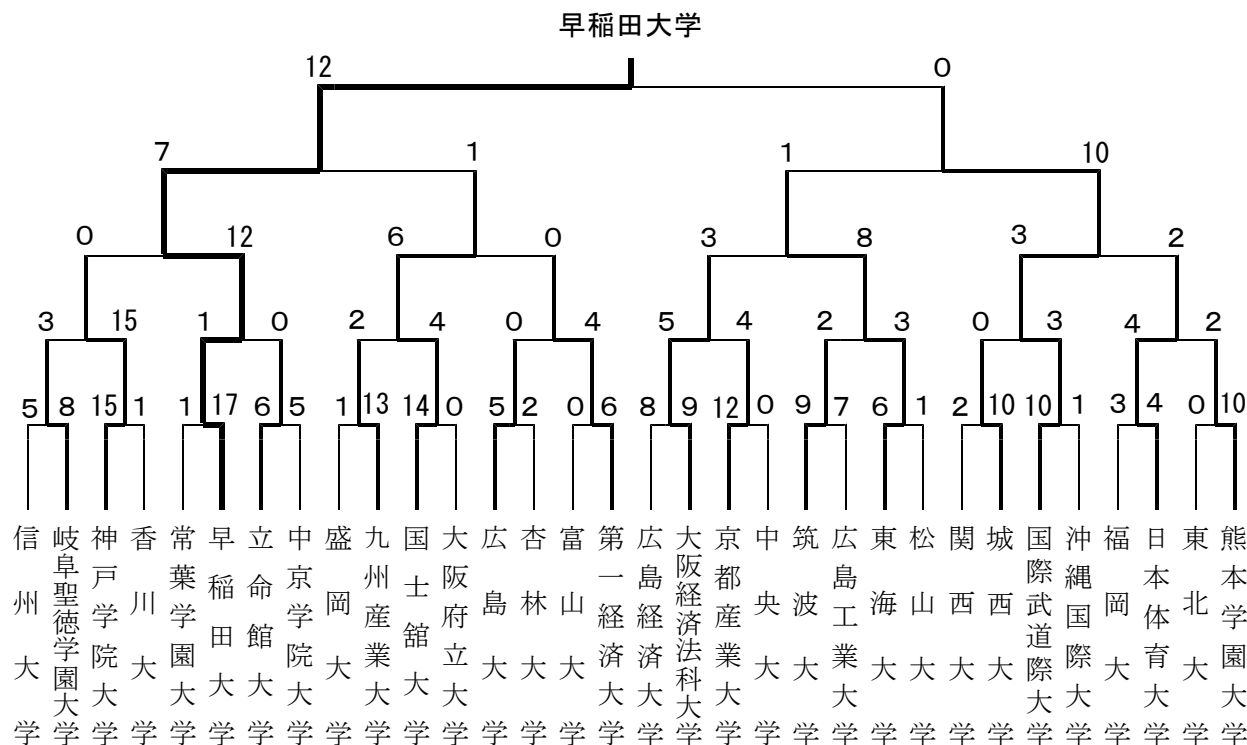


<女子> 2004年8月26日～8月29日 静岡県富士宮市

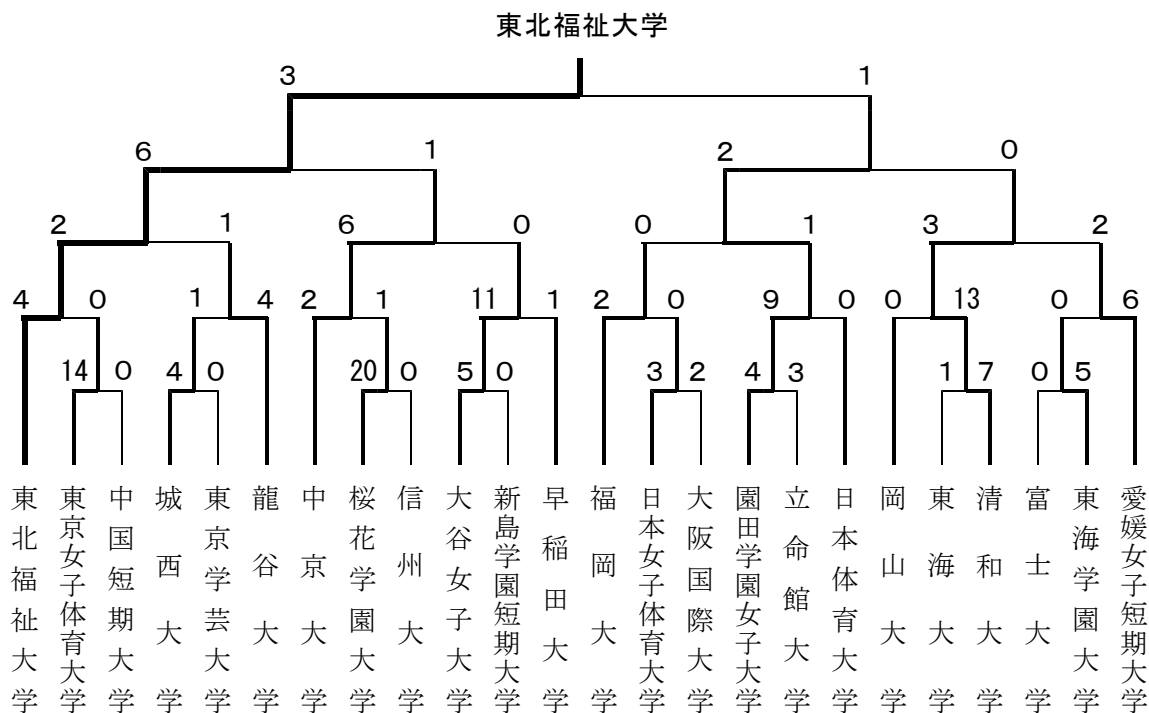


文部科学大臣杯 第40回 全日本大学ソフトボール選手権大会

<男子> 2005年9月3日～9月5日 群馬県安中市



<女子> 2005年9月3日～9月5日 群馬県安中市



全日本大学ソフトボール選手権大会出場校

1. 出場回数

回数	大学名（校名変更・短大の四大化があった場合は旧校名での出場回数を含む。）	
	男 子	女 子
40	国士舘大学・日本体育大学・早稲田大学	東京女子体育大学・日本体育大学
39		日本女子体育大学
38		
37	中京大学	
36	東海大学	
35		武庫川女子大学
32	福岡大学	
30	関西大学	中京大学
29	学習院大学	
28	同志社大学	園田学園女子大学
27	京都産業大学	
26		大阪成蹊女子短期大学
25		
24	立命館大学	中京女子大学
23	高崎経済大学	東海大学
22	広島修道大学	鳥取短期大学
20	熊本学園大学	
19	仙台大学・都留文科大学	
18	日本大学工学部	大阪体育大学・東京学芸大学
17	愛知大学・茨城大学・沖縄国際大学・ 京都大学・中央大学・東京大学・ 龍谷大学	
16	神戸学院大学	
15	広島経済大学	大阪国際大学・仙台大学
14	第一経済大学・福島大学	国士舘大学・相模女子大学・淑徳大学・ 東海女子大学・ 日本体育大学女子短期大学
13	大阪経済法科大学・九州東海大学・ 国際武道大学・城西大学	
12		福岡大学
11	愛知学院大学・大阪体育大学・ 関東学園大学・高知大学・筑波大学・ 東京理科大学・常葉学園大学・広島大学 文教大学	
10	松山大学	

回数	大学名（校名変更・短大の四大化があった場合は旧校名での出場回数を含む。）	
	男 子	女 子
9	四国学院大学・姫路工業大学	九州女子大学・富山大学・文教大学・龍谷大学
8	香川大学・富山大学	愛媛女子短期大学・徳島文理大学・新島学園短期大学
7	奥州大学・九州産業大学・山梨学院大学 琉球大学	神戸親和女子大学・日本大学・立命館大学・
6	岡山大学・岐阜聖徳学園大学・徳島大学 長野大学・明治大学・盛岡大学	学習院大学・関西外国語大学・上越教育大学・
5	愛媛大学・埼玉大学・静岡大学・信州大学・東京学芸大学	大谷女子大学・埼玉大学・信州大学・東海学園大学・北海道女子短期大学
4	東亜大学・東北大学	桜花学園大学・岡山大学・沖縄国際大学 四国学院大学・中国短期大学・筑波大学
3	大阪市立大学・杏林大学・芝浦工業大学 千葉大学・八戸工業大学・兵庫教育大学 明星大学	香川大学・城西大学・千葉大学・東京女子体育短期大学・東北福祉大学
2	大阪府立大学・岡山理科大学・鹿児島経済大学・鹿児島国際大学・近畿大学工学部・慶應義塾大学・甲南大学・神戸大学・佐賀大学・四国大学・中京学院大学・名古屋大学・広島工業大学・福井県立大学	岡山理科大学・四国女子大学・清和大学 創価大学・常葉学園大学・富士大学・宮城教育大学・早稲田大学
1	愛知教育大学・桜美林大学・大阪大学・金沢大学・九州大学・九州共立大学・種智院大学・成蹊大学・専修大学・東京農業大学・東洋大学・獨協大学・日本歯科大学・福井大学・福岡工業大学 福山平成大学・宮城教育大学・名桜大学 山口大学工学部・	金沢大学・川崎医療福祉大学・岐阜教育大学・岐阜短期大学・神戸山手女子短期大学・滋賀文京短期大学・静岡大学・専修大学 中京学院大学・鶴見大学・徳島大学・長野大学・名古屋明德短期大学・明治大学・安田女子大学・山口女子大学

※のべ出場大学数 男子：103校、女子：78校

2. 優勝回数

優 勝 回 数			
男 子		女 子	
26	日本体育大学	18	日本体育大学
3	中京大学	14	東京女子体育大学
2	沖縄国際大学・国士舘大学・東海大学・立命館大学	3	園田学園女子大学
1	京都産業大学・琉球大学・早稲田大学	1	大阪成蹊女子短期大学・大谷女子大学・淑徳大学・中京女子大学・東北福祉大学・日本女子体育大学

※第39回大会女子の優勝校は2校

3. 連続優勝

1) 男子

日本体育大学：6連覇（第5回～10回）、5連覇（第15回～19回）、
4連覇（第21回～24回、第35回～38回）、3連覇（第1回～3回）、
2連覇（第32回～33回）

沖縄国際大学：2連覇（第29回～30回）

2) 女子

日本体育大学：6連覇（第11回～16回）、2連覇（第1回～2回、第4回～5回）

東京女子体育大学：5連覇（第33回～37回）、3連覇（第8回～10回）

園田学園女子大学：2連覇（第23回～24回）

4. 準優勝回数

準 優 勝 回 数			
男 子		女 子	
6	国士舘大学・中京大学	14	東京女子体育大学
5	東海大学	10	日本体育大学
4	京都産業大学・日本体育大学	4	日本女子体育大学・ 大阪成蹊女子短期大学
3	高崎経済大学・福岡大学・早稲田大学	3	園田学園女子大学
1	学習院大学・関西大学・国際武道大学・ 都留文科大学・同志社大学・立命館大学	1	大阪体育大学・東海学園大学・ 東海女子大学・武庫川女子大学

5. 第3位回数

第 3 位 回 数			
男 子		女 子	
7	福岡大学	11	中京大学
6	国士舘大学・東海大学・早稲田大学	9	日本女子体育大学
4	中京大学	7	園田学園女子大学・ 東京女子体育大学
3	関西大学・京都産業大学・神戸学院大学・ 日本体育大学・広島修道大学・ 立命館大学	6	武庫川女子大学
		5	大阪成蹊女子短期大学
		4	日本体育大学
2	沖縄国際大学・学習院大学・ 九州東海大学	2	九州女子大学
		1	愛媛女子短期大学・大阪国際大学・ 大阪体育大学・大谷女子大学・ 関西外国語大学・神戸親和女子大学 淑徳大学・清和大学・仙台大学・ 中京女子大学・東海女子大学・ 龍谷大学
1	愛知大学・茨城大学・愛媛大学・ 大阪体育大学・九州産業大学・ 国際武道大学・高崎経済大学・ 山梨学院大学・龍谷大学	1	

全日本大学男子・女子ソフトボール東西対抗の記録

年度	回数	男 子	女 子	開 催 地
49	1	東軍 3－0 西軍	西軍 1－0 東軍	愛 知 県 刈 谷 市
50	2	東軍 8－0 西軍	東軍 2－0 西軍	愛 知 県 刈 谷 市
51	3	東軍 1－0 西軍	東軍 2－0 西軍	東 京 都
52	4	東軍 1－0 西軍	東軍 9－0 西軍	静 岡 県 藤 枝 市
53	5	東軍 4－2 西軍	東軍 1－0 西軍	大 阪 府 吹 田 市
54	6	東軍 4－0 西軍	東軍 1－0 西軍	東 京 都
55	7	西軍 2－0 東軍	東軍 2－1 西軍	兵 庫 県 尼 崎 市
56	8	西軍 3－2 東軍	東軍 1－0 西軍	千 葉 県 千 葉 市
57	9	東軍 7－4 西軍	東軍 1－0 西軍	兵 庫 県 尼 崎 市
58	10	西軍 2－0 東軍	東軍 1－0 西軍	東 京 都
59	11	西軍 1－0 東軍	東軍 1－0 西軍	愛 知 県 豊 田 市
60	12	東軍 1－0 西軍	東軍 2－0 西軍	埼 玉 県 川 口 市
61	13	西軍 3－0 東軍	東軍 1－0 西軍	兵 庫 県 尼 崎 市
62	14	西軍 2－1 東軍	西軍 1－0 東軍	神 奈 川 県 平 塚 市
63	15	東軍 9－4 西軍	東軍 1－0 西軍	愛 知 県 豊 田 市
1	16	東軍 1－0 西軍	東軍 1－0 西軍	福 島 県 郡 山 市
2	17	東軍 1－0 西軍	東軍 4－0 西軍	兵 庫 県 姫 路 市
3	18	東軍 2－1 西軍	東軍 1－0 西軍	東 京 都
4	19	東軍 2－1 西軍	西軍 3－2 東軍	香 川 県 坂 出 市
5	20	西軍 3－1 東軍	西軍 1－0 東軍	神 奈 川 県 相 模 原 市
6	21	西軍 5－0 東軍	東軍 3－0 西軍	愛 知 県 豊 田 市
7	22	西軍 2－1 東軍	東軍 3－1 西軍	滋 賀 県 長 浜 市
8	23	西軍 3－2 東軍	東軍 1－0 西軍	滋 賀 県 長 浜 市
9	24	西軍 5－2 東軍	東軍 3－2 西軍	滋 賀 県 長 浜 市
10	25	東軍 5－3 西軍	東軍 11－0 西軍	滋 賀 県 長 浜 市
11	26	西軍 5－3 東軍	東軍 1－0 西軍	滋 賀 県 長 浜 市
12	27	西軍 7－1 東軍	東軍 3－2 西軍	兵 庫 県 西 宮 市

通算成績 男子：東軍の14勝13敗、女子：東軍の23勝4敗

全日本女子短期大学ソフトボール大会の記録

回	開催日	会場	大会成績		参加数
1	H7. 9. 2・3	学習院大学	優勝 準優勝 第3位 第3位	淑徳短期大学 東京女子体育短期大学 鳥取女子短期大学 関西外国語大学短期大学部	15
2	H8. 8. 29・30	学習院大学	優勝 準優勝 第3位	東京女子体育短期大学 淑徳短期大学 関西外国語大学短期大学部	15
3	H9. 8. 29・30	日本体育大学	優勝 準優勝 第3位 第3位	大阪国際女子短期大学 鳥取女子短期大学 東海女子短期大学 大阪成蹊女子短期大学	17
4	H10. 8. 20・23	日本体育大学	優勝 準優勝 第3位 第3位	大阪国際女子短期大学 東海女子短期大学 関西外国語大学短期大学部 大阪成蹊女子短期大学	15
5	H11. 8. 20・22	日本体育大学	優勝 準優勝 第3位 第3位	大阪国際女子短期大学 愛媛女子短期大学 関西外国語大学短期大学部 東海女子短期大学	12
6	H12. 8. 18・20	明星大学	優勝 準優勝 第3位 第3位	淑徳短期大学 大阪国際女子短期大学 関西外国語大学短期大学部 大谷女子短期大学	11
7	H13. 8. 24・25	明星大学	優勝 準優勝 第3位	淑徳短期大学 大阪国際女子短期大学 愛媛女子短期大学	7

学連と国際交流 — 3回の海外遠征を通じて —

理事 吉 末 和 也(園田学園女子大学)

全日本大学連盟は、国際交流に関してソフトボールの普及と発展（技術の向上）と国際交流を目指し、初めて1992年に大学女子選抜チームがブラジルへ遠征をした。その後、ブラジルとは相互交流としてそれぞれ1回ずつ事業を行った。経費については、連盟の予算も限られておりスタッフおよび選手も全額自己負担になった（役員は36万円）。また、学連の目的として、学生にはソフトボールを通じて異文化交流および日本文化の発信も重要と考え、ホームステイを原則とした（ソフトボール選手および役員の自宅が多かった）。日本に来られたときは、大阪、名古屋、東京を転戦したが、学生のお世話でブラジルの皆様に大変喜んでいただいた。

その後、男女とも4年に1回の海外遠征を企画することになり、1998年の男子選抜チームのニュージーランド遠征を皮切りに、2000年の女子選抜チームのオーストラリア遠征、2002年の男子選抜チーム第2回ニュージーランド遠征と3回の海外遠征を実施した。現在は2006年2月の第3回男子選抜チームニュージーランド遠征の準備に取りかかっているところである。男女とも技術の向上と国際親善を目的にしており、経費についても選手は自己負担（全日本学連は各選手1万円の海外傷害保険料、用具代、お土産代を負担）、役員は人数により異なるが前回から、一人おおよそ10万円から15万円前後の負担をしていただいている。男女とも海外遠征の教育的成果が大いに認められるようになった。今後も継続事業として加盟大学の協力をいただき実施したいと考えている。

どの海外遠征も、学生はソフトボールの親善試合でスポーツ交流を図りながら、現地でソフトボール選手のいる家庭でのホームステイを体験したり、訪問する先々でその土地の自然や文化に触れたりすることのできるプログラムを実施してきた。毎回海外遠征は、初めて海外に出る学生が大半である。参加した学生達は、ホームステイになると一瞬子どもに帰る。「My name is…」から始まって、後はボディランゲージと笑顔で何とか気持ちを伝えようとする。ホームステイでの英会話での気苦労に疲れて、試合会場に集まってくる時には、選手達の顔に疲れと悲壮感を感じることもある。受入先の家族も戸惑うことも多かったと見受けられるが、ソフトボールの試合となると、世界共通のルール。英会話ができなくてもハンディはない。お互いの選手達の潑刺としたプレーを見て、徐々に歓声が飛び出し、選手のプレーを通じて、その選手の性格を理解し、打ち解けていく。しかし、せっかく馴れてきたころには、お別れをしなければならない。「Big Boy! You can come back anytime.」と言われた瞬間、お互いの胸からこみ上げてきた涙に包まれる。何回体験しても微笑ましく、感動する一場面である。

手前味噌ではあるが、私自身も16年前の学生時代にニュージーランドに3ヶ月間短期留学し、海外でのソフトボールを体験している。その時も、個人的なことではあるが、現在の全日本大学ソフトボール連盟の一谷副会長や末井理事長のお力添えを得て実現することができた。その当時の私にとっては、短期間ではあったが、非常に貴重な体験と感動を胸に帰国した。スポーツそのものに対する考え方、ソフトボールの理論・技術、現地の人との

心温まる交流、大自然の美しさに触れたことが、今の自分の人生の新しい出発点になっているような気がする。今の学生達を見ていても、何をするにも、「良い動機付けと生の体験」が必要であることを痛感させられることが多いが、大学生時代の国際交流は、まさにその一つではないかと思う。この時機が早すぎても、遅すぎてもいけないし、国際交流を含めた異文化体験は、大学生時代にチャンスがあれば、是非とも挑戦して欲しいことの一つである。

全日本大学ソフトボール連盟も組織化されてから早40年を迎えた。私たちの先輩方は、先輩方が体験したくても体験できなかったチャンスを私たちに与えてくれた。そして、私はこの連盟の中で「ソフトボールを通じた国際交流」を、次の世代に伝え、より多くの大学生に体験してもらう仕事に携わっている。

海外遠征の度に、試合でどんなに失敗しても自分のホストファミリーに「Never mind! Next time you can do it!」と励まされた学生達。次の世代が、このソフトボールの国際交流を通じて、何を学び、どういう成果を出してくれるかが楽しみである。

To be continued...

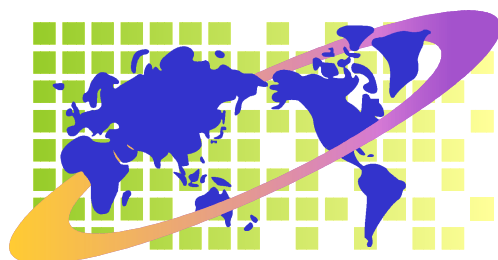
公認海外派遣事業

(財)日本ソフトボール協会関係

・第1回アジア男子選手権大会	1968年2月	マニラ	国士舘大学
・女子大学ワールドシリーズ	1972年5月	オマハ	大学女子選抜
・ハーレムソフトボールウィークワールドゲームス	1985年7月	アムステルダム	大学女子選抜
・ハワイ大学招待試合	1986年3月	ハワイ	大学女子選抜
・第2回セラングール国際チャンピオンシップ	1986年6月	クアラルンプール	大学女子選抜
・第7回アジア女子選手権大会	1999年11月	上海	東京女子体育大学
・第8回アジア女子選手権大会(開催中止)	2003年11月	マニラ	大学女子選抜
・第3回アジア女子ジュニア選手権大会	2004年5月	仁川	大学女子選抜
・第1回世界女子大学選手権大会	2004年10月	プラトンティ	大学女子選抜

全日本大学ソフトボール連盟関係

・ブラジル遠征	1992年8月	サンパウロ	大学女子選抜
・第1回ニュージーランド遠征	1998年2月	オークランド他	大学男子選抜
・オーストラリア遠征	2000年2月	ブリスベン	大学女子選抜
・第2回ニュージーランド遠征	2002年2月	オークランド他	大学男子選抜



ソフトボール王国を目指す北海道・東北地区

北海道・東北地区理事 小嶋 高良（八戸工業大学）

全日本大学ソフトボール連盟創立40周年おめでとうございます。

全日本大学ソフトボール連盟に加盟する北海道・東北地区大学ソフトボール連盟としても心から慶びを共とするとともに、今まで全日本大学ソフトボール連盟をご指導・ご支援賜りました日本ソフトボール協会をはじめとする各県ソフトボール協会、また各種諸団体の皆さまに心からお慶びを申し上げるとともに、心からの御礼を申し上げさせていただきたいと思います。

北海道・東北地区大学ソフトボール連盟は、現在、男子チームは、八戸工業大学、弘前大学、盛岡大学、仙台大学、東北大学、宮城教育大学、福島大学、日本大学工学部の計8大学、女子チームは、北海道浅井学園大学、弘前大学、盛岡大学、富士大学、仙台大学、東北福祉大学、宮城教育大学の計7大学が加盟しています。過去に加盟していた大学も何大学かあるのですが、チームを維持できずに現在に至っており、加盟大学の増加になかなか繋がらない状況下にあります。

また、北海道・東北地区大学ソフトボール連盟と名称付けてはいますが、北海道の加盟チームは、男子チームの酪農学園大学も加盟していたのですが、現在は女子チームの北海道浅井学園大学が唯一の大学であり、北海道所在大学からの加盟が切望されてかなり久しいのですが、第1回北海道・東北地区大学ソフトボール選手権が初めて開催された昭和55年(1980年)より、なかなか思うように進んでまいらなかったしだいです。北海道と東北地区をひとつの学連として統括し、大学選手権大会の予選や春秋のリーグ戦や地区大会を開催していくのは、いくら通信や交通の利便性が向上しても、その地域の広大さから数々の困難性があり、北海道地区における大学ソフトボールの普及が急務となっています。

全日本大学ソフトボール選手権大会40年の歴史の中で、北海道・東北地区大学ソフトボール連盟の活躍としては、男女チームとも常連出場チームであった仙台大学の活躍が秀でておりましたが、全国の壁は厚く、「全国優勝」の声は遥か遠くに感じておりました。しかし、近年その仙台大学の大学選手権出場が難しくなるほど、女子の新規加盟チームの活躍には目を見張るものがあります。第40回(2005年)記念大会におきまして、全国大会出場3度目の東北福祉大学が「初優勝」を果たすことができました。北海道・東北地区大学ソフトボール連盟としては、記念すべき全日本大学ソフトボール連盟創立40周年にあたる記念大会において、今まで果たせなかった「全国優勝」の四文字を実感できましたことは、この上ない喜びであり、当該チームを指導してこられた関係各位および選手たちに心からお慶びを申し上げているところであり、また、北海道・東北地区大学ソフトボール連盟をこれまでお支えご援助していただきました関係各位にも感謝を申し上げさせていただいているところです。

全日本大学ソフトボール連盟創立40周年に際し、これまで以上の全日本大学ソフトボール連盟の発展を心から祈念するとともに、北海道・東北地区大学ソフトボール連盟の飛躍的発展をお誓い申し上げます。

新たな展開に向かって ― 関東地区 ―

関東地区常任理事 高橋 伸次（高崎経済大学）

関東地区としての歴史は、昭和40年の大学連盟発足に際して都留文科大学、高崎経済大学、茨城大学、芝浦工業大学の4大学が名を連ねたところからスタートしている。昭和55年には、全日本大学選手権大会への予選を実施するために地区割りが設定され、関東・北信越地区の事業として、予選会を兼ねた「関東・北信越大学選手権大会」が昭和60年より開始されることになる。この大会はその後8回まで開催されたが、北信越地区の独立にともない新たに関東学生ソフトボール連盟が立ち上げられ、平成5年からは「関東学生選手権大会」として再スタートを切っている。

また平成13年からは、当面は秋季のみという形ではあったが、かねてからの念願であったリーグ戦が開始され、これまでの、一大会だけの接点ではおよそ見ることでできなかった選手間、あるいはチーム間での活発な交流が見られるようになってきた。それまで、東京都の頭をまたぐ茨城県から山梨県までをエリアとする交通地理的条件の悪さや運営に対する不安から、長い間この構想は躊躇されてきた。しかし、予想以上に活性化し始めている様子に、関係者は胸をなで下ろすとともに自信を深めている。

40回を数える全日本大学選手権大会における成績は、男子では東海大学が優勝2回・準優勝と3位を各5回、高崎経済大学が準優勝3回・3位1回、国際武道大学が準優勝と3位それぞれ1回、都留文科大学が準優勝1回、茨城大学と山梨学院大学がそれぞれ3位1回であり、女子では淑徳大学が優勝と3位を各1回、清和大学に3位が1回ある。

男子の入賞は、第1回大会（昭和41年）の高崎経済大学（準優勝）を皮切りに、草創期を支えた茨城大学や都留文科大学など6大学が延べ21回の入賞を果たしている。そのなかでも東海大学は11回の入賞数を誇り、関東地区の雄としてその存在を全国に示す活躍をしてきた。関東地区の各大学は、この東海大学を大きな目標として切磋琢磨してきたと言える。

一方女子では、淑徳大学が第33回大会（平成10年）で3位になったのが最初であり、ここ最近までまったく成果をあげることができなかった。入賞数も清和大学と合わせても3回と、東京・近畿はもとより東海地区と比較しても見劣りしている。

しかしながら、リーグ戦を導入してからは第38回大会（平成15年）での優勝（淑徳大学）や第40回大会での3位（清和大学）と、急速に力をつけてきている。このことは男子についても言うことができ、第38回大会で高崎経済大学と東海大学がともに3位になったり、第40回大会では東海大学が3位、そして国際武道大学が準優勝するなど、リーグ戦の効果が現れ始めていることを例証する安定した成果があげられるようになってきた。

来春（平成18年度）からは、いよいよ春季リーグ戦もスタートする。40年という時間がかかったものの、ようやく関東地区はそのしくみにおいて完成型を迎えようとしている。新たな展開に向かって、いま希望に満ち溢れている。

学連創立40周年 北信越大学連盟の歩みと現状

北信越地区常任理事 黒田 重靖（富山大学）

全日本大学連盟の中で最も遅く北信越地区大学連盟として発足させていただいたのは平成2年でしたから既に15年が経ちました。発足には、当時の理事長水野先生の御英断がありました。その後、平成4年には北信越ソフトボール協会に加盟させて頂き、その後間もなく私自身も大学連盟という形で北信越ならびに富山県ソフトボール協会に加盟致しました。それ以前は大学連盟では北信越地区は関東地区に組み込まれていて試合は全て関東学連が主催する大会で行われていました。その為に必ず関東まで遠征しなくてはならず大変でした。特に雨で延期になると滞在費用が嵩み雨にならないように遠征時にはよくテルテル坊主を作って下げたものでした。発足当時は、男子が3チームになれば北信越地区として独立させても良いという水野先生から御話があり、富山大学に男子部を作ろうと学生を集めて男子ソフトボール部を作りました。それまでは、北信越地区の男子は長野大学と信州大学のみでした。ようやくそれで男子3チーム、女子は、上越教育大学、信州大学、富山大学の3チームであったことから北信越地区は独立できました。その後、男子は福井大学、金沢大学、富山国際大学、福井県立大学、次いで敦賀短期大学が加盟しました。また、女子は金沢大学、長野大学が加盟しましたが、平成17年度現在の登録大学は男子6大学、女子は4大学となっております。女子の方で来年度敦賀短期大学始め3大学の加盟の動きもあり、期待をもって来シーズンを待っております。当初は何しろ全て手作りで場所の確保や、審判員、記録員などの要請は何処にすればよいのやら全く分からない状態で2、3年大会を行っていました。これを見かねて当時の北信越地区の大久保理事長さん（福井）の薦めで北信越地区の協会に加盟させていただけることになりました。インカレ予選を兼ねた北信越地区大学男子女子ソフトボール選手権はすでに11回を重ね、また、秋には北信越地区新人戦を行っておりますが、これは今まで12回まで北信越ソフトボール協会の御世話で行っております。この間、東日本ソフトボール選手権大会が富山県で開催されました折には富山県ソフトボール協会と連携しながらお世話をさせていただきました。

また、平成16年度から北信越オープン大会を開催いたしております。オープン大会は各地で開催されていますが、北信越オープン大会は大学連盟の末井理事長さんの強い御支援を戴きようやく開催する運びとなりました。昨年今年と、各地区の常任理事の方々の御理解と御協力を得て近畿・東海地区からの参加を得まして、今年で2回を迎えました。この大会は北信越地区の本部のあります富山県で2回試行的に実施し、来年度から北信越地区の持ち回りの予定になっております。因みに来年度は長野県で7月下旬に開催する予定であります。

現在、少子化や学生の運動クラブへの加入現象の低下の下で継続は力なりということを中心に根気強く続けたいと考えております。大学という特殊な団体のためか、なかなか地区の協会との関係も難しいところはあります。例えば、近年経済状況は好転してきているとは言っても地区の協会は大会運営には大会費の捻出に苦慮いたしております。大会を多くすることにはかなり抵抗があります。その点では、大学連盟は手作り大会を目指し、派遣役員や審判記録員を無くして極力歳出を抑えて地元のみで運営することで開催費を抑えることを提案しております。将来的にはどの程度まで削減できるか分かりませんが大学連盟、協会と一緒に今後益々、努力を重ね大会がスムーズに運営出来るよう努力する思いで一杯です。もうひとつの課題は学生の運営への参加です。北信越地区は各大学間の地味理的距離の問題があり、なかなか集まって話し合うことが困難です。今後何らかの形で解決する必要があると思っています。

東京都大学連盟の草創期と今日

都学連理事長 中野 紀明（国士舘大学）

創設当初の理念

東京都大学ソフトボール連盟は全日本大学ソフトボール連盟創設より後れること3年、昭和44年4月に創設された。昭和41年に創立した「東京四大学リーグ戦」（日本体育大学・学習院大学・早稲田大学・国士舘大学）と昭和43年に行われて「日本体育大学と日本女子体育大学の対抗戦」を母体にしてのスタートであった。

当時は企業の機械化によるGNP急騰やそれに伴う余暇時間の増大、さらには東京オリンピックを契機にした国民のスポーツに対する関心意欲とともに、その評価も高くなりはじめた時期である。一方、大学では団塊世代の入学をむかえて、収容定員の緩和を余儀なくされ、大学生急増の時でもあった。大学スポーツが隆盛に向けて始動した時期でもある。

（財）日本ソフトボール協会のこれまでの方針として、国を代表する選手の育成は高等学校と企業に委ねるという考え方であり、最高学府で学業に専念する大学は無視するということのようにであった。

したがって、従来も一部の大学に高校での経験者が集まって結成したソフトボール部はあったが、これらはいずれも全日本に名を連ねることよりも、楽しむことが主眼であったようだ。

（財）日本ソフトボール協会が大学ソフトボール連盟の設立を許可したのは、そういう意味では、我が国ソフトボール会の興望を担ってのスタートであった。

そうした中で、当時の東京都大学連盟の基本方針で、特に重点を置いたのは、大学スポーツに対する考え方、取り組みの心構え、ソフトボールを通しての人間教育等についての基本について深い理解と使命感を持つことを第一義としたことである。具体的には、アスリートと指導者の育成を目標とした。また、ソフトボール競技を行う中で専門性を高める必要性を痛感して、技能研修会や審判講習会（後に認定会に移行）・記録講習会（後に認定会に移行）を開催し、研究を深めるなどの工夫に努めた。お陰をもって多数が我が国を代表するアスリートとなり、また、（財）日本ソフトボール協会や都道府県協会・地域・学校の指導者として活躍している。

学生の 学生による 学生のためのソフトボール

時代は流れて一刻も止まることを許さない。現在学生の減少期にさしかかって、決して過去のような安堵を期待することはできない。

幸いに本連盟に加盟してくる学生諸君、特に学生役員（学連委員）は自己の職業選択と連盟での目的意識をはっきり持っている。これが彼らの特色であり、彼らが東京都大学ソフトボール連盟を支えてくれている。

「学生の 学生による 学生のためのソフトボール」をモットーに。

さらなる発展と飛躍をめざす東海地区

東海地区常任理事 水谷 博（中京女子大学）

大学選手権大会40回の歴史の中で、東海地区男子からは中京大学が優勝3回・準優勝5回・3位3回、愛知大学が3位1回、女子は中京女子大学が優勝1回・3位1回、東海女子大学が準優勝と3位を各1回、東海学園大学が準優勝1回、中京大学が3位10回を数えている。しかし、40回連続の出場校はなく、東海地区からは男子が中京大学の第2回から、女子が岐阜短期大学の第9回からの参加であり、大学ソフトボール界にあっては後進の地域であった。

地区におけるリーグ戦は、男子が1977年に愛知大学・愛知学院大学・愛知教育大学・南山大学の4校で開始され、現在では14チーム1・2部制で春秋の年2回開催されて57回を数えた。当初、中京大学が参加しなかったのは、リーグ戦創設に携わった各大学がインカレで優勝（1976年）しているという実力差から、リーグ戦創設の意向を伝えなかったからである。中京大学が参加してもらえるリーグ戦づくりが大きな目標であったのである。3年後には大内敬哉現会長にも認められるまでになり、中京大学がリーグ戦に参加するようになった。これにより、東海地区の大学男子ソフトボール発展の礎が築かれた。一方女子は、1983年インカレに地区予選会が導入されたのをきっかけに、リーグ戦が開始された。第1回の参加校は、愛知教育大学・静岡大学・中京大学・中京女子大学・南山大学の5校であった。その後、順調に加盟校を増やし、現在では13校による開催となり、46回を数えた。男女とも、卒業後に全日本や日本リーグで活躍する選手も徐々に排出しており、競技力からも全国レベルに近づいてきたと思われる。今後は、企業チームが減少していく中になって、東海地区出身の優秀な高校生の受け皿になれるよう、いっそうの強化が望まれる。

このリーグ戦で特質すべきことは、大学ソフトボールのリーグ戦としては唯一「東海テレビ杯」という冠が付いていることである。マスコミ関係者にもご理解をいただき、試合結果は翌日の新聞のスポーツ欄に掲載されるようになり、昨年は全国紙の地方版にリーグ戦展望記事も掲載された。また、記録を重視し、毎年公式記録員養成講習会を実施するのはもとより、男子は平成10年からの、女子は平成5年からの「新記録表」をインカレと同様の形式でプログラムに掲載している。

さらに、2001年から「トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯大学ソフトボール東海オープン」、2004年からは東海ソフトボール協会との共催で「東海地域大学ソフトボール選手権大会（インカレ最終予選を兼ねる）」を開催するようになった。前者は地元トヨタ系企業の協賛を得て開催される唯一の全国規模のオープン大会であり、協賛各社や愛知県協会からは正式な全国大会に昇格させるよう叱咤激励を受けている。また後者は、東海地区では大学種別のみ地域選手権大会がなかったことと、インカレ予選を兼ねる春季リーグ戦で失点差によって代表が決定されることを避けるために開催されるようになった。

東海地区は、実業団・高校・中学ともソフトボールが盛んな地域である。インカレも過去6回開催し、来年も豊橋市での開催が決定している。スタンドを備えたソフトボール専用球場も多数存在している。恵まれた環境の中でさらなる発展と飛躍を期していきたい。

近畿男子の10年 ―新たな展開に向けて―

近畿地区常任理事 森田 啓之（兵庫教育大学）

近畿地区の男子（関西学生ソフトボール連盟）のこの10年を振り返ると、まず、加盟チームであるが、若干の増といったところであろうか。登録数は25～27チームといったところで増減を繰り返しているが、この10年で新規加盟チームが加わったことは大変うれしいことである。ただ、どのチームも選手数がそう多くないため、4月1週目からスタートする春季リーグ戦は棄権せざるを得ない場合が出てくるのが残念である。個人的には、少人数によるチームだからこそ上級生が後輩のためにプレイしてやるような関わり方が、どのチームにも出てくればと願っている。特に、大学から始めたプレイヤーの場合、ようやくソフトボールが分かってきたときに、「引退」というのはもったいない気がする。「チーム力」という点でも「もう一歩上に！」という場合には、「経験」が大事になってくるからである。各チームやプレイヤーの事情もあろうが、学生時代にとっての「有意義な経験」となるためには、ある程度の関わる「時間」も必要ではなかろうか。

また、このこととも関連するが、リーグ戦の運営は、執行部学連（関西大学をはじめとする5大学の学連委員）で主に行われているが、それが他大学の「学連執行部任せ」という意識につながってしまっている感を、役員として関わりながら抱くことがある。言葉はきついが、「お金（登録費）を払ってお客さんのように遊んで帰る」というプレイヤーを見るにつけ、情けなく感じることもある。場所の確保や審判の方々の大変な努力の中で、リーグ戦をやっと実施できていることの「自覚」と「感謝」を常に忘れないで、プレイできる学生を育てていきたいと思うこの頃である。

最後に、最もこの10年での深刻な悩みは、近畿地区としての「競技力の低下」であろう。約10年前といえば、卒業後に全日本代表選手となった「飯田投手（神戸学院大学）・天野投手・馬場投手（いずれも京都産業大学）」をはじめとした素晴らしい投手戦が展開され、さらには打者との1対1の見ごたえある対決があったのが鮮明に記憶されている。当然のことながら、インカレでも近畿の力は「東」に匹敵するものであった。しかし、ここ数年はインカレでの成績はもちろんであるが、リーグ戦における結果も明らかな「打高投低」である。野球型は投手力が8割とも言われるが、ソフトボールにおいては、投手の出来が9割5分くらいまで試合の結果を左右すると個人的には思っている。1部から3部まで含めて、それぞれの技能に応じたピッチング・クリニックのようなものを企画していきたいと考えるようになってきている。「そのような機会があれば是非ともご協力を」と、この場を借りて関係各位にお願いしたい。

これからも学生連盟としてこのような取り組みをしつつ、かつ、「大学出身プレイヤーに期待される役割とは何か」を常に意識しながら、一步一步学生とともに進んでいきたい。

改革の近畿地区女子

近畿地区常任理事 久保田 豊司（大阪国際大学）

近畿地区の女子学生連盟は、試合の運営についてこの10年間さまざまな改革を行ってきた。もちろん主役は学生である。「たくさんの選手が頑張っているから、最優秀打撃賞（首位打者）と最優秀投手賞（防御率1位）以外にもう少しいリーグ戦での賞を多く出せませんか？」これが改革のきっかけであり、私が常任理事となった平成11年のことである。その後、学生の声聞き検討したリーグ戦の運営と、阪神学生女子ソフトボールオープン大会の内容を紹介したい。

リーグ戦 近畿地区は春と秋にリーグ戦を行っている。それまでのリーグ戦は6チームで各リーグを編成し、春と秋にそれぞれ5試合ずつ試合を行ってきた。しかし、下位リーグになると6チームで編成できなくなり、試合数が2～3試合になることもあった。そこで学生の意見を聞いてみると、全体としては「試合数を今までより多くしてほしい」、リーグ戦の上位チームでは「インカレ出場方法についての検討が必要」、下位チームでは「いろいろなチームと試合がしてみたい」等、それまでのリーグ戦の運営についてたくさんの意見が出てきた。学生からの提案を具現化するために、月に1回のペースで学生会議を持ち、そこで積極的に意見を出しあい具体的に3年をかけて現在のリーグ編成となった。これにより、1部リーグのチーム数が増えレベルの均衡した試合が多くなり技術向上が図られ、また、各リーグにおいては試合数が多くなり選手は経験をたくさん積むことができた。さらに、学生の創意工夫による開会式や閉会式、表彰制度、秋季リーグ戦終了後の卒業年度生による試合などは、各大学・選手間の交流を一層深め学生の満足度を高めた。リーグ戦の試合運営・結果については、全日本大学ソフトボール連盟のホームページ、または機関紙ウインドミルを参照していただきたい。

阪神学生女子ソフトボールオープン大会 以前より3月のプレ・ゲーム期（鍛錬期）に、ゲーム数を確保するため各チーム苦勞するとの意見から実現した大会である。運営は園田学園女子大学監督の板谷先生を中心に行っている。大会の目的は、日ごろ試合機会の少ないチームと対戦し、お互いの競技力を向上させるとともに、交流を深めることにある。最初は近畿地区を中心とした大学が集まり大会を行っていたが、今では全国からの参加があり盛大に行われている。各チームは1日に2～3試合をこなし、部員数の多い大学は2チームに分けて参加するなど、それぞれのニーズに合った試合が実現できるのが魅力である。

このように、近畿地区の学連の運営は、自分たちの好きなソフトボールについて、自分たちの思いや考えをもちより、工夫しながら自分たちの手で企画・運営をしている。学生主体による運営が選手のモチベーションを高め、一つの結果として、競技力ではここ数年をみると西日本インカレの優勝大学は全て近畿地区代表であり、全日本インカレにおいても好成績を残している。また、大学間を越えた交流が、学生一人一人の人間性を高める結果にもつながっている。近畿地区は、今後も学連主体による伝統ある運営を続け、学生スポーツのあるべき姿を追い求めていきたい。

中国地区の歩み

中国地区常任理事 逢坂 秀樹（鳥取短期大学）

中国地区大学ソフトボール連盟が創設され、初めて大学選手権大会へ出場したのは昭和51年の広島県呉市で開催された第11回大会である。当時は開催県出場枠があり、大学ソフトボールの普及に努めていたこともあって、創部間もない男子の広島大学と広島修道大学が出場しているが、その後この大会の開催は中国地区大学ソフトボール連盟の発展に大きく寄与した大会であったと思われる。また、女子では昭和55年に鳥取女子短期大学（現鳥取短期大学）が大学連盟に登録したのが初めである。

昭和56年には、男子チームが7と増えたが、女子は相変わらず1チームで、この年から始まった大学選手権大会の地区予選は、女子は登録チームが少なく中・四国・九州大会で出場権を競い、昭和59年に3チーム登録になるまで行われた。

現在（平成17年度）、中国地区の学連登録チームは男子12、女子6で登録チーム数はここ数年は安定しているが、チーム作り、クラブ運営には多くの大学が困難を来し、今日に至るまでには一時期は登録したものの男子で4、女子では5大学が未登録もしくは廃部となっている。また現在登録している大学においても部員数が少なく、微かな炎を消さないように細々と活動している大学も少なくない。

本地区では、長年連盟主催の大会は、立地条件や活動状況、経費の面から全日本大学ソフトボール選手権大会地区予選の1回であったが、活性化と交流・親睦を図るために、平成13年度より中国地区大学ソフトボール選手権大会を開催するようにした。この大会は、未登録チームであっても出場できる大会として位置づけ、これまでに未登録出場した2大学は、その後活動を強化し連盟への登録にいたっている。

また、本地区では学生リーグもなく、年間大会数や試合数が少ないため、競技力の向上には自助努力に頼らざるを得なかったが、大会を増やすことにより積極的な参加とチーム作り、そして活動への意識付けが出来たことは、今後の地区連盟の発展に少なからず好影響を及ぼすものと考えている。

また、本地区の競技レベルはさほど高くなく、全日本大学ソフトボール選手権大会での最高位は、男子で広島修道大学が3位に2回、女子では鳥取女子短期大学（現鳥取短期大学）がベスト4に1回進出しているだけである。本地区は、一般や高校チームの過去の戦績を見ると恵まれた環境にある。しかし、大学に関してはこうした土壌が十分に生かされているとはいえず、大学のトップで戦うには、実践力を備えた魅力あるチーム作りが急務と考えられる。各大学には、日々の鍛錬と新設の大会等を通して実践力を養い、大学のトップで戦えるチーム作りに励んで欲しいと考えている。

近い将来、必ずや中国地区大学連盟に所属するチームの中から、全日本を引っ張って行くことの出来るチームや選手が育ってくるものと期待している。

歴史を変え、歴史を創る四国地区

四国地区常任理事 山本 孔一（愛媛女子短期大学）

2001年、長年常任理事としてご活躍された川田健司先生（徳島文理大学）より常任理事という大役を引き継ぎ、四国地区での大学ソフトボールの発展及び競技力向上に努めてきた。

常任理事としての最初の仕事は、西日本大学選手権大会の開催である。行政とのタイアップにより愛媛県八幡浜市、宇和島市にて開催し、過去になく大盛況のうちに終了したものと確信している。地方での大会を誘致する事により町おこしの一旦を担い、施設の充実、経済の発展及びソフトボールの普及に充分寄与できたと考察する。これからの競技スポーツ、そして大学スポーツが現代社会に対する役割を充分垣間見られた大会であったと思う。40回を数える全日本大学選手権大会の歴史の中で、四国地区男子からは第22回大会での愛媛大学が3位、女子においても第39回大会での愛媛女子短期大学が3位といった結果を残している。男子においては競技人口も増加しつつあり、これからの競技力向上が期待される。まずはベスト8に毎年勝ち残れるよう四国地区学連も各大学へバックアップをしていく所存である。一方女子は、愛媛女子短期大学が創部から現在まで9年連続全日本大学選手権大会に出場し、うちベスト8が2回、第3位が1回と四国地区のチームとしては大健闘である。また今年度の全日本総合女子ソフトボール選手権大会においても愛媛女子短期大学は出場し、実業団チームを相手に初勝利を飾り見事1回戦を突破した。さらに愛媛女子短期大学は創部以来過去9年間、日本リーグへ約30人の実業団選手の輩出を成し遂げており、将来実業団選手を目指す高校生の受け皿としての地位を確立している。今後も四国地区から全国へ向けてソフトボールの普及及び競技力向上の発展を期待したい。

また、四国地区学連の主催大会である「大学女子学生ソフトボール大会in八幡浜」を立ち上げ、現在も開催し続けている事は本学連では画期的な事であると思っている。愛媛県八幡浜市の絶大なる協力を受け、本大会は「八幡浜夏祭り」の一環行事として開催されており市民も注目の的である。祭りに訪れたソフトボールを愛する老若男女の市民達が試合観戦をする雰囲気は大学選手権とは一味違った様相を醸し出しており、末永く本大会が開催していけるように八幡浜市との連携をさらに強め、努力していきたい。

最後に・・・四国地区では老若男女を問わずソフトボール愛好家が多く、本学連に期待する行政、愛好家達に出来る限り応え続けたいと思っている。前述したように地方での大会を誘致してくれている行政とタイアップを図りながら、四国地区がソフトボールのメッカになりうるよう、今までの歴史を変え、そして新たに歴史を創れるよう切磋琢磨していきたいと思う。

広いすそ野でさらなる向上を！

九州地区常任理事 中野 元 （熊本学園大学）

九州大会の歴史とその概観 九州地区大学ソフトボール大会の詳細については、すでに発行されている『九州地区大学ソフトボール大会・創立20周年記録集』（2001年）に書かれている。そこで、ここでは概略だけを簡単に紹介しよう。

まず、現在の九州大会（春季）は九州地区大学連盟と九州ソフトボール協会の共催大会として1982年に始まった。それ以前はといえば、学生が自主的に全日本大学選手権大会の予選会を運営していたようだ。ただ、どのような運営が行われていたのかはわからない。今後掘り起こさなければならぬ重要な学生の歴史の一部分である。

九州大会は2005年現在24回目を迎えた。この間、連盟への登録大学数（男子）は着実に増えてきた。大会発足当時は男子のみの10大学が参加しただけだった。その後、男子は90年頃から急に増えだし、最近では21を数えている。これに対して、女子は85年に2つの大学で始まった後、3ないしは4で推移する。ただ、2000年以降5の水準へと移行し、今後着実に増えると予想されている。

21世紀に入ってから新たな試みと特徴 九州ソフトボール協会のご理解と地元知覧町のご協力のもと、2001年に秋季九州大会が新たに始まった。特に、知覧町は町をあげて第1回大会を祝ってくれ、町民体育館を使つての大レセプションが開かれた。秋季大会では全日本選手権の予選を兼ねる春季と異なり、学生にも余裕があるため、学生の相互交流と競技力向上のためのいろんな企画を試みている。04年は遠投競技とホームラン競争を実施した。今年は、新たにベースランニング（1チーム4人）戦を行う予定である。

九州地区大学連盟は知覧町を本拠地としている。そうしたなかで、相互に連携をとって様々な取り組みを実施しつつある。その一つが、地元スポーツ少年団によるボール・ボーイとしての大会参加だ。大会初日の5会場の各第一試合で始球式を行うとともに、各グラウンドで少年たちが活躍する姿は普通の光景となった。他方、学生たちは、地元スポーツ少年団を招いてソフトボール教室を開いた。グラウンドいっぱいに盛況に行われた。こうした少年たちとの交流を通じて、最近では知覧町周辺の中学校、高校でソフトボール部が増えているといううれしい話を聞いている。こうした連携のなかで、九州の大学ソフトボールは体力、技術、マナー（態度）を着実に向上させつつあると信じている。

さらなる発展を目指して ～九州インカレの正式種目に～ こうした地道な活動が評価され、現在九州地域の大学がブロック毎に持ち回りで担当し開催している「九州地区大学体育大会（通称・九州インカレ）」にソフトボールが新たに正式種目として採用されることが決まった。このため、九州地区のソフトボール大会は06年の初夏にもう一つ加わり、年3回になる。

この大会は、基本的に担当地区の大学生が主体となって運営しているところに特徴がある。大会の「盛り上がり」は試合の内容によるが、それは実はどれだけ見る人に感動を与えられるかによっても左右される。学生たちには意欲的に大会とその環境づくりに邁進してほしい。連盟として大いにサポートするとともに、学生の活躍を期待している。

【先輩からのメッセージ】 ソフトボールへの思い ～大学のプレーヤー達に～

(財)日本ソフトボール協会技術委員長 三宅 豊

大学選手権が36回を数えたという。

私にとっては遠い昔のシーンではあるが、同じ舞台に1970年（第5回大会）から1973年（第8回大会）の4年間、日本体育大学の投手としてマウンドに立っていた頃を思い出します。

高校時代にソフトボールと出会った私は、自分なりの使命感のようなものを持って大学に進みました。それは、「ソフトボールをするのではなく、ソフトボールをつくる」という思いでありました。中学時代を野球部で過ごした私は、高校でソフトボール部に入部。その魅力を知ると共に、競技によって世間の認識・評価はこんなにも変わってしまうものなのかということを味わいました。後に続く者に少しでも歩みやすい道をつくっていききたい、そんな使命感が芽生えた時でした。どの競技でも皆同じ汗を流している。「スポーツに人気の大小、好きと嫌いはあっても差別はない」・「スポーツとはお互いがお互いを認め合うこと」、これが私のスポーツに対する原点であり、本当のスポーツとはそんな心の中に育った精神だと思っています。

高校時代は、「のろい」というイメージを打ち破るために、必死に速いボールを投げることに打ち込んでいました。まだ、群馬では誰もウインドミル投法でボールを投げる人がいない時代でした。ただ、腕を回して投げる投法があるということだけがヒントであり、ボールに全身の力を乗せるためにはどのように踏み出し、どのように腕を回すのが理想的なのか、中指の先に全部の力を集中させるためにはどのようなフォームが理想的なのかということを考え、練習に取り組んでいました。

そして、大学に進んでからはコントロールというものを追求しました。それはどこに投げようと配球を組み立てることができても、そこに投げるコントロールがなくては何にもならないからです。雨の日は、教室で靴の親指の横を擦り削りながら300球を投げ込む日々が続きました。ベースの上は、ストライクゾーンではない。それは、ヒット・ホームランゾーンであり、皮1枚をかすらせる技術を身に付けることに夢中になっていました。速球を内外角に50球ずつ100球、ライズボール50球、ドロップ50球、チェンジアップ50球、これらを組み合わせると、もう300球なのである。300球といっても1つの球種を1日たった50球しか投げられないのです。もっと投げたい、でもそれ以上はさすがに腕に負担がかかる。そんな毎日を送り、大学選手権4連覇を果たすことができました。

卒業後は、高校男子ソフトボール部の監督とともに群馬ソフトボールクラブでの二足のわらじを履き、引退するまでの20年間現役生活を続けました。この間一貫して持ち続けたものは「満足な体と十分な技術で常にマウンドに立つ」ということでした。人と人との間は信頼感でつながれている。つまり、当てになるか否かである。そのための自己管理、与えられたポジションへの責任だけは失わなかったつもりです。

そしてもう一つ、ユニフォームを着たときにずっと守っていたことがあります。それは、ソフトボールに対するプライドです。どういうことかと申しますと、「紳士たれ」というこ

とです。一般の人々にソフトボールへの理解を深めるためには、まずユニフォーム姿を美しくするということでした。ですから、会場地において上着のボタンを外し、裾を出して歩いたり、帽子をさかさまにかぶったり、サンダル履きや煙草を吸って歩く（煙草は吸いませんでした）ということは、ソフトボールは素晴らしいと観衆が思うのとは対極にあると思っていました。

野次（ヤジ）も同じです。私もよく野次られました。気心しれた相手からのジョークならともかく、グラウンドの外なら喧嘩になるような言葉は言うべきではないと思うし、卑怯だと思っています。私は、野次ってまでも勝ちたい相手と試合をするつもりはありませんでした。もし、そこまでして勝ちたいなら試合放棄して勝ちを譲ってもいいと思っていました。なぜなら、私が練習してきたボールをそんな相手に一球たりとも投げるのはもったいないと思っていたからです。

ソフトボールは、試合をして楽しいのです。相手は敵ではありません。同じ競技に楽しみを見いだした仲間なのです。

さて、大学の選手の皆さん。皆さんは次代のソフトボールを、社会を担っています。商業スポーツやマスコミ偏重の中、スポーツを正しくとらえる目、心を養い、本当のスポーツ文化を育てていって欲しいと思います。幸いなるかな、ソフトボールはスポーツに対して色々なことを教えてくれます。

私は日本協会の役員として、マスコミやJOCに男女でのソフトボールの理解を求めています。日本ソフトボール協会は日本男女ソフトボール協会であり、女子がオリンピックで銀メダルを獲ってもそれはまだ半分の出来事です。オリンピックは、男女で参加が基本精神なのです。競技の普及度によって出場国数に差があっても仕方ないと思います。しかし、競技があるのに参加資格を与えないというのは権利を与えないということです。オリンピックがスポーツの祭典を唱えるのなら矛盾していることだと思っています。ソフトボールは、女子には女子の魅力、男子には男子の魅力があるのです。互いを認め合うところに繁栄があるのです。後に続く人達の活躍に期待しています。

編集部註：本稿はウインドミルNo.5(01年)に掲載されたものである(肩書きは当時のもの)。

三宅豊先輩は昭和48年度日本体育大学卒業、第5～8回インカレ優勝投手

世界選手権準優勝に輝いて

宮平 永義（沖縄県立中部工業高校）

1992年、日体大3年の時、世界選手権大会に参加する機会をもらった。ソフトボールに携わって十数年、始めたのは兄の影響からという単純なきっかけからソフトボールの魅力にはまっていった。決して上背のあるわけでもなく、飛び抜けた素質があったわけでもない。ただやるからには誰にも負けたくないという思いと、他の選手より絶対沢山練習していたという結果が、このような機会を与えてくれたのだろうと思う。

さて、初めて参加した世界選手権（フィリピン・マニラ）、緊張した面持ちで臨んだ大会であったが、世界との差、自らの実力のなさ未熟さを痛感させられた。そして、経験のない自分は試合に出場した回数も少なく、いろいろな面において屈辱を味わった。

1996年、再び大舞台に立つ機会をもらった。前回の屈辱を挽回するため、チーム一丸となり、その結果初の3位入賞を果たした。米国ミシガン州ミッドランド市での「エッサッサ」は今でも忘れられない。幾度も国内外で合宿を行い、総合力を高めた結果が世界の三強（ニュージーランド・カナダ・アメリカ）の一角、アメリカを敗っての3位入賞であった。しかし、これだけ練習・強化合宿をこなし、苦労を重ねて勝ち取ったにもかかわらず、日本での情報・報道は皆無に等しかった。この年はオリンピックの年、正式種目になった女子はともかく、話題はメジャーな種目に目が向けられていた。男子ソフトボールは厳しい状況にあった。

20世紀最後の世界選手権大会（南アフリカ）、2年間に及ぶ選考会、若手とベテランとの世代交代の中、どうにか出場することができた。年齢的にも最後の大会という気持ちだった。ソフトボールを始めて最初の目標は日本一、そして全日本選手、それらが達成された今、さらに世界の頂点へを掲げて臨んだ大会であった。

今大会は各国とも予選を経てきたこともあり、ハイレベルな大会であった。予想通り、過去にも苦戦しているベネズエラに1対0と思わぬ敗戦を喫してしまった。しかし、スタッフ・選手が気持ちを切り替えた結果、破竹の6連勝、予選最終戦では難敵カナダを1対0で始めて全日本が敗った（この時点で予選は2位で通過）。この勢いに乗った全日本は、決勝トーナメントAパート1位のニュージーランドと対戦、幾度と対戦を重ねてきた相手だけにやりにくいチーム、しかし波に乗っている全日本は1対0でこれを敗る快挙。続く準決勝戦でもアメリカを2対0で敗り、世界の三強を全て敗る躍進で決勝進出を決めた。

決勝戦、やはり相手は敗者復活戦から勝ち上がってきたディフェンディングチャンピオンのニュージーランドであった。全日本は予選・決勝ラウンドの勢いで先行するものの、打力で優るニュージーランドは、ホームランを含め2対1と逆転、そのまま逃げ切られて2連覇を達成されてしまうとともに、世界チャンピオンという大魚を逃してしまった。

しかし、全日本チームは史上初の準優勝という歴史的偉業を達成することができたと思う。この8年間、3度の世界選手権大会に参加でき、最初は右も左も分からないまま過ぎ去り、世界との差を見せつけられ屈辱を味わったこと、年を重ねて練習・試合をこなし、追いつけ追い越せで我武者羅でやってきた8年間の想いが浮かぶと自然に涙が出てきた。今まで溜め込んできた苦しさ喜びの入り混んだ銀メダル、私にとってはソフトボール人生の集大成、一番重みのある大切なものを手にすることができた。

ところがである。前回の大会でもそうだったが、今回の世界2位の報道は、一部の人たちにしか伝わらなかった。なぜだろうと疑問に思う。マイナーだから、オリンピックの種目でないから取り上げてくれないのだろうか？ マイナーな競技はいくら努力、頑張っても成果を残してもこんなもんなのだろうか。同じ種目なのにこれだけの差がついてしまうとやる気も失せるし、競技人口（人気）も減るのではないだろうか。私としては、どうか男子にも目を向けて、早くオリンピック種目として取り上げてほしいものだと思う。これからの選手達に希望と夢のある舞台を作ってほしいと切に願います。

私はこれからも一選手・一指導者としてソフトボールに携わっていくつもりです。後輩

諸君の奮闘に期待します。私たちが取り逃がした大魚をぜひ日本に持ち帰ってください。

編集部註：本稿はウインドミル№.4 (00年)に掲載されたものである。

宮平永義先輩は平成4年度日本体育大学卒業

仲間とともに、いつでも、いつまでも夢を!!

全日本女子代表チーム主将 伊藤 幸子(トヨタ自動車)

このたびは、学連40周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。
大学を卒業して8年が経ちますが、今でも大学時代の仲間とは、年に一度は集まる機会を作っています。今では、家族をもった子、教員になった子、とさまざまですが、この時ばかりは大学時代に帰ったように、時間が経つのも忘れて夢中になって話しをします。今でも当時のように話しができるのは、4年間、共に生活をしたからではないでしょうか。当時は、当番で食事、掃除、寮の電話番号などをやりました。休みの日には、順番を決めるのにも、本気でじゃんけんをした思い出もあります。時には、喧嘩もしたと思います。そんな共同生活から、お互いを知ることができたのではないのでしょうか。そして、グラウンドでは、とにかく厳しく練習しました。どんなに苦しくても、最後までやりきること、を大切にしました。また、お互いを知ること、グラウンドでのプレイも自分の役割をしっかりと果たすことに集中し、それぞれのプレイが繋がって、チームの勝利につなげることができました。

私は今、トヨタ自動車女子ソフトボール部に所属し、日本リーグの1部リーグでシーズンを戦っています。また、2005年は全日本のメンバーとして、USカップ、ジャパンカップに参加し、宿敵アメリカを倒し、優勝という経験をすることができました。今、こうして素晴らしい経験ができるのも、大学時代に出会った仲間のおかげです。社会人になってから、何度も夢をあきらめかけた事があります。そんな時、いつもこの仲間が、「自分らしく」と声をかけてくれました。これは、卒業してそれぞれの道を、いつも「自分らしく」生きて行こうと、約束したことでした。素晴らしい仲間に出会い、そして、素晴らしい指導者に出会い、今、こうしてソフトボールを続けています。感謝の気持ちでいっぱいです。

2012年のロンドン五輪では、ソフトボールが除外されるという、衝撃的な出来事がありました。今、私達にできることは、日本で行われる全ての大会で、また、世界大会で全力プレイをして、たくさんの人達にソフトボールの楽しさを、見て、知ってもらうことだと思っています。

大学でも、地区大会、東インカレ、西インカレ、インカレがあり、国の代表として戦う世界大会も充実してきました。それぞれの目標に向かって、「自分らしく」全力プレイをして下さい。きっと、壁にぶつかった時も乗り越えていけるはずです。そして、目標は達成できるはずです。

最後になりましたが、学連の益々のご発展を心よりお祈りいたします。

編集部註：伊藤幸子先輩は平成9年度中京大学卒業

学生時代に学んでほしいこと ―NZ遠征での経験から―

(株)豊田自動織機女子ソフトボール部コーチ 木場 武文

私がメンバーの一人としてNZ遠征に参加させていただいたのは、第1回目（9年度）でした。現在は実業団のコーチをしておりますが、あのNZ遠征で体験・経験したことが「指導者の道」へ進んだ大きなきっかけとなったと言えますし、またNZで「指導者として常に意識すべき原点」を学ぶことができたと思っています。大学に入ってからソフトボールという競技に出会い、その魅力にひかれてのめり込んだ私でしたが、特にNZ遠征では、「走・攻・守」、「心・技・体」、「パワー・考え・メンタル」面の違いを感じると同時に、「ソフトボールの奥深さ」、「ソフトボールの楽しさ（楽しみ方）」を学びました。

「奥深さ」というのは、走攻守の細かい技術面に加えて、戦術・戦略の細かさ、勝つための準備等が明確に選手に伝わり、チームとして共通理解ができていることです。また、「楽しむ」というのは、相手チーム・相手投手・打者との「駆け引きを楽しむ」ことで、決して相手を見下すことなく（格下などと思わず）、またへらへらしたり冗談など言わず、どんな相手であろうが自分のベストプレイを心がけて全力でプレイすることだと学びました。また、試合終了後は勝敗に関わらず両チームがクラブハウスに集まって、お互いを称えあいコミュニケーションをとりながら情報交換をしたりと、試合中だけではない楽しみ方にも出会えました。現在でこそ、「クラブライフ」といった言葉を聞くようになりましたが、当時の私たちには非常に珍しい光景であったことを懐かしく思い出します。この「奥深さ」、「楽しみ方」をこれからの若い世代に伝えていくことこそが、ソフトボールの発展（国としての競技力向上はもちろん、参加層の拡大に対しても）につながると信じています。

また、ホームステイ先は5人家族でしたが、とても親切で心温かく接していただき、国籍は違えど人と人とのふれあいや想いというのは世界共通だと、体験・経験することによって再確認しました。このように、私はNZ遠征でソフトボールに対する考え方・取り組み方を見直すことができ、一人の人間としても「伝える心」、「受ける心」、「一つの心」の3つの「心」で気持ちを込めて接すれば、必ず想いは通じると強く感じました。

さて、学生時代の4年間は社会に出る前の猶予期間であるとも言われますが、鋭い感性を持っているこの時期だからこそ、「自分とは違う世界を垣間見る経験」を多くすることが重要だと今さらながら思います。外国に限らず日本国内にあっても、今まで慣れ親しんだ環境や仲間、指導者を離れて、新たな世界に飛び込むことは大変勇気がいることです。しかし、「井の中の蛙」になるなかれ！多様な価値観に出会い、その中で葛藤しながらこそ『自分』は作り上げられます。今年度もNZ遠征が企画されていると聞いています。参加される学生の皆さんは、この遠征で多くのことを学ぶと思いますが、見るものすべてに興味を持ち、自分から体験・経験して下さい。そして、そこから『ソフトボールをプレイ（遊戯）する人を育てる』ことのできる指導者が育つことを切に希望しています。

編集部註：木場武文先輩は平成9年度日本体育大学卒業

【対談】

大学連盟のこれから ～学連役員OG、大いに語る～

対談者：市川麻紀子（平成7年度学生委員長・東京学芸大学卒業）

渡邊真智子（平成17年度学生委員長・東京学芸大学4年）

森田啓之（事務局長・兵庫教育大学）

対談日：平成17年12月10日

森田：こんにちは。末井理事長（兵庫県立大学）から「学生役員が連盟事業に実質的に関わるようになった第一歩を踏み出させてくれたのは、市川さん！」という話をいつも聞いておりました。そこで、この40周年記念号の中で大学連盟の歩みを語るにふさわしい方として、今日お越しいただいた次第です。是非、役員当時のことを含めて、いろいろと話を伺いたいと思っています。

市川：ありがとうございます。光栄なことです。3年前の京都インカレ（大学選手権）の監督主将会議に、私が学芸大学の監督として参加した際に、「市川さんだよね」と末井先生から声をかけてもらったことが、大変うれしかったことを記憶しています。末井先生がそのようなお話をしてくれたのは、おそらく第1回の短大大会を私たち世代の学連委員が運営したからだと思います。

森田：渡邊さんは、現在の連盟の学生委員長として、過去のことも理解してもらいながら、今後について思っていることを話して下さいね。

渡邊：はい。よろしくお願いします。

森田：当時の大学連盟における学生役員はどんな感じでしたか？

市川：現在でこそ都学連はリーグ戦の企画・運営をほとんど自分たちの手でやっていますが、当時はリーグ戦の前に集まって組み合わせ抽選、そしてチームへの伝達といった調整・連絡係のような活動をしているレベルでした。そのような状況ですから、全日本学連に出た役員とは言え、全国規模の事業に対して何をどうしていいものやら？という感じでした。もちろんこのままではいけない！という気概だけはありましたけどね。したがって、全日本大学選手権大会、いわゆるインカレにも学生はまったくタッチしていなかったのが現状ですね。インカレは学生の大会なのに、そこで動いてくれているのは、開催地の地元高校生や中学生で、いっさい大学生は運営にタッチしていない。それはそれでありがたい環境（プレーに専念できる）かもしれませんが、学生としてできることはないのかなあと、インカレに参加しながら感じていました。これは私だけではなく、周りの数名の役員も同じようでした。今から思えば、若かったなあと（笑）。

そんなときに、短大大会を東京都学連で担当（企画・運営）してみないかという話を中野先生（国士舘大学）からいただきました。確か東京都学連の打ち上げのときに出た話だったと思います。先生は、かねてから「リーグ戦や諸大会の運営にもっと学生が参画できる体制を整えたい」と考えておられましたが、たまたま連盟独自の新しい事業として「短大大会」が検討され始めて、それを東京都中心にやってほしいという役員の先生方のご意

向だったと理解しています。

森田：そうですね。当時は、東西対抗を関西学連が中心になって運営していたので、この新しい短大大会は東京でという話で進んだと私も記憶しています。「学生にやらせたいという思い」と「その具体的きっかけとしての短大大会」、そして、それを「引き受けようという熱い学生役員が揃った」という3つがうまくマッチングしたんですね。

市川：ただ、この大会に限らずですが、当時の先生方の中には、「学生に任せて大丈夫だろうか？」あるいは「負担になるのでは？」という意識があったように私は感じていました。もちろん、先にも言いましたが、私たちメンバーは「よーし、学生でもできる！というところを見せよう」という勢いだけではありませんね。

森田：役員としての立場から擁護するわけではないのですが、「学生を信用していない」というよりも、あまり負担をかけて本業であるプレーに支障が出ないだろうかという判断もあったと思いますよ。学生にどんどん関わらせていきたいと思いつつも……

渡邊：そのことは私も分かります。今年のインカレで「諸会議の受付」さらには「開会宣言」もさせてもらいながら運営に少し関わりましたが、大きな大会になればなるほど、大会を成功させるためには学生には見えにくい、学生では対応しにくい色々な配慮が働いていることがよく分かりました。

市川：さて、大会についてですが、第1回大会が開かれたのは11月でした。数ヶ月前から参加申し込み、会場借り上げ、審判要請に至るまで、諸先生の力を借りながら、慣れない書類の作成もしながら準備しました。余談ですが、この短大大会と平行して、今回作成している記念誌の30年誌版を手伝った記憶もありますよ。

森田：数日にわたる大会をセットするのを一からすべて学生が中心になってやるのですから、いくら先生方の指導があったとはいえ、大変だったでしょうね。

市川：その中で中心的に関わった人間として感じたことは、まず、「学生が言うと、学生も動いてくれる、先生に言われるよりも学生が学生に説明する（学生でもできることを見せようよみたいな感じで）」と、やってくれやすい」ということですね。みんなも日頃から少なからず思ってることだからでしょうかね。あと短大大会の運営に関わって最もうれしかったことは、大会終了後に更衣室の片付けにいくと、ロッカーに参加大学の選手達からのたくさんのお礼の言葉が貼られてあったことです。「ありがとう。ご苦労様！」という言葉は何よりもうれしかったことを覚えています。「最初は、学生だってできるということを示そう」・「支えてくれた中野先生に恥をかかさないように」と一生懸命でしたが、やっぱり参加者からの「ありがとう」という一言のために、人の世話はするものだ実感しました。あと、審判さんからも「学生がよくやった」という評価をいただきました。

渡邊：今でも会議への出席も含めて、あまり学生が関わっていないという不満もたまに学生役員同士で言い合ったりしますが、市川さんの話を聞いてたら、相当進んだんだ！って感じですよ。（笑）。これから大人（教職員役員）があえてやらなくてもいいことは、できるだけ学生の手に乗ねてもらいながら、新しい発想を出していきたいですね。

森田：ただ全体を考えると、地区によっては地理的な条件などから、学生役員の活動が難

しいところもあるでしょうね。リーグ戦をやっている東京、東海、関西と他の地区ではその意識も若干異なってきますしね。その意味では、実際に活動しながら色々なノウハウを持っている地区を中心として、全日本学生役員のつながりが出来てくれればいいなあと個人的には思っています。違う言い方をすれば、ここまでお二人のお話を伺いながら頼もしく思うと同時に、すべてのプレーヤーにこの熱さはあるかどうか不安なのも事実なんです。いわゆる温度差みないな。

渡邊：分かります。学生の考えもいろいろですから、そんなに何でも検討事項を学生まで下ろしてなくてもいいという考えの人もいるでしょうしね。学連委員の「なり手」一つにしても、声をかけられないとやらない（やれない）部分が一般的にはあるかもしれません。たとえ、やってみようかな！と思っていてもなかなか言い出せないみたいな。

市川：そのために、学連の活動が有意義で、かつ楽しいという雰囲気作りをしないと継続や発展はないですよ。全日本大学ソフトボール連盟の重要な役員である自覚をいかに学生に持たせてもらえるかという部分が課題だと思います。

森田：そのために私たち教職員役員に望むことみたいな、ありますか？

市川：そうですね。短大会やリーグ戦を運営してずっと感じたことなのですが、学生役員は熱い思いこそありますが、やはり段取りなどは不慣れな点も多々あると思います。私も現在教員をしているので分かるつもりですが、子ども（学生）に主導権を握らせてやらせるよりも、自分が先にやってしまった方が早いと覚えることもあります。しかし、偉そうなことを言うことにはなりますが、教育や指導では「待つ」ことも大切だと実感しています。振り返ってみると、ソフトボールの運営では、中野先生が本当に根気よく一緒に寄り添って下さったと感謝です。

森田：つまり、学生にやらせてくれる先生であってほしいということですね、丸投げではなく。競技力アップへの支援だけでなく、企画・運営面にも及ぶ教育的配慮をほしいということですね。

渡邊：あと自分のチームだけでなく地区、さらには全日本という全体のことを論じてくれたりする役割を担ってほしいです。学生は一生懸命ですが、ややもすれば視野が狭くなって誤った判断をすることもなくはないですから。

森田：トータルに関われる指導者を求むということですね。厳しい注文ですが、私含めて、今後精進したいと思います（笑）。

森田：ところで、少し話を変えますが、市川さんは「学連HP」の存在を知ってますか？
大会やリーグ戦の速報も載っている。

市川：はい。うちのチームはどうなっているかなあと、たまに気になって見ますよ。よく考えると、10年前はメールもなかったですよ。携帯も。まだワープロとファックスの時代で。その意味では、これからこういった情報ツールをいかに活用して連盟の活動を広げていくかも大事だと思います。HP等で効果的に発信していくことによっても連盟の活動はより認知されますよね。この部分は、特にコンピュータ世代の学生役員に関わってもらえる余地はあると思います。

森田：まとめ的になりますが、これから学連はどういう方向で進んでいってほしいと思い

ますか？

市川：学生がお客さんになる大会はもういいかなあと。特に新しい大会は学生が直接運営に携わるなど、見えるところで活躍していったほしいですね。

森田：それに関わって、今後のインカレへの学生の関わりとして話題になっていることがあるんです。今年の大会の反省として、「報道機関への対応が不十分だった」ことが出ています。具体的には、本部に「報道担当」のような役割を作る必要を感じているのですが、それを各大学の事情を分かっている学生役員に担当してもらうのはどうだろうかという話が出ています。今後、インカレでも一層学生役員に関わっていったらうような方向を模索していこうと思っています。あと開催地区の大学に人的協力してもらう体制もできればいいなあと、もちろん学生さんの負担にならないように。今回の大会では関東地区の大学に大変お世話になりました。また、手前味噌ですが、私の所属する近畿地区では、学生中心の手作りの大会として、阪神オープンや国公立オープンを開催しています。そんな大会が増えて、インカレ出場チームだけでない学生同士の交流もできればいいですね。

市川：あと一つ気になることが……私が勤務する高校段階でもそうですが、少子化などによって、全体的にはチーム数や選手数が減少しています。大学生全体としてのパワーを考えた場合に、チーム数は無視できないと思います。上（競技力向上）はもちろんです、下の方向（底辺拡大かな）にも対応していったほしいなあとと思います。

渡邊：そうなんです。どちらかと言えば、下位のチームは学生だけでやっていますから、まさにいろいろなサポートが必要だと思うんです。

森田：そのとおりですね。これも関西女子の事例で恐縮なんですけど、上部につながらない大会への参加は「合同チーム」もOKにしています。春は9人揃わないけどどうしても出場したいというチームの思いを大切にしながら始めた試みですが、そのチームは今年などは2チームできるくらいの大所帯で、かつチーム力も確実にアップしてます。指導者がいない場合の学生チームは、一度絶ち消えたらまた立ち上げるのは中々難しいですからね。その火を消さないように、リーグや連盟で救済するような柔軟な考え方も必要だと思います。

森田：今日は学生役員の率直な意見を聞かせて、ありがとうございました。連盟が良くなるためにやるべきことはたくさんありますが、一つずつ取り組んでいきたいと思いますので、これからも連盟の活動を支援して下さい。

市川：はい。ありがとうございました。

渡邊：ありがとうございました。



【事業報告】平成17年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 末 井 健 作（兵庫県立大学）

本学連の事業である文部科学大臣杯第40回全日本大学ソフトボール選手権大会（共催：安中市・安中市教育委員会、主管：群馬県ソフトボール協会、安中市ソフトボール協会、後援：群馬県他）は、ソフトボール王国といわれる群馬県の安中市西毛運動公園野球場をメイン会場に実施しました。今大会はソフトボールの関心が高い地域での開催だけに、予想以上に多くのソフトボールファンが会場に詰め掛け大盛況でした。最終日の準決勝・決勝戦は、あいにく台風の影響により雨中の戦いとなりましたが、荒れたグラウンドを選手や大会関係者の献身的な整備のお陰で、何とか終わることができました。大会本部は、天候が悪いときに試合を開始すべきかどうかの判断を的確にしなければなりません、悩ましき問題です。男子においては、早稲田大学が念願の初優勝で大いに盛り上がりました。特に、早稲田大学は大学の応援団（チアリーダー・吹奏楽）が応援に来場し、雨中の熱戦をさらに盛り上げました。また、国士舘大学の応援団も雨の中、凛々しい学生服姿での応援が印象的でした。本大会は第40回を節目に大学生の大会らしい特性が見られたと思います。女子は大会史上初めて決勝戦に進出した創部6年目の東北福祉大学が初優勝しました。昨年は大谷女子大学が初優勝、一昨年は淑徳大学が初優勝、今後はますます新旧の厳しい戦いが予想されます。

また、昨年から本大会の運営に学生役員の役割が大きくなりました。開会式の開会宣言や監督・主将会議の受付、学生委員長の挨拶（マナーの徹底を呼びかける）など、学生役員の大会への関わりが増えました。今後、さらに学生役員の参加とその役割が重要になると考えられます。運営面では、スピーディーな試合運びが多く、サスペンデッドゲームもなくよかったと思います。主管くださいました群馬県ソフトボール協会・安中市ソフトボール協会および関係者の皆様の献身的な運営とご協力に厚く御礼申し上げます。

後援しました東日本、西日本大学選手権大会およびオープン大会は、関係者のご協力により成功裡に終わることができたが、今後、学生役員の運営面における役割がさらに増していくことと思われます。学生のリーダーを育てることも大学連盟関係者の責務であると考えています。

また、本年度は(財)日本ソフトボール協会のご支援により、8月に学生代表とオーストラリアおよびU23日本代表との強化試合に出場させることができました。来年度は第2回世界女子大学ソフトボール選手権大会が台湾で開催されます。今後は、国際大会で活躍できる選手を育成することにも取り組んでいきたいと思います。大学連盟としては日ソ協の男子へのご支援をお願いするとともに、大学連盟としても男女の選手の強化とソフトボールの普及発展に努めることが重要課題であると考えています。本年度は本学連として男子のニューランド遠征を実施しますが、その成果を期待したいと思います。

本学連は創設40年を迎え、さらなる発展を期して新たな展望を開いていきたいと思います。今後とも、関係者の皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成17年度 大学女子日本代表チームの報告

常任理事 久保田 豊 司（大阪国際大学）

平成17年度大学女子日本代表チームの選手選考会が、6月30日～7月2日まで静岡県伊豆市（天城ドーム他）において実施された。選考会は、全国15大学より投手10名、捕手7名、内野手28名、外野手11名の合計56名が参加し、シートノック・バッティング・紅白試合等を行い17名の代表選手を決定した。

代表チームは8月2日～5日まで、神奈川県厚木市及川球場にて強化合宿を行い、JAPAN CUPに出場したオーストラリア代表を招きU23日本代表の3チームで女子国際強化試合を3試合ずつ行った。戦績は、対オーストラリア代表と対U23日本代表とも、それぞれ1勝2敗の結果であった。代表メンバーと試合結果は次のとおりである。なお、U23代表には東北福祉大学の藤崎由起子選手が含まれていた。

監督：吉 野 みね子（東京女子体育大学）

コーチ：久保田 豊 司（大阪国際大学） 舟 山 健 一（東北福祉大学）

代表選手（守備位置別五十音順）

投手：上 村 さつき（大谷女子大学） 金 尾 和 美（日本体育大学）

清水 三 郷（園田学園女子大学） 西 口 有 紀（武庫川女子大学）

藤 原 麻起子（東北福祉大学）

捕 手：鹿 島 唯 （日本体育大学） 鯨 島 憂 子（園田学園女子大学）

内野手：小 幡 麻 由（日本体育大学） 緒 方 千 智（東京女子体育大学）

酒 井 かおり（東京女子体育大学） 鈴 木 紅 美（日本体育大学）

鈴 木 里 枝（東北福祉大学） 高 橋 あゆみ（日本体育大学）

外野手：青 木 朝 香（立命館大学） 城 戸 絵理沙（東京女子体育大学）

中 野 久 美（東京女子体育大学）

水 島 優 子（大阪国際大学短期大学部）※ケガのため合宿は不参加

試合結果

8月2日

オーストラリア：0 0 0 0 0 0 3：3

大学女子代表：0 0 4 0 0 0 0：4

（オ）●ベル、ジェントルートルネア

（大）○上村－鯨島

三塁打：小幡、二ワーウィック

8月3日②（6回時間切れ）

U23日本代表：0 0 0 0 3 0：3

大学女子代表：0 0 0 0 0 2：2

（U）○伊藤、山口－藤崎

（大）●藤原、西口－鯨

三塁打：鈴木里（大）、矢野（U）

8月3日①

大学女子代表：0 0 0 0 0 0 0：0

オーストラリア：1 0 1 0 0 0 x：2

（大）●金尾、清水、西口－鹿島、鯨島

（オ）○スメザーストーティットキューム

本塁打：ポーター、二ワーウィック

8月4日①（6回時間切れ）

大学女子代表：0 0 0 0 5 0：5

U23日本代表：0 0 0 0 0 0 0：0

（大）○上村－鯨島

（U）●後藤、秋元－宮本

二塁打：鈴木里（大）

8月4日②

オーストラリア：0020020：4

大学女子代表：2000100：3

(オ)ベレ、マッカラン、○ジェントルトルネア

(大)●藤原一鯨島

三塁打：鈴木里2(大)

二塁打：サマーヴィル(オ)、中野(大)

8月5日

大学女子代表：0001000：1

U23日本代表：000020x：2

(大)藤原、●上村一鯨島

(U)○山口、黒川、伊藤、秋元一宮本

三塁打：白井(U)

今回の強化合宿の設定は、オーストラリア代表・U23日本代表との試合であり、大学生にとっては十分すぎるほどの相手であった。オーストラリア代表に関しては、昨年の大学女子の世界大会でも感じたことではあるが、外人のパワーに関しては驚くものがあった。外国チームの印象は、今回のオーストラリア代表もそうであるが、パワー・スピードを兼ね備えた「投げる」・「打つ」・「走る」の基本的技術を獲得し、さらに上手さを追及している感じを受けた。U23代表は大学チームに比べて高い技術力を持っており、大学生にとっては同じ世代の高い技術レベルを近くで見られたことは大きな意味があった。大学チームは事前の練習もなく集合してすぐに試合となったが、それなりの力を出せたのではないかなと思われる。しかし、試合運び・技術的なことはさらなる努力が必要である。

今回の強化合宿は、今までにはない画期的な内容の設定であると強く感じた。オーストラリア代表では世界で戦うために必要なことが経験でき、U23では同世代の選手が多く、お互い切磋琢磨することで競技力を高めていくことが出来たことである。大学生にとっては、今回の短期的な強化合宿であっても、レベルの高いチームと試合をすることで競技力を高めることが十分可能である。代表チームの試合は、各実業団・大学が行っている試合とは違う緊張感があり、技術力向上のために今後もこのような試合の設定が必要である。そのためには、全日本大学連盟は、(財)日本ソフトボール協会とさらに連携を強め、選手の強化に努めていくことが急務である。

日本のチームは、今後は高い技術力をどう活かすかが世界で勝つための条件になると思われる。そのためには、ソフトボールは集团的スポーツではあるが、集団は個人の集合体と考えるなら、一人一人の選手が自立したプレイが出来なければ世界相手に勝つことは難しいと思われる。極端ではあるが、大学生が今回経験した集合して試合といった条件であっても、個々が自立しその条件に対応できるような力が勝つためには必要であると強く感じた。

U23を経験して

東北福祉大学 藤崎 由起子

今回、U23のメンバーとして天城合宿、カナダカップ、厚木合宿に参加させていただきました。その中で大学生は私だけで、周りは実業団の選手ばかりでしたが、「全日本」の

一員として実業団の選手の中でプレイできることは、自分の意識を高める上で、とても良い経験になりました。U23に入って心がけていたことは、何より大学生らしく、元気よく礼儀正しく振舞うこと、意識を高く持ち、何事も柔軟に吸収して行こうということでした。私の所属する東北福祉大学は、文武両道をモットーとし、部活動だけでなく勉学また私生活の過ごし方も徹底して生活をしています。決してずば抜けた素質のある選手が集まっているチームではありませんが、目標はインカレ優勝、日本一。大切にしていたことは礼儀、挨拶をしっかりとすること。なにより、ソフトボールをとったときに何も残らない人間にはならないような「人づくり」を私たちは意識してきました。さらに、「文武両道」以外にも、積極的にボランティア活動に励み、昨年末は新潟の中越地震の復興作業にも、積極的に参加してきました。

また、目標に向かって一日一日計画的に充実した生活をしていくために、準備をすること、予知・予測ができることを日ごろから意識して生活していました。そこで大切になってくるのが「日誌」を書くことでした。日誌は、一日一日を振り返るため、また明日の計画を立てるため、自分の目標をしっかりと見つめ直すためのものです。天城合宿、カナダカップ、厚木合宿でも毎日日誌をつけていました。日誌を書いていればその日に感じたこと、考えたこと、気がついたことを記録し、内省する資料として残すことができるからです。例えば、2005年7月6日の日誌。「カナダカップ2005」日本対カナダエリートの試合での出来事。先制したのはカナダエリート。3回に内野安打で1点を許したが、6回に同点に追いついた。しかし最終回にMeghonに1ボール2ストライクからインコースのやや高めをセンターオーバーで3ベース、Tamraに2ボール1ストライクからアウトローを左中間に2ベースを打たれ1点を許した。点が取れなかったら負ける、という展開のなかで7回裏、一死から打って繋いで逆転勝利した。カナダカップでは2回目の逆転勝利。このチームの強さは勢いにあると思う。どこのチームにもない「勢い」がこのチームにはある。時には観客席でみている人たちも味方につけていた。その力は、全員の一丸となった声であったり観客を魅了してしまうようなプレーであったりする。こういう強さもあるのだ。ということに気がついた。勢いがあるということは相手からみたらプレッシャーに感じる。しかしその勢いをつけるためにはゲームを分かっているないと勢いは作れない。「逆転するときにはこういうとき」ということを肌で感じる事ができた。

U23に入って実業団の選手と練習したり、外国のチームと試合をしたことで沢山の経験ができました。何より「全日本」としての自覚、責任がそこにはありました。「U23は上を目指してプレイする人間が入る場所。隙があれば「上」に付け込んでいく勢いと意識がなければこの場所にすらいはいることはできない」。最初のミーティングでそれを強く言われました。Aチームとは違って背負っている責任の重さの違いがあるかもしれませんが、U23はそれ以上に上に入る強い意識が必要でした。そんな中でプレイできたことはひとつの経験となりましたが、U-23でも言われたようにこの場所は決してゴールではなく上を目指すための場所です。今後も、今回書きとめた日誌を糧としながら、さらに食欲に精進し成長していきたいと強く感じています。



全日本男子代表チームを経験して

早稲田大学 中 島 幸 紀

日の丸のユニフォームに袖を通し、小さい頃からの夢の舞台にたった時の気持ちは、今でも言葉で言い表すことができない。日本の国歌が試合前に流れ、体全身に電流がはしるように鳥肌がたった。ジュニア世界選手権大会（オーストラリア・シドニー）で準優勝した時、世界との力・技術の差を感じたことをふと思い出した。あの時から成長した自分が世界という大舞台でどこまで通用するのかがキーポイントだった。アメリカ、ボツワナ、チェコ、オーストラリアと世界の強豪に対して投げる機会をいただいた。そして、今まで経験してきたことを踏まえ、今出せる力を思う存分出した。しかし結果は5位。これが日本の実力、自分の実力だと思う。通用した部分、通用しなかった部分があり、また新しい目標ができた。この大会を通してもうひとつもっと大切なことを経験できた。それは日ごろの環境（人・物・設備など）に感謝の気持ちを持つことだ。アフリカのチームは国からの資金・道具などにおいて苦労があり、日本がそして私自身がどれだけ裕福なのかということを感じさせられた。この気持ちをこれからも持ち続け日々精進し一人でも多くの人に恩返しができればと考えている。

※第11回世界選手権大会（'04年1月・NZ）第5位

※第1回パシフィックインターナショナル（'05年2月・NZ）準優勝

中京学院大学 鈴木 健 司

全日本メンバーの構成としては、社会人の先輩方に交じり大学生は2名とさびしかったが、2005パシフィックインターナショナルに出場し、チームとして活動して行く中で、先輩の方々から技術面は勿論の事、精神面の方も沢山勉強させていただきました。

オーストラリア・ニュージーランドは力的にも上であり、当初周りもそのような下馬評であった。しかし、小粒な全日本ではあったがオーストラリアには勝ち越し、ニュージーランドには負けはしたが、互角の戦いが出来、準優勝チームの一員に成れたことは幸せであったと思います。

全日本代表を通じて学んだ事は、決して最後まであきらめないこと、何事も皆で助け合い真剣に取り組めば強いチームにも勝てる、今出来ること、今しか出来ないことを悔いの残さないようにこれからの大学生活を過ごしていきたいと思います。皆さんも夢と希望を持ち続ければ必ず実現すると信じて頑張ってください、自分もこの経験を生かして頑張ります。

※第1回パシフィックインターナショナル（'05年2月・NZ）準優勝

第7回世界男子ジュニア選手権大会

会 期：2005年6月24日～7月3日

開催地：カナダ・プリンスエドワード島

1. 予選リーグ戦

参加国	日 本	ARG	AUS	CAN	CZE	DEN	MEX	N Z	USA	順
日 本		● 2-3	● 1-5	○ 3-0	○ 15-2	○ 15-0	○ 4-3	○ 8-1	○ 5-1	2
アルゼンチン	○ 3-2		● 2-5	● 3-6	○ 3-0	○ 19-0	● 5-7	● 1-7	● 1-8	7
A U S	○ 5-1	○ 5-2		○ 3-1	○ 7-0	○ 23-0	○ 6-3	○ 1-0	○ 5-0	1
カ ナ ダ	● 0-3	○ 6-3	● 1-3		○ 9-3	○ 11-3	○ 4-2	● 0-7	○ 6-2	4
チ ェ コ	● 2-15	● 0-3	● 0-7	● 3-9		○ 11-2	● 4-11	● 8-14	● 5-6	8
デンマーク	● 0-15	● 0-19	● 0-23	● 3-11	● 2-11		● 2-20	● 0-5	● 0-20	9
メ キ シ コ	● 3-4	○ 7-5	● 3-6	● 2-4	○ 11-4	○ 20-2		● 4-6	● 3-5	6
N Z	● 1-8	○ 7-1	● 0-1	○ 7-0	○ 14-8	○ 5-0	○ 6-4		○ 2-1	3
U S A	● 1-5	○ 8-1	● 0-5	● 2-6	○ 6-5	○ 20-0	○ 5-3	● 1-2		5

6月24日12:00～ 日 本：5 7 1 2 : 15 ○高橋・松田・濱口ー川村・根上
DEN：0 0 0 0 : 0 (規定により得点差コールドゲーム)
【本塁打】下戸・筒井 【二塁打】東

6月26日20:00～ 日 本：0 0 0 1 0 0 2 : 3 ○高橋ー川村
CAN：0 0 0 0 0 0 0 : 0
【本塁打】筒井

6月27日11:00～ 日 本：6 1 0 3 5 : 15 ○濱口・大山・坂本ー川村
CZE：0 0 2 0 0 : 2 (規定により得点差コールドゲーム)
【三塁打】北岡・伊藤

6月27日20:00～ MEX：0 1 0 0 1 1 0 : 3
日 本：1 0 0 1 0 2 x : 4 松田・○濱口ー川村
【本塁打】筒井②・青山

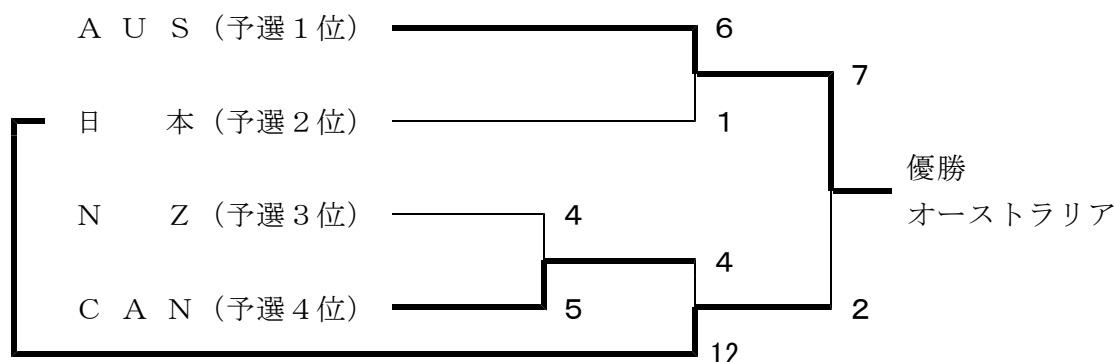
6月28日18:00～ AUS: 0001310: 5
日本: 0000001: 1 ●高橋・坂本ー川村

6月29日15:00～ 日本: 1100000: 2 ●松田・坂本ー根上
ARG: 002100x: 3

6月30日15:00～ NZ: 100000: 1 (規定により得点差コールドゲーム)
日本: 200024x: 8 ○坂本ー川村
【三塁打】澤田・筒井②

7月1日12:00～ 日本: 0001040: 5 高橋・○坂本ー川村
USA: 0010000: 1
【本塁打】川村・青山

2. 決勝トーナメント (プレイオフ)



7月2日20:00～ 日本: 0001000: 1 ●高橋・松田・大山ー川村・根上
AUS: 011031x: 6

7月3日12:00～ 日本: 022422: 12 ○坂本・高橋ー川村
(ブロンズメダルゲーム) CAN: 110200: 4 (規定により得点差コールドゲーム)
【二塁打】川村

7月3日15:00～ AUS: 2000032: 7
(ゴールドメダルゲーム) 日本: 0002000: 2 ●坂本ー川村
【二塁打】筒井

※詳細は http://www.softball.or.jp/topics/2005/nmjr_01_date.html#score10_2 参照

3. 最終順位

優勝: オーストラリア、準優勝: 日本、3位: カナダ、4位: ニュージーランド

4. 第7回世界男子ジュニア選手権大会出場選手

○京都産業大学 松田 光

私は、6月にカナダで行われた第7回世界ジュニア選手権大会に参加することができました。日本は、世界でも毎回よい結果を残しています。今回私も参加するにあたり、「絶対世界一になってやろう」という気持ちで臨みました。カナダに入ってから気持ちはどんどん高まってきました。カナダは日本と違いとても寒く、ベストコンディションにもっていくことが大変難しかったです。大会が始まり、一試合一試合試合をこなすごとにチームが一つになっていくことが目に見えて分かりました。結果は、オーストラリアに敗北を喫し準優勝でした。チームとしては、良い結果を残せましたが、自分自身としては満足のいくプレイができず、

大変悔いの残る大会となりましたが、とてもよい経験をすることができました。私を支えてくださった周りの方々に感謝しています。またこのようなチャンスがあれば、今回の経験を生かし、雪辱を果たしたいと思います。皆さんもいろいろなことに積極的にチャレンジし、自分の可能性を最大限に伸ばし、今後の人生を有意義に過ごしてください。

No.	位置	氏 名	所 属
1	投 手	松 田 光	京都産業大学
2	〃	高 橋 速 水	岡豊高校
3	〃	濱 口 寿 二	岡豊高校
4	〃	大 山 達 也	西日本シロアリ
5	〃	坂 本 俊 行	中京学院大学
6	捕 手	川 村 真 司	立命館大学
7	〃	根 上 翔 平	立命館大学
8	内野手	笠 間 弘 太	トヨタ自動車
9	〃	伊 藤 皓 二	岡豊高校
10	〃	澤 田 優 生	国土舘大学
11	〃	筒 井 拓 友	日本体育大学
12	〃	堀 田 哲 史	日本体育大学
13	〃	東 繁	福岡大学
14	〃	桑 子 恵 介	同志社大学
15	外野手	北 岡 大 輔	トヨタ自動車
16	〃	下 戸 成 之	豊田自動織機
17	〃	青 山 紀 彦	早稲田大学

○中京学院大学 坂本俊行

初めての海外試合を経験し、2月の全日本代表チームとニュージーランドでの合同合宿を経てジュニアの世界選手権大会(カナダ)へ参加し、準優勝できたことは自分としても素晴らしい経験をさせていただき、また、今後ソフトボールを続けていく中での大きなステップアップになったと感じています。

特に全日本男子との合同合宿で目の前で全日本の試合を見て迫力の違いに圧倒されました、又投手陣の先輩からもピッチングについて指導もいただいた事や鈴木先輩が頑張っている姿を見て自分も頑張らなければという気持ちが大きくなり世界選手権で頑張れたと感じます。

今後は、この経験を生かして大学でも頂点に立てるように頑張ります。

○立命館大学 川村真司

私は、今回の世界選手権に出場させていただき、たくさんのことを感じ、学ぶことができました。また、日本ではありえない10日間連続での試合やナイターでの試合、長期のコンディション持続や体調管理など苦労も多かったですが、貴重な経験ができたと思っています。

その中でも私は、キャプテンとして試合に負けて落ち込んでいるときなど、声を掛けチームを盛りあげたり、首脳陣と選手とのパイプ役として一生懸命キャプテンとしての役割を果たすことができ、チームをひとつにすることができました。また、キャッチャーとして5人の投手の長所を生かし世界の強豪チームと互角に戦うことができました。プレイとしては、高校2年のときから海外遠征に参加させていただいていたので、そのときの経験を活かし自信を持ってプレイすることができました。守備の連携も合宿のときから厳しくチェックしていたのでピンチのときでも動揺することなく、確実な守備をすることができました。

成績は2位という悔しい結果に終わりましたが、私は世界選手権という大きな大会で、自分らしく、また日本らしいソフトボールが出来たことはとても価値があり、すごいことだと思います。この経験を生かし次の世代に、私が学んだことを伝えていきたいと思います。

最後に、このようなチャンスを与えてくださった日本ソフトボール協会に感謝したいと思います。また、多くの方々にたくさんの支援、応援をして頂きありがとうございました。

○立命館大学 根上翔平

今回の大会は、私にとってとても貴重な経験になりました。高校から目標にしてきたので、選ばれた時はうれしかった反面、やっていけるかという不安もありました。5月の合宿で、スタッフの方の話を聞き、「このメンバーでやらなくてはいけない！自分もその中の一人なんだ！」と、自覚を持ちました。チームのみんなとも徐々に打ち解けていき雰囲気よく大会に臨む事ができたと思います。試合に出る機会は少なかったのですが、その中で打撃面、守備面ともに結果がよくなかったのが悔しい思いをしました。チームの成績は準優勝で、あと一歩だったのですが、素晴らしい成績だと思いました。この成績が出せたのも、選手が一丸となって戦ったこと、スタッフの方、協会の方、地元の人たちの協力があったのが成績だと思います。この大会で経験したことをこれからの練習等で活かしていきたいです。ありがとうございました。



○国士舘大学 澤田優生

私は、今回のジュニア選手権大会を終えて多くのことを学びました。日本ではめったに味わう事の出来ないことも学べたからです。特に、カナダに行つての食生活の面ではいつも同じ様な食べ物で少し困りました。しかし、スタッフの方々のおかげでお米など日本食が食べられたことをとても感謝しています。また、トレーナーの金城さんにも体調面での管理や体のケアなどをしていただいて自分の最高のパフォーマンスが出来ました。

今回この世界選手権でソフトボールを違う視点から見る事が出来ました。日本では技術面での向上が目立っていて、私は、外国のチームは技術ではなくパワーや体格で戦ってくると思っていました。しかし、外国人は技術面でも日本人に負けないぐらいのものを持っていました。セーフティバントやスラップも交えてきて、内外野の連携もしっかりしていました。それでも、私たちが良い結果を残せたということは絶対に負けないという精神面での強さだったと思います。

準優勝という結果で終わりましたが嬉しいというよりは悔しい気持ちのほうが大きいです。あと一步でオーストラリアに勝てなかった悔しさは一生忘れません。でも、これで終わりではなく、また上のレベルでソフトボールをやっていき次はU23代表やシニア代表のメンバーに選ばれるように頑張り、この悔しいという言葉の世界一という言葉に変えたいと思います。

○同志社大学 桑子恵介

今回世界選手権に参加させていただき、私自身のソフトボール人生においてとても良い刺激をうけ、良い経験が出来た。そして何より良き仲間に出会えたことを感謝しています。高校時代では皆敵同士であり、今回出会った仲間よりも上に行くために日々練習してきたが、全国各地からさまざまな個性を持つ仲間と出会い、共に異国へ行き世界一という称号を手にするため皆一致団結し、世界一を目指し一緒に戦ったことは、普通にソフトボールをしていたらできないことだと思う。少ない練習時間ながらも各々が役割を把握しチームに貢献しようと、志が同じであるから短時間で出来たことだと思う。このような自分にとってはレベルの高いところでソフトボールが出来たことを、監督やコーチ、ソフトボール協会の方々、高校の監督、両親、さまざまな方々への感謝の気持ちでいっぱいです。この大会に参加していなければおそらく、何不自由なく大好きなソフトボールをできることに多くの支えがあることには気付かなかったであろう。これらの経験を活かし今後のソフトボール人生を有意義なものにしていきたいと思う。そして果たせなかった世界一を果たせるように日々鍛錬し、またチャンスがあれば世界大会に参加したいと思う。



文部科学大臣杯第40回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成17年9月2日(金)～9月5日(月)

会場：群馬県安中市西毛総合運動公園他

大会講評

早稲田大学 悲願の初優勝おめでとう。

これまで、常に上位入賞してきたチームだけに初優勝とは意外であったが、創部40年目にして達成した歓喜の大きさは、誇らしげに「都の西北」を歌う選手たちの、その声の大きさに表れていた。

終わってみれば、早稲田は5試合で49得点。すべてを一人で投げきった中島投手は33イニングで被安打13、奪三振57、自責点2と、「勝つべくして勝った」というのはこういうことを言うのではないかと思える数字を残した。とくにエース中島は、台風の接近で前日から降り続けている雨の中にあっても、それを感じさせない集中力と球威で、居並ぶ強打者にもまったくバッティングをさせなかった。まさに一人舞台、まさに中島投手のための大会となった。

今大会は、参加32大学のうち国公立大学が7つも出場し、私立大学の優位が一般的であった各地区の勢力図が変化しつつあることを窺わせた。それは、大学連盟の方針によって活発になってきた各地区独自のオープン大会等の開催が、さまざまなチームの経験値を上げることに寄与しはじめたことによるものであろう。しかし他方で、出場選手25人枠に対してフル登録しているチームはわずか6つしかなく、総体的なメンバーの減少がこれまでのようなチーム力の維持を難しくさせ、バラツキはじめてきたこともその一因になっているとも思われる。20人に満たないチームも14を数え、その中には優勝経験のある東海大、立命館大、京都産業大なども含まれている。こういったことから、今後インカレにおいても勢力図が大きく変わっていくことが予想される。と同時に、大学ソフト界全体のレベル低下も懸念される。

さて、前述したような徴候から大量点差の試合が多い大会でもあった。とくに1回戦では前々回から導入された10点差コールドゲームが6試合もあり、全体でも5点差以上のゲームが17も見られた。天候に恵まれなかったことを差し引いても、大味であったことは否めなかった。

そういった中で、2回戦では好試合がいくつか見られた。大阪経済法科大と京都産業大の試合では、大阪経法の初回3ランのまま回が進みこのまま終わるかと思われたが、5回のソロと6回のソロを足場に3点をあげ一気に逆転。結局は諦めない大阪経法が最終回に再逆転し逃げ切るが、流れを変える本塁打の醍醐味を感じられた試合であった。一方、立命館大と早稲田大の試合ではうって変わって両エースによる息をのむ投手戦となった。唯一の得点が相手敵失による1点だけという、いずれも男子のインカレらしい側面を見せた迫力ある試合だった。

準々決勝では、王者・日体大を向こうに回して、近年急速に力をつけてきた国際武道大が前評判どおりの堂々とした戦いぶりを見せた。エース平山から11個の三振を奪われた日

体大は、立ち上がりに先制された3点が終盤まで重くのしかかり6回に2点を返すのがやっとであった。この撃破によって波に乗った国際武道大は、初の決勝戦へと一気に駒を進めることになる。

準決勝では、連覇をねらう国士舘・小田澤と早稲田・中島の壮絶な投手戦となった。降りしきる雨の中、足場の悪さをものとしめない両チームの堅守もさらに試合を引き締めた。しかし終盤、自らの暴投で先取点・追加点を与えて小田澤は力尽きる。前週の国体予選で負傷した腰の痛みを押しての力投であったが、最初から最後まで顔の歪みが消えることはなかった。万全の体調でインカレを迎えたかったに違いない。

近年、インカレと国体予選は隣接して開催されることが多くなった。今大会もその関係ではじめて9月に開催された。とくに今年度からは、大学生の国体予選出場が大幅に緩和され、多くの選手が国体予選と連続してインカレに出場している。こういった傾向はさらに強くなると思われる。大学選手に対して期待が大きくなるのは歓迎すべきことではあるが、それによって選手の負担が大きくなることには懸念を覚える。国体予選をにらんでのインカレ開催時期についてはもはや恒常的な課題となっているが、4年生にとっては最後の花道であるという視点で、さらに捉え直すことが求められよう。

(関東地区常任理事 高橋伸次)

試合結果 (立ち上がり表は53ページ参照)

★第1日目 (9月3日) 1回戦

No.1 【試合時間】2時間09分

信 州 大 学 : 0 1 0 2 1 0 1 = 5 ●岡田春輔－鈴木順也

岐阜聖徳学園大学 : 1 2 0 0 2 3 x = 8 ○細野浩正・足立 剛－小野寺 瞬

【本塁打】矢崎俊輔 (信)、月岡拓郎 (岐)

【二塁打】鈴木順也・関本研太 (信)、細野浩正・平松直人 (岐)

No.2 【試合時間】1時間57分

神 戸 学 院 大 学 : 0 3 5 1 0 1 5 = 15 ○近沢 恵－川西克志・三浦和也

香 川 大 学 : 0 0 0 1 0 0 0 = 1 ●片岡拓也－梶 弘明

【本塁打】川西克志②・矢野修平・古見用太② (神)

【三塁打】岡田行博 (香)、【二塁打】酒井健佑 (香)

No.3 【試合時間】1時間45分

早 稲 田 大 学 : 1 5 7 4 0 = 17 ○中嶋幸紀－岡野 聡

常 葉 学 園 大 学 : 0 0 0 1 0 = 1 ●古谷修平－山田祐輔

【本塁打】吉形太佑②・中嶋幸紀・高原辰徳 (早)

【二塁打】日暮真之・吉形太佑 (早)

No.4 【試合時間】1時間48分

立 命 館 大 学 : 0 0 4 0 2 0 0 = 6 ○小岩良行－川村真司

中 京 学 院 大 学 : 0 3 0 0 0 0 2 = 5 川井勇輝・●坂本俊行－前田貴則

【本塁打】尾崎和登 (立)、【三塁打】槇田直也・萩原雄也 (中)

No. 5 【試合時間】 1 時間26分

盛岡大学：00010=1 ●青沼宣陽・吉田 卓一坂井正明

九州産業大学：4090x=13 ○生田憲一・大西徹也一田部健介

【本塁打】後藤伸也（九）、【三塁打】生田憲一（九）、

【二塁打】田坂秀太（盛）、笹田裕一・信原貴史（九）

No. 6 【試合時間】 1 時間31分

大阪府立大学：00000=0 ●重棟祐輝一池田智仁

国士舘大学：4640x=14 小田澤・○鈴木・小田澤・諸見里一河合陽之介

【本塁打】黒石祥司・小田澤正紀（国）、【三塁打】浦本大嗣・熊谷優一（国）、

【二塁打】池田智仁（大）、熊谷優一・澤田優生（国）

No. 7 【試合時間】 1 時間37分

杏林大学：0010010=2 ●佐藤基成一須田達也

広島大学：002300x=5 ○下村和義一森 喜則

【本塁打】須田達也（杏）、【三塁打】林 祐貴（広）、【二塁打】下村和義（広）

No. 8 【試合時間】 1 時間41分

富山大学：0000000=0 ●西村真一・雨宮麗太一鈴木駿平

第一経済大学：001032x=6 ○山本慎也一勝瀬勇一郎

【本塁打】中村陽平（第）、【三塁打】須田幸一（第）、【二塁打】恩田一史（富）

No. 9 【試合時間】 2 時間29分

大阪経済法科大学：4002210=9 ○三好裕二一岩井裕一

広島経済大学：1012130=8 ●高垣裕吉・溝脇彩人一赤澤 翔

【本塁打】三好裕二（大）、東 祐介（広）、

【二塁打】安井 健・岩井裕一（大）、信藤英次郎（広）

No.10 【試合時間】 1 時間15分

中央大学：00000=0 ●金丸信也一堀口和保

京都産業大学：7500x=12 ○松田 光・植木嵩将・清水大輔一半田知義

【本塁打】永尾匡大・三浦桂三・半田知義（京）、

【三塁打】植木啓可（中）、三浦桂三（京）、【二塁打】立花雄希・植木嵩将（京）

No.11 【試合時間】 2 時間10分

筑波大学：3022020=9 ○池杉成弘一根本篤志

広島工業大学：3021100=7 ●野田祐介一中田健治

【本塁打】杉野慶明（広）、【三塁打】池杉成弘（筑）、岩尾洋一郎・杉野慶明（広）、

【二塁打】則本義仁・下野朋巳（広）

No.12 【試合時間】 1 時間31分

松 山 大 学 : 0 0 0 0 0 0 1 = 1 ●森山敦朗－山根和也

東 海 大 学 : 0 2 0 2 0 2 x = 6 ○大黒貴将－石井智史

【二塁打】高田庸平（東）

No.13 【試合時間】 2 時間09分

城 西 大 学 : 1 4 2 2 0 1 0 = 10 ○川島正嗣・柴田吉貴・植松洋介－稲木香介

関 西 大 学 : 0 0 2 0 0 0 0 = 2 ●吉田 誠－田代拓朗

【本塁打】磯貝雄祐（城）、【三塁打】稲木香介・悴田直明（城）

【二塁打】稲木香介・坂本雄祐・植松洋介（城）

No.14 【試合時間】 2 時間01分

沖 縄 国 際 大 学 : 0 0 1 0 0 0 0 = 1 ●西平力・久保田匠－漢那英樹・仲松健太

国 際 武 道 大 学 : 0 2 1 3 0 4 x = 10 ○平山遼司・山本逸平・西森彰悟－山本悠太

【二塁打】岩木秀矩・市原 玄（国）

No.15 【試合時間】 1 時間37分

福 岡 大 学 : 0 1 0 1 0 1 0 = 3 ●阿比留丈治・黒木一樹－平山 靖

日 本 体 育 大 学 : 0 0 2 0 2 0 x = 4 ○森 勇紀－井上大輔

【本塁打】平山 靖（福）

No.16 【試合時間】 1 時間43分

東 北 大 学 : 0 0 0 0 0 0 = 0 ●佐々木優太－栃尾直也・林 康之

熊 本 学 園 大 学 : 0 3 0 5 0 2 x = 10 ○鶴田龍馬・後藤眞輔－北岡純一

【本塁打】栃尾直也（東）、北本祐一郎・米良英起・北岡純一（熊）、

【三塁打】林田 剛・竹田篤史（熊）、【二塁打】米良英起・北岡純一（熊）

★第2日目（9月4日）2 回戦

No.17 【試合時間】 2 時間04分

神 戸 学 院 大 学 : 1 3 4 6 1 = 15 ○小藤 透・近沢 恵－川西克志・三浦和也

岐 阜 聖 徳 学 園 大 学 : 0 0 0 3 0 = 3 ●細野浩正・足立 剛－小野寺 瞬

【本塁打】川西克志・古見用太（神）、【三塁打】三島弘幸（岐）

No.18 【試合時間】 1 時間27分

立 命 館 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●森脇亮太－川村真司

早 稲 田 大 学 : 1 0 0 0 0 0 x = 1 ○中島幸紀－橘内基純

No.19 【試合時間】 1 時間53分

九 州 産 業 大 学 : 0 0 2 0 0 0 0 = 2 ●生田憲一－田部健介

国 士 舘 大 学 : 0 0 1 1 0 2 x = 4 ○鈴木裕視－河合陽之介

【本塁打】河合陽之介（国）、【三塁打】笹田裕一（九）、安井琢磨②（国）

【二塁打】能條和行（国）

No.20 【試合時間】1時間36分

広島大学：0000000=0 ●下村和義－森 喜則

第一経済大学：000202x=4 ○山本慎也・香月俊紀－勝瀬勇一郎

【本塁打】松下洋二（第）

No.21 【試合時間】1時間56分

大阪経済法科大学：3000002=5 ○三好裕二－岩井裕一

京都産業大学：0000130=4 ●植木嵩将－半田知義

【本塁打】西森淳平（大）、半田知義・松田 光（京）、【三塁打】永尾匡大（京）

No.22 【試合時間】1時間44分

東海大学：0110100=3 ○大黒貴将－石井智史

筑波大学：0000200=2 ●池杉成弘－根本篤志

【本塁打】岡田壮彦（筑）、【二塁打】悴田一明（東）

No.23 【試合時間】2時間16分

城西大学：0000000=0 ●川島正嗣・植松洋介－稲木香介

国際武道大学：012000x=3 ○山本逸平－土居 猛

【本塁打】岩木秀矩（国）、【二塁打】富井 剛（城）

No.24 【試合時間】1時間58分

日本体育大学：1030000=4 ○高橋・山城・柿沼－川崎・松本

熊本学園大学：1000100=2 ●鶴田龍馬－北岡純一

【本塁打】川崎智仁（日）、【二塁打】上野正典（日）

★第2日目（9月4日）準々決勝戦

No.25 【試合時間】2時間10分

早稲田大学：3020304=12 ○中島幸紀－橘内基純

神戸学院大学：0000000=0 ●小藤 透－川西克志

【本塁打】構 真吾・日暮真之（早）、【三塁打】中島幸紀（早）、近沢 恵（神）、

【二塁打】溝 真吾・中島幸紀（早）、久保川貴洋（神）

No.26 【試合時間】1時間43分

第一経済大学：0000000=0 ●山本慎也－勝瀬勇一郎

国士舘大学：003201x=6 ○小田澤直紀・鈴木裕視－河合陽之介

【本塁打】熊谷優一（国）、【三塁打】能條和行・澤田優生（国）、

【二塁打】河合陽之介（国）

No.27 【試合時間】 1 時41間分

大阪経済法科大学：0000300=3 ●中田啓太郎・三好裕二・岩井裕一

東 海 大 学：112220x=8 ○大黒貴将一石井智史

【本塁打】 倅田一明（東）、

【二塁打】 安井 健（大）、倅田一明・外所光明・石井智史（東）

No.28 【試合時間】 2 時間15分

日 本 体 育 大 学：0000020=2 ●山城・高橋・森一井上・川崎

国 際 武 道 大 学：120000x=3 ○平山遼司一土居 猛

【本塁打】 畠 久人（国）、【二塁打】 南条拓磨（日）

<準決勝>

★第3日目（9月5日）準決勝戦

No.29 【試合時間】 1 時間43分

早 稲 田 大 学：0000025=7 ○中島幸紀一橋内基純

国 士 館 大 学：0000010=1 ●小田澤直紀一河合陽之介

【三塁打】 萬野修平（早）、【二塁打】 能條和行（国）

<戦評> 昨日までの好天から一変して雨中の展開となった。5回までは早稲田・中島、国士館・小田澤両投手の好投でゼロ行進が続いた。早稲田は6回安打、四球、犠打、暴投で2点先取、7回には萬野の三塁打を含む3安打に、四球、暴投で5点を挙げ、守っては中島投手15奪三振の好投で決勝へ進出した。2点を追う国士館は浦本の適時打で1点差としたが、7回に5点を奪われ、二連覇の夢は消えた。（男子記録長 深澤）

No.30 【試合時間】 2 時間25分

東 海 大 学：0010000=1 ●大黒貴将一石井智史

国 際 武 道 大 学：010315x=10 ○平山遼司一土居 猛

【本塁打】 伊芸将志・市原 玄（国）、

【三塁打】 熊木隆人②（東）、土居 猛・岸本佳篤②（国）

<戦評> 国際武道大学長打攻勢で東海大学を圧倒。前半は東海大学押し気味の試合を造りつつも得点に結びつかず3回同点にしたのも東の間。4回伊芸・市原の連続ホームランで勢いを得、大黒投手を打ち込み更に1点を加えた。その後も長打攻勢が続き相手チームのエラー・暴投もあり、終わってみれば10点の大量点をあげ一方的な勝利をつかみ初優勝の夢に近づいた。4回東海大学大黒選手の打球を左肩に受けた平山投手、要所を奪三振で力投。（男子記録長 深澤）

★第3日目（9月5日）決勝戦（グラウンド整備により、試合開始14：00）

No.31 【試合時間】 2 時36間分

早 稲 田 大 学：0209001=11 ○中島幸紀一橋内基純

国 際 武 道 大 学：0000000=0 ●山本逸平・平山遼司一岸本佳篤

【三塁打】 吉村達彦（早）、【二塁打】 青山紀彦（早）

<戦評> 早稲田大学4回目の決勝進出で悲願の初優勝！

早稲田は2回三振振逃で敵失を絡め1安打で2点先取、更に4回には青山二塁打など打者一巡の猛攻で大量9点を挙げ中島投手の好投で二安打完封した。国際武道は健闘したが、2安打ではどうする事もできなかった。（男子記録長 深澤）

文部科学大臣杯第40回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成17年9月2日(金)～9月5日(月)

会場：群馬県安中市西毛総合運動公園他

大会講評

東北福祉大学 チャレンジ精神で勝ち取った初優勝おめでとう。

創部6年目のスピード優勝には驚くばかりである。これまで、日体大と東京女子体育大を中心に彩られてきたインカレの歴史も、過去2年は淑徳大、大谷女子大（日体大と両校優勝）、そして今回の東北福祉大と、フレッシュな勢力の出現で大きく動きは始めている。それは今大会への出場大学のチーム結成年を見てもよくわかる。

今大会では、出場24大学のうち創部10年以下のチームが10もあり、出場回数が5回に満たないチームも10を数えた。その半数はみごとに初戦を突破するなど、新しい顔ぶれがインカレを彩る色になりは始めている。ベスト8においても、その半数が創部10年以下か5回以下の出場経験チームであり、その中から創部2年目の清和大が3位に入賞し、東北福祉大が一気に頂点へと駆け上がった。まさに、名門勢力と新興勢力の対決が特徴的なインカレであった。

また、点差コールドゲームは全体でも4試合しかなく、各チームの力が拮抗していることを窺わせた。男子ではメンバーの減少による負の徴候が見られたが、女子では出場選手25人枠を満たしているチームが13もあり、20人以下のチームは8つにとどまっている。こういったことから女子チーム全体の充実ぶりがかいま見られ、多くの好試合が展開されたと言えるのではないだろうか。そういった中で、今回も優勝候補の一角と目されていた日体大が初戦で、東京女子体育大も2回戦で姿を消してしまった。女子インカレは、まさにどこが出てくるかわからない群雄割拠の時代を迎えたといえよう。

1回戦の試合で特に目を引いたのは、立命館大が名門・園田学園女子大をヒヤリとさせたゲームであった。立命館は初回、エンドランを交えた長短打で2点を先制し、5回にもタイムリーが出て完全にゲームを支配していた。しかし3点を追う園田は、その裏二死満塁からの連打で同点、7回二死二塁からの敵失で辛くもサヨナラ勝ちした。同点の殊勲打を放った鮫島は、それからというもの何か吹っ切れたように、日体大戦では2本の3ラン、福岡大戦では唯一の得点となるソロをかつ飛ばし、チームを決勝まで導いた。

東北福祉大は、日本リーグの東邦銀行に所属していた藤原投手と戸田中央総合病院に所属していた村中捕手の強力バッテリーを中心に、4試合を失点3、1試合2点以上の得点を許さない鉄壁のディフェンスであった。その上、安保・関の中軸には効果的な本塁打が随所に出るなど、投打がしっかりと噛み合ったゲームを展開した。このバランスの良さに準決勝の中京大、そして決勝の園田学園女子大も主導権を握ることなく完敗した。

ところで、こうした企業チームからの選手の流れは、企業スポーツが縮小している背景もあって、今後とくに女子において多く見られることになるかもしれない。大学ソフト界にとってはレベルの向上につながることであり歓迎したいが、大学がその受け皿になるかどうか、これからが問われることになるだろう。

今大会では、台風接近ためにときに激しい雨の中で準決勝・決勝が決行された。それでも選手たちは不満を訴えることなく、学生らしい真摯な態度で試合に臨んでくれた。またグラウンド整備にも積極的に協力する姿があちこちで見られ、インカレを自分たちのものとして捉えてくれていることに感動すら覚えた。それは出場選手に対してだけではなく、惜しくもインカレ出場を逃した地元県内の選手たちが大会役員として、大会準備から試合進行そして撤収と、最初から最後まで献身的に従事してくれたことには敬意さえ覚えた。惜しみないご協力のすべてに、心より感謝申し上げます。

こうした、ソフトを「する」だけでなく「ささえる」立場に立たせる意味を、それは将来の指導者を育てる意義の上でも、大学ソフト界は理解するとともに生かしていかなければならないのではないだろうか。

(関東地区常任理事 高橋伸次)

試合結果 (立ち上がり表は 53 ページ参照)

★第1日目 (9月3日) 1回戦

No.1 【試合時間】 1時間29分

中国短期大学: 00000=0 ●木下・岸本・久安ー岸本

東京女子体育大学: 4505x=14 ○中村・神山・水上・鶴澤ー中辻

【本塁打】石田 綾 (東)、【二塁打】酒井かおり②・中野久美 (東)

No.2 【試合時間】 1時間29分

東京学芸大学: 0000000=0 ●小川幸香・菅原千賀子ー石井由佳里

城西大学: 200020x=4 ○松永梨沙ー石川亜由美

【二塁打】石川亜由美・中島 あや (城)

No.3 【試合時間】 1時間40分

信州大学: 00000=0 ●遠藤聡子ー佐野美幸

桜花学園大学: 5366x=20 ○石川 茜・加藤あゆみー岩室 愛

【本塁打】羽佐田彩乃 (桜)、【二塁打】川島千明・大倉三佳・岩室 愛② (桜)

No.4 【試合時間】 1時間44分

新島学園短期大学: 0000000=0 ●佐藤・三原・岡部ー渋谷・木村

大谷女子大学: 002012x=5 ○上村さつき・乾 彩華ー橘 あかね

【二塁打】山本明香・田中清香 (大)

No.5 【試合時間】 1時間48分

大阪国際大学: 1100000=2 長谷川麻子・●島尾美穂ー中平裕子

日本女子体育大学: 0101001x=3 ○時田彩美ー粕谷香織

【二塁打】菅原ひろみ②・豊田愛里 (日)

No.6 【試合時間】 1時間45分

立命館大学: 2000100=3 ●中小路 梓ー松岡美帆

園田学園女子大学: 0000301x=4 清水美聡・難波葵・○山口憲子ー鮫島愛子

【二塁打】青木朝香・田村佳奈江・松岡美帆 (立)、鮫島優子 (園)

No. 7 【試合時間】 1 時間54分

清 和 大 学 : 4 0 0 0 0 3 0 = 7 ○忠田あかり・井上瑠唯一長谷川三菜子
東 海 大 学 : 0 0 0 0 1 0 0 = 1 ●安藤佳奈一幸 えりか・滝沢美穂
【二塁打】小林千里・根本美咲（清）

No. 8 【試合時間】 1 時間41分

富 士 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●三澤由佳・成田春菜一秋葉由香里
東 海 学 園 大 学 : 1 0 3 0 1 0 x = 5 吉田有希・○田中粧子一岩崎麻衣
【二塁打】宮下亜佐子（富）、峯田 梢（東）

★第2日目（9月4日）2回戦

No. 9 【試合時間】 2 時間06分

東 北 福 祉 大 学 : 0 3 0 0 0 1 0 = 4 ○藤原麻起子一村中 梢
東京女子体育大学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●中村・神山・水上・立石一中辻
【本塁打】安保樹里（北）

No.10 【試合時間】 1 時間46分

城 西 大 学 : 0 1 0 0 0 0 0 = 1 ●松永・黒木・岡田一石川・川口
龍 谷 大 学 : 1 1 2 0 0 0 x = 4 宮原紗耶香・○真辺晃羽一福本まどか
【三塁打】亀本伊純・西間綾香（龍）、【二塁打】佐藤睦美（城）、福本まどか（龍）

No.11 【試合時間】 1 時間29分

桜 花 学 園 大 学 : 0 0 0 0 0 0 1 = 1 ●石川 茜一岩室 愛
中 京 大 学 : 0 1 0 0 0 1 x = 2 ○東 瑠璃一岩切奈那
【本塁打】中田奈緒（中）、【二塁打】高橋愛菜（中）

No.12 【試合時間】 1 時間42分

早 稲 田 大 学 : 0 0 0 1 0 = 1 ●高久千秋一高柳暁子
大 谷 女 子 大 学 : 2 0 2 5 2 x = 11 ○上村さつき一橘 あかね
【本塁打】上村さつき（大）、【二塁打】上村さつき・田中清香（大）

No.13 【試合時間】 1 時間41分

日本女子体育大学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●時田彩美・黒木麻里一粕谷香織
福 岡 大 学 : 0 2 0 0 0 0 x = 2 ○竹川裕香・中村有佐一牧野志麻子
【本塁打】江藤真美（福）、【二塁打】田中 蘭・高牟礼志麻子（福）

No.14 【試合時間】 1 時間47分

日 本 体 育 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●五島麻美・飯島麻耶・金尾和美一田中美穂
園田学園女子大学 : 0 1 3 0 5 0 x = 9 ○山口憲子・清水美聡・難波 葵一鮫島優子
【本塁打】鮫島優子②（園）、【二塁打】松田杏子②（園）

No.15 【試合時間】 1 時間25分

清 和 大 学 : 1 3 1 2 6 = 13 ○忠田あかり・井上瑠唯一長谷川三菜子

岡 山 大 学 : 0 0 0 0 0 = 0 ●橋本尚子一木村由美

【二塁打】竹越友紀子・丹野朝香（清）

No.16 【試合時間】 1 時間40分

東 海 学 園 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●吉田有希・田中粧子一岩崎麻衣

愛媛女子短期大学 : 0 0 3 0 0 3 x = 6 ○竹田留衣・中島恵利奈一重松 文

【三塁打】加茂香織（愛）、

【二塁打】峯田 梢・武田裕子（東）、矢島亜衣・赤間恵梨香・太田秀美（愛）

★第2日目（9月4日）準々決勝戦

No.17 【試合時間】 1 時間47分

東 北 福 祉 大 学 : 1 0 0 0 1 0 0 = 2 ○藤原麻起子・新山亜也子一村中 梢

龍 谷 大 学 : 0 0 0 0 0 1 0 = 1 ●馬場由香理一福本まどか

【本塁打】藤崎由紀子（東）、岩崎恭子（龍）、【二塁打】上中菜津巳

No.18 【試合時間】 2 時間00分

中 京 大 学 : 0 0 0 1 3 2 0 = 6 ○東 瑠璃・濱地麻衣一岩切奈那

大 谷 女 子 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●上村さつき一橘 あかね

【三塁打】小島愛弓（中）、【二塁打】山本明香（大）

No.19 【試合時間】 1 時間20分

福 岡 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●竹川裕香一牧野志麻子

園田学園女子大学 : 0 0 0 0 1 0 x = 1 ○山口憲子一鮫島優子

【本塁打】鮫島優子（園）

No.20 【試合時間】 1 時間56分

清 和 大 学 : 0 0 0 3 0 0 0 = 3 ○忠田・井上瑠唯・忠田一長谷川

愛媛女子短期大学 : 0 1 0 0 0 1 0 = 2 新垣・●中島・竹田一重松

【二塁打】重松 文（愛）

★第3日目（9月5日）準決勝戦

No.21 【試合時間】 1 時間40分

中 京 大 学 : 0 0 0 0 0 0 1 = 1 ●東 瑠璃一岩切奈那

東 北 福 祉 大 学 : 3 0 2 0 0 1 x = 6 ○藤原麻起子・下川 溪一村中 梢

【本塁打】安保樹里・関 祐理子（東）

<戦評> 東北福祉は1回表、安打と失策の走者を一・三塁において五番安保がこの大会2本目の本塁打を左翼越えに放ち3点を先制した。さらに3回には四番関が本塁打で2点を追加し試合を決めた。

一方、中京は東北福祉の藤原の巧みな投球に走者を出すものの得点することができず、最終回代った下川から2本の内野安打で1点を返しただけで敗退した。

降り続く雨の中での試合であったが、両チーム選手の元気なプレイは好感が持てた。できれば良いコンディションの中で試合をさせてやりたかった。（女子記録長 佐藤）

No.22 【試合時間】 2時間08分

清 和 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 = 0 ●忠田あかり・井上瑠唯一長谷川三菜子

園田学園女子大学 : 0 0 0 1 1 0 x = 1 ○難波 葵・清水美聡一鮫島優子

【二塁打】根本美咲（清）、松田杏子・山本久美子（園）

<戦評> 押し気味に試合を進めていた園田学園女子は4回は一死後六番山本が安打で出塁すると代走に徳永を送り犠打で二死ながら二塁に進めた。この好機に代打園田が三遊間を破り徳永の好走塁で待望の1点を先制した。さらに5回には四球と敵失で1点を追加、5年振りに決勝戦に駒を進めた。

清和は再三走者を三塁まで進めるが、園田学園女子の忠田・井上の両投手の力投にかわされ得点を挙げることができず敗退した。（女子記録長 佐藤）

★第3日目（9月5日）決勝戦（グラウンド整備により試合開始14:00）

No.23 【試合時間】 1時間20分

園田学園女子大学 : 0 0 1 0 0 0 0 = 0 ○山口憲子一鮫島愛子

東 北 福 祉 大 学 : 0 0 3 0 0 0 x = 1 ●竹川裕香一牧野志麻子

【本塁打】鮫島愛子（園）

<戦評> 東北福祉大学 初優勝を飾る！！

3回表に1点を先行された東北福祉は、その裏すかさず反撃、八番村中の安打から犠打をはさんで藤崎の安打で同点とすると加藤の安打と関の犠飛で2点を追加し逆転した。その後は立ち直った藤原の好投で反撃を許さず、東日本大会に続いて堂々のインカレ初優勝を飾った。

一方、園田学園は3回池原・渡邊・山下の連打で1点を先制したが、その裏逆転されてからは1安打と抑え込まれ16年ぶりの優勝を逃した。（女子記録長 佐藤）



第51回全日本総合男子選手権大会

会期：平成17年9月23日（金）～25日（日）

会場：青森県三沢市南山多目的運動広場他

チーム名	対戦相手	スコア	順位
レッツフジト (大阪)	鳥取打吹ソフトボールクラブ (鳥取)	2-0	1
鳥取打吹ソフトボールクラブ (鳥取)	全国警備ソフトボールクラブ (鹿児島)	2-4	2
全国警備ソフトボールクラブ (鹿児島)	鳥建クラブ (静岡)	4-3	3
鳥建クラブ (静岡)	T・Cソフトボールクラブ (福島)	3-0	4
T・Cソフトボールクラブ (福島)	高知パシフィックウェーブ (高知)	1-8	5
高知パシフィックウェーブ (高知)	早稲田大学 (東京)	1-9	6
早稲田大学 (東京)	西加納クラブ (和歌山)	0-0	7
西加納クラブ (和歌山)	岡住 (大阪)	0-0	8
岡住 (大阪)	沖縄工芸村 (沖縄)	3-3	9
沖縄工芸村 (沖縄)	デンソー (愛知)	3-2	10
デンソー (愛知)	オール武生 (福井)	1-0	11
オール武生 (福井)	トヨタ自動車株式会社 (愛知)	1-5	12
トヨタ自動車株式会社 (愛知)	KOA株式会社 (長野)	1-1	13
KOA株式会社 (長野)	大阪グローバル (大阪)	1-11	14
大阪グローバル (大阪)	福島ソフトボールクラブ (福島)	6-0	15
福島ソフトボールクラブ (福島)	豊田自動織機 (愛知)	0-0	16
豊田自動織機 (愛知)	優美苑水流クラブ (長崎)	0-1	17
優美苑水流クラブ (長崎)	ホンダエンジニアリング(株) (栃木)	1-8	18
ホンダエンジニアリング(株) (栃木)	ウエストコンサルタント (愛媛)	11-3	19
ウエストコンサルタント (愛媛)	国際武道大学 (千葉)	10-1	20
国際武道大学 (千葉)	日新製鋼 (広島)	0-10	21
日新製鋼 (広島)	平林金属ソフトボールクラブ (岡山)	0-10	22
平林金属ソフトボールクラブ (岡山)	安芸ソフトボールクラブ (高知)	1-0	23
安芸ソフトボールクラブ (高知)	摂津ウイングス (大阪)	0-3	24
摂津ウイングス (大阪)	N e o 長崎 (長崎)	3-6	25
N e o 長崎 (長崎)	山梨クラブ (山梨)	2-1	26
山梨クラブ (山梨)	オール北九州 (福岡)	0-13	27
オール北九州 (福岡)	K G 石狩クラブ (北海道)	1-4	28
K G 石狩クラブ (北海道)	西日本シロアリ (鹿児島)	0-10	29
西日本シロアリ (鹿児島)	下関長州ソフトボールクラブ (山口)	3-0	30
下関長州ソフトボールクラブ (山口)	U S C 浦安 (千葉)	3-9	31

会期：平成17年9月23日（金）～25日（日）

会場：兵庫県豊岡市日高町但馬ドーム他

チーム名	勝	敗	引き分け	順位
日立&ルネサス高崎 (群馬)	6	13	0	1
旅亭紅葉・甲賀健康医療 (滋賀)	1	13	0	2
盛岡大学 (岩手)	3	0	12	3
静甲 (静岡)	13	0	1	4
ホンダ (栃木)	0	1	0	5
YKK (富山)	1	0	4	6
東芝北九州 (福岡)	0	4	0	7
日立ソフトウェア (神奈川)	14	0	0	8
大鵬薬品 (徳島)	5	0	0	9
佐川急便関東支社 (東京)	0	0	6	10
レオパレス21 (東京)	11	1	0	11
湘南ベルマーレ (神奈川)	1	1	0	12
神戸親和女子大学 (兵庫)	4	0	2	13
福岡大学 (福岡)	3	0	13	14
伊予銀行 (愛媛)	5	13	0	15
三洋島根 (島根)	3	0	5	16
新島学園短期大学 (群馬)	0	5	1	17
シオノギ製薬 (兵庫)	11	3	0	18
大和電気工業 (長野)	0	3	0	19
太陽誘電 (群馬)	11	1	0	20
富士大学 (岩手)	3	1	0	21
浅井学園大学 (北海道)	2	11	0	22
デンソー (愛知)	10	0	4	23
清和大学 (千葉)	0	0	5	24
中京大学 (愛知)	0	4	1	25
豊田自動織機 (愛知)	11	0	0	26
日立マクセル (京都)	0	0	5	27
戸田中央総合病院 (埼玉)	2	0	1	28
愛媛女子短期大学 (愛媛)	3	0	0	29
東海理化 (愛知)	2	0	0	30
呉カメラクラブ (広島)	0	5	0	31
トヨタ自動車 (愛知)	10	0	0	32

第20回東日本大学ソフトボール選手権大会

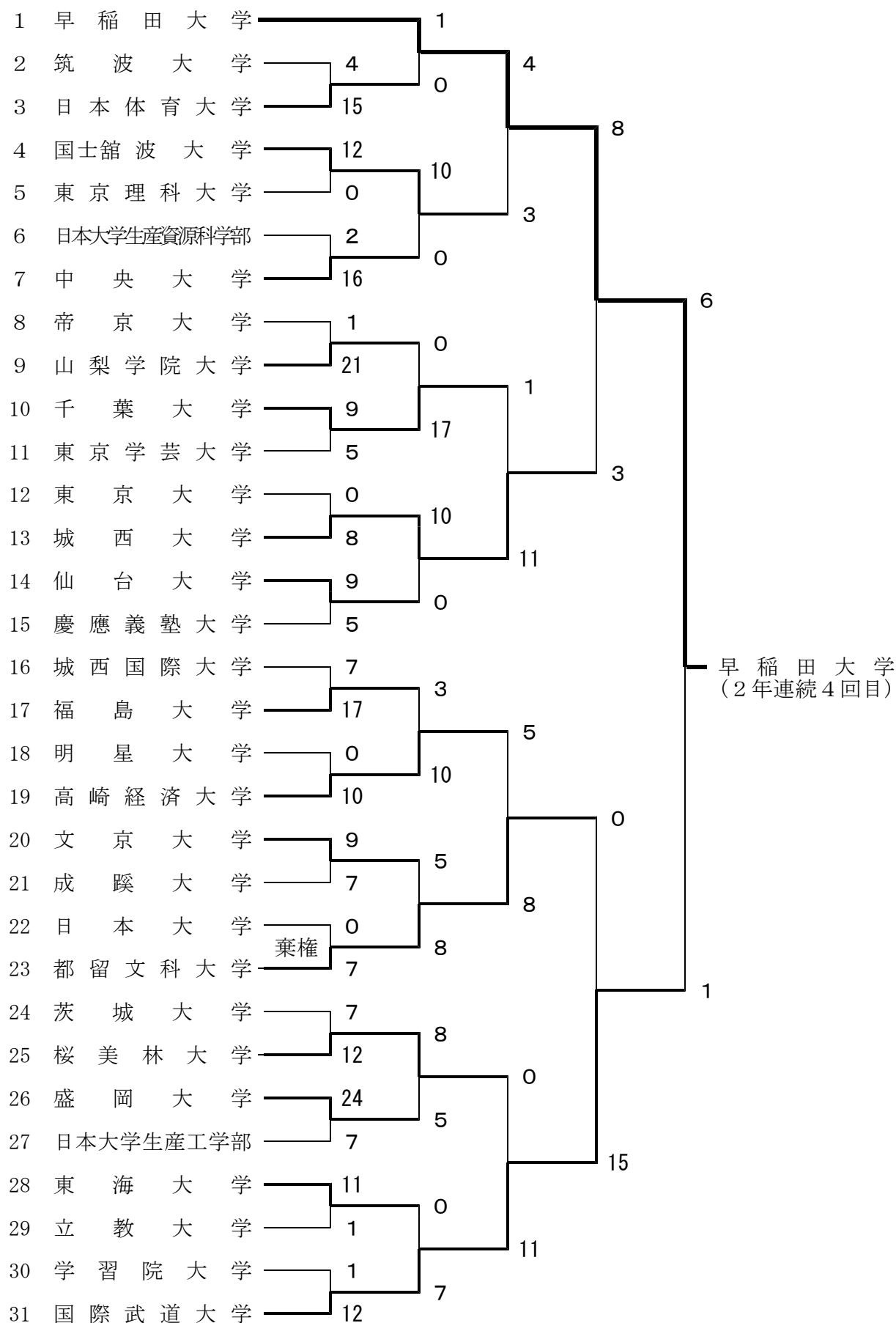
会期：平成17年8月5日（金）～8日（月）

会場：埼玉県坂戸市総合運動公園野球場 他

女子試合結果

順位	大学名	対戦相手	勝敗	得点	失点	得失点差
1	東京女子体育大学	東北福祉大学	勝	4	0	4
2	東京学芸大学	日本体育大学	勝	1	0	1
3	淑徳大学	日本体育大学	勝	8	0	8
4	千葉大学	日本体育大学	勝	0	1	-1
5	富士大学	日本体育大学	勝	7	1	6
6	日本体育大学	日本体育大学	勝	5	0	5
7	城西大学	日本体育大学	勝	2	0	2
8	清和大学	日本体育大学	勝	10	3	7
9	早稲田大学	日本体育大学	勝	9	3	6
10	仙台大学	日本体育大学	勝	2	0	2
11	東海大学	日本体育大学	勝	3	0	3
12	国士舘大学	日本体育大学	勝	8	0	8
13	国際武道大学	日本体育大学	勝	5	0	5
14	日本大学	日本体育大学	勝	4	0	4
15	筑波大学	日本体育大学	勝	3	0	3
16	盛岡大学	日本体育大学	勝	1	0	1
17	順天堂大学	日本体育大学	勝	2	0	2
18	中央大学	日本体育大学	勝	6	0	6
19	埼玉大学	日本体育大学	勝	8	0	8
20	文京大学	日本体育大学	勝	0	1	-1
21	学習院大学	日本体育大学	勝	6	0	6
22	城西国際大学	日本体育大学	勝	14	0	14
23	日本女子体育大学	日本体育大学	勝	9	0	9
24	相模女子大学	日本体育大学	勝	1	0	1
25	東北福祉大学	日本体育大学	勝	10	0	10

男子試合結果



第37回西日本大学ソフトボール選手権大会

会期：平成17年8月5日（金）～8日（月）

会場：宮崎県都城市梅北運動公園 他

女子試合結果

順位	大学名	対戦回数	勝利回数	敗戦回数	引き分け回数
1.	大谷女子大学	8	8	0	0
2.	香川大学	0	1	4	5
3.	大阪体育大学	12	7	1	0
4.	福岡大学	7	7	0	0
5.	天理大学	3	1	0	2
6.	東海女子大学	0	5	0	5
7.	中京大学	5	1	5	0
8.	岡山大学	0	1	5	0
9.	立命館大学	16	0	0	16
10.	東海学園大学	8	0	0	8
11.	鳥取短期大学	0	0	0	0
12.	龍谷大学	3	10	0	7
13.	園田学園女子大学	10	0	5	5
14.	九州女子大学	3	0	4	3
15.	常葉学園大学	5	0	4	1
16.	愛媛女子短期大学	9	0	4	5
17.	武庫川女子大学	4	7	0	3
18.	神戸親和女子大学	7	12	1	1
19.	桜花学園大学	12	14	0	0
20.	四天王寺国際佛教大学	1	1	0	0
21.	日本文理大学	14	1	0	13
22.	中京学院大学	8	1	0	7
23.	中国短期大学	0	0	0	0
24.	大阪国際大学	18	0	0	18

男子試合結果

順位	大学名	得票数
1	岐阜聖徳学園大学	16
2	鹿児島国際大学	9
3	広島大学	1
4	九州産業大学	10
5	同志社大学	4
6	中京大学	5
7	東亜大学	0
8	神戸学院大学	20
9	関西大学	23
10	大分大学	1
11	西日本工業大学	0
12	広島経済大学	10
13	京都産業大学	5
14	日本福祉大学	2
15	大阪大学	0
16	熊本学園大学	8
17	立命館大学	15
18	産業医科大学	0
19	長崎県立大学	25
20	松山大学	2
21	第一経済大学	10
22	佛教大学	1
23	龍谷大学	11
24	常葉学園大学	5
25	九州東海大学	3
26	香川大学	9
27	兵庫教育大学	0
28	中京学院大学	4
29	大阪経済法科大学	1
30	広島工業大学	8
31	四国学院大学	2
32	福岡大学	4

トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯 第4回大学ソフトボール東海オープン

会期：平成17年3月22日（火）～24日（木）

会場：安城市総合運動公園（6球場）

1. 男子の部

予選リーグ戦（3月22・23・24日）

順位決定リーグ戦（3月24日）

Aグループ	聖徳	慶應	愛学	順位
岐阜聖徳学園	—	○ 11-0	○ 11-0	1
慶應義塾	● 0-11	—	● 24-9	3
愛知学院	● 0-11	○ 24-9	—	2

1～3位	聖徳	関西	常葉	順位
岐阜聖徳学園	—	● 3-10	● 8-14	3位
関西	○ 10-3	—	● 4-9	2位
常葉学園	○ 14-8	○ 9-4	—	優勝

Bグループ	関西	中学	日福	順位
関西	—	○ 6-5	○ 7-2	1
中京学院	● 5-6	—	○ 2-1	2
日本福祉	● 2-7	● 1-2	—	3

4～6位	愛学	中学	南山	順位
愛知学院	—	● 0-11	○ 10-9	5位
中京学院	○ 11-0	—	○ 9-0	4位
南山	● 9-10	● 0-9	—	6位

Cグループ	常葉	富山	南山	順位
常葉学園	—	○ 10-0	○ 13-9	1
富山	● 0-10	—	● 3-7	3
南山	● 9-13	○ 7-3	—	2

7～9位	慶應	日福	富山	順位
慶應義塾	—	● 0-7	○ 7-0	8位
日本福祉	○ 7-0	—	○ 7-0	7位
富山	● 0-7	● 0-7	—	9位

※富山大学は順位決定リーグ戦を棄権

2. 男子個人表彰

最優秀選手賞：伊那大介投手（常葉学園大学）

敢闘選手賞：難波浩幸遊撃手（関西大学）

3. 女子の部

予選リーグ戦（3月22・23・24日）

順位決定リーグ戦（3月24日）

Aグループ	中 京	学 芸	桜 花	順位
中 京		○ 5 - 1	● 5 - 11	1 失点 12
東京学芸	● 1 - 5		○ 11 - 9	2 失点 14
桜花学園	○ 11 - 5	● 9 - 11		3 失点 16

1～3位	中 京	日女体	東 女	順位
中 京		● 0 - 7	○ 4 - 1	2位
日 本 女 子 体 育	○ 7 - 0		○ 4 - 3	優勝
東海女子	● 1 - 4	● 3 - 4		3位

Bグループ	東 学	日女体	仙 台	順位
東海学園		● 2 - 3	● 2 - 5	3
日 本 女 子 体 育	○ 3 - 2		○ 6 - 3	1
仙 台	○ 5 - 2	● 3 - 6		2

4～6位	学 芸	仙 台	国士館	順位
東京学芸		○ 4 - 2	● 4 - 16	5位
仙 台	● 2 - 4		△ 5 - 5	6位
国 士 館	○ 16 - 4	△ 5 - 5		4位

Cグループ	日 文	国士館	東 女	順位
日本文理		○ 12 - 4	○ 8 - 2	1
国 士 館	● 4 - 12		● 2 - 3	3
東海女子	● 2 - 8	○ 3 - 2		2

7～9位	桜 花	東 学	日 文	順位
桜花学園		● 6 - 9	○ 7 - 0	8位
東海学園	○ 9 - 6		○ 8 - 1	7位
日本文理	● 0 - 7	● 1 - 8		9位

※日本文理大学は順位決定リーグ戦を棄権

(日本文理大7～9位リーグへ、東海女子大1～3位リーグへ、国士館大が4～6位リーグへ)

4. 女子個人表彰

最優秀選手賞：齋木恵理香中堅手（日本女子体育大学）

敢闘選手賞：高橋愛菜右翼手（中京大学）

5. 概評 雨にたたられ、1日3試合連続という強行日程のチームもあったが、安城協会と審判員・記録員の皆様の献身的なご尽力で無事終了することができた。御礼申し上げます。

男子は、投手力に課題があり、やや大味な試合が目立った。女子は、1球が勝負を左右する緊迫した好試合が多かった。しかし、DPに関する新ルールを使いこなしているチームはともになく、戦術の高度化が望まれる。（東海地区大学ソフトボール連盟理事長 水谷 博）

第7回 千葉オープン
チャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

会 期：平成17年3月11日（金）・12日（土）

会 場：東京理科大学 野田グラウンド

Aブロック	都留文科	東京理科	高崎経済	勝敗	順位
都留文科大学	★	● 0－14	● 2－7	0－2	③
東京理科大学	○ 14－0	★	○ 10－9	2－0	①
高崎経済大学	○ 7－2	● 9－10	★	1－1	②

第Ⅲブロックへ

第Ⅰブロックへ

第Ⅱブロックへ

Bブロック	中央	埼玉	慶應義塾	勝敗	順位
中央大学	★	○10－0	○10－2	2－0	①
埼玉大学	●0－10	★	●3－5	0－2	③
慶應義塾大学	●2－10	○5－3	★	1－1	②

第 I ブロックへ

第Ⅲブロックへ

第Ⅱブロックへ

Cブロック	文教	東京	千葉	勝敗	順位
文教大学	★	● 3 - 10	● 0 - 15	0 - 2	③
東京大学	○ 10 - 3	★	● 3 - 6	1 - 1	②
千葉大学	○ 15 - 0	○ 6 - 3	★	2 - 0	①

第Ⅲブロックへ

第Ⅱブロックへ

第Iブロックへ

【第Ⅰブロック】

千葉大学 10
中央大学 3
東京理科大学 12
筑波大学 4

千葉大学・東京理科大学 6
6

中央大学 9
筑波大学 14

3位決定戦

波大学

第Ⅱブロック	高崎経済	慶應義塾	東京	勝敗	順位
高崎経済大学	★	○11－5	●3－4	1－1	②
慶應義塾大学	●5－11	★	●2－12	0－2	③
東京大学	○4－3	○12－2	★	2－0	①

【第Ⅲブロック】

文教大学 3
都留文科大学 19
埼玉大学 7
城西国際大学 0

埼玉大学 2
8

文教大学 10
城西国際大学 12

3位決定戦

城西国際大学

第2回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：平成17年4月9日(土)・10日(日)

会場：富山県富山市岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

1. 男子

チーム	富 山	金 沢	福 井	信 州	勝	敗	分	順 位
富 山		○ 18-4	○ 10-9	○ 7-0	3	0	0	優 勝
金 沢	● 4-18		● 16-19	● 8-31	0	3	0	4 位
福井県立	● 9-10	○ 19-16		● 2-9	1	2	0	3 位
信 州	● 0-7	○ 31-8	○ 9-2		2	1	0	2 位

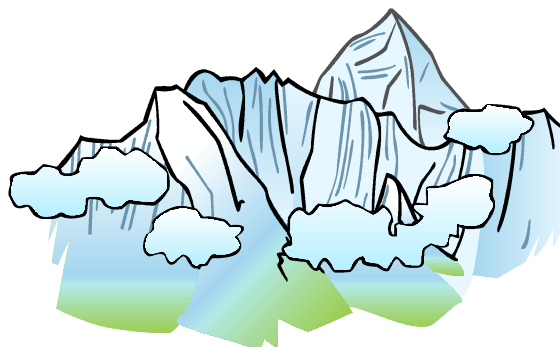
2. 女子

金沢大学	0	
中京女子大学	19	9
上越教育大学	0	9
富山大学	0	0
大阪国際大学	25	

中京女子大学
(初優勝)

上越教育大学	9	
富山大学	18	5
金沢大学	14	

金沢大学
(3位)



第6回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会 期：平成17年4月23日（土）～24日（日）

会 場：群馬県碓氷郡松井田町

横川ふれあい運動公園野球場・坂本スポーツ広場

西横野多目的広場野球場・小日向農村広場

【女子】

チーム名	相模女子	東北福祉	東海大学	国際武道	新島短大	城西大学	勝点	順位
相模女子大	*	●0-10	●0-14	●3-4	●1-5	●3-14	0	⑥
東北福祉大	○10-0	*	○11-0	○9-3	●1-3	○3-0	8	①
東 海 大 学	○14-0	●0-11	*	○5-1	○8-2	△0-0	7	②
国際武道大	○4-3	●3-9	●1-5	*	△2-2	△3-3	4	⑤
新 島 短 大	○5-1	○3-1	●2-8	△2-2	*	●0-10	5	④
城 西 大 学	○14-3	●0-3	△0-0	△3 0 3	○10-0	*	6	③

【男子】

(横川リーグ)

チーム名	信州大学	高崎経済大	千葉大学	筑波大学	勝点	順位
信 州 大 学	*	●0-14	●6-8	●1-6	0	④
高崎経済大	○14-0	*	△2-2	○4-2	5	②
千 葉 大 学	○8-6	△2-2	*	○5-4	5	①
筑 波 大 学	○6-1	●2-4	●4-5	*	2	③

※1～2位は直接試合の長打数による

(碓氷リーグ)

チーム名	関東学園大	長野大学	山梨学院大	城西大学	勝点	順位
関東学園大	*	○18-4	●7-11	●0-10	2	③
長 野 大 学	●4-18	*	●7-26	●1-13	0	④
山梨学院大	○11-7	○26-7	*	●3-20	4	②
城 西 大 学	○10-0	○13-1	○20-3	*	6	①

(順位決定戦) ◇1-2位決定戦：千 葉 大 学 5-11 城 西 大 学

◇3-4位決定戦：高崎経済大学 13-1 山梨学院大学

◆5-6位決定戦：筑 波 大 学 13-4 関東学園大学

◆7-8位決定戦：信 州 大 学 19-8 長 野 大 学

(最 終 順 位) 1位：城 西 大 学

5位：筑 波 大 学

2位：千 葉 大 学

6位：関東学園大学

3位：高崎経済大学

7位：信 州 大 学

4位：山梨学院大学

8位：長 野 大 学

第4回大学女子学生ソフトボール大会in八幡浜

会 期：平成17年8月19日（金）～21日（日）

会 場：愛媛県八幡浜市和歌山市民スポーツパーク 他

Aブロック	富 士	武庫川	国 際	国士舘	勝	負	分	勝点	点差	順
富 士 大 学		△ 1-1	*	△ 3-3	0	0	2	2	±0	2
武庫川女子大学	△ 1-1		● 1-2	*	0	1	1	1	-1	3
大 阪 国 際 大 学	*	○ 2-1		○ 7-2	2	0	0	6	+6	1
国 士 舘 大 学	△ 3-3	*	● 2-7		0	1	1	1	-5	4

Bブロック	園 田	親 和	国際短	勝	負	分	勝点	点差	順
園田学園女子大学		○ 3-0	○ 4-3	2	0	0	+6	+4	1
神戸親和女子大学	● 0-3		● 2-3	0	2	0	±0	-4	3
大阪国際大短大	● 3-4	○ 3-2		1	1	0	+3	±0	2

Cブロック	園 田	親 和	国際短	勝	負	分	勝点	点差	順
愛媛女子短期大学		○ 1-0	○ 7-2	2	0	0	+6	+6	1
日 本 文 理 大 学	● 0-1		○ 6-4	1	1	0	+3	+1	2
東 海 女 子 大 学	● 2-7	● 4-6		0	2	0	±0	-7	3

決勝トーナメント

大 阪 国 際 大 学	———	
大阪国際大短大部	——— 1	降
愛媛女子短期大学	——— 8	雨
日 本 文 理 大 学	——— 3	の
富 士 大 学	——— 0	た
園田学園女子大学	———	め
		中
		止

エキストラマッチ

神戸親和女子大学	——— 0	
国 士 舘 大 学	——— 2	0
東 海 女 子 大 学	——— 9	
武庫川女子大学	——— 3	2

【北海道・東北地区】

2005年度 東北地区大学ソフトボール春季大会

会期：平成17年5月3日(火)～5日(木)

会場：宮城県柴田町阿武隈川運動公園・八戸工業大学

男子リーグ戦

チーム	弘 前	八戸工	盛 岡	東 北	宮 教	仙 台	福 島	日大工	順位
弘 前		● 6－7	● 4－13						
八戸工	○ 7－6		● 2－8						
盛 岡	○ 13－4	○ 8－2			○ 17－2	● 0－10			2位
東 北					○ 19－1	● 1－5	● 4－11	○ 31－6	4位
宮 教			● 2－17	● 1－19			● 9－15	○ 13－12	5位
仙 台			○ 10－0	○ 5－1			○ 10－9	○ 13－0	1位
福 島				○ 11－4	○ 15－9	● 9－10		○ 15－14	3位
日大工				● 6－31	● 12－13	● 0－13	● 14－15		6位

※2～3位は得失点差による。弘前大と八戸工大は試合数が少なく順位がつかない。

女子リーグ戦

チーム	弘 前	盛 岡	富 士	東 福	仙 台	順位
弘 前		△ 1－1	● 0－8	● 0－22	● 1－8	5位
盛 岡	△ 1－1		● 2－17	● 0－7	● 1－7	4位
富 士	○ 8－0	○ 17－2		● 2－5	○ 3－1	2位
東北福祉	○ 22－0	○ 7－0	○ 5－2		△ 0－0	1位
仙 台	○ 8－1	○ 7－1	● 1－3	△ 0－0		3位

※4～5位は得失点差による。北海道浅井学園大と宮城教育大は欠場

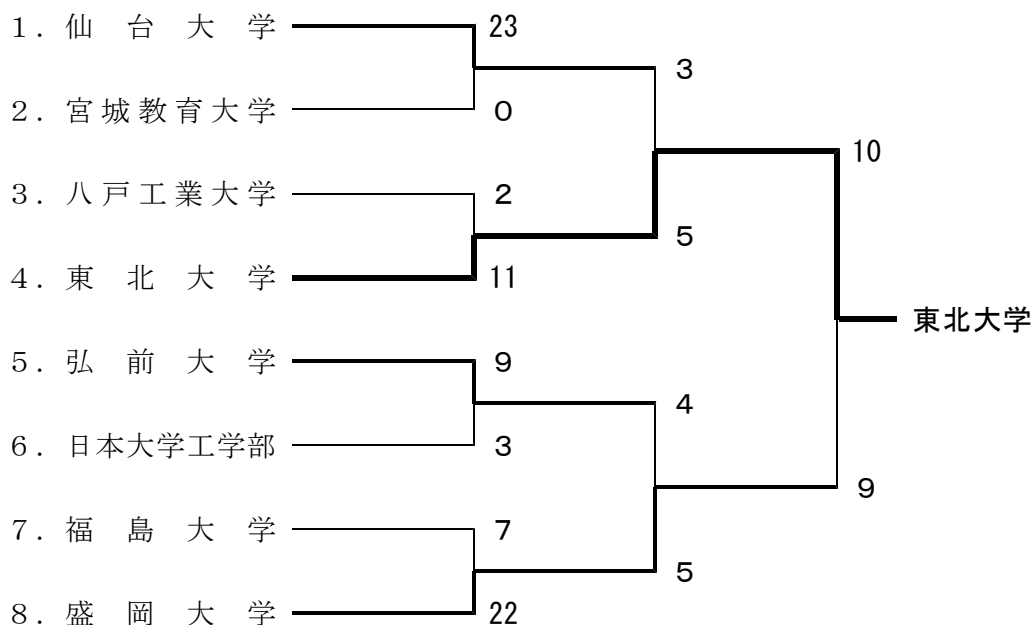


第40回 全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北予選会
兼、第26回 北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会

会期：平成17年 5月21日(土)～22日(日)

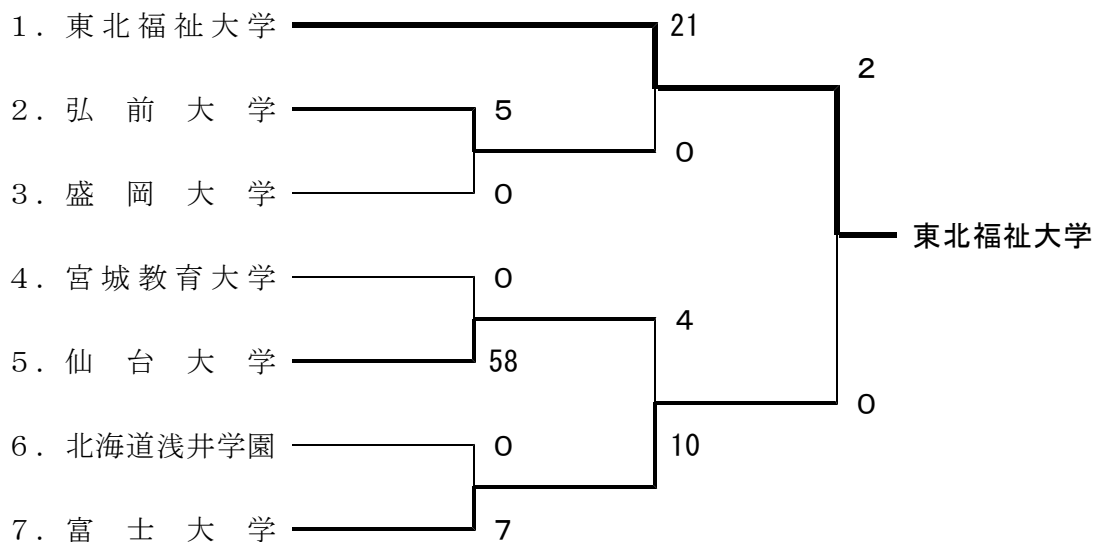
会場：岩手県石鳥谷町ふれあい運動公園

男子選手権



インカレ出場は、東北大学と盛岡大学

女子選手権



インカレ出場は、東北福祉大学と富士大学

総評：五月晴れの好天に恵まれ、男子は、準決勝でシード校の仙台大学が敗れる波乱があり、東北大学が3年ぶりに優勝、準優勝の盛岡大学は13年ぶりのインカレ出場である。一方女子は、7チームで熱戦が繰り広げられ、決勝戦は東北福祉大学がサヨナラ本塁打で昨年のリベンジを果たした。(記録長 佐藤健三)

平成17年度 東北地区大学ソフトボール秋季大会

会期：平成17年10月15日(土)～16日(日)

会場：宮城県蔵王町総合運動公園・サンスポーツランド蔵王

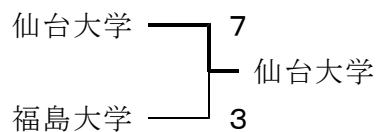
〔男子〕

・予選リーグ戦

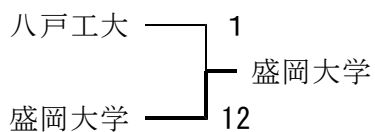
A	宮 教	仙 台	東 北	八戸工
宮城教育		● 0-13	● 0-8	● 3-11
仙 台	○ 13-0		○ 12-8	○ 10-3
東 北	○ 8-0	● 8-12		● 1-8
八戸工業	○ 11-3	● 3-10	○ 8-1	

B	日大工	福 島	盛 岡
日大工学		● 7-9	● 4-10
福 島	○ 9-7		○ 8-5
盛 岡	○ 10-4	● 5-8	

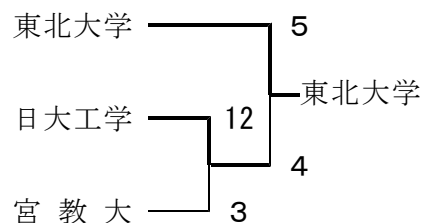
・1～2位決定戦



・3～4位決定戦



・5～7位決定戦



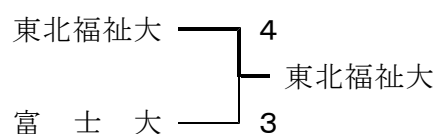
〔女子〕

・予選リーグ戦

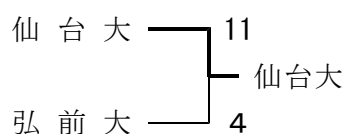
A	仙 台	盛 岡	東 福
仙 台		○ 13-0	● 0-8
盛 岡	● 0-13		● 8-12
東北福祉	○ 8-0	○ 8-12	

B	富 士	宮 教	弘 前
富 士		○ 9-7	○ 10-4
宮城教育	● 7-9		● 5-8
弘 前	● 4-10	○ 8-5	

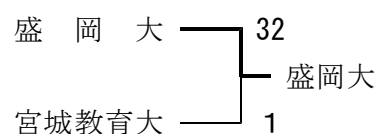
・1～2位決定戦



・3～4位決定戦



・5～6位決定戦



といった波乱も起こり、いよいよ結果の読めない戦国時代に突入した観がある。今夏のインカレには清和大学、城西大学、東海大学、新島学園短期大学が出場する。

いっぽう男子ではハイスコアの大味なゲームが散見され、全体的には投手力の強化が課題としてあげられよう。その中で、豊富な投手陣を擁する国際武道大学が今回も抜け出した。決勝戦では、中盤に流れを掴んだ城西大学に一旦は逆転を許すも、強力なリリーフ陣による継投で終盤の集中打を呼び込んだ。今後も1強時代が続くであろうことを予見させる戦いぶりであった。今夏のインカレには国際武道大学、城西大学、東海大学、筑波大学が出場する。

第5回関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成17年10月8日（土）～10月16日（日）

会場：埼玉県・毛呂山町

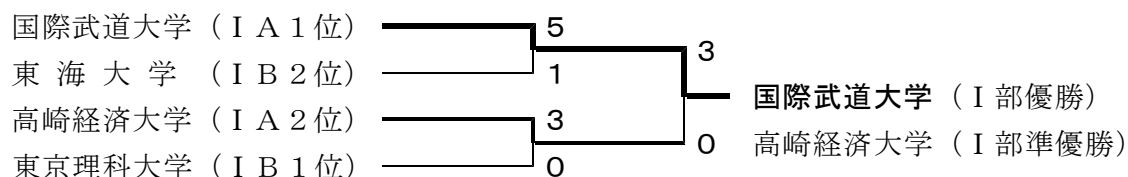
【I部Aリーグ】

チーム名	高崎経済	筑 波	国際武道	埼 玉	勝一負	順位
高崎経済	*	○ 9 - 4	● 0 - 1	○ 6 - 0	2 - 1	2 位
筑 波	● 4 - 9	*	● 0 - 7	○ 1 - 0	1 - 2	3 位
国際武道	○ 1 - 0	○ 7 - 0	*	○ 7 - 0	3 - 0	1 位
埼 玉	● 0 - 6	● 0 - 1	● 0 - 7	*	0 - 3	4 位

【I部Bリーグ】

チーム名	東京理科	千 葉	東 海	城 西	勝－負	順位
東京理科	*	○ 6－3	○ 5－2	○ 9－5	3－0	1 位
千 葉	● 3－6	*	● 9－16	● 0－7	0－3	4 位
東 海	● 2－5	○ 16－9	*	○ 7－2	2－1	2 位
城 西	● 5－9	○ 7－0	● 2－7	*	1－2	3 位

【Ⅰ部決勝トーナメント】



東 海 大 学	_____	3	東 海 大 学 (I 部 3 位)
東京理科大学	_____	1	東京理科大学 (I 部 4 位)

【I 部順位決定トーナメント】

筑 波 大 学 (I A 3 位)	_____	4			
千 葉 大 学 (I B 4 位)	_____	2		5	筑 波 大 学 (I 部 5 位)
埼 玉 大 学 (I A 4 位)	_____	1			
城 西 大 学 (I B 3 位)	_____	2		2	城 西 大 学 (I 部 6 位)
千 葉 大 学	_____	7			千 葉 大 学 (I 部 7 位)
埼 玉 大 学	_____	0			埼 玉 大 学 (I 部 8 位)

※城西大学、千葉大学、埼玉大学は入れ替え戦へ

【II 部A リーグ】

チーム名	芝浦工業	都留文科	城西国際	中央学院	文 教	勝-負	順位
芝浦工業	*	● 6-10	○ 14-3	○ 13-4	● 0-10	2-2	3 位
都留文科	○ 10-6	*	○ 15-14	○ 13-3	● 3-10	3-1	2 位
城西国際	● 3-14	● 14-15	*	● 8-15	● 10-14	0-4	5 位
中央学院	● 4-13	● 3-13	○ 15-8	*	● 1-14	1-3	4 位
文 教	○ 10-0	○ 10-3	○ 14-10	○ 14-1	*	4-0	1 位

【II 部B リーグ】

チーム名	茨 城	東京国際	山梨学院	日大生資	勝-敗	順位
茨 城	*	○ 11-7	● 5-14	● 8-11	1-2	3 位
東京国際	● 7-11	*	● 4-28	● 8-22	0-3	4 位
山梨学院	○ 14-5	○ 28-4	*	○ 7-5	3-0	1 位
日大生資	○ 11-8	○ 22-8	● 5-7	*	2-1	2 位

【II 部決勝トーナメント】

文 教 大 学 (II A 1 位)	_____	13			
日 本 大 学 (II B 2 位)	_____	4		5	山梨学院大学 (II 部優勝)
都留文科大学 (II A 2 位)	_____	6			
山梨学院大学 (II B 1 位)	_____	7		12	文 教 大 学 (II 部準優勝)

日 本 大 学 4
都留文科大学 14 都留文科大学（Ⅱ部3位）

※山梨学院大学、文教大学、都留文科大学は入れ替え戦へ 日 本 大 学（Ⅱ部4位）

【Ⅱ部順位決定トーナメント】

芝浦工業大学（ⅡA3位） 14
東京国際大学（ⅡB4位） 21 8
中央学院大学（ⅡA4位） 1 17 茨 城 大 学（Ⅱ部5位）
茨 城 大 学（ⅡB3位） 2 東京国際大学（Ⅱ部6位）

芝浦工業大学 2
中央学院大学 6 中央学院大学（Ⅱ部7位）

芝浦工業大学（Ⅱ部8位）、城西国際大学（Ⅱ部9位）

【Ⅰ・Ⅱ部入替戦】

埼 玉 大 学（Ⅰ部8位） 9
山梨学院大学（Ⅱ部1位） 0 埼 玉 大 学（Ⅰ部残留）
千 葉 大 学（Ⅰ部7位） 9
文教大学（Ⅱ部2位） 0 千 葉 大 学（Ⅰ部残留）
城 西 大 学（Ⅰ部6位） 19
都留文科大学（Ⅱ部3位） 0 城 西 大 学（Ⅰ部残留）

【最終結果】

Ⅰ部：第1位 国際武道大学
第2位 高崎経済大学
第3位 東 海 大 学
第4位 東京理科大学
第5位 筑 波 大 学
第6位 城 西 大 学
第7位 千 葉 大 学
第8位 埼 玉 大 学

Ⅱ部：第1位 山梨学院大学
第2位 文 教 大 学
第3位 都留文科大学
第4位 日本大学生物資源科学部
第5位 茨 城 大 学
第6位 東京国際大学
第7位 中央学院大学
第8位 芝浦工業大学
第9位 城西国際大学

【表彰選手】

Ⅰ部：最優秀選手 高 嶋 親 史（国際武道大学2年：捕手）
優秀選手 佐 土 原 剛（高崎経済大学3年：投手）

Ⅱ部：最優秀選手 陶 山 淳 悟（山梨学院大学4年：投手）
優秀選手 笠 原 雅 広（文教大学2年：投手）

第5回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成17年10月8日（土）～10日（月）

会場：群馬県・安中市ひさよし運動緑地

【Aブロック】

チーム	城西国	埼 玉	清 和	東 海	淑 徳	国際武	勝	分	敗	順
城西国際		△ 4－4	● 0－7	● 0－4	● 1－6	● 2－9	0	1	4	6位
埼 玉	△ 4－4		● 0－4	● 0－6	● 0－4	○ 5－4	1	1	3	4位
清 和	○ 7－0	○ 4－0		● 2－3	● 0－2	○ 9－2	3	0	2	3位
東 海	○ 4－0	○ 6－0	○ 3－2		● 0－3	○ 3－1	4	0	1	2位
淑 徳	○ 6－1	○ 4－0	○ 2－0	○ 3－0		○ 8－1	5	0	0	1位
国際武道	○ 9－2	● 4－5	● 2－9	● 1－3	● 1－8		1	0	4	5位

【Bブロック】

チーム	筑 波	新島学	文 教	相模女	城 西	順天堂	勝	分	敗	順
筑 波		● 0－6	○ 5－2	● 1－5	● 0－7	● 0－1	1	0	4	5位
新島学園	○ 6－0		○ 9－0	○ 7－2	● 0－3	○ 1－0	4	0	1	2位
文 教	● 2－5	● 0－9		△ 0－0	● 1－2	● 1－4	0	1	4	6位
相模女子	○ 5－1	● 2－7	△ 0－0		● 2－4	○ 5－4	2	1	2	3位
城 西	○ 7－0	○ 3－0	○ 2－1	○ 4－2		○ 5－0	5	0	0	1位
順 天 堂	○ 1－0	● 0－1	○ 4－1	● 4－5	● 0－5		2	0	3	4位

悪天候のため、最終順位決定戦は行われませんでした。

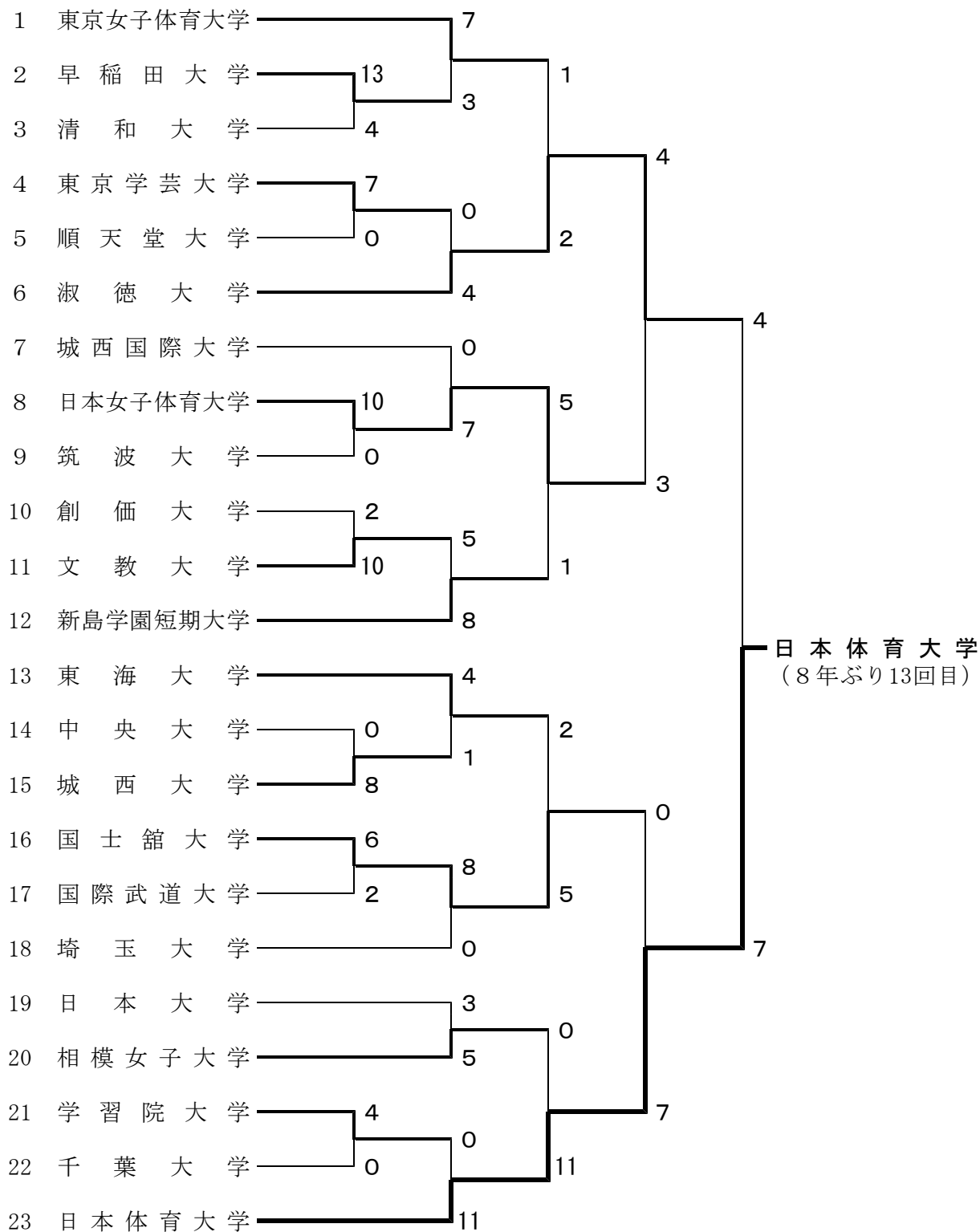
第36回関東大学ソフトボール選手権大会

会期：平成17年10月28日（金）～31日（月）

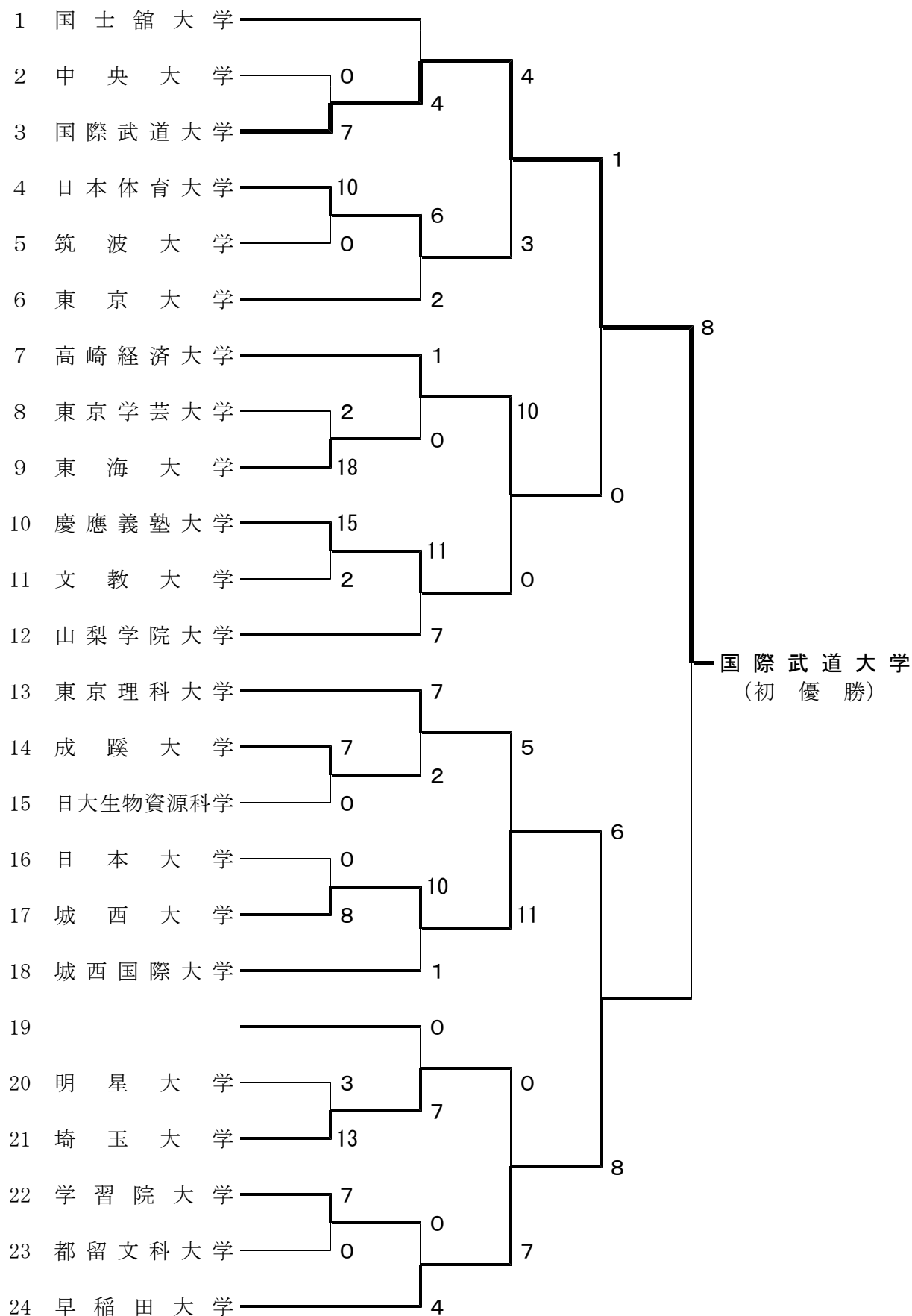
会場：群馬県前橋市・産業人スポーツセンター（男子）

群馬県伊勢崎市ソフトボール場（女子）

【女子】



【男子】



【北信越地区】

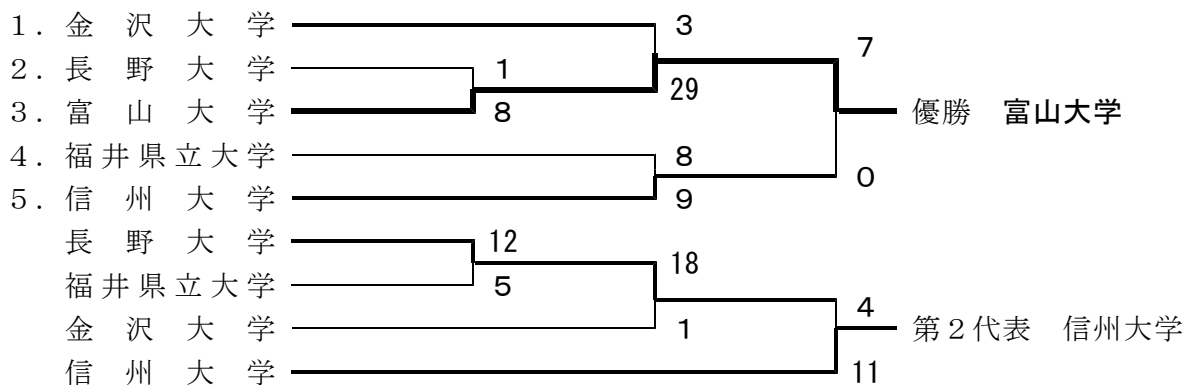
第11回 北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会

兼、全日本大学ソフトボール選手権大会北信越予選会

会期：平成17年 5 月21日(土)・22日(日)

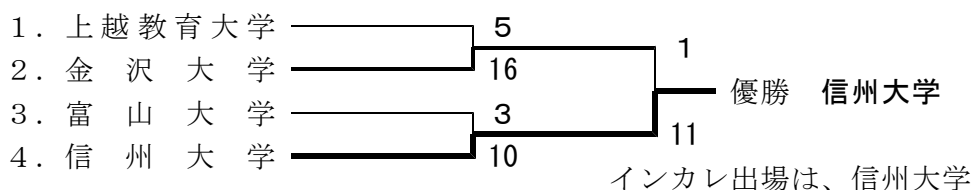
会場：新潟県上越市少年野球場

男子選手権



インカレ出場は、富山大学と信州大学

女子選手権



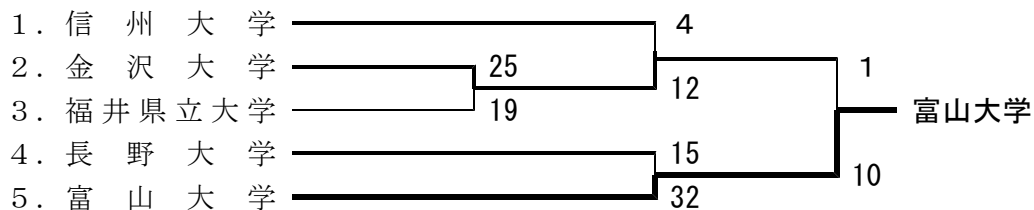
インカレ出場は、信州大学

第12回 北信越地区大学男子・女子新人ソフトボール大会

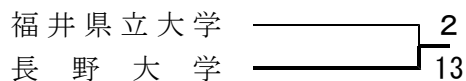
会期：平成17年 9 月17日(土)・18日(日)

会場：石川県金沢市専光寺球場

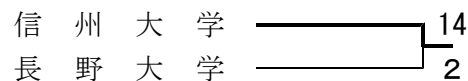
男子



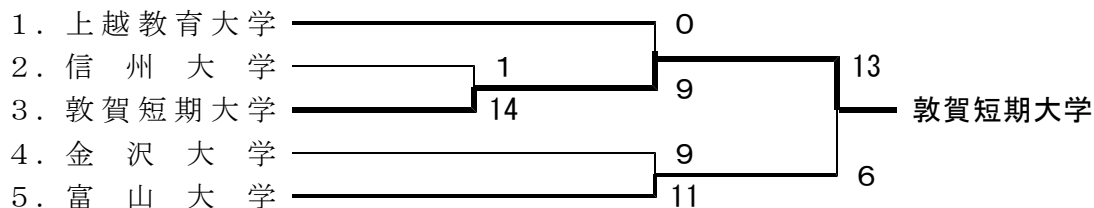
敗者戦



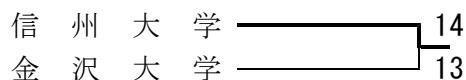
3位決定戦



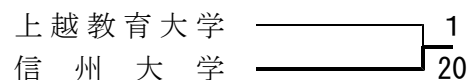
女子



敗者戦



3位決定戦



【東京地区】

平成17年度第37回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子1部

順位	大学名	早稲田	日 体	国士舘	中 央	東 京	明 星	勝 敗 分
優 勝	早 稲 田 大		○ 4-3	○ 4-1	○ 9-0	○ 6-1	○ 25-1	5・0・0
第2位	日本体育大	● 3-4		○ 2-1	● 3-4	○ 8-0	○ 21-0	3・2・0
第3位	国 士 舘 大	● 1-4	● 1-2		○ 7-6	○ 9-0	○ 17-0	3・2・0
第4位	中 央 大	● 0-9	○ 4-3	● 6-7		○ 7-2	○ 11-4	3・2・0
第5位	東 京 大	● 1-6	● 0-8	● 0-9	● 2-7		○ 3-2	1・4・0
第6位	明 星 大	● 1-25	● 0-21	● 0-17	● 4-11	● 2-3		0・5・0

男子2部

順位	大学名	桜美林	東 農	明 治	杏 林	学習院	日 本	勝 敗 分
優 勝	桜 美 林 大		● 3-5	○ 10-4	○ 20-6	○ 12-0	○ 8-2	4・1・0
第2位	東京農業大	○ 5-3		● 2-11	○ 11-3	○ 9-1	○ 6-5	4・1・0
第3位	明 治 大	● 4-10	○ 11-2		○ 6-4	○ 6-5	○ 6-5	4・1・0
第4位	杏 林 大	● 6-20	● 3-11	● 4-6		○ 6-4	○ 11-9	2・3・0
第5位	学 習 院 大	● 0-12	● 1-9	● 5-6	● 4-6		○ 11-0	1・4・0
第6位	日 本 大	● 2-8	● 5-6	● 5-6	● 9-11	● 0-11		0・5・0

男子3部

順位	大学名	専 修	慶 応	成 蹊	東 洋	国 際	一 橋	勝 敗 分
優 勝	慶應義塾大		○ 7-3	○ 2-1	○ 18-9	○ 8-2	○ 13-0	5・0・0
第2位	専 修 大	● 3-7		○ 4-2	△ 12-12	○ 17-0	○ 15-5	3・1・1
第3位	東京学芸大	● 1-2	● 2-4		○ 21-1	○ 11-2	○ 19-2	3・2・0
第4位	成 蹊 大	● 9-18	△ 12-12	● 1-21		○ 11-5	○ 6-5	2・2・1
第5位	東 洋 大	● 2-8	● 0-17	● 2-11	● 5-11		○ 23-8	1・4・0
第6位	国際基督教	● 0-13	● 5-15	● 2-19	● 5-6	● 8-23		0・5・0

男子4部

順位	大学名	立教	帝京	東経	武蔵	一橋	文教	日歯	勝敗分
優勝	立教大		○ 15-10	○ 20-5	○ 23-10	○ 21-0	○ 12-3	○ 18-0	6・0・0
第2位	帝京大	● 10-15		○ 11-1	○ 15-14	○ 15-9	○ 12-5	○ 34-16	5・1・0
第3位	東京経済	● 5-20	● 1-11		○ 18-6	○ 20-9	○ 18-6	○ 15-6	4・2・0
第4位	武蔵工業	● 10-23	● 14-15	● 6-18		○ 15-4	△ 15-15	○ 24-17	2・3・1
第5位	一橋大	● 0-21	● 9-15	● 9-20	● 4-15		○ 20-16	○ 17-8	2・4・0
第6位	文教湘南	● 3-12	● 5-12	● 6-18	△ 15-15	● 16-20		○ 15-0	1・4・1
第7位	日本歯科	● 0-18	● 16-34	● 6-15	● 17-24	● 8-17	● 0-15		0・6・0

女子1部

順位	大学名	日体	東女体	日女体	早稲田	国士舘	学芸	勝敗分
優勝	日本体育大		○ 3-2	○ 3-1	○ 4-2	○ 6-0	○ 6-1	5・0・0
第2位	東女体大	● 2-3		△ 3-3	○ 12-4	○ 7-2	○ 8-0	3・1・1
第3位	日女体大	● 1-3	△ 3-3		○ 9-1	● 1-5	○ 3-1	2・2・1
第4位	早稲田大	● 2-4	● 4-12	● 1-9		○ 9-6	○ 6-2	2・3・0
第5位	国士舘大	● 0-6	● 2-7	○ 5-1	● 6-9		○ 4-2	2・3・0
第6位	東京学芸大	● 1-6	● 0-8	● 1-3	● 2-6	● 2-4		0・5・0

女子2部

順位	大学名	日本	中央	学習院	明治	創価	成蹊	勝敗分
優勝	日本大		○ 9-1	○ 19-3	○ 9-0	○ 10-0	○ 18-0	5・0・0
第2位	中央大	● 1-9		○ 10-0	○ 11-1	● 0-13	○ 9-0	3・2・0
第3位	学習院大	● 3-19	● 0-10		○ 11-6	○ 11-8	○ 14-0	3・2・0
第4位	明治大	● 0-9	● 1-11	● 6-11		○ 2-1	○ 11-2	2・3・0
第5位	創価大	● 0-10	○ 13-0	● 8-11	● 1-2		○ 8-0	2・3・0
第6位	成蹊大	● 0-18	● 0-9	● 0-14	● 2-11	● 0-8		0・5・0

女子3部 桜美林大

順位	大学名	慶應	国際	桜美林	日女大	専修	勝敗分
優勝	慶應義塾大	●	○ 9-6	○ 9-5	○ 7-3	○ 12-10	4・0・0
第2位	国際基督教	● 6-9	●	○ 11-3	● 3-12	○ 12-3	2・2・0
第3位	桜美林大	● 5-9	● 3-11	●	○ 9-8	○ 13-1	2・2・0
第4位	日本女子大	● 3-7	○ 12-3	● 8-9	○	○ 18-11	2・2・0
第5位	専修大	● 10-12	● 3-12	● 1-13	● 11-18	●	0・4・0

第37回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦入れ替え戦

☆男子1部・2部

明 星 大（1部6位）2-10 桜美林大（2部1位）＝桜美林大は1部昇格

☆男子2部・3部

日 本 大（2部6位）9-14 慶應義塾大（3部1位）＝慶應義塾大は2部昇格

☆男子3部・4部

国際基督教大（3部6位）10-8 立 教 大（4部1位）＝国際基督教大は3部残留

☆女子1部・2部

東京学芸大（1部6位）4-1 日 本 大（2部1位）＝東京学芸大は1部残留

☆女子2部・3部

成 蹊 大（2部6位）12-0 慶應義塾大（3部1位）＝成蹊大は2部残留

文部科学大臣杯第40回全日本大学選手権東京都予選

【男子】

中央大学	4						
慶應義塾大学	1						
学習院大学	8						
東京農業大学	1						
成蹊大学	8						
立教大学	15						
明星大学	11						
桜美林大学	3						
東京学芸大学	8						
明治大学	9						
杏林大学	9						
日本大学	2						
東京大学	3						

第4代表 中央大学

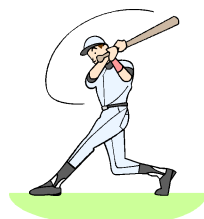
第5代表 杏林大学

なお、東京地区の第40回全日本大学選手権大会出場チームは、上記以外に第1・第2・第3代表は東京都学連推薦で、早稲田大学・日本体育大学・国士舘大学である。

【女子】

早稲田大学	16	第4代表 早稲田大学
中央大学	1	
日本大学	8	第5代表 東京学芸大学
東京学芸大学	12	
学習院大学	0	
創価大学	0	
国士舘大学	14	

なお、東京地区の第40回全日本大学選手権大会出場チームは、上記以外に、第1・第2・第3代表は東京都学連推薦で、日本体育大学・東京女子体育大学・日本女子体育大学である。



平成17年度第37回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子1部

順位	大学名	国士舘	日体	早稲田	中央	桜美林	東京	勝敗分
優勝	国士舘大	—	○ 4-3	○ 5-1	○ 9-0	○ 10-0	○ 9-0	5・0・0
第2位	日本体育大	● 3-4	—	○ 7-0	○ 11-1	○ 9-0	○ 6-3	4・1・0
第3位	早稲田大	● 1-5	● 0-7	—	○ 8-1	○ 12-0	○ 4-3	3・2・0
第4位	中央大	● 0-9	● 1-11	● 1-8	—	○ 6-2	○ 8-6	2・3・0
第5位	桜美林大	● 0-10	● 0-9	● 0-12	● 2-6	—	○ 2-0	1・4・0
第6位	東京大	● 0-9	● 3-6	● 3-4	● 6-8	● 0-2	—	0・5・0

男子2部

順位	大学名	学習院	東農	慶応	明治	明星	杏林	勝敗分
優勝	学習院大		○ 9-2	○ 8-6	○ 6-3	○ 19-0	○ 5-4	5・0・0
第2位	東京農業大	● 2-9		○ 14-7	● 1-2	○ 10-4	○ 5-3	3・2・0
第3位	慶應義塾大	● 6-8	● 7-14		○ 6-1	○ 11-2	○ 4-1	3・2・0
第4位	明治大	● 3-6	○ 2-1	● 1-6		○ 7-6	● 1-3	2・3・0
第5位	明星大	● 0-19	● 4-10	● 2-11	● 6-7		○ 6-3	1・4・0
第6位	杏林大	● 4-5	● 3-5	● 1-4	○ 3-1	● 3-6		1・4・0

※2位～3位、及び5位～6位は直接対決による。

男子3部

順位	大学名	学芸	成蹊	専修	日本	国際基	東洋	勝敗分
優勝	東京学芸大		○ 7-3	○ 10-3	● 3-9	○ 11-3	○ 12-0	4・1・0
第2位	成蹊大	● 3-7		○ 10-4	○ 17-0	○ 4-1	○ 10-0	4・1・0
第3位	専修大	● 3-10	● 4-10		○ 11-2	○ 6-3	○ 9-7	3・2・0
第4位	日本大	○ 9-3	● 0-17	● 2-11		△ 8-8	○ 15-4	2・2・1
第5位	国際基督教	● 3-11	● 1-4	● 3-6	△ 8-8		○ 11-4	1・3・1
第6位	東洋大	● 0-12	● 0-10	● 7-9	● 4-15	● 4-11		0・5・0

※優勝～2位は直接対決による。

男子4部

順位	大学名	立教	文教	日歯	帝京	東経	一橋	武蔵	勝敗分
優勝	立教大		○ 26-5	○ 27-0	○ 11-4	○ 9-0	○ 23-1	○ 12-3	6・0・0
第2位	文教湘南	● 5-26		○ 14-1	○ 11-5	○ 25-7	○ 11-5	○ 9-1	5・1・0
第3位	日本歯科	● 0-27	● 1-14		○ 10-8	○ 7-0	● 7-15	○ 14-5	3・3・0
第4位	帝京大	● 4-11	● 5-11	● 8-10		○ 10-7	○ 12-8	○ 20-11	3・3・0
第5位	東京経済	● 0-9	● 7-25	● 0-7	● 7-10		○ 25-10	○ 13-7	2・4・0
第6位	一橋大	● 1-23	● 5-11	○ 15-7	● 8-12	● 10-25		○ 22-14	2・4・0
第7位	武蔵工業	● 3-12	● 1-9	● 5-14	● 11-20	● 7-13	● 14-22		0・6・0

※3位～4位、及び5位～6位は直接対決による。

女子1部

順位	大学名	日体	東女体	学芸	日女体	早稲田	国士舘	勝敗分
優勝	日本体育大		○ 2-0	○ 4-1	○ 5-1	○ 4-1	○ 6-3	5・0・0
第2位	東女体大	● 0-2		○ 7-0	○ 10-4	○ 4-1	○ 7-3	4・1・0
第3位	東京学芸大	● 1-4	● 0-7		○ 9-0	○ 1-0	○ 5-3	3・2・0
第4位	日女体大	● 1-5	● 4-10	● 0-9		○ 11-2	○ 3-0	2・3・0
第5位	早稲田大	● 1-4	● 1-4	● 0-1	● 2-11		○ 10-1	1・4・0
第6位	国士舘大	● 3-6	● 3-7	● 3-5	● 0-3	● 1-10		0・5・0

女子2部

順位	大学名	日本	学習院	中央	明治	創価	成蹊	勝敗分
優勝	日本大		○ 8-7	○ 7-3	○ 10-0	○ 11-2	○ 10-0	5・0・0
第2位	学習院大	● 7-8		○ 14-6	○ 17-5	○ 10-1	○ 14-4	4・1・0
第3位	中央大	● 3-7	● 6-14		○ 5-2	○ 9-1	○ 13-2	3・2・0
第4位	明治大	● 0-10	● 5-17	● 2-5		○ 12-11	○ 2-1	2・3・0
第5位	創価大	● 2-11	● 1-10	● 1-9	● 11-12		○ 8-3	1・4・0
第6位	成蹊大	● 0-10	● 4-14	● 2-13	● 1-2	● 3-8		0・5・0

女子3部

順位	大学名	桜美林	国際	専修	慶応	勝敗分
優勝	桜美林大		○ 13-3	○ 14-5	○ 14-5	3・0・0
第2位	国際基督教	● 3-13		○ 7-4	● 0-9	1・2・0
第2位	専修大	● 5-14	● 4-7		○ 18-8	1・2・0
第2位	慶應義塾大	● 5-14	○ 9-0	● 8-18		1・2・0

第37回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦入れ替え戦

- 男子1部・2部 東京大(1部6位)1-4 学習院大(2部1位)=学習院大は1部昇格
 男子2部・3部 杏林大(2部6位)7-9 東京学芸大(3部1位)=東京学芸大は2部昇格
 男子3部・4部 東洋大(3部6位)13-14 立教大(4部1位)=立教大は3部昇格
 女子1部・2部 国士舘大(1部6位)10-4 日本大(2部1位)=国士舘大は1部残留
 女子2部・3部 成蹊大(2部6位)10-21 桜美林大(3部1位)=桜美林大は2部昇格

【東海地区】

東海テレビ杯

平成17年度春季第56回

東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第40回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第37回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成17年5月3日・4日・5日・8日

会場：愛知県安城市総合運動公園ソフトボール場

1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	聖 徳	常 葉	中 京	中 院	愛 教	日 福	勝	分	敗	失	順
聖徳学園	—	● 1－2	○ 3－2	● 2－13	○ 6－5	△ 3－3	2	1	2	25	4位
常葉学園	○ 2－1	—	● 5－7	○ 4－3	○ 11－0	○ 5－3	4	0	1	14	優勝
中 京	● 2－3	○ 7－5	—	● 3－5	○ 1－0	○ 7－0	3	0	2	13	3位
中京学院	○ 13－2	● 3－4	○ 5－3	—	○ 10－0	○ 8－0	4	0	1	9	2位
愛知教育	● 5－6	● 0－11	● 0－1	● 0－10	—	● 1－4	0	0	5	32	6位
日本福祉	△ 3－3	● 3－5	● 0－7	● 0－8	○ 4－1	—	1	1	3	24	5位

※1位と2位は、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

2. 二部リーグ戦対戦成績

・予選リーグ戦

A	愛 学	東 学	愛 知	静 岡
愛学	—	○ 8－7	● 6－11	○ 15－5
東学	● 7－8	—	● 4－5	○ 11－1
愛知	○ 11－6	○ 5－4	—	○ 12－2
静岡	● 5－15	● 1－11	● 2－12	—

B	南 山	名古屋	みずほ	名 城
南山	—	● 0－4	○ 13－0	○ 16－5
名大	○ 4－0	—	○ 9－1	○ 12－2
みずほ	● 0－13	● 1－9	—	● 1－7
名城	● 5－16	● 2－12	○ 7－1	—

・順位決定戦

1位決定戦

名古屋（B 1位）10－7 愛知（A 1位）

1位：名古屋 2位：愛知

3位決定戦

愛知学院（A 2 位）8－8 南山（B 2 位） 3 位：南山 4 位：愛知学院（総失点差）
5 位決定戦

名城（B 3 位）11－7 東海学園（A 3 位） 5 位名城 6 位：東海学園
7 位決定戦

愛知みずほ（B 4 位）6－4 静岡（A 4 位） 7 位：愛知みずほ 8 位：静岡

3. 1 部 2 部入れ替え戦

名古屋大学（2 部 1 位）6－5 愛知教育大学（1 部 6 位） ※名古屋大学は 1 部昇格

4. 個人表彰

最優秀選手賞：古谷修平（常葉学園大学 最多勝利と防御率で優勝に貢献）

敢闘選手賞：渡辺寛明（中京学院大学 堅実な守備でチームのまとめ役）

優秀選手賞：江尻大喜（名古屋大学 最多勝で優勝と一部昇格の立役者）

一部首位打者賞：中西健太（中京学院大学）6 割

二部首位打者賞：斎田賢児（静岡大学）7 割 7 分 8 厘

ベストナイン 投手：坂本俊行（中京学院大学 最多奪三振36、防御率 2 位）

捕手：山田祐輔（常葉学園大学 打率 5 位、優勝に貢献）

一塁手：東 裕樹（岐阜聖徳学園大学 一塁手で最多安打）

二塁手：清水雅仁（中京大学 無失策で高打率）

三塁手：深谷祐樹（中京大学 打率は 2 位で 5 割）

遊撃手：楨田直也（中京学院大学 遊撃手で最高守備率）

外野手：山田 純（中京大学 打率. 471で 3 位）

外野手：福重 遙（中京学院大学 打率. 467で 4 位）

外野手：長田昇平（常葉学園大学 打率. 417で 5 位、補殺 2）

DPDEF0：鈴木翔也（常葉学園大学 長打力と守備力抜群）

5. 代表権

第 2 回東海地域大学選手権大会出場校：常葉学園大学、中京学院大学、中京大学
岐阜聖徳学園大学、日本福祉大学、名古屋大学
愛知教育大学、愛知大学

第 37 回西日本大学選手権大会出場校：常葉学園大学、中京学院大学、中京大学、
岐阜聖徳学園大学、日本福祉大学

6. 総評

1 日予備日に順延されたものの、4 日間ともすばらしい五月晴れの下にリーグ戦は展開された。初日の第 1 試合で、一部リーグ戦は、昨季優勝の岐阜聖徳学園大学が一部昇格の日本福祉大学に引き分けるという波乱の幕開けであった。二日目には常葉学園大学が中京大学に敗れ、三日目にはその中京大学が岐阜聖徳学園大学に敗れて全勝チームはなくなった。これで、最終日にすべてが決するという盛り上がりを見せた。最終日の第一試合で、日本福祉大学は、このところ一部に定着していた愛知教育大学に勝利して入れ替え戦を免

れ、第二試合では中京学院大学が中京大学を破って2位以上を確定した。最後の岐阜聖徳学園大学と常葉学園大学の試合は、一点を争う好ゲームになり、延長タイブレーカーかと思われた最終回に、山田の決勝本塁打で常葉学園大学が2季ぶり5回目の優勝を決めた。各チームとも投手力の向上が見られ、接戦が多かった点は評価できる。

また、二部リーグ戦は、やや大味の試合が目立ち、上位と下位の実力差がはっきりしてきたように思われる。その中で、投手力が安定していてすべての面でややスピードに勝る名古屋大学の戦いぶりは見事であった。名古屋大学はその勢いで入れ替え戦も1点差で制して、2部制になって初めての一部昇格を勝ち取った。今後の精進を期待したい。

なお、緊迫した試合が多かった中で、わずかではあるが学生の試合には相応しくない言動が見られたのは残念であった。確かにジャッジの問題もあるが、それにも学生らしいさわやかな対応を願いたい。(東海学連理事長 水谷 博)

東海テレビ杯

平成17年度春季第45回東海地区大学(女子)

ソフトボールリーグ戦

ー兼、第40回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第37回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：5月1・3・4・5日

会場：豊田市運動公園ソフトボール場

1. 一部リーグ戦対戦成績

チ-ム	東 学	中 京	東 女	桜 花	常 葉	中 女	勝	分	敗	失	順
東海学園		● 0 - 8	● 2 - 3	● 4 - 5	○ 3 - 2	○ 3 - 0	2	0	3	18	4位
中 京	○ 8 - 0		○ 3 - 1	○ 6 - 1	○ 6 - 0	○ 15 - 0	5	0	0	2	優勝
東海女子	○ 3 - 2	● 1 - 3		● 0 - 4	○ 2 - 1	○ 3 - 2	3	0	2	12	3位
桜花学園	○ 5 - 4	● 1 - 6	○ 4 - 0		○ 6 - 3	○ 4 - 2	4	0	1	15	2位
常葉学園	● 2 - 3	● 0 - 6	● 1 - 2	● 3 - 6		○ 1 - 0	1	0	4	17	5位
中京女子	● 0 - 3	● 0 - 15	● 2 - 3	● 2 - 4	● 0 - 1		0	0	5	26	6位

2. 二部リーグ戦対戦成績

チーム	中 学	愛 教	日 福	静 岡	聖 徳	名 城	勝	分	敗	失	順
中京学院		○ 2 - 1	○ 8 - 3	○ 15 - 0	○ 13 - 0	○ 15 - 0	5	0	0	4	1位
愛知教育	● 1 - 2		○ 12 - 1	○ 15 - 0	○ 27 - 2	○ 19 - 0	4	0	1	5	2位
日本福祉	● 3 - 8	● 1 - 12		○ 10 - 0	○ 17 - 5	○ 16 - 0	3	0	2	25	3位
静 岡	● 0 - 15	● 0 - 15	● 0 - 10		○ 12 - 11	● 6 - 11	1	0	4	62	5位
岐阜聖徳	● 0 - 15	● 2 - 27	● 5 - 17	● 11 - 12		● 8 - 9	0	0	5	80	6位
名 城	● 0 - 15	● 0 - 19	● 0 - 16	○ 11 - 6	○ 9 - 8		2	0	3	64	4位

3. 一・二部入れ替え戦

中京学院大学 3 - 1 中京女子大学（中京学院大学は一部昇格）

4. 個人表彰選手

最優秀選手賞：中田 奈緒（中京大学 打率打点ともリーグトップで長打力もあり）

敢闘選手賞：石川 茜（桜花学園大学 全試合に登板し4勝で最多勝）

優秀選手賞：丸山 奈美（中京学院大学 驚異の高打率で2部優勝に貢献）

1部首位打者賞：上野 佳苗（桜花学園大学）5割0分0厘

同 上：小木曾由香（東海女子大学）5割0分0厘

同 上：中田 奈緒（中 京 大 学）5割0分0厘

2部首位打者賞：丸山 奈美（中京学院大学）7割1分4厘

ベストナイン 投 手：東 瑠璃（中京大学 登板3試合をすべて完投勝利）

捕 手：岩切 奈那（中京大学 好リード無失策で優勝に貢献）

一 塁 手：羽佐田彩乃（桜花学園大学 打率.429の4番打者）

二 塁 手：小島 愛弓（中京大学 打率.429、打点5、チームの大黒柱）

三 塁 手：和志武由実（桜花学園大学 打率.417で長打力のある打者）

遊 撃 手：摺本 志保（中京大学 俊足好打、チーム最高の6得点）

外 野 手：上野 佳苗（桜花学園大学 チームのまとめ役で首位打者）

外 野 手：高橋 愛菜（中京大学 .462の高打率で長打も3本）

外 野 手：小木曾由佳（東海女子大学 無失策で打率.500の首位打者）

DP・DEFO：小嶋 愛子（東海学園大学 チーム最多安打の存在感）



5. 代表権

1) 第2回東海地域大学選手権大会

中京大学、桜花学園大学、東海女子大学、東海学園大学、常葉学園大学、
中京学院大学、中京女子大学、愛知教育大学

2) 第37回西日本大学選手権大会

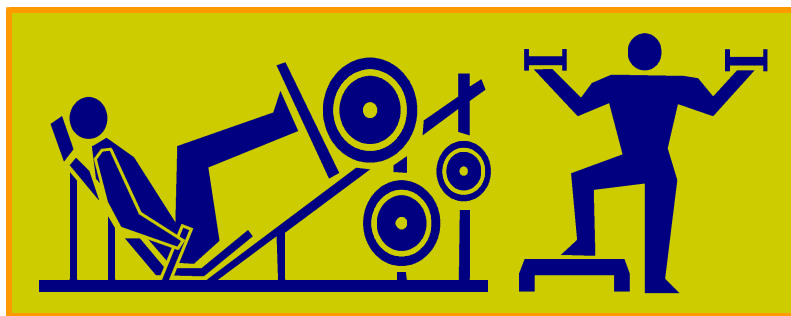
中京大学、桜花学園大学、東海女子大学、東海学園大学、常葉学園大学、
中京学院大学

6. 講評

2試合を除き五月晴れの好天に恵まれたリーグ戦となった。一部の展開は初日順調に始まったが、2日目に桜花学園大学が昨季優勝の東海学園大学に逆転サヨナラ勝ちを収め、流れが変わった。その後も桜花学園大学は3連勝の快進撃で初の準優勝に輝いた。優勝したのは中京大学で、2日目以降も危なげなく試合を進め、全勝で2季ぶり27回目の優勝となった。期待に反したのは、東海学園大学と中京女子大学であった。東海学園大学は昨季優勝した勢いが全くみられず、その後は敗戦を続けて4位に甘んじた。また、実力を付けてきた中京女子大学は、全ての試合に善戦したが、ここ1本のタイムリー欠乏症に泣いて5戦全敗で最下位となった。

一方、二部は、昨季と同様に、中京学院大学と愛知教育大学が他の4チームを寄せ付けず、最終日での全勝対決となった。この試合は中京学院大学が1点先行し、愛知教育大学がすぐに追いつくという緊迫した展開になったが、終盤突き放した中京学院大学が1点差で逃げ切って優勝を決めた。下位3チームは選手層の薄さに苦労していたが、最後まで立派に戦い抜いた。今後は部員数の確保に努めるとともに、守備力の強化を図ってもらいたい。

入れ替え戦では、二部優勝の勢いそのままに中京学院大学が中京女子大学を圧倒し、3-1で3季ぶりに一部復帰を果たした。(東海学連理事長 水谷 博)



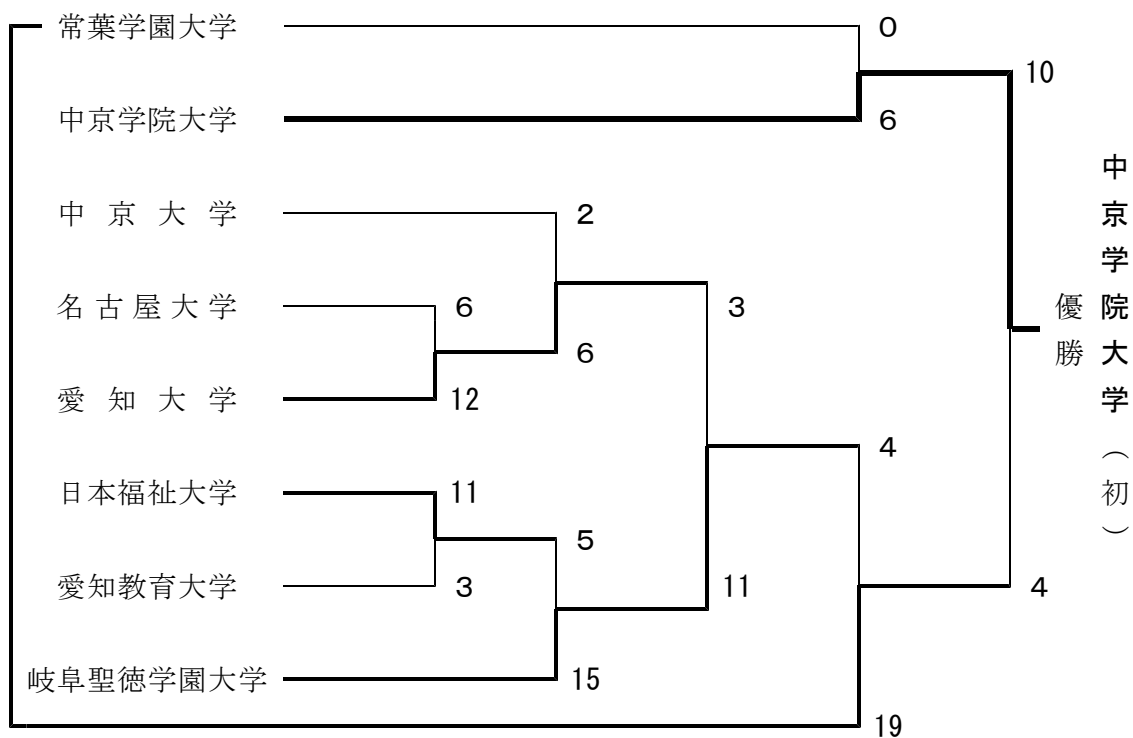
第2回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

— 兼、第40回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選 —

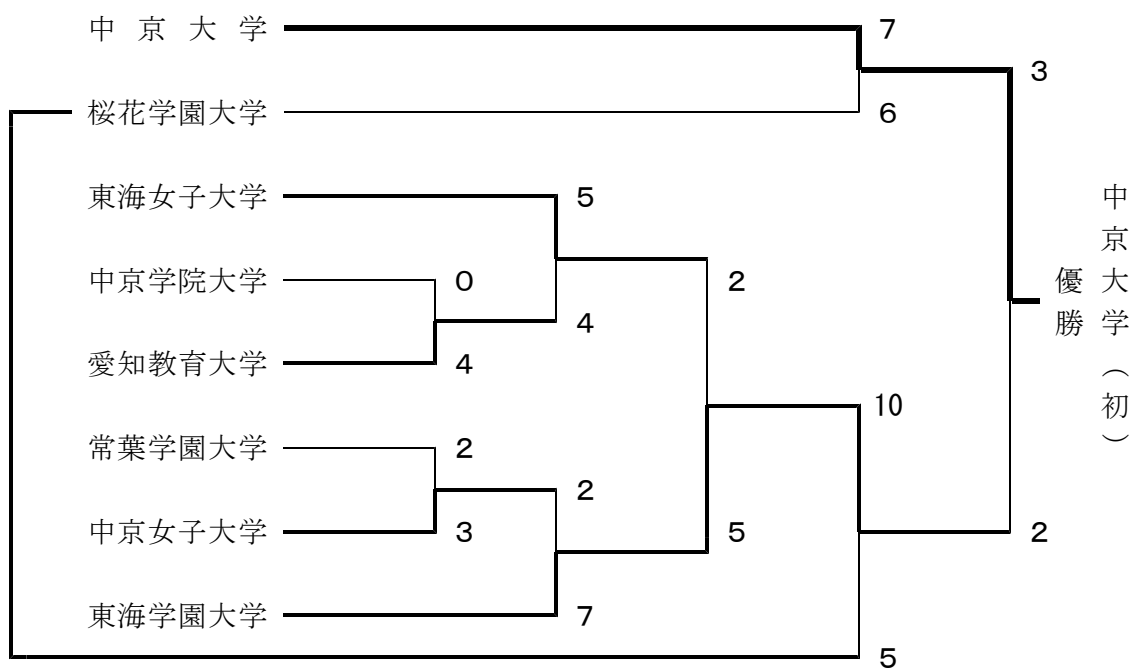
会期：平成17年5月21日(土)・22日(日)

会場：静岡県榛原町 榛原総合運動公園ぐりんぱる

1. 男子大会結果



2. 女子大会結果



※男女とも3位以上がインカレ出場権を得た。

東海テレビ杯

平成17年度秋季第57回東海地区大学（男子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成17年10月16日・22日・29日・30日

会場：愛知県刈谷市双葉グラウンド

1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	常 葉	中 学	中 京	聖 徳	日 福	名古屋	勝	分	敗	失	順
常葉学園	—	● 1－12	○ 4－3	● 1－5	● 0－4	○ 3－2	2	0	3	26	4位
中京学院	○ 12－1	—	○ 7－2	○ 6－3	● 1－2	○ 3－2	4	0	1	10	2位
中 京	● 3－4	● 2－7	—	● 5－6	● 1－3	○ 5－4	1	0	4	24	6位
岐阜聖徳	○ 5－1	● 3－6	○ 6－5	—	● 2－10	● 3－9	2	0	3	31	5位
日本福祉	○ 4－0	○ 2－1	○ 3－1	○ 10－2	—	● 2－6	4	0	1	10	優勝
名 古 屋	● 2－3	● 2－3	● 4－5	○ 9－3	○ 6－2	—	2	0	3	16	3位

※1位と2位は当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

※3位～5位は当該チーム間で失点の少ない方が上位。

2. 二部リーグ戦対戦成績

・予選リーグ戦

A	愛 教	愛 学	名 城	静 岡
愛教	—	● 0－2	○ 3－2	● 2－4
愛学	○ 2－0	—	○ 4－0	○ 11－1
名城	● 2－3	● 0－4	—	● 9－14
静岡	○ 4－2	● 1－11	○ 14－9	—

B	愛 知	南 山	東 学	みずほ
愛知	—	● 2－12	○ 6－1	○ 15－0
南山	○ 12－2	—	○ 6－5	○ 12－2
東学	● 1－6	● 5－6	—	● 10－18
みずほ	● 0－15	● 2－12	○ 18－10	—

・順位決定戦

1位決定戦

南山（B 1位）2－0 愛知学院（A 1位）

1位：南山

2位：愛知学院

3 位決定戦

静岡（A 2 位）14－11愛知（B 2 位） 3 位：静岡 4 位：愛知

5 位決定戦

愛知教育（A 3 位）7－2 愛知みずほ（B 3 位） 5 位：愛知教育 6 位：愛知みずほ

7 位決定戦

名城（A 4 位）9－1 東海学園（A 4 位） 7 位：名城 8 位：東海学園

3. 1 部 2 部入れ替え戦

南山大学（2 部 1 位）1－0 中京大学（1 部 6 位） ※南山大学は 1 部昇格

4. 個人表彰

最優秀選手賞：飯野一季（日本福祉大学 4 勝無敗で初優勝の立役者）

敢闘選手賞：槇田直也（中京学院大学 主将で準優勝を決める勝利に貢献）

優秀選手賞：川合正人（南山大学 全試合を投げ抜き 2 部優勝 1 部昇格の立役者）

一部首位打者賞：則竹祐哉（名古屋大学）6 割 3 分 6 厘

二部首位打者賞：早川朋寿（愛知大学）5 割 5 分 6 厘

宮崎将志（東海学園大学）5 割 5 分 6 厘

ベストナイン 投手：坂本俊行（中京学院大学 3 勝 1 敗で防御率 0 が光る）

捕手：中島陽介（名古屋大学 全イニング出場で捕手最高打率）

一塁手：平野隆義（日本福祉大学 一塁手最高打率で本塁打もあり）

二塁手：三橋 淳（岐阜聖徳学園大学 打点 5 で 1 位、打率も 4 位）

三塁手：福重 遥（中京学院大学 三塁手最高打率で守備が軽快）

遊撃手：松岡 亮（日本福祉大学 打率 6 位守備でも優勝に貢献）

外野手：中西健太（中京学院大学 打率 2 位で守備率も 10 割）

外野手：長田昇平（常葉学園大学 本塁打 2、無失策で補殺もあり）

外野手：萩原 学（中京大学 堅実な守備で長打力あり）

DPDEF0：森谷亮太（日本福祉大学 DP 最高打率で盗塁得点とも最多）

5. 講評

雨にたたられたリーグ戦となりました。開催地刈谷連盟の方々には、グラウンド整備に格別のご尽力を賜りました。まずは、ここに記して御礼申し上げます。

さて、一部リーグ戦は、昨秋 1 部に昇格した日本福祉大学の初優勝、伝統校中京大学の 2 部降格という思いもよらぬ結果に終わりました。しかも、最終日の最終試合まで順位がまったく確定せず、その試合がこれまで常に優勝を争ってきた常葉学園大学と中京大学が入れ替え戦出場をかけてというものでした。また、今春一部昇格した名古屋大学は、3 試合を 1 点差でうち 2 試合を 7 回 2 死から落としたものの、優勝の日本福祉大学に唯一勝利して初の A クラスを確保しました。その健闘は光ります。内容的には投手力、特に打者との駆け引きに代表される投球術の向上と、内野手の送球を中心とした守備力に課題が残ったようです。来年のインカレ・西日本の地元開催に向けてこの冬の練習に期待します。

また、二部リーグ戦は、数年前に比べれば格段に各チームとも競技力が向上し、激しい

順位争いが続きました。特に下位チームの健闘が讃えられます。その中で優勝したのは、リーグ結成以来の伝統校で、一二部制になって初の一部昇格を果たした南山大学でした。投打がかみ合った試合運びとチアリーディングの応援が功を奏したものと思われます。ただ、2部上位チームは4年生の活躍が目立ち、来春に向けて一抹の不安を感じます。若い力のいっそうの奮起を望みます。(理事長 水谷 博)

東海テレビ杯

平成17年度秋季第46回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成17年10月1日・2日・9日・22日

会場：愛知県高浜市碧海グラウンド・流作グラウンド

一部リーグ戦対戦成績

チーム	中 京	桜 花	東 女	東 学	常 葉	中 学	勝	分	敗	失	順
中 京	—	○ 3－0	○ 1－0	● 1－2	● 0－1	○ 2－1	3	0	2	4	3位
桜花学園	● 0－3	—	● 1－12	● 1－10	○ 5－1	○ 5－4	2	0	3	30	4位
東海女子	● 0－1	○ 12－1	—	● 0－1	● 3－5	● 3－4	1	0	4	12	6位
東海学園	○ 2－1	○ 10－1	○ 1－0	—	○ 4－3	○ 10－0	5	0	0	5	優勝
常葉学園	○ 1－0	● 1－5	○ 5－3	● 3－4	—	○ 4－0	3	0	2	12	2位
中京学院	● 1－2	● 4－5	○ 4－3	● 0－10	● 0－4	—	1	0	4	24	5位

※2～3位、5～6位は、リーグ戦規程により、直接の対戦での勝者が上位

二部リーグ戦対戦成績

チーム	中 女	名 城	静 岡	名 大	愛 教	日 福	聖 徳	勝	敗	順
中京女子	—	○ 17－0	○ 12－0	○ 15－0	○ 3－2	*	*	4	0	優勝
名 城	● 0－17	—	● 6－8	○ 13－3	*	*	● 1－9	1	3	6位
静 岡	● 0－12	○ 8－6	—	○ 12－2	*	● 1－12	*	2	2	4位
名 古 屋	● 0－15	● 3－13	● 2－12	—	*	*	*	0	3	7位
愛知教育	● 2－3	*	*	*	—	○ 5－4	○ 13－1	2	1	2位
日本福祉	*	*	○ 12－1	*	● 4－5	—	○ 12－1	2	1	3位
岐阜聖徳	*	○ 9－1	*	*	● 1－13	● 1－12	—	1	2	5位

※*のない欄は予選リーグ戦であり。*のある欄は、順位決定戦である。

1部2部入れ替え戦

東海女子大学（1部6位）8－4中京女子大学（2部1位）

※東海女子大学は1部残留

個人表彰

最優秀選手賞：小嶋 愛子（東海学園大学）
 敢闘選手賞：牧田 久美（常葉学園大学）
 優秀選手賞：一戸 優香（中京女子大学）
 一部首位打者賞：小嶋 愛子（東海学園大学）6割6分7厘
 二部首位打者賞：一戸 優香（中京女子大学）8割7分5厘
 ベストナイン：投手：田中 粧子（東海学園大学）
 捕手：杉村 由香（常葉学園大学）
 一塁手：峯田 梢（東海学園大学）
 二塁手：池田 清夏（東海学園大学）
 三塁手：鈴木いずみ（常葉学園大学）
 遊撃手：西村あゆみ（東海学園学園大学）
 外野手：千田えりか（東海学園大学）
 外野手：齋藤 祐子（常葉学園大学）
 外野手：佐藤 紘子（中京大学）
 DP・DEFO：波多由香利（桜花学園大学）

講評

昨年に続き、2日間を雨で流すリーグ戦となってしまった。開催地高浜協会の献身的なご尽力により、全日程を事故なく無事終了できたことをまずもって御礼申し上げたい。

さて、一部リーグ戦は、初日に春季優勝校である中京大学が開幕戦の中京学院大学に苦戦し、常葉学園大学に敗れるという波乱の幕開けであった。常葉学園大学は東海女子大学にもその前に初めて勝利し、快調なスタートを切った。第2日にも中京大学は敗れ、第3日には中京学院大学が東海女子大学を破って全敗チームがなくなり、混戦は続いた。このなかで、1点差で3試合に勝利した東海学園大学の投打がかみ合い、全勝で2季ぶり2回目の優勝を勝ち取った。2位は、常葉学園大学が最終日に3勝目を挙げて初めての上位進出を果たした。また、桜花学園大学がしぶとく入れ替え戦を免れたのに対し、東海女子大学は僅差の試合をすべて落として、初めに入れ替え戦に回ることになった。リーグ戦としては最後まで興味深い試合展開であったが、その内容は物足りなさを禁じ得ない。新チームになって日が浅いことを差し引いても、投手を中心とする守備力の強化が各チームとも特に望まれる。インカレと西日本を来年開催する東海地区としては、その試金石としてのリーグ戦でもあったが、この冬にいっそうのトレーニングを積んで、全国そして台湾での第2回世界大学選手権大会を目指し、目標を高く持って練習に励んでもらいたい。

一方、二部リーグ戦は、Aグループからは中京女子大学が、Bグループからは愛知教育大学が順当に勝ち上がり、2部優勝1部昇格の望みをかけて最終日に激闘を演じた。結果は中京女子大学が最終回二死満塁のピンチを一点差で切り抜けて入れ替え戦に臨んだが、一部の壁は厚かったようである。二部下位チームは選手層の薄さが苦戦の原因であり、まずは春に向けて選手獲得に励んでもらいたい。

最後に、一部二部とも本リーグ戦においては、球場の設営や試合の記録集計など、運営面での学生諸姉の活動が主体的であったことを記して講評とする。（理事長 水谷 博）

【近畿地区】

平成17年度第37回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月3, 10, 17, 24, 29日、5月1, 3, 4日

会場：万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1 部	神 学	立命館	京 産	経 法	同志社	関 西	勝	敗	分	点	順
神戸学院	△ 1－1	△ 1－1	○ 8－4	○ 14－1	○ 2－0	3	0	2	11	2	
立 命 館	△ 1－1	○ 2－0	○ 8－2	○ 5－3	○ 2－0	4	0	1	13	1	
京都産業	△ 1－1	● 0－2	○ 3－4	○ 10－0	△ 0－0	1	2	2	5	5	
大阪経法	● 4－8	● 2－8	○ 4－3	○ 7－2	● 2－5	2	3	0	6	4	
同 志 社	● 1－14	● 3－5	● 0－10	● 2－7	● 3－7	0	5	0	0	6	
関 西	● 0－2	● 0－2	△ 0－0	○ 5－2	○ 7－3	2	2	1	7	3	

※立命館大学は2季ぶり8度目の優勝

※5位京都産業大学は2部との入れ替え戦へ。6位同志社大学は自動的に2部降格。

1部総評 今回のリーグ戦は3試合の引き分けがそれを裏付けているように混戦だった。特に、立命館大学対神戸学院大学の試合は見応えがあった。森脇（立命館）、小藤（神戸学院）両投手の踏ん張りで、最少失点でのドローとなった。他のチームの投手も自分の力を発揮し、例年に比べ、大味な試合が少なかった。その中でも、投手力、打撃力の総合的に勝っていた立命館大学が、苦しい試合もあったが、順調に勝ち点を重ねてリーグを制した。

今回のリーグ戦を通して、改めてソフトボールにおける投手の割合の大きさを感じた。近年、関東勢の活躍が目立つインカレで、関西勢の活躍を是非とも期待したい。

（事務次長 関西大学3年 竹内達哉）

2部リーグ戦結果

2部A	関西学院	大 阪	四天仏教	京都学園	大阪府立	勝	敗	分	点	順
関西学院		● 0－6	● 1－10	● 5－10	● 4－11	0	4	0	0	5
大 阪	○ 6－0		● 5－10	○ 7－0	△ 7－7	2	1	1	7	2
四天仏教	○ 10－1	○ 10－5		○ 11－3	○ 12－10	4	0	0	12	1
京都学園	○ 10－5	● 0－7	● 3－11		● 6－7	1	3	0	3	4
大阪府立	○ 11－4	△ 7－7	● 10－12	○ 7－6		2	1	1	7	3

2部B	龍谷	奈良教育	兵庫教育	佛教	京都	勝	敗	分	点	順
龍谷		○11-6	○11-1	●0-8	○6-3	3	1	0	9	2
奈良教育	●6-11		●6-8	●2-10	●5-10	0	4	0	0	5
兵庫教育	●1-11	○8-6		●2-15	○10-9	2	2	0	6	3
佛教	○8-0	○10-2	○15-2		●1-4	3	1	0	9	1
京都	●3-6	○10-5	●9-10	○4-1		2	2	0	6	4

※1位と2位、並びに3位と4位は該当チーム間勝ち点規程による。

※2部優勝決定戦 佛教大学 7-2 四天王寺国際大学

佛教大学は1部昇格、四天王寺国際大学は1部との入れ替え戦へ

※2部9・10位決定戦 関西学院大学 10-9 奈良教育大学

奈良教育は自動的に3部に降格、関西学院大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評 今季Bブロックは激戦であった。1部から降格した龍谷大学は危なげなく3連勝で最終戦を迎えた。一方、連勝スタートした佛教大学は京都大学に敗れたものの、最終戦での龍谷大学との直接対決に望みをかけた。両者の激突は意外にも大差(0-8)となり、勝利した佛教大学が勢いそのままブロック決勝にも勝利し、初の1部昇格を決めた。

一方、Aブロックは打撃のチーム四天王寺国際仏教大学が4連勝し、ブロック優勝を果たした。残念ながら、ブロック決勝(佛教大学)、1部との入れ替え戦(京都産業大学)に勝利することはできなかったが、次季の一層の奮起を期待したい。

(理事長 兵庫教育大学 森田啓之)

3部リーグ戦結果

3部A	姫路獨協	大阪市立	大阪工業	大阪産業	和歌山	勝	敗	分	点	順
姫路獨協		●1-23	●6-15	●6-13	●0-7	0	4	0	0	5
大阪市立	○23-1		○12-8	●15-16	●1-11	2	2	0	6	3
大阪工業	○15-6	●8-12		●8-15	●2-12	1	3	0	3	4
大阪産業	○13-6	○16-15	○15-8		●5-22	3	1	0	9	2
和歌山	○7-0	○11-1	○12-2	○22-5		4	0	0	12	1

3部B	大阪経済	流通科学	大阪体育	甲南	神戸	勝	敗	分	点	順
大阪経済		●6-7	●0-1	●8-11	●4-10	0	4	0	0	5
流通科学	○7-6		●7-9	○6-3	●0-7	2	2	0	6	4
大阪体育	○1-0	○9-7		○9-4	○7-6	4	0	0	12	1
甲南	○11-8	●3-6	●4-9		○7-3	2	2	0	6	3
神戸	○10-4	○7-0	●6-7	●3-7		2	2	0	6	2

※2位、3位、4位は得失点差規程による。

※3部優勝決定戦 大阪体育大学 5-0 和歌山大学

大阪体育大学は2部昇格、和歌山大学は2部との入れ替え戦へ

3部総評 今季のBブロックは、前季惜しくも2部昇格を逃した流通科学大学、毎季ブロック上位につける神戸大学、前々季2部に昇格した大阪体育大学など、実力均衡でどのチームにもチャンスがあるというのが戦前の予想であった。結局、この中から抜け出たのが大阪体育大学であった。1回生エースを中心としたチームで、攻撃力、守備力ともに力の差を見せつけて念願の2部復帰を果たした。

一方、Aブロックでは、和歌山大学が投打ともに力の差を見せつけてブロック優勝となった。おしくもブロック決勝では大阪体育大学に敗れたものの、続く入れ替え戦では関西学院大学を下して2部昇格を果たした。2部へ昇格した両チームの活躍を期待したい。今季2チームともに昇格した結果を見ても分かるように、2部と3部上位チームの差は縮まっている。各チームとも新チームとしてこの夏の充実した練習を重ねて、秋季リーグでは頑張ってもらいたい。(記録次長 神戸大学3年 森本佳道)

入れ替え戦 1部－2部：京都産業大(1部5位)10－0 四天王寺国際仏教大(2部2位)

※京都産業大学は1部残留

2部－3部：関西学院大(2部9位)4－12和歌山大(3部2位)

※関西学院大学は3部降格、和歌山大学は2部昇格

平成17年度第37回春季関西学生ソフトボールリーグ戦(女子)

会期：平成17年4月10・16・17・24・29日、5月1・3・4日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺国際仏教大学

1部対戦成績

1部	龍谷	大谷	園田	国際	立命館	大體	親和	武庫川	順
龍谷	●	○	○	○	○	○	○	○	1
	0－3	2－0	5－0	5－1	9－2	3－0	1－0		
大谷女子	○	●	○	○	●	○	●	○	2
	3－0	1－0	7－0	1－2	5－0	1－3	10－0		
園田学園	●	●	○	○	○	○	○	○	3
	0－2	0－1	3－0	7－0	4－1	1－0	10－0		
大阪国際	●	●	●	○	○	○	○	○	4
	0－5	0－7	0－3	6－4	6－2	3－1	4－2		
立命館	●	○	●	●	○	○	○	○	5
	1－5	2－1	0－7	4－6	3－0	1－0	4－2		
大阪体育	●	●	●	●	●	○	○	○	6
	2－9	0－5	1－4	2－6	0－3	3－0	9－1		
神戸親和	●	○	●	●	●	●	○	○	7
	0－3	3－1	0－1	1－3	0－1	0－3	3－1		
武庫川	●	●	●	●	●	●	●	○	8
	0－1	0－10	0－10	2－4	2－4	1－9	1－3		

※ 2・3位、4・5位、6・7位は当該チームの対戦成績により順位を決定しました。

1 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	辻 佑未子	龍谷大学	5 割
	藤田 恵	大阪国際大学	5 割
	水島 優子	大阪国際大学	5 割
4 位	井上 友恵	大谷女子大学	4 割 7 分 8 厘
5 位	山下 麻衣子	園田学園女子大学	4 割 5 分 4 厘
6 位	田中 清香	大谷女子大学	4 割 4 分
7 位	西間 綾香	龍谷大学	4 割 2 分 8 厘
8 位	杉山 奈緒子	龍谷大学	4 割 9 厘
9 位	山本 明香	大谷女子大学	3 割 9 分 2 厘
10 位	上中 奈津巳	龍谷大学	3 割 7 分 5 厘
	佐久間 彩	大谷女子大学	3 割 7 分 5 厘
	松本 由紀	大阪体育大学	3 割 7 分 5 厘
	中道 友江	大阪体育大学	3 割 7 分 5 厘

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	清水 美聡	園田学園女子大学	0. 4 8
2 位	馬場 由香里	龍谷大学	0. 6 8 2
3 位	中川 千明	神戸親和女子大学	0. 6 9
4 位	上村 さつき	大谷女子大学	0. 7 6 1
5 位	井茂 麻由	神戸親和女子大学	0. 8 0 9

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
龍谷大学	福本 まどか	捕 手
大谷女子大学	橘 あかね	捕 手
園田学園女子大学	山口 憲子	投 手
大阪国際大学	井野 直美	左翼手
立命館大学	青木 朝香	中堅手
大阪体育大学	藤田 香織	遊撃手
神戸親和女子大学	信 直美	中堅手
武庫川女子大学	高田 真由美	捕 手

盗塁賞

山之内 千春	大阪体育大学	5 本
山下 みゆ紀	武庫川女子大学	5 本

ホームラン賞

田中 清香	大谷女子大学	5 本
-------	--------	-----

2部対戦成績表

2部	天理	外大	四天王	佛教	奈良教	府大	勝	敗	分	順
天理		○ 2-1	○ 10-0	○ 7-1	○ 11-0	○ 11-1	5	0	0	1
関西外大	● 1-2		● 1-2	○ 9-0	○ 7-0	○ 15-0	3	2	0	2
四天王寺	● 0-10	○ 2-1		● 1-3	○ 12-8	○ 12-11	3	2	0	3
佛教	● 1-7	● 0-9	○ 3-1		○ 11-4	○ 9-1	3	2	0	4
奈良教育	● 0-11	● 0-7	● 8-12	● 4-11		○ 9-2	1	4	0	5
大阪府立	● 1-11	● 0-15	● 11-12	● 1-9	● 2-9		0	5	0	6

※ 2・3・4位は当該チームの総得失点差により順位を決定しました。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
首位打者	妹尾 幸世	四天王寺国際仏教大学	6割
2位	村上 美沙	大阪府立大学	4割4分4厘
3位	吉岡 千晶	奈良教育大学	4割3分7厘
3位	大橋 歩美	奈良教育大学	4割3分7厘
5位	山上 麻美	天理大学	3割8分
6位	高畑 愛	佛教大学	3割7分5厘
7位	上野 亜紀	天理大学	3割6分8厘
7位	松本 好代	天理大学	3割6分8厘
9位	稲山 可奈	四天王寺国際仏教大学	3割5分
10位	矢野 祐美子	天理大学	3割3分3厘

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
最優秀投手	三嶋 亜矢子	佛教大学	2.45
2位	宇田川 由有	奈良教育大学	4.29
3位	三好 可子	天理大学	4.666

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
天理大学	小泉 綾	一塁手
関西外国語大学	谷 愛	捕手
四天王寺国際佛教大学	真鍋 典子	投手
佛教大学	稲生 紀子	捕手
奈良教育大学	山根 絵美	捕手
大阪府立大学	那須 野花	遊撃手

盗塁賞

村上 美沙	大阪府立大学	7本
高畑 愛	佛教大学	7本

3 部対戦成績表

3 部	兵 教	京 女	摂 南	びわこ	勝	敗	分	順
兵庫教育		○ 15－2	○ 14－4	○ 不戦勝	3	0	0	1
京都女子	● 2－15		○ 14－7	○ 15－8	2	1	0	2
摂 南	● 4－14	● 7－14		○ 不戦勝	1	2	0	3
び わ こ	● 不戦敗	● 8－15	● 不戦敗		0	3	0	4

3 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	杠 能里子	京都女子大学	5 割 5 分
2 位	井上 奈々	びわこ成蹊スポーツ大学	5 割 4 分 5 厘
3 位	谷口 陽子	兵庫教育大学	5 割
3 位	奥村 真由美	びわこ成蹊スポーツ大学	5 割
5 位	濱崎 かなえ	京都女子大学	4 割 7 分 1 厘
5 位	中澤 さやか	京都女子大学	4 割 7 分 1 厘
7 位	高岡 美里	摂南大学	4 割 6 分 2 厘
8 位	二村 香菜子	兵庫教育大学	4 割 5 分 5 厘
9 位	津波 あやの	兵庫教育大学	4 割 2 分 9 厘
10 位	宮部 裕子	摂南大学	4 割

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	二村 香菜子	兵庫教育大学	1. 8 6 7
2 位	篠部 聡子	兵庫教育大学	2. 9 1 7
3 位	井上 奈々	びわこ成蹊スポーツ大学	8. 7 5

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
兵庫教育大学	岸谷 優子	左翼手
京都女子大学	福田 昌佑子	一塁手
摂南大学	小山 志保	捕 手
びわこ成蹊スポーツ大学	上野 朱加	遊撃手

盗塁賞

岡林 亜美	兵庫教育大学	3 本
二村 香菜子	兵庫教育大学	3 本
津波 あやの	兵庫教育大学	3 本
浦崙 加菜	京都女子大学	3 本

1 部総評

今回のリーグ戦は、例年になく激戦となり会場を大いに盛り上がらせた。特に1部リーグはインカレ出場権がかかっており、一瞬の気も抜けない白熱した試合だった。全体的に見ても予選リーグから逆転ゲーム・サヨナラゲームなどの予想外の展開となり、見ている応援者はもちろん、試合をやっている選手達も、息をのむ試合が多かった。

龍谷大学は、安定したチーム力で2年ぶりの優勝を飾り、インカレ2連覇を狙う大谷女子大学が2位となった。また、目の離せない試合だったのが残り1つのインカレ出場権をかけた5位決定の試合であった。最終日の最終戦にまでもつれ込み、直接対決で立命館大学と大阪体育大学がその出場権利をかけ戦い、結果この試合軍配があがったのは立命館大学で3年ぶりのインカレ出場を決めた。

今回は、関西地区がレベルの高い激戦区だと改めて実感するリーグ戦となった。そしてその激戦を勝ち抜いた代表5チームから、今年もぜひ去年のように関西地区より『日本一』が出ることを期待したい。

文責：岩村明菜（園田学園女子大学）

2 部総評

2部リーグは、天候の面でも良い天候に恵まれて、予定通り全日程を終了することができた。また今年から加盟したチームもあり例年より試合数も多くなり、リーグに盛り上がりを見せた。試合の方は実力の差が大きい試合もあったが、最後までどうなるかわからない白熱した試合も多くみられた。また、2部・3部とも同じ会場ということもあり、観客も多くリーグを楽しんでもらえた。

文責：渡辺佳奈（四天王寺国際佛教大学）

3 部総評

3部では、新しいチームが2チーム入り、どのチームも良い試合経験ができたリーグだった。試合は、コールドなど点数差が大きい試合がほとんどであり、失点はエラーによるものが多いなど、まだチームのまとまりが薄いように感じられた。打撃でも守備でもチーム力が足りず、主力選手によって行われているという印象を受ける試合が多かった。このリーグで多くの課題が見つけたと思う。

文責：二村香菜子（兵庫教育大学）

平成17年度第37回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月25日, 10月2, 9, 10, 16, 23, 30日, 11月13, 20日

会場：万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	経法	京産	神学	関西	佛教	立命館	勝	敗	分	点	順
大阪経法		● 0-11	△ 4-4	○ 10-9	● 1-11	● 0-10	1	3	1	4	5
京都産業	○ 11-0		○ 7-0	○ 4-0	○ 12-1	○ 1-0	5	0	0	15	1
神戸学院	△ 4-4	● 0-7		● 9-10	● 4-6	△ 0-0	0	3	2	2	6
関西	● 9-10	● 0-4	○ 10-9		○ 4-2	● 0-7	2	3	0	6	3
佛教	○ 11-1	● 1-12	○ 6-4	● 2-4		● 2-7	2	3	0	6	4
立命館	○ 10-0	● 0-1	△ 0-0	○ 7-0	○ 7-2		3	1	1	10	2

※京都産業大学は11季ぶり16度目の優勝 ※3～4位は該当チーム間勝ち点規定による。

※5位大阪経済法科大学は2部との入れ替え戦へ。6位神戸学院大学は自動的に2部降格。

1部総評 新チームとでの戦いとなった今リーグ戦は、まさに京都産業大学の独壇場であった。5試合で35得点の1失点。2位の立命館大学との対戦こそ接戦であったものの、投打に圧倒的な力を見せつけての優勝だった。したがって、優勝争いよりもむしろどのチームが5位、6位になるのかに注目が集まってしまった。毎節の試合が終了するたびに、どのチームもその可能性があるような状況であったが、最終的には、今季初めて1部に昇格した佛教大学が2勝をあげ見事4位となり、1部の顔であった神戸学院大学が最下位で自動降格となった。来季は、優勝争いが注目されるような1部リーグであってほしい。(事務部長 関西大学3年 竹内達哉)

2部リーグ戦結果

2部A	京都学園	同志社	和歌山	四天仏教	龍谷	勝	敗	分	点	順
京都学園		●4-13	○7-6	●4-5	●2-3	1	3	0	3	4
同志社	○13-4		○5-0	●2-4	△2-2	2	1	1	7	3
和歌山	●6-7	●0-5		●10-11	●1-3	0	4	0	0	5
四天仏教	○5-4	○4-2	○11-10		△2-2	3	0	1	10	1
龍谷	○3-2	△2-2	○3-1	△2-2		2	0	2	8	2

2部B	兵庫教育	大阪	大阪体育	京都	大阪府立	勝	敗	分	点	順
兵庫教育		○8-2	●7-8	○4-2	●0-1	2	2	0	6	4
大阪	●2-8		●3-8	●5-6	●2-12	0	4	0	0	5
大阪体育	○8-7	○8-3		●1-4	○6-2	3	1	0	9	2
京都	●2-4	○6-5	○4-1		○8-0	3	1	0	9	1
大阪府立	○1-0	○12-2	●2-6	●0-8		2	2	0	6	3

※1～2位、並びに3～4位は該当チーム間勝ち点規程による。

※2部優勝決定戦 京都大学 11－0 四天王寺国際大学

京都大学は1部昇格、四天王寺国際大学は1部との入れ替え戦へ

※2部9・10位決定戦 大阪大学 11－10 和歌山大学

和歌山大学は自動的に3部に降格、大阪大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評 Aブロックは、龍谷大学、同志社大学、四天王寺国際仏教大学の三つ巴となったが、最終的にこの対戦で唯一1勝を挙げた四天王寺国際仏教大学がブロック優勝を果たした。一方、Bブロックは大混戦となったが、3勝1敗で終了した京都大学が、最終戦での兵庫教育大学VS大阪体育大学の結果待ちとなった。勝てば優勝となる兵庫教育大学は最終回まで3点リードしていたが、大逆転負け。京都大学は歓喜の優勝となった。

ブロック決勝でも、その勢いのまま京都大学は勝利し、1部昇格を果たした。来季は、降格してくる神戸学院大学を含めて、2部は大激戦が予想される。やはり計算できるのでは「投手力」である。それがあるチームが一つ抜け出ていくだろう。

(理事長 兵庫教育大学 森田啓之)

3部リーグ戦結果

3部A	姫 獨	大 産	奈 教	関 学	神 戸	大阪市	勝	敗	分	点	順
姫路獨協	●	●	●	●	●	●	0	5	0	0	6
	4－14	3－10	9－10	6－15	7－22						
大阪産業	○	●	○	○	○	●	3	2	0	9	4
	14－4	3－9	3－2	14－3	5－9						
奈良教育	○	○	●	○	○	○	4	1	0	12	2
	10－3	9－3	8－9	7－0	6－2						
関西学院	○	●	○	○	○	○	4	1	0	12	1
	10－9	2－3	9－8	8－5	14－4						
神 戸	○	●	●	●	●	●	1	4	0	3	5
	15－6	3－14	0－7	5－8	2－8						
大阪市立	○	○	●	●	○	○	3	2	0	9	3
	22－7	9－5	2－6	4－14	8－2						

※1位と2位、並びに3位と4位は該当チーム間勝ち点規程による。

3部B	流通科学	大阪工業	近 畿	甲 南	大阪経済	勝	敗	分	点	順
流通科学	○	○	○	○	○	4	0	0	12	1
	9－5	9－5	4－1	4－3						
大阪工業	●	○	●	○	○	2	2	0	6	4
	5－9	12－9	6－12	8－4						
近 畿	●	●	○	●	●	0	4	0	0	5
	5－9	9－12	3－5	3－5						
甲 南	●	○	○	●	○	2	2	0	6	2
	1－4	12－6	5－3	6－7						
大阪経済	●	●	○	○	○	2	2	0	6	3
	3－4	4－8	5－3	7－6						

※2位、3位、4位は得失点差規程による。

※3部優勝決定戦 関西学院大学 7－5 流通科学大学

関西学院大学は2部昇格、流通科学大学は2部との入れ替え戦へ

3部総評 Aブロックは、この1年で2部を経験している奈良教育大学と関西学院大学が4勝1敗となったが、直接対決を制した関西学院大学が優勝となった。一方、Bブロックは、流通科学大学が全勝で危なげなく優勝を果たした。

その後のブロック決勝では関西学院大学が勝利し、2部昇格を決めたのに続いて、2部との入れ替え戦において流通科学大学が大阪大学に勝利し、2チームともに2部昇格となった。来季の2部は激戦だろうが、まずは残留目指して頑張ってもらいたい。なお、今回の3部リーグでよく見られたのが、内野守備の乱れである。バント守備などきっちりとアウトの取れる守備を確立することが必要と感じた。(記録部長 神戸大学3年 森本佳道)

入れ替え戦 1部－2部：大阪経済法科大(1部5位)3－0 四天王寺国際仏教大(2部2位)

※大阪経済法科大学は1部残留

2部－3部：大阪大(2部9位)3－4 流通科学大(3部2位)

※大阪大学は3部降格、流通科学大学は2部昇格

平成17年度第37回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成17年9月11・18・19・23日、10月2・8・9・10日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺国際仏教大学

1部対戦成績

1部	大谷	園田	龍谷	立命館	親和	国際	武庫川	大體	順
大谷女子	—	○ 5－1	△ 0－0	○ 3－2	○ 2－1	○ 2－0	○ 8－0	○ 3－0	1
園田学園	● 1－5	—	● 0－1	○ 4－3	○ 3－2	○ 4－0	○ 7－0	○ 5－0	2
龍谷	△ 0－0	○ 1－0	—	○ 4－3	● 1－5	○ 4－0	○ 2－0	△ 5－5	3
立命館	● 2－3	● 3－4	● 3－4	—	○ 4－3	○ 3－1	○ 6－3	○ 9－2	4
神戸親和	● 1－2	● 2－3	○ 5－1	● 3－4	—	○ 3－0	○ 6－4	○ 5－3	5
大阪国際	● 0－2	● 0－4	● 0－4	● 1－3	● 0－3	—	○ 9－6	○ 5－2	6
武庫川	● 0－8	● 0－7	● 0－2	● 3－6	● 4－6	● 6－9	—	○ 4－1	7
大阪体育	● 0－3	● 0－5	△ 5－5	● 2－9	● 3－5	● 2－5	● 1－4	—	8

※ 3・4・5位は当該チームの対戦成績、勝ち点により順位を決定しました。

1 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	松本 里奈	神戸親和女子大学	5割9分1厘
2 位	岩崎 純子	神戸親和女子大学	4割7分4厘
3 位	依藤 恵璃	大谷女子大学	4割
3 位	福本 まどか	龍谷大学	4割
3 位	芦田 菜摘	龍谷女子大学	4割
3 位	桐谷 衣里子	武庫川女子大学	4割
3 位	下田 佳恵	大阪体育大学	4割
8 位	深町 絹恵	立命館大学	3割9分1厘
8 位	大久保 恵実	立命館大学	3割9分1厘
10 位	上村 さつき	大谷女子大学	3割7分5厘
	鮫島 憂子	園田学園女子大学	3割7分5厘

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	馬場 由香里	龍谷大学	0.636
2 位	上村 さつき	大谷女子大学	0.651
3 位	井茂 麻由	神戸親和女子大学	0.808
4 位	岡田 結花	立命館大学	1.815
5 位	中川 千明	神戸親和女子大学	1.881

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
大谷女子大学	田中 清香	一塁手
園田学園女子大学	松田 杏子	右翼手
龍谷大学	太田 恵子	右翼手
立命館大学	阿部 真耶	右翼手
神戸親和女子大学	森下 優子	一塁手
大阪国際大学	藤田 恵	中堅手
武庫川女子大学	高田 真由美	捕 手
大阪体育大学	益本 裕子	一塁手

盗塁賞

亀本 伊純	龍谷大学	3本
芦田 菜摘	龍谷大学	3本
青木 朝香	立命館大学	3本
山下 みゆ紀	武庫川女子大学	3本

ホームラン賞

松本 里奈	神戸親和女子大学	3本
青木 朝香	立命館大学	3本

2 部対戦成績表

2 部	天 理	外 大	四 天	府 大	佛 教	摂 南	勝	敗	分	順
天 理		○ 6－3	○ 9－2	○ 5－4	○ 21－1	○ 13－1	5	0	0	1
関西外大	● 3－6		○ 3－0	○ 10－0	○ 5－1	○ 8－0	4	1	0	2
四天王寺	● 2－9	● 0－3		○ 8－1	○ 8－0	○ 11－0	3	2	0	3
大阪府立	● 4－5	● 0－10	● 1－8		○ 11－5	○ 11－1	2	3	0	4
佛 教	● 15－21	● 1－5	● 0－8	● 5－11		○ 9－0	1	4	0	5
摂 南	● 1－13	● 0－8	● 0－11	● 1－11	● 0－9		0	5	0	6

2 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	楠本 涼子	四天王寺国際仏教大学	5割5分
2 位	武山 真由美	天理大学	4割8分2厘
3 位	山中 尚子	大阪府立大学	4割7分8厘
4 位	平尾 朝実	佛教大学	4割7分
5 位	妹尾 幸世	四天王寺国際仏教大学	4割4分4厘
5 位	稲山 可奈	四天王寺国際仏教大学	4割4分4厘
7 位	矢野 晶子	関西外国語大学	4割2分8厘
7 位	小西 敦子	大阪府立大学	4割2分8厘
9 位	真鍋 典子	四天王寺国際仏教大学	4割1分1厘
10 位	松本 好代	天理大学	4割

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	真鍋 典子	四天王寺国際仏教大学	3. 2 1 6
2 位	矢野 晶子	関西外国語大学	4. 4 3 9
3 位	三好 可子	天理大学	6. 0 2 7

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
天理大学	小泉 綾	一塁手
関西外国語大学	野田 有美	三塁手
四天王寺国際佛教大学	岡本 彩	左翼手
大阪府立大学	武富 愛	投 手
佛教大学	三嶋 亜矢子	投 手
摂南大学	城前 佳奈子	捕 手

盗塁賞

岡島 由希子 佛教大学 7 本

3部対戦成績表

3部	びわこ	兵庫教	奈良教	勝	敗	分	順
びわこ		○ 8-6	○ 13-2	2	0	0	1
兵庫教育	● 6-8		○ 15-0	1	1	0	2
奈良教育	● 2-13	● 0-15		0	2	0	3

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
首位打者	平岡 希望	びわこ成蹊スポーツ大学	4割7分1厘
2位	二橋 智子	兵庫教育大学	4割4分4厘
3位	北村 優子	びわこ成蹊スポーツ大学	4割2分9厘
3位	奥村 まゆみ	びわこ成蹊スポーツ大学	4割2分9厘
5位	上野 朱加	びわこ成蹊スポーツ大学	4割1分2厘
6位	石井 由佳子	兵庫教育大学	4割
7位	井上 奈々	びわこ成蹊スポーツ大学	3割8分9厘
8位	吉井 佐織	兵庫教育大学	3割6分4厘
8位	斉藤 美麗	兵庫教育大学	3割6分4厘
10位	奥村 さゆり	びわこ成蹊スポーツ大学	2割6分7厘

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
最優秀投手	篠部 聡子	兵庫教育大学	6.00
2位	井上 奈々	びわこ成蹊スポーツ大学	6.481
3位	宇田川 由有	奈良教育大学	15.75

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
びわこ成蹊スポーツ大学	井上 奈々	投手
兵庫教育大学	谷口 陽子	三塁手
奈良教育大学	今西 亜里沙	捕手

盗塁賞

宮野 典子	兵庫教育大学	5本
-------	--------	----

1部リーグ総評

今回の秋季リーグ戦は、全日本インカレ1週間後の9月11日(日)に開幕した。リーグ戦を通し天候が心配であったが、無事に予定通りの日程で終えることが出来た。

4回生・短大2回生は、この秋季リーグ戦で引退する。最後のリーグといういろんな気持ちの中で試合は行われ、大いに盛り上がった。

西日本インカレの覇者大谷女子大学は、キャプテンを中心に1・2回生のレギュラーが多い中よくまとまり、最終戦は引き分けたものの無敗で優勝を勝ち取った。そして西日本インカレ・全日本インカレで準優勝の園田学園女子大学は、接戦の試合が多かったが投手陣

を上手く継投し2位という結果であった。他大学も若い選手が試合を盛り上げ、来季につながるプレイが多く見られた。

全体的に見て接戦ゲームも例年より増え、観戦している応援者にとっては今季は見応えのあるリーグになったであろう。また、悪天候での予定変更やグラウンド整備などがあったが、全大学の協力もあり試合も円滑に運営できた。全試合終了後、今季で引退する選手による全大学混合チームでの試合があり、普段ライバルとして戦っている選手が交流も持て、笑顔溢れるいつもとはちがうプレイと盛り上がりがあった。そして、閉会式では数々のサプライズがあり、素晴らしい雰囲気の中、幕を閉じた。

文責：岩村明菜（園田学園女子大学）

2部リーグ総評

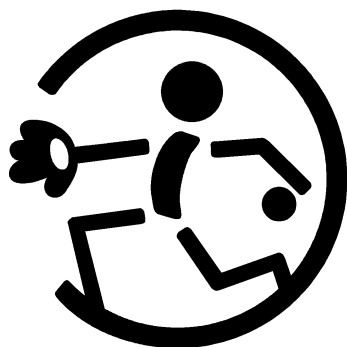
2部リーグに入ってくるチームは、春に比べると力をつけてきたチームが多いように思われた。しかし、試合の多くはコールドゲームであり、2部内での力の差が見られる部分もあった。リーグ戦の前半は、雨に見舞われ中断・中止となった試合もあったが、後半戦は雨も心配なく順調に試合を消化していった。天候のよさは選手達にも移ったようで、好プレイも多く見られ活気ある2部リーグ戦であった。

文責：楠本涼子（四天王寺国際佛教大学）

3部リーグ総評

3部はチーム数・選手数ともに少なく、試合の経験があまりできなかったが、優勝したびわこ成蹊スポーツ大学は、春に比べて力をつけてきたことがよく分かる試合展開であった。しかし、どのゲームも主力選手によるプレイで行われている感じであり、チーム全体で力をつけていくことが3部の課題である。

文責：二村香菜子（兵庫教育大学）



【中国地区】

第40回全日本大学・第37回西日本大学ソフトボール選手権大会

中国地区予選会

会期：平成17年 5月28日（土）・29日（日）

会場：鳥取県関金町野球場他

男子Aゾーン

東 亜 大 学	15	
岡山商科大学	12	5
広島国際大学	14	7
近畿大学工学部	2	
広島経済大学	13	7
岡 山 大 学	3	

男子Bゾーン

広島工業大学	11	8
岡山理科大学	4	
広島修道大学	0	6
広 島 大 学	3	7
鳥 取 大 学	0	

全日本大学選手権大会第三代表決定戦

東 亜 大 学	5	
広 島 大 学	9	広島大学

女子

鳥取短期大学	3	
川崎医療福祉大	0	中国短期大学
中国短期大学	17	4
岡 山 大 学	8	
広 島 大 学	1	7
鳥 取 大 学	3	

西日本大学選手権第三代表決定戦

鳥取短期大学	8	
鳥 取 大 学	0	鳥取短期大学

全日本大学ソフトボール選手権大会出場大学

男子の部：広島経済大学・広島工業大学・広島大学

女子の部：中国短期大学・岡山大学

西日本大学ソフトボール選手権大会出場大学

男子の部：広島経済大学・広島工業大学・広島大学・東亜大学

女子の部：中国短期大学・岡山大学・鳥取短期大学

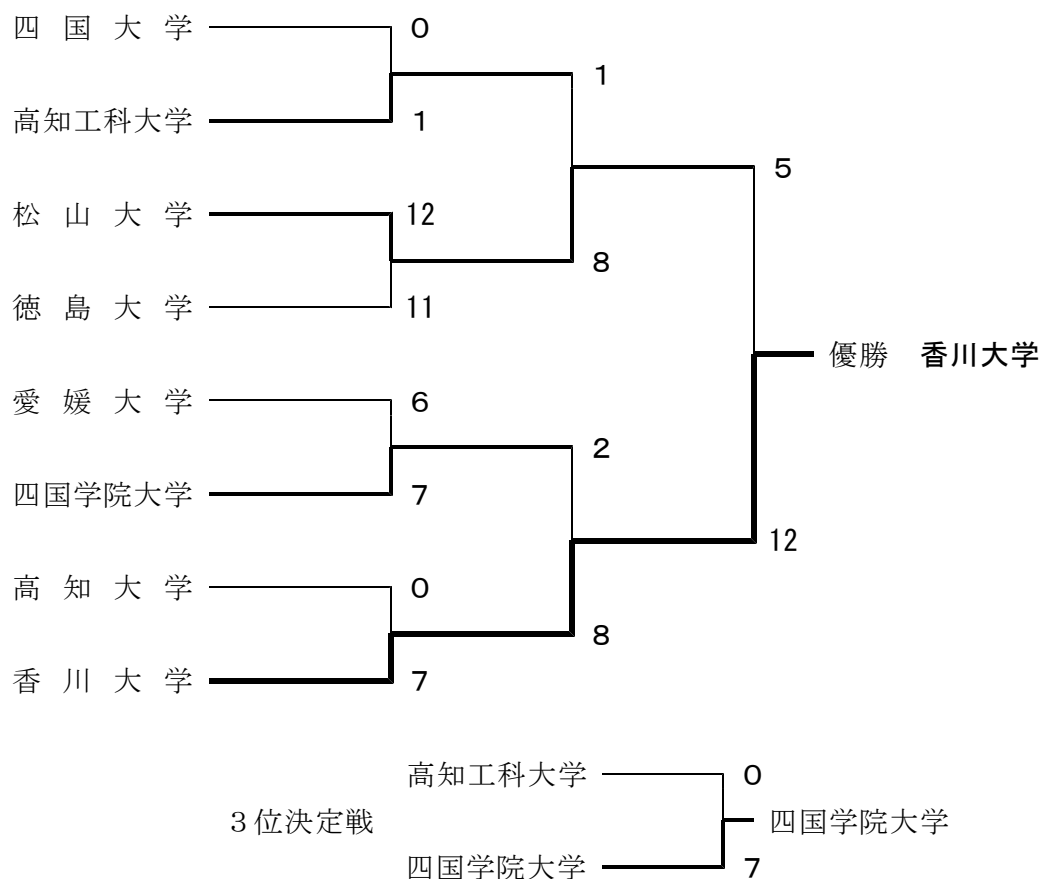
【四国地区】

第40回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会予選会
一兼、第37回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：平成17年5月21日(土)、22日(日)

会場：愛媛県松山市松山中央公園・伊予銀行グラウンド

男子結果



※全日本大学選手権出場権獲得校：香川大学・松山大学

女子結果

チー ム	愛媛短大	香川大学	四国大学	勝	敗	順位
愛媛女子短期大学		○15－0	○36－0	2	0	優勝
香川大学	●0－15		○15－8	1	1	2位
四国大学	●0－36	●8－15		0	2	3位

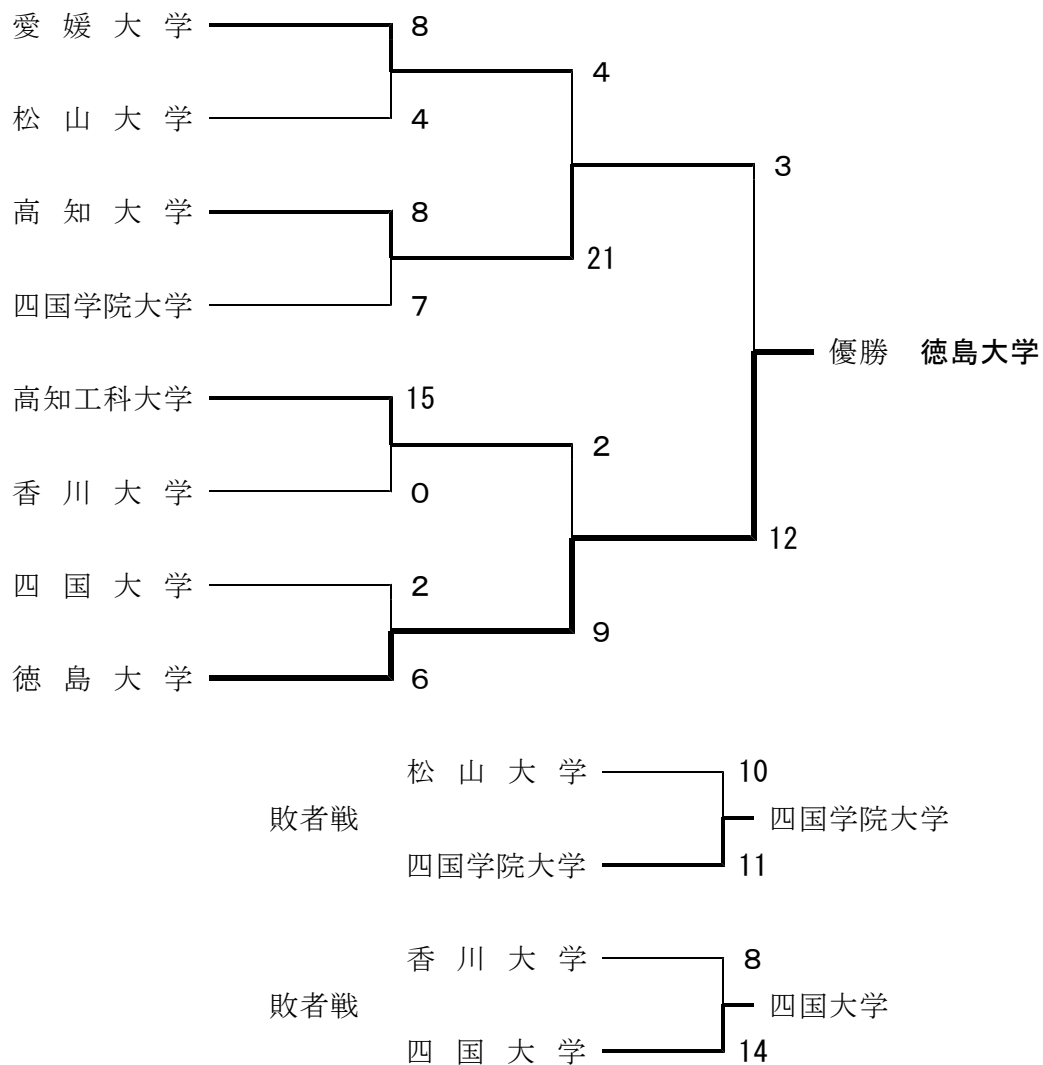
※全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学

平成17年度四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成17年10月16日(日)

会場：香川県丸亀市土器川公園グラウンド

男子結果



女子結果

チ　一　ム	愛媛短大	香川大学	四国大学	勝	敗	順位
愛媛女子短期大学		○ 6－0	○ 29－0	2	0	優勝
香　川　大　学	● 0－6		○ 13－0	1	1	2 位
四　国　大　学	● 0－29	● 0－13		0	2	3 位

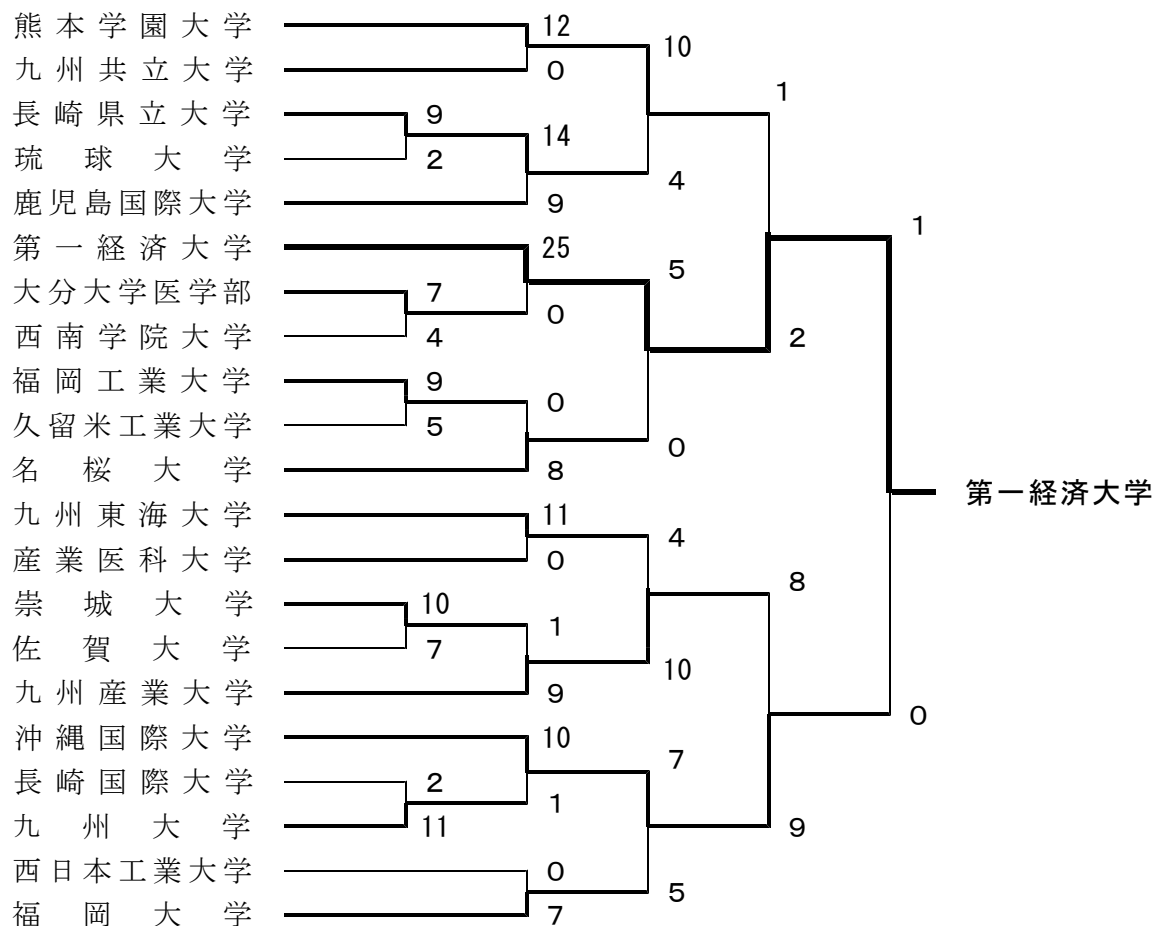
【九州地区】

第24回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール大会 （兼、第40回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選）

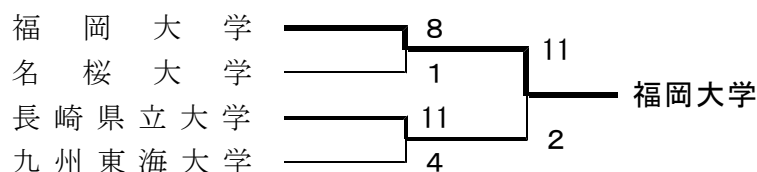
会期：平成17年5月28日（土）・29日（日）

会場：鹿児島県知覧町平和公園多目的球場他

男子試合結果



第5代表決定戦



※第40回全日本大学男子ソフトボール選手権大会出場権獲得大学

第一経済大学、沖縄国際大学、熊本学園大学、九州産業大学、福岡大学

女子試合結果

大学名	日本文理	沖縄国際	福岡	九州女子	勝	敗	分	順位
日本文理		○ 1 - 0	● 0 - 1	○ 7 - 0	2	1	0	2位
沖縄国際	● 0 - 1		● 2 - 3	○ 11 - 5	1	2	0	3位
福岡	○ 1 - 0	○ 3 - 2		○ 9 - 3	3	0	0	優勝
九州女子	● 0 - 7	● 5 - 11	● 3 - 9		0	3	0	4位

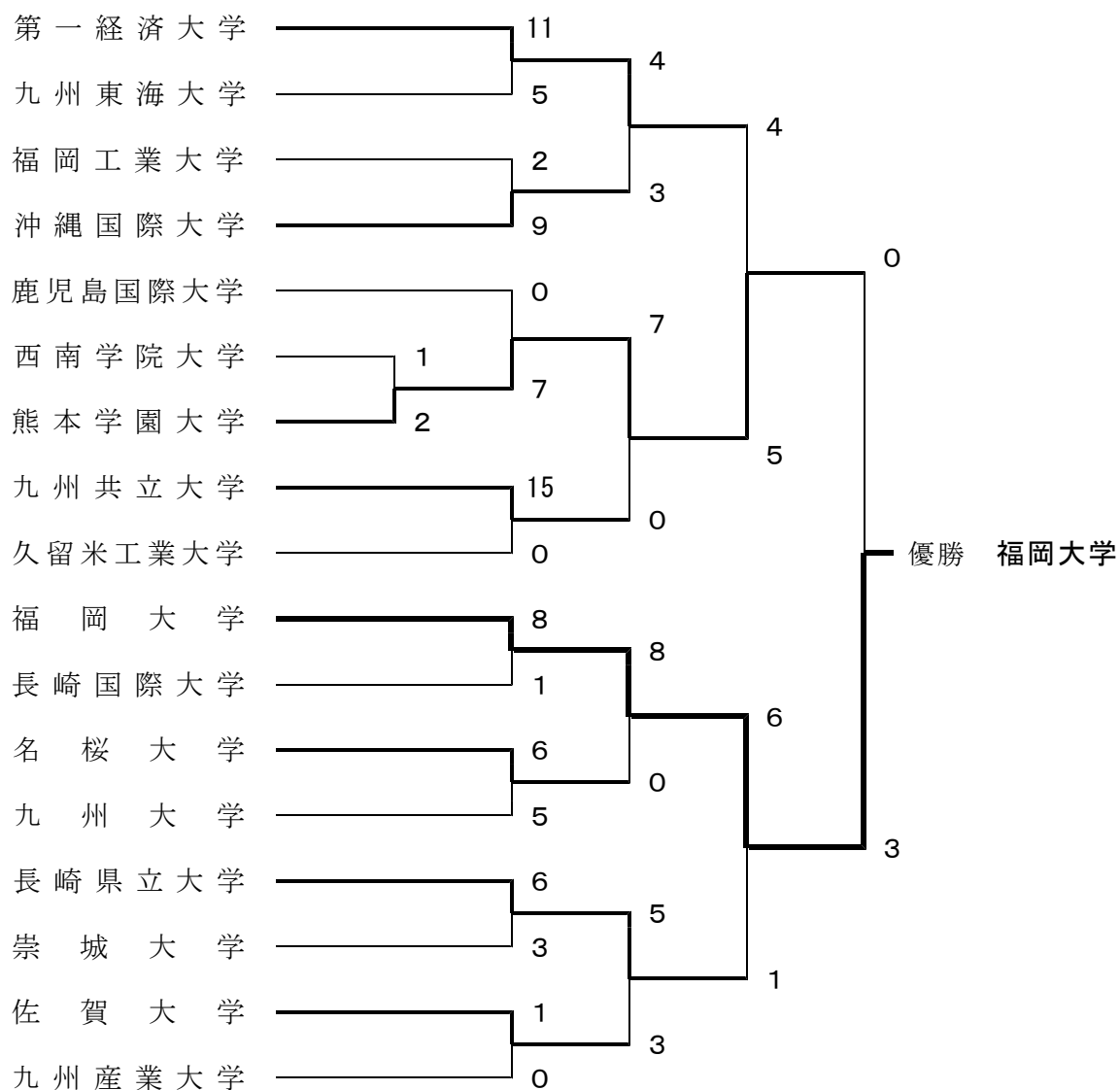
※6年連続11回目の優勝を果たした福岡大学が全日本大学選手権の出場権獲得

第5回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

会期：平成17年11月12日（土）・13日（日）

会場：知覧町平和公園多目的球場ほか

男子試合結果



女子試合結果

大学名	福岡	沖縄国際	九州女子	日本文理	勝	敗	分	順位
福岡		○ 4 - 0	○ 6 - 0	● 0 - 1	2	1	0	2位
沖縄国際	● 0 - 4		● 3 - 5	● 0 - 1	0	3	0	4位
九州女子	● 0 - 6	○ 5 - 3		● 0 - 7	1	2	0	3位
日本文理	○ 1 - 0	○ 1 - 0	○ 7 - 0		3	0	0	優勝

※日本文理大は2年連続2回目の優勝

【調査研究委員会】

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も内容をいっそう充実、発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までご連絡をください。(研究調査委員会 小川幸三・森田啓之)

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL&FAX : (0795) 44-2227

E-mail: hmorita@life.hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者(理事、監督、コーチ、選手等)に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文(含.抄録)、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内(巻頭言、提言の場合は1ページ以内)とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものは全て受理・採択する。なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月20日で区切るものとする。

執 筆 要 項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、全角40字×40行(上下余白25mm・左右余白25mm)、文字サイズは11ポイント、和文フォントは明朝体を基本とする。ソフト名を記して、CD-Rとともに提出すること。

【広報記録委員会】

訃報

中里 眞（九州産業大学）先生が、2005年8月23日ご逝去されました。
先生には九州地区の理事として長年ご尽力を賜りました。
謹んで哀悼の意を表します。

表彰

2005年7月カナダにおいて開催された第7回世界男子ジュニア選手権大会において準優勝に輝いた本連盟所属の選手を、「優秀選手」として連盟表彰します。詳細は、85～89ページおよびhttp://www.softball.or.jp/topics/2005/nmjr_01_date.html#score10_2のとりですが、氏名と所属大学のみ再掲します。

松田 光(京都産業大学)・坂本俊行(中京学院大学)・川村真司(立命館大学)・
根上翔平(立命館大学)・澤田優生(国士舘大学)・筒井拓友(日本体育大学)・
堀田哲史(日本体育大学)・東 繁(福岡大学)・桑子恵介(同志社大学)・
青山紀彦(早稲田大学)



《お知らせ》

チームHPへのリンクについて

学連HP <http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/>
では、加盟各大学のトップページにリンクを張らせて
いただいています。このところ、チームでHPを持つ
ところが多くなりましたので、チームのHPへ直結す
るようリンクを張り替えることも可能です。これを希
望される場合はE-mail アドレス mztn@chujo-u.ac.jp
へご連絡ください。

平成17・18・19年度
全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	大 内 敬 哉	中京大学	—	
副 会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	中 野 紀 明	国士舘大学
	武 藤 幸 政	城西大学		
顧 問	坂 井 正 郎		角 田 真一郎	
	水 野 信 義		斎 藤 滋 雄	
理 事 長	末 井 健 作	兵庫県立大学	—	
副理事長	逢 坂 秀 樹	鳥取短期大学	高 橋 伸 次	高崎経済大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長）		
	大和田 寛	仙台大学	黒 田 重 靖	富山大学
	小 川 幸 三	日本体育大学	水 谷 博	中京女子大学
	久保田 豊 司	大阪国際大学	山 本 孔 一	愛媛女子短期大学
	中 野 元	熊本学園大学		
理 事	小 嶋 高 良	八戸工業大学	大 塚 健 樹	盛岡大学
	岡 田 万 嗣	山梨学院大学	丸 山 克 俊	東京理科大学
	立 山 利 治	国際武道大学	青 木 真	上越教育大学
	吉 野 みね子	東京女子体育大学	木 藤 盛 雄	成蹊大学
	山 本 英 弘	朝日大学	矢 澤 久 史	東海女子大学
	丸 山 悟	日本福祉大学	鈴 木 亨	桜花学園大学
	児 玉 公 正	大谷女子大学	中 谷 敏 昭	天理大学
	富 田 国 興	（広島修道大学）	末 和 也 園	園田学園女子大学
評 議 員	松 永 尚 久	東海大学	野 口 周 一	新島学園短期大学
	飯 島 隆	盛岡大学	舟 山 健 一	東北福祉大学

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
評 議 員	加 藤 茂 夫	専修大学	合 津 正之助	常葉学園大学
	佐 多 直 温	愛知大学	廣 田 真 史	名古屋大学
	石 井 賀一郎	中京学院大学	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学
	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学	板 野 道 弘	中国短期大学
	荒 牧 昭二郎	九州東海大学	新 垣 實	沖縄国際大学
	吉 村 清	琉球大学	上江州 剛	名桜大学
監 事	藤 井 立 三	明星大学	平 野 義 明	大阪工業大学
事 務 局	〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部			
	FAX : (0792) 93-5710		E-mail : suei@shse.u-hyogo.ac.jp	

平成17年度 全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿

委 員 長	渡邊真智子(東京地区・東京学芸大学)				
副委員長	榎谷美奈子(東海地区・東海女子大学)・奥村 亮平(近畿地区・大阪大学)				
地区	氏 名	所属大学	地区	氏 名	所属大学
関 東	杉浦 剛啓	高崎経済大学	関 東	大坪 麻美	城西大学
東 京	寺本 恵	学習院大学	東 京	中嶋 一喜	中央大学
東 京	栢島 那子	明星大学	東 京	持舘 智	東京学芸大学
北信越	脇山 絵美	富山大学	東 海	小木曾圭一	愛知教育大学
東 海	夏目 喬	名古屋大学	東 海	山田真由美	岐阜聖徳学園大学
近 畿	森田 寛之	大阪大学	近 畿	岩村 明奈	園田学園女子大学
近 畿	山中 雅代	武庫川女子大学	中 国	松本 愛	鳥取短期大学
中 国	水本 洋	鳥取大学	四 国	南澤 香織	愛媛女子短期大学
四 国	横山 夏美	愛媛女子短期大学			

平成17年度 男子加盟大学一覧		
全日本大学ソフトボール連盟		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	8	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 宮城教育大学 盛岡大学
関 東	20	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 城西国際大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 獨協大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産学部 文教大学 山梨学院大学
北 信 越	6	金沢大学 信州大学 敦賀短期大学 富山大学 長野大学 福井県立大学
東 京	25	桜美林大学 学習院大学 杏林大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京経済大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本歯科大学 日本体育大学 一橋大学 文教大学湘南 武蔵工業大学 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学
東 海	14	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 愛知みずほ大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学
近 畿	28	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺国際仏教大学 同志社大学 奈良教育大学 姫路獨協大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学
中 国	12	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 近畿大学工学部 東亜大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学 山口大学工学部
四 国	8	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 四国学院大学 徳島大学 松山大学
九 州	21	沖縄国際大学 大分大学部 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 九州東海大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 産業医科大学 西南学院大学 崇城大学 第一経済大学 長崎県立大学 長崎国際大学 西日本工業大学 福岡大学 福岡工業大学 名桜大学 琉球大学

平成16年度 女子加盟大学一覧			全日本大学ソフトボール連盟
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	7	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北海道浅井学園大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	14	国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 文教大学	
北 信 越	5	金沢大学 上越教育大学 信州大学 敦賀短期大学 富山大学	
東 京	17	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 国際基督教大学 専修大学 成蹊大学 創価大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 日本大学 日本女子大学 日本女子体育大学 日本体育大学 明治大学 早稲田大学	
東 海	13	愛知教育大学 桜花学園大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中京女子大学 東海学園大学 東海女子大学 常葉学園大学 名古屋大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	18	大阪国際大学 大阪体育大学 大阪府立大学 大谷女子大学 関西外国語大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺国際仏教大学 摂南大学 園田学園女子大学 天理大学 兵庫教育大学 佛教大学 奈良教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学	
中 国	6	岡山大学 川崎医療福祉大学 中国短期大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学	
四 国	3	愛媛女子短期大学 香川大学 四国大学	
九 州	4	沖縄国際大学 九州女子大学 福岡大学 日本文理大学	
男 子	142大学	平成17年12月25日現在	
女 子	87大学		
合 計	229大学		

全日本大学ソフトボール連盟規約

第 1 章 名 称

第1条 本連盟は、全日本大学ソフトボール連盟と称する。

第 2 章 目 的 と 事 業

第2条 本連盟は、日本ソフトボール協会に加盟し、わが国の大学ソフトボール団体を統括する機関として、学生スポーツの精神を遵守し、大学ソフトボールの普及と発展を図ることを目的とする。

第3条 本連盟は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 競技会（国内・国際）の開催

1. ソフトボールに関する研究・調査の推進

1. ソフトボールに関する講演会・講習会等の開催

1. その他、本連盟の目的達成のために必要な事項

第 3 章 役 員

第4条 本連盟に次の役員を置く。

1. 会 長 1 名 1. 副 会 長 若干名 1. 顧 問 若干名

1. 監 事 2 名 1. 理 事 長 1 名 1. 副 理 事 長 2 名

1. 常 任 理 事 若干名 1. 理 事 33名以内 1. 評 議 員 60名以内

1. 学生委員長 1 名 1. 学生副委員長 2 名 1. 学 生 委 員 30名以内

第5条 会長は、評議員会において推薦し、総合役員会の承認を経て選任する。

2 会長は、本連盟に関する一切の事案について統括し、本連盟を代表する。

第6条 副会長は、評議員会において推薦し、総合役員会の承認を経て選任する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代行する。

第7条 顧問は、評議員会において推薦し、総合役員会の承認を経て選任する。

2 顧問は、本連盟の運営に関して、必要に応じて助言を行い相談に応じる。

第8条 監事は、評議員会において推薦し、総合役員会の承認を経て選任する。

2 監事は、本連盟の財務を監査する。

第9条 理事長は、理事の互選により選任する。

2 理事長は、会長の指示を受け会務を総理する。

第10条 副理事長は、理事長がこれを指名し、理事会の承認を経て選任する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長事故あるときは、その職務を代行する。

第11条 常任理事は、理事の互選により選任する。

2 常任理事は、本連盟の常務を執行する。

第12条 理事は、評議員の互選により選任する。

2 会長は、評議員並びに学識経験者の中から、理事3名以内を推薦することができる。

3 理事長の選出地区においては、理事1名を加えることができる。

4 理事は、理事会を構成し、第21条に規定する任にあたる。

第13条 評議員は、本連盟加盟校の専任教職員であることを基礎資格とし、部長（顧問・同好会長）又は監督の中から選任する。

2 評議員は、各大学1名以内とする。ただし、同一大学で男子と女子の登録がある場合には、

2 大学とみなすことができる。

3 評議員は、評議員会を構成し、第20条に規定する任にあたる。

第14条 学生委員長は、学生委員の互選により選任する。

2 学生委員長は、理事長の指示を受け、本連盟の運営を援助する。

第15条 学生副委員長は、学生委員長がこれを指名し、学生委員会の承認を経て選任する。

2 学生副委員長は、学生委員長を補佐し、学生委員長事故あるときは、その職務を代行する。

第16条 学生委員は、本連盟加盟大学の学生の中から選任する。

2 学生委員は、各大学1名以内とする。ただし、同一大学で男子と女子の登録がある場合には、2大学とみなすことができる。

3 学生委員は、学生委員会を構成し、第22条に規定する任にあたる。

4 学生委員会は所属する当該地区より、1名の常任学生委員を選出し、第22条2項に規定する常務を執行する。

第17条 本連盟役員の任期は3年とし、再選を妨げない。ただし、学生委員の任期は1年とする。

2 役員に欠員が生じた場合には、所定の手続きを経てこれを補充しなければならない。

第 4 章 会 議

第18条 本連盟に次の会議を置く。

1. 総合役員会

1. 評議員会

1. 理事会・常任理事会

1. 学生委員会・学生常任委員会

第19条 総合役員会は、本連盟の最高決議機関であり、第4条に規定する総ての役員で構成し、会長これを招集する。

2 総合役員会は、毎年1回定期に開催し、必要あるときは、臨時総合役員会を開催することができる。

第20条 評議員会は、会長これを招集し、評議員の互選により議長を選出し、次のことを行う。

1. 会長・副会長・顧問・監事の推薦

1. 総合役員会に対する理事会の提案事項の審議

1. 総合役員会から委任された事項の審議

第21条 理事会は、本連盟の執行機関とし、理事長これを招集する。

2 理事会は、本連盟の会務を処理し、運営の責にあたる。

3 理事会には、運営の円滑化を図るために、常任理事会を置く。

第22条 学生委員会は、本連盟の執行支援機関とし、学生委員長これを招集する。

2 学生委員会は、本連盟の会務の処理及び運営の援助にあたる。

3 学生委員会のもとに、常任学生委員会をおくことができる。

第23条 本連盟の会議に欠席した役員は、白紙委任状を提出したものとみなす。ただし当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表した者は出席者とみなす。

第24条 本連盟の各会議の議事は、出席者の過半数をもって決定される。ただし、可否同数の場合には、議長の裁決によるものとする。なお、本連盟規約の改正については別に定める。

第 5 章 登 録

第25条 本連盟の加盟大学は、各年度の定められた期日までに登録しなければならない。なお、本

連盟に加盟するためには、各都道府県ソフトボール協会を経由して、日本ソフトボール協会に登録しなければならない。

第26条 登録は、チーム登録と選手登録とする。未登録の場合は、本連盟が主催または共催・後援する競技大会等に参加することはできない。

第27条 チーム登録は、同一大学1チーム（男・女別）とする。ただし、同一大学であってもキャンパスの所在地が異なる場合は、キャンパス単位でチーム登録することができる。

第28条 選手登録は、入学時から卒業時または修了時までとする。ただし、登録できるのは学校教育法第54条2に定める通信の学生、同法第56条に定める学生、同法第57条に定める専攻科と別科の学生並びに同法第67条に定める大学院の学生とする。

第 6 章 会 計

第29条 本連盟の経費は、次の収入をもってこれに当てる。

1. チーム登録料 1. 個人登録料 1. 寄 附 金 1. そ の 他

第30条 本連盟の加盟大学は、チーム登録料及び個人登録料を納入しなければならない。

第31条 寄附金及びその他の収入は、本連盟の目的に則って受けることができる。

第32条 本連盟の資産は、会長が管理する。

第33条 毎会計年度の予算は、前年度末に予算書を作成し、総合役員会の議決を経なければならない。

2 毎会計年度の決算は、年度終了後2ヵ月以内に決算書を作成し、監査を経た上で、総合役員会の議決を経なければならない。

第34条 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第 7 章 事 務 局

第35条 本連盟には、本部事務局及び地区事務局を置く。

第36条 本部事務局は、理事長の所属大学に置く。

2 本部事務局は、非常勤職員（有給）を置くことができる。

第37条 地区事務局は、本連盟が分割する各地区に置く。

2 本連盟が分割する地区は、次の9地区とする。

〔東日本ブロック〕	1. 北海道・東北地区	1. 関東（東京都を除く）地区	
	1. 北信越地区	1. 東京都地区	
〔西日本ブロック〕	1. 東海地区	1. 近畿地区	1. 中国地区
	1. 四国地区	1. 九州地区	

第 8 章 表彰及び資格の喪失

第38条 本連盟及び大学ソフトボールの発展に著しい功勞のあった団体または個人は、理事会の議決を経て表彰することができる。

2 本連盟の規約及び決定に従わない加盟大学のチームまたは個人は、総合役員会の議決を経て試合出場停止、または除名の処分をすることができる。

第 9 章 規 約 の 改 正

第39条 本連盟の規約の改正については、総合役員会において出席者の3分の2以上の賛成をもって決定されるものとする。

第 10 章 雑 則

第40条 本連盟規約の施行についての細則は、理事会の議決を経て定め、総合役員会で承認を経なければならない。

全日本大学ソフトボール連盟規約役員の選任に関する細則

(選出母体)

第1条 全日本大学ソフトボール連盟（以下、本連盟という）の役員の選出母体として、次の9地区を置く。

〔東日本地区〕

- | | | |
|-------------|-----------------|----------|
| 1. 北海道・東北地区 | 1. 関東地区（東京都を除く） | 1. 北信越地区 |
| 1. 東京都地区 | | |

〔西日本地区〕

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1. 東海地区 | 1. 近畿地区 | 1. 中国地区 | 1. 四国地区 | 1. 九州地区 |
|---------|---------|---------|---------|---------|

(会長・副会長の選任)

第2条 本連盟規約第5条、第6条に規定する会長、副会長の選任は、次のとおりとする。

- (1) 会長、副会長については、選考委員会を組織して候補者を選考し、評議員会がこれを推薦し、総合役員会の承認を得て選任する。
- (2) 選考委員会は、各地区から選出された評議員代表各1名、合計9名、及び旧役員の会長、副会長、理事長をもって組織する。

(顧問・監事の選任)

第3条 本連盟規約第7条、第8条に規定する顧問、監事の選任は、次のとおりとする。

- (1) 顧問、監事については、評議員会において推薦し、総合役員会の承認を得て選任する。

(理事・常任理事の選任)

第4条 本連盟規約第12条に規定する理事の選任は、次のとおりとする。

- (1) 理事は、各地区評議員会において推薦し、評議員会の承認を得て選任する。
- (2) 理事の各地区における定数は、改選期の前年度のチーム登録数（男・女の合計）を基礎とし、その5分の1以内で、かつ5名以内とする。
- (3) 理事長及び会長推薦理事は、前項の定数に含まないものとする。

第5条 本連盟規約第11条に規定する常任理事の選任は、次のとおりとする。

- (1) 常任理事は、各地区理事会において推薦し、理事会の承認を得て選任する。
- (2) 常任理事は、各地区事務局長を兼務するものとする。
- (3) 理事長は、その必要があるときは、理事会の承認を得て、常任理事若干名を指名することができる。

(評議員の選任)

第6条 本連盟規約第13条に規定する評議員の選任は、次のとおりとする。

- (1) 評議員は、各地区において選任する。
- (2) 評議員の各地区における定数は、改選期の前年度のチーム登録数（男・女の合計）を基礎数とし、その5分の1以上、5分の2以内で、かつ10名以内とする。

(学生委員の選任)

第7条 本連盟規約第14条に規定する学生委員の選任は、次のとおりとする。

- (1) 学生委員は、各地区において選任する。
- (2) 学生委員の各地区における定数は、改選期の前年度のチーム登録数（男・女の合計）を基礎数とし、その5分の1以内で、かつ5名以内とする。

全日本大学ソフトボール連盟規約職務に関する申し合せ事項

- 1 「全日本大学ソフトボール連盟規約」の第5条及び第6条、第7条、第8条、第13条3、第20条に規定する評議員会に関する事項については、当分の間、理事会を以てこれに当てるものとする。
- 2 「全日本大学ソフトボール連盟規約役員の選任に関する細則」の第2条（1）及び第3条（1）に規定する評議員会に関する事項については、当分の間、理事会を以てこれに当てるものとする。
- 3 「全日本大学ソフトボール連盟規約 役員の選任に関する細則」の第2条（2）の評議員代表に関する事項については、当分の間、理事代表を以てこれに当てるものとする。
- 4 この事項は平成9年4月1日より施行する。

表 彰 内 規

- 第1条 大学ソフトボールの発展に著しい功労のあった者、国際試合または日本ソフトボール協会及び本連盟主催の大会に出場し、優秀な成績をおさめ、技能および態度等、他の模範と認められる者につきこの内規により表彰する。
- 第2条 前条による表彰は次の2種類とする。
1. 功労表彰
 2. 優秀表彰
- 第3条 功労表彰は、次のいずれかに該当する者につき行う。ただし、第1号および第2号については、いずれも1回限りとする。
1. 永年本連盟の運営に精励し、ソフトボールの普及発展に著しい功績を挙げた者。
 2. 地区または加盟チームの関係者で15年以上にわたりソフトボールの普及振興に努め著しい功績を挙げた者。ただし、毎年度各地区毎に原則として3名以内とする。
 3. 連盟関係者以外で、本連盟の主催事業に尽力し著しい功績を挙げた者。
 4. 連盟加盟チームの選手で国際大会に出場し、特に技能及び態度が他の模範となるに足る者。
- 第4条 優秀表彰は、次のいずれかの大会で内規に沿う成績を挙げた加盟チームについて行う。なお、該当チームの選手で優秀な成績を挙げ、技能及び態度が他の模範とする者がある場合は、この選手についても表彰することができる。
1. 国際大会入賞
 2. 財団法人日本ソフトボール協会が主催する全国大会優勝
 3. 本連盟が主催または共催・後援する大会で、同一大会に3年以上連続優勝
- 第5条 表彰は表彰状を贈ることをもって行う。ただし、必要と認めたときは記念品を添えることができる。
- 第6条 功労表彰は総合役員会の席上で行うことを原則とする。表彰に値する者があると思料する地区は、毎年2月末日までに所定の用紙に基づきその推薦届出けでをしなければならない。
- 第7条 優秀表彰は適時行う。
- 第8条 表彰決定手続は、全日本大学ソフトボール連盟規約第38条第1項の理事会を常任理事会と読み替えて適用する。ただし、理事会にその結果を必ず報告しなければならない。
- 第9条 記念式典の際に行われる表彰は別に定めるところによる。

編 集 後 記

全日本大学ソフトボール連盟は、本年創立40周年を迎えました。創立当時を知らない第2・第3世代である本委員会メンバーは、当時の先輩方のご苦勞察するに、余りあるものがあると存じます。学連設立には、当初、(財)日本ソフトボール協会のご理解があまり得られなかったようにも聞いています。今日では、学連所属選手がオリンピックや世界選手権をはじめとするさまざまな国内外での競技会において活躍しています。先輩方が築かれた礎と方向性が間違っていなかったからに他なりません。私たちはそのご尽力に感謝し、今、大学でソフトボールができることの喜びを噛み締めなければなりません。そして、次の世代へ指導者としてまた審判員・記録員・役員としてより発展させた形で受け渡していくという大きな責務も負っています。

この40年間に起こった出来事をすべて記録に残しておくことは到底不可能です。しかし、その一端でも書き留めて責務を果たすべくと思い、情報をお送りいただき、古いファイルをひっくり返し、キーをたたいてきました。今回の編集作業にあたっては「創立30周年記念誌」を参考にしましたが、その編集後記に「今後より充実したものを」と期待されていました。とうていその期待に応えることができませんでした。今後の10年を含めて2015年には立派な「50周年記念誌」が刊行されることを願います。今からその準備を始めなければならないでしょう。まずは、このウインドミルを今後なお一層充実させたものにしていく所存であります。

原稿や情報をお寄せいただいた方々に感謝申し上げます、編集後記といたします。

広報記録委員会：水谷 博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海女子大学）

表紙写真：文部科学大臣杯第40回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第9号

2005年12月25日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟 会長 大内 敬哉

編集責任者 広報記録委員長 水谷 博

E-mail : mztm@chujo-u. ac. jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12

兵庫県立大学環境人間学部気付

FAX (0792) 93-5710

E-mail : suei@hept. himeji- tech. ac. jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

TEL (058) 263-4101

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X

熱いゲームが、
KENKOから
はじまる。



ケンコーソフトボール
(革製/3号球)
財団法人日本ソフトボール協会検定球



健康コミュニティを創造する

ナガセケンコー株式会社
NAGASE KENKO CORPORATION

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社



ウインドミル No. 9 (2005)

ISSN 1343-439X